

IMS

バージョン 15.1.0

メッセージおよびコード 第 4
巻:

IMS コンポーネント・コード

IBM

IMS

バージョン 15.1.0

メッセージおよびコード 第 4

巻:

IMS コンポーネント・コード

IBM

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、319 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IMS 15 (プログラム番号 5635-A06)、IMS Database Value Unit Edition V15.01.00 (プログラム番号 5655-DS5)、IMS Transaction Manager Value Unit Edition V15.01.00 (プログラム番号 5655-TM4)、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリソースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： GC27-6792-00
IMS
Version 15.1.0
Messages and Codes, Volume 4:
IMS Component Codes
(November 2, 2017 edition)

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 1974, 2017.

目次

本書について	v
前提知識	v
新規および変更された情報の識別方法	vi
IMS 15 のアクセシビリティ機能	vi
第 1 章 IMS 15 の新規、および変更または削除されたメッセージとコード	1
IMS 15 の新しいメッセージとコード	1
IMS 15 で変更されたメッセージとコード	2
IMS 15 で削除されたメッセージおよびコード	3
第 2 章 IMS 問題判別	9
第 3 章 IMS システム・サービス戻りコード	13
SVC 戻りコード	13
IMODULE 戻りコード	13
IMSAUTH 戻りコード	15
DFSBCB 戻りコード	20
DFSPOOL マクロ戻りコード	21
第 4 章 IMS 戻りコードおよび機能コード	25
バッファ・ハンドラー戻りコード	25
外部サブシステム・サポートに関連付けられた戻りコードおよび機能コード	25
カテゴリ A - 外部サブシステム出口を呼び出す IMS モジュールによって検出される条件	26
カテゴリ B - 外部サブシステム出口によって検出される条件	29
カテゴリ C - IMS 共通サービス・モジュールによって検出される条件	35
カテゴリ D - 制御領域サービス・モジュールによって検出される条件	36
カテゴリ E - 従属領域サービス・モジュールによって検出される条件	38
DFS0798I からのメモリの終了コード	41
第 5 章 BPE コード	49
BPE 異常終了コード	49
BPE サービス戻りコード	53
BPEATTCB コード	53
BPEAWSRV コード	54
BPEBPCRE コード	55
BPEBPGET コード	56
BPECBGET コード	57
BPECMSRV コード	57
BPEGETM コード	58
BPELAGET コード	59
BPELAREL コード	60

BPELOAD コード	60
BPELOADC コード	61
BPEPARSE コード	61
BPERDPDS コード	63
BPESTART コード	64
BPE SVC コード	65
BPE SVCIO コード	66
BPETCBSW コード	67
BPETHDCR コード	68
BPETIMER コード	69
BPETRSRV コード	70
BPEUXRF0 コード	71
第 6 章 CQS コード	73
CQS 異常終了コード	73
CQS 再始動および再作成の理由コード	81
CQS サービス戻りコード	92
CQS 制御リスト項目	96
第 7 章 CSL コード	99
ODBM 異常終了コード	99
OM 異常終了コード	102
RM 異常終了コード	104
SCI 異常終了コード	106
CSL 戻りコードおよび理由コード	109
CSL OMCMD 戻りコードおよび理由コード	110
CLSOMREG 戻りコードおよび理由コード	110
REXX SPOC 戻りコードおよび理由コード	111
第 8 章 OM を介して経路指定される IMS コマンドのコード	113
OM へのコマンドの戻りコードおよび理由コード	113
完了コード	113
第 9 章 DL/I 状況コード	119
DL/I 状況コードの概要	119
DL/I 状況コードの説明	135
第 10 章 DBCTL 戻りコード	171
DBCTL DRA 戻りコード	171
DRA および THREAD 機能の下での要求からの戻りコード	172
DRA 機能の下での要求からの戻りコード	172
THREAD 機能の下での要求からの戻りコード	173
DRA から制御出口への理由コード	176
第 11 章 DBRC 要求戻りコード	181
サインオン通常呼び出しからの戻りコード	181
サインオン代替呼び出しからの戻りコード	181
サインオン・リカバリー呼び出しからの戻りコード	182
サインオフ通常呼び出しからの戻りコード	182

サインオフ異常呼び出しからの戻りコード	183
許可呼び出しからの戻りコード	183
許可取り消し呼び出しからの戻りコード	184
DB 入出力エラー出口からの戻りコード	184
DB オープン出口からの戻りコード	185
ローカルおよびグローバル /START コマンドからの戻りコード	185
グローバル /STOP コマンドからの戻りコード	186
ローカルおよびグローバル /DBD コマンドからの戻りコード	186
グローバル /DBR コマンドからの戻りコード	186
OLDS オープン呼び出しからの戻りコード	187
OLDS 切り替え呼び出しからの戻りコード	187
OLDS クローズ呼び出しからの戻りコード	188
OLDS 状況呼び出しからの戻りコード	188
最後の OLDS 呼び出しからの戻りコード	188
ログ・レコード探索呼び出しからの戻りコード	189
アーカイブ初期呼び出しからの戻りコード	189
アーカイブ完了呼び出しからの戻りコード	190
アーカイブ・ジョブ終了呼び出しからの戻りコード	190
ログ・リカバリー・ユーティリティ初期呼び出しからの戻りコード	190
ログ・リカバリー・ユーティリティ・オープン呼び出しからの戻りコード	191
ログ・リカバリー・ユーティリティ・クローズ呼び出しからの戻りコード	192
ログ・リカバリー・ユーティリティ・ジョブ終了呼び出しからの戻りコード	193
RELOAD ユーティリティからの戻りコード	193
HSSP イメージ・コピー開始呼び出しからの戻りコード	194
HSSP イメージ・コピー終了呼び出しからの戻りコード	194
LOGSET 呼び出しからの戻りコード	194
SAVUOR 呼び出しからの戻りコード	195
UPDUOR 呼び出しからの戻りコード	196
VERUOR 呼び出しからの戻りコード	197
新規更新セット ID 妥当性検査からの戻りコード	197
データベース静止呼び出し戻りコード	198

第 12 章 高速機能ユーティリティの状況コードおよび理由コード 199

第 13 章 IRLM 要求の戻りコードおよび理由コード 203

第 14 章 IMS Connect 戻りコードおよび理由コード 205
IMS Connect 出口の戻りコードおよび理由コード 205

HWSOAP1 戻りコードおよび理由コード	208
HWSIMSO0 および HWSIMSO1 の戻りコードおよび理由コード	210
XML アダプターの戻りコードおよび理由コード	212
IMS TM Resource Adapter の戻りコードおよび理由コード	215
拡張ローカル戻りコードおよび理由コード	219
IMS Connect 通知コード	220

第 15 章 OTMA コード 223

NAK メッセージ用の OTMA センス・コード	223
67D0 ログ・レコード内の OTMA 戻りコード	235
OTMA C/I で使用されるコード	235
OTMA 通知コード	235
OTMA C/I 戻りコード	236

第 16 章 リポジトリ・サーバー・コード 247

第 17 章 SQL コード 249

正常実行の SQL コード	250
SQL エラー・コード	250
SQLIMSSTATE 値および一般エラー・コード	269

第 18 章 CICS DL/I ユーザー・インターフェース・ブロック戻りコード 273

未オープン状態	274
無効要求状態	274

第 19 章 IMS によって設定される AIB 戻りコードおよび理由コード 277

AIB 戻りコードおよび理由コードの概要	277
AIB 戻りコードおよび理由コード	295

特記事項 319

商標	321
製品資料に関するご使用条件	321
IBM オンライン・プライバシー・ステートメント	322

参考文献 323

本書について

本書には、IMS™ によって生成される異常終了コード、メッセージ、状況コード、および戻りコードの参照情報が記載されています。

本書には、IMS によって生成される異常終了コード、メッセージ、状況コード、および戻りコードの参照情報が記載されています。

第 1 巻は、DFS 接頭部が付いた IMS メッセージの参照情報を、それに関連する戻りコードと一緒に提供します。また、プログラマー、オペレーター、およびシステム・サポート担当者が IMS の問題を診断する際に役立つ、診断情報も提供します。

第 2 巻は、IMS Base Primitive Environment (BPE)、IMS Common Queue Server (CQS)、IMS Common Service Layer (CSL)、データベース・リカバリー管理 (DBRC) 機能、IMS Connect、および IBM® リソース・ロック・マネージャー (IRLM) などに関連する、DFS 以外の接頭部が付いた IMS メッセージについて、参照情報を提供します。また、プログラマー、オペレーター、およびシステム・サポート担当者が IMS の問題を診断する際に役立つ、診断参照情報を提供します。

第 3 巻は、すべての IMS 異常終了 (アベンド) コードに関する参照情報を、分析、説明、考えられる原因、および APAR 処理命令も含めて提供します。

第 4 巻は、IMS Base Primitive Environment (BPE)、IMS Common Queue Server (CQS)、IMS Common Service Layer (CSL)、データベース・リカバリー管理 (DBRC) 機能、IMS Connect、IBM リソース・ロック・マネージャー (IRLM) などの戻りコード、理由コード、センス・コード、機能コード、および状況コードを提供します。また、プログラマー、オペレーター、およびシステム・サポート担当者が IMS の問題を診断する際に役立つ、診断参照情報も提供します。

本書は、IBM Knowledge Centerの一部として www.ibm.com/support/knowledgecenter で入手できます。

前提知識

本書を使用する際には、IMS Database Manager (DB) または IMS Transaction Manager (TM) の知識が必要です。さらに、z/OS® および IMS の基本的概念やインストールされている IMS システムについて理解しており、プロジェクト計画に関する作業の一般的な知識を持っていることが必要です。

本書を使用する際には、IMS Database Manager (DB) または IMS Transaction Manager (TM) のいずれかの知識が必要となります。さらに、z/OS および IMS の基本的概念やインストールされている IMS システムについて理解しており、プロジェクト計画に関する作業の一般的な知識を持っていることが必要です。

本書の読者は、z/OS、そのシステム生成、および通信について、また、IMS で使用されるアクセス方式について理解しておく必要があります。関連資料は、『参考文献』にリストされています。

z/OS の詳細については、IBM Knowledge Center の「z/OS basic skills」トピックを参照してください。

IMS の基本概念を理解するには、「*An Introduction to IMS*」(IBM Press 出版)をお読みになると役立ちます。

IBM では、IMS の学習に役立つような講習会や自習講座を数多く提供しています。利用可能な講習の詳しいリストについては、IBM Skills Gateway にアクセスして、IMS を検索してください。

新規および変更された情報の識別方法

IMS ライブラリーの PDF 資料のほとんどの新規および変更された情報は、左マージン内の文字 (改訂マーカー) によって示されています。「リリース計画」、ならびに「*Program Directory*」および「*Licensed Program Specifications*」の第 1 版 (-00) には、改訂マーカーは含まれていません。

改訂マーカーは、以下の一般的な規則に従っています。

- 技術的な変更のみにマークが付けられています。形式上の変更や文法的な変更には、マークは付けられていません。
- 段落、構文図、リスト項目、操作手順、または図などの要素の一部が変更された場合、その要素の一部だけの変更であっても、要素全体に改訂マーカーが付けられています。
- トピックの変更が 50% を超えた場合には、そのトピック全体に改訂マーカーが付けられています (そのため、新規トピックではなくても、新規トピックのように見えることがあります)。

改訂マーカーは情報に加えられたすべての変更を示しているとは限りません。削除されたテキストとグラフィックスには、改訂マーカーでマークを付けることはできないためです。

IMS 15 のアクセシビリティ機能

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーが情報技術製品を快適に使用できるようにサポートします。

アクセシビリティ機能

以下のリストは、IMS 15 を含む z/OS 製品の主なアクセシビリティ機能を示しています。これらの機能は、以下をサポートしています。

- キーボードのみの操作。
- スクリーン・リーダー (読み上げソフトウェア) およびスクリーン拡大鏡によって通常使用されるインターフェース。
- 色、コントラスト、フォント・サイズなど表示属性のカスタマイズ。

キーボード・ナビゲーション

IMS 15 ISPF パネル機能には、キーボードまたはキーボード・ショートカット・キーを使用してアクセスできます。

TSO/E または ISPF を使用して IMS 15 ISPF パネルをナビゲートする詳細については、「z/OS TSO/E 入門」、「z/OS TSO/E ユーザーズ・ガイド」、および「z/OS 対話式システム生産性向上機能 (ISPF) ユーザーズ・ガイド 第 1 巻」を参照してください。上記の資料には、キーボード・ショートカットまたはファンクション・キー (PF キー) の使用方法を含む、各インターフェースのナビゲート方法が記載されています。それぞれの資料では、PF キーのデフォルトの設定値とそれらの機能の変更方法についても説明しています。

関連のアクセシビリティ情報

IMS 15 のオンライン資料は、IBM Knowledge Center で参照できます。

IBM におけるアクセシビリティ

IBM のアクセシビリティに対する取り組みについて詳しくは、*IBM Human Ability and Accessibility Center* (www.ibm.com/able) を参照してください。

第 1 章 IMS 15 の新規、および変更または削除されたメッセージとコード

IMS 15 には、新規、および変更または削除されたメッセージとコードが多数あります。

IMS 15 の新しいメッセージとコード

IMS 15 には、以下にリストされている新しいメッセージが含まれています。

新しい **CQS** メッセージ

以下は新規メッセージです。

CQS0224E

新しい **DFS** メッセージ

以下は新規メッセージです。

DFS0745E

DFS3253W

DFS3458

DFS4690I

DFS4691I

DFS4692E

DFS4861W

DFS4862W

DFS4863W

DFS4864W

新しい **G** メッセージ

以下は新規メッセージです。

G116

G117

G118

G119

G120

G121

G122

新しい **HWS** メッセージ

以下は新規メッセージです。

HWSX0915W

HWSX0916W

新しい異常終了コード

以下の異常終了コードは新規コードです。

0421
0423
0424
0425
0426

新しいコンポーネント・コード

以下のコンポーネント・コードは新規コードです。
IMS Connect 出口の戻りコードおよび理由コード

IMS 15 で変更されたメッセージとコード

このリリースでは、以下にリストされている、DSP メッセージが変更されています。

変更された **DFS** メッセージ

以下のメッセージが変更されました。

DFS0413I
DFS1934E
DFS2205I
DFS2385E
DFS2679A
DFS3254I
DFS3377
DFS3398E
DFS4610E
DFS4615E
DFS554A
DFS3438
DFS3446

変更された **DSP** メッセージ

以下のメッセージが変更されました。

DSP0012I

変更された異常終了コード

以下の異常終了コードが変更されました。

U0711
U0070
U0071
U0073
U1002
1143

変更されたコンポーネント・コード

以下のコンポーネント・コードが変更されました。

OTMA C/I 戻りコード

IMS 15 で削除されたメッセージおよびコード

以下のセクションにリストされているメッセージは、IMS 15 では削除されています。

このリリースでは、以下のメッセージが削除されました。

DFS2211I

G040

G043

G904

G042

G1205

G1212

削除された **LGEN** メッセージ

大規模システム定義 (LGEN) のサポートの中止により、以下のメッセージが削除されました。

DFS3512I	G008
DFS3514I	G1211
DFS3516I	
DFS3518I	
DFS3520I	
DFS3522I	
DFS3524I	
DFS3526I	
DFS3528I	
DFS3530I	
DFS3532I	
DFS3534I	
DFS3536I	
DFS3538I	
DFS3540I	
DFS3546I	
DFS3548I	
DFS3550I	
DFS3552I	
DFS3554I	
DFS3556I	
DFS3558I	
DFS3559A	
DFS3560I	
DFS3562I	
DFS3564I	
DFS3566I	
DFS3567I	
DFS3568I	
DFS3569I	
DFS3570I	
DFS3572I	
DFS3574I	
DFS3577A	
DFS3593I	
DFS3599I	

削除された RSR メッセージ

リモート・サイト・リカバリー (RSR) のサポートの中止により、以下のメッセージおよび異常終了が削除されました。これらのメッセージには、トランスポート・マ

ネージャー・サブシステムおよびその他の RSR サービス (オンライン順方向リカバリー、ログ・ルーター、DBRC などのサービス・グループ) により発行されるメッセージが含まれます。

異常終了	DFS2953I	DFS4030A
360	DFS2954I	DFS4031A
361	DFS2955W	DFS4032A
362	DFS2956I	DFS4033I
363	DFS2959I	DFS4034A
364	DFS2960A	DFS4034I
365	DFS2961I	DFS4035A
378	DFS2962I	DFS4036I
379	DFS2963A	DFS4037A
380	DFS2964I	DFS4039A
381	DFS2965A	DFS4041I
388	DFS2966A	DFS4042A
3090	DFS2967A	DFS4043A
3091	DFS2968A	DFS4044A
3399	DFS2969A	DFS4045A
DFS メッセージ (IMS)	DFS2980E	DFS4046A
DFS170	DFS2981E	DFS4047A
DFS176	DFS2982E	DFS4048I
DFS2903I	DFS2983E	DFS4049I
DFS2908I	DFS2984I	DFS4050A
DFS2909I	DFS2989I	DFS4051I
DFS2910I	DFS4010W	DFS4052A
DFS2911I	DFS4011I	DFS4053A
DFS2912I	DFS4012I	DFS4054A
DFS2913I	DFS4013W	DFS4055I
DFS2914I	DFS4014I	DFS4056I
DFS2915I	DFS4015I	DFS4057A
DFS2916W	DFS4016A	DFS4058A
DFS2917I	DFS4017A	DFS4060I
DFS2918A	DFS4018I	DFS4061A
DFS2922A	DFS4019I	DFS4062W
DFS2923I	DFS4020I	DFS4063I
DFS2924I	DFS4021I	DFS4064W
DFS2925I	DFS4022I	DFS4065A
DFS2926I	DFS4024I	DFS4066I
DFS2927I	DFS4025I	DFS4067A
DFS2928I	DFS4026I	DFS4068A
DFS2929A	DFS4027I	DFS4069A
DFS2931I	DFS4028I	DFS4070A
DFS2932I	DFS4029I	DFS4071I
DFS2933I		
DFS2935I		
DFS2936I		
DFS2937I		

DFS4072A	DSP メッセージ (DBRC)
DFS4073A	DFS4130I
DFS4074W	DFS4131A
DFS4075A	DFS4132A
DFS4076A	DFS4133A
DFS4077I	DFS4134I
DFS4078I	DFS4135I
DFS4079A	DFS4136I
DFS4085W	DFS4150I
DFS4086W	DFS4152A
DFS4087A	DFS4153W
DFS4088A	DSPM058I
DFS4089A	DSPM059I
DFS4090A	DSP1001I
DFS4091I	DSP1002I
DFS4092A	DSP1030I
DFS4094A	DSP1004I
DFS4095A	DSP1005I
DFS4096A	DSP1006I
DFS4097I	DSP1007I
DFS4098A	DSP1009I
DFS4099A	DSP1010I
DFS4100I	DSP1011I
DFS4101A	DSP1012I
DFS4102A	DSP1013I
DFS4103I	DSP1014I
DFS4104A	DSP1016I
DFS4105A	DSP1017I
DFS4106I	DSP1021I
DFS4107A	DSP1022I
DFS4108A	DSP1025I
DFS4109	DSP1027I
DFS4111I	DSP1028I
DFS4112A	DSP1029I
DFS4113I	DSP1030I
DFS4114A	DSP1032I
DFS4115I	DSP1035I
DFS4121I	DSP1036I
DFS4122A	DSP1037I
DFS4123I	DSP1038I
DFS4124I	DSP1042I
DFS4125I	DSP1043I
DFS4126I	DSP1044I
DFS4127A	

ELX メッセージ (TMS)		G メッセージ (SYSGEN)
ELX0001A	ELX0201W	G1205
ELX0002A	ELX0202I	G1212
ELX0003A	ELX0203W	
ELX0004A	ELX0204I	
ELX0005A	ELX0205I	
ELX0100A	ELX0209I	
ELX0101W	ELX0210A	
ELX0102W	ELX0211I	
ELX0103I	ELX0212A	
ELX0104A	ELX0213A	
ELX0105I	ELX600A	
ELX0106A	ELX1001E	
ELX0107I	ELX1002I	
ELX0108I	ELX1003W	
ELX0109I	ELX1004W	
ELX0111A	ELX1005W	
ELX0112I	ELX1010I	
ELX0113A	ELXC106I	
ELX0114I	ELXC109I	
ELX0115I	ELXC112A	
ELX0116A	ELXC160I	
ELX0118A	ELXC161I	
ELX0119I	ELXC162A	
ELX0120I	ELXC181I	
ELX0122I	ELXC315I	
ELX0128I		
ELX0129I		
ELX0130I		
ELX0150I		
ELX0170I		
ELX0171A		
ELX0181A		
ELX0183A		
ELX0184I		
ELX0185I		
ELX0187I		
ELX0188I		
ELX0189I		
ELX0200I		

第 2 章 IMS 問題判別

IMS メッセージおよびコードの問題判別は、IBM によって確立された手順を使用して行われます。

問題判別は、障害のあるモジュールまたはプログラムを特定し、示された問題の解決をユーザーまたは IBM のどちらが担当するかを判別するための手順を使用して行われます。

本書内にリストされたメッセージおよびコードに、該当する場合は、問題判別情報が含まれています。ほとんどの場合、メッセージまたはコードの『問題判別』という見出しの後に、1 つ以上の番号 (例えば、「4、6」) が表示されています。これらの番号は、以下に示す、ユーザーが取る標準的な問題判別処置リストの番号付き項目への相互参照です。

1. z/OS コンソールからコンソール・シートを保管します。
2. ジョブに関連する入力を保管します。
3. ジョブに関連する SYSOUT (システム出力) を保管します。
4. IMS 制御領域の障害時のストレージ・メモリー・ダンプを保管し、関連するすべてのメッセージ領域のメモリー・ダンプを保管します。(SYS1.DUMP が使用される場合は、それを印刷して保管します。)
5. IMS ログ印刷出力を保管します。
6. IMS マスター端末の印刷出力を保管します。
7. ローカルまたはリモート端末の印刷出力を保管します。
8. JCL リストを保管します。
9. ACB 生成の出力を保管します。
10. MSGEN リストを保管します。
11. SYSABEND メモリー・ダンプを保管します。(SYS1.DUMP が使用される場合は、それを印刷して保管します。)
12. ユーザー修正の IMS モジュールのアセンブリー・リストを保管します。
13. バインド・マップを保管します。
14. LOG トレースを保管します。
15. 異常終了の直前に書き込まれたレコードで始まる IMS ログの印刷出力を保管します。
16. MFS 言語ユーティリティーの実行の出力リストを保管します。
17. 次の問題に関連するデータを収集します。
 - a. バッチで実行している場合、システム・メモリー・ダンプ。
 - b. オンラインで実行している場合、ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード・タイプ X'FF' (疑似異常終了) を印刷します。これらのレコードを印刷するには、ファイル選択およびフォーマット設定印刷プログラムを使用します。OPTION PRINT 制御ステートメントで EXITR=DFSERA30 を指定する必要があります。

- c. 障害のあった呼び出しの前後で、SNAP ステートメントを指定した DL/I テスト・プログラム (DFSDDLTO) を実行します。
 - d. 障害に関連した PSB および DBD のリストまたはステートメント (あるいは両方) を保管します。
 - e. ログ・レコード・タイプ X'67'、サブレコード・タイプ X'FE' (プログラム分離トレース) のメモリー・ダンプを作成します。ファイル選択およびフォーマット設定印刷プログラムを使用して、レコードを印刷します。ログを作成するときに、プログラム分離トレースを使用可能にする必要があります。OPTION PRINT 制御ステートメントで EXITR=DFSERA40 を指定する必要があります。
 - f. オンラインの場合、オンライン領域のログからのスナップ。
 - g. データベースのバックアウト、リカバリー、および再編成のアクティビティの履歴。
18. 関連する DBD のアセンブリー・リストを保管します。
 19. 関連する PSB のアセンブリー・リストを保管します。
 20. 障害時の関連データ・セットの VSAM カタログ項目のリストを保管します。
 21. 将来の利用のために予約済み。
 22. 将来の利用のために予約済み。
 23. IBM に連絡して、ハードウェア・サポートを要求します。
 24. IMS ログから 3270 診断エラー・ログ・レコード (レコード・タイプ X'67': サブレコード・タイプ X'03') のメモリー・ダンプを作成します。
 25. IMS ログのコピーを実行します。
 26. スクラッチパッド域の SPACCB フィールド、または CTBCCBPT フィールドから、関連する CCB を判別します。関連する (a) ソースと出力 CNT、および (b) 回線と PTERM (CTB) を判別します。

ログ・レコード 01、02、03、07、08、11、12、および 13 から、会話の状況を判別します。

- a. メッセージは準備できたが、アプリケーションがスケジュールされませんでした。01 宛先は会話型 SMB です。
- b. アプリケーションがスケジュールされ、08 レコードが生成されました。
- c. アプリケーションが、会話型端末にセグメントを挿入しました。メッセージの宛先が CNT の場合、03 および 13 レコードが生成されます。
- d. アプリケーションが、会話型プログラムにセグメントを挿入しました。SPA は、03 レコード内のメッセージの最初のセグメントです。
- e. アプリケーションは正常に終了したか、または異常終了しました。07 レコードに、会話型アプリケーションの完了コードが入っています。DLRFLAG2 エリア (07 ログ・レコードの最終ワード) に、同期点情報が入っています。
- f. 12 レコードは、会話が終了したことを示します。
- g. コマンド /EX1、/HOLD、/REL、または /START LINE (PTERM なし) に対して生成された 02 レコードが、会話中の端末に影響を与えたかどうかを判別します。
- h. IMS の再始動が会話に影響を与えますか?詳しくは、再始動への入力ログおよび再始動からの出力ログを参照してください。

27. z/OS ハードコピー・メッセージ・ログ出力を保管します。
28. 通常操作中に、このシステムが接続されている他のシステム内で作動している z/OS および IRLM の状況を判別します。
29. 障害時に生成された IRLM アドレス・スペース・ダンプを保管します。
30. IRLM 障害の近辺の時間に障害のあった IMS オンラインまたはバッチのアドレス・スペースのメモリー・ダンプを保管します。IMS メモリー・ダンプに関連する IMS の問題判別手順に従ってください。IMS 障害は、IRLM 障害に関連している可能性があります。
31. IRLM 始動プロシージャ JCL のリストを保管します。
32. IRLM をインストールするために実行された IMSGEN のリストを保管します。
33. IRLM をインストールするために実行された VTAM[®] 定義のリストを保管します。
34. 障害時のアクティビティーを示すために使用可能であれば、GTF トレース出力を保管します。
35. 問題を解決するためにさらに支援が必要であれば、次のマニュアルを参照してください。
 - IMS V15 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ
 - IMS V15 メッセージおよびコード 第 2 巻: DFS 以外メッセージ
 - IMS V15 メッセージおよびコード 第 3 巻: IMS 異常終了コード
 - IMS V15 メッセージおよびコード 第 4 巻: IMS コンポーネント・コード
 - IMS Version 15 Diagnosis

すべての入力 that 正確かどうかを調べ、すべてのメモリー・ダンプを分析します。

それでも問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

36. 問題を解決できない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。
37. タイプ X'02' ログ・レコードのコピーを実行依頼します。
38. CCTL SNAP または SDUMP データ・セットを保管します。
39. DBRC RECON のリストを保管します。
40. SVC メモリー・ダンプを取得し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

第 3 章 IMS システム・サービス戻りコード

IMS システム・サービスは、さまざまなコードを戻すことができます。

SVC 戻りコード

IMS SVC DFSVC200 は、すべての IMS SVC 要求を適切なサービスに送ります。問題が発生した場合には、コードを戻します。

エラーによって SVC が呼び出しを経路指定できない場合、DFSVC200 はレジスタ 15 に以下のコードのいずれかを戻します。

1xx-SVC 経路指定機能で検出されるエラー

戻りコード

意味

- 101 SVC を開始するモジュールは、監視プログラム状態で実行する必要がある。
- 102 SVC ディレクトリー・ブロック・アドレスがゼロであるか、または領域用のディレクトリー項目を見つけることができない。
- 103 ベクトル・テーブル・アドレスがゼロである。
- 104 機能コードが無効
- 105 SVC ルーチンのアドレスがゼロである。
- 106 従属領域が、制御領域の専用ストレージにある SVC を要求した。

2xx-SVC 分岐入りロインターフェイスで検出されるエラー

戻りコード

意味

- 201 無効な機能。
- 202 SVC ディレクトリー・ブロック・アドレスがゼロであるか、または領域用のディレクトリー項目を見つけることができない。
- 203 ベクトル・テーブル・アドレスがゼロである。
- 204 SVC ルーチンのアドレスがゼロである。

IMODULE 戻りコード

IMODULE SVC は、レジスタ 15 に *ffxnnnn* 形式でコードを戻します。

表 1. レジスタ 15 コードの部分

部分	意味
<i>ff</i>	機能コードは、機能名の後の括弧内に示されます。
<i>xx</i>	z/OS 機能からの戻りコード。これが存在する場合、各機能の戻りコード内に記述されます。
<i>nnnn</i>	戻りコードは、各機能に固有であり、機能の下にリストされています。戻りコードはすべて 16 進数です。

IMODULE GETMAIN (01)

戻りコード

意味

- 00 ストレージが割り振られた。
- 04 ストレージが割り振られなかった。
- 08 パラメーター・エラー
- 14 ONLY31=YES がコーディングされたが、使用可能な 31 ビット・ストレージがない。
- 30 TRACK=STE がコーディングされたが、追跡する STE を構築できない。RC のバイト 1 (2 番目のバイト) に、DFSMODU1 からの RC が含まれる。
- 38 呼び出し元が SRB または XM モード。

IMODULE LOAD (02)

戻りコード

意味

- 00 モジュールがロードされた。
 - 04 モジュールが見つからなかった。
 - 08 DFSMODU0 割り振りエラー。
 - 0C BLDL/FETCH 割り振りエラー。
- 「Data Administration: Macro Instruction Reference for MVS/DFP」を参照してください。
- 10 BLDL/FETCH 入出力エラー。
 - 14 FETCH のレコード・タイプが無効。
 - 18 FETCH アドレスが無効。
 - 1C FETCH プログラム・チェック。
 - 20 BLDL/FETCH 未定義エラー。
 - 24 BLDL の DCB がオープンされていない。
 - 28 呼び出し側は許可されているが、モジュールが無許可ライブラリー内にあった。
 - 2C 別名がライブラリーにコピーされていない。
 - 38 呼び出し側が SRB または XM モードであったか、または SVRB のないタスク・モードであった。

IMODULE LOCATE (03)

戻りコード

意味

- 0 ストレージ/モジュールが正常に見つかった。
- 04 ストレージ/モジュールが見つからない。
- 08 パラメーター・エラー
- 38 呼び出し元が SRB または XM モード

IMODULE DELETE (04)

戻りコード

意味

- 00 ストレージ/モジュールが正常に解放された。
- 04 ストレージ/モジュールが見つからない。
- 08 パラメーター・エラー
- 0C ストレージが解放されない (『xx』に FREEMAIN 戻りコードが入っている)。

38 呼び出し元が SRB または XM モード

IMODULE DIRLOAD (05)

戻りコード

意味

- 00 モジュールがロードされた。
- 08 DFSMODU0 割り振りエラー。
- 0C FETCH 割り振りエラー。SP 226、SP 230、または SP 255 に使用可能なストレージが十分でない。
- 10 FETCH 入出力エラー。
- 14 FETCH のレコード・タイプが無効。
- 18 FETCH アドレスが無効。
- 1C FETCH プログラム・チェック。
- 20 FETCH 未定義エラー。
- 38 呼び出し側が SRB または XM モードであったか、または SVRB のないタスク・モードであった。

IMODULE GETSTOR (06)

戻りコード

意味

- 00 ストレージが割り振られた。
- 04 ストレージが未割り振り
- 08 パラメーター・エラー
- 10 SCD が、グローバル要求で利用不能。

IMODULE FREESTOR (07)

戻りコード

意味

- 00 ストレージが正常に解放された。
- 04 ストレージが解放されない (『xx』に FREEMAIN 戻りコードが入っている)。
- 08 パラメーター・エラー
- 0C SDE が見つからない (グローバル・ストレージが解放されない)
- 10 SCD が、グローバル要求で利用不能。

その他の IMODULE 戻りコード

戻りコード

意味

- 3C DFSMODU0 が、内部作業域を取得できない。
- 40 無効な機能要求。

IMSAUTH 戻りコード

IMSAUTH 監視プログラム呼び出し (SVC) は、レジスター 15 に *ffnnnnnn* の形式でコードを戻します。

機能コード *ff* は、機能名の後の括弧内に示されます。戻りコード *nnnnnn* は、各機能に固有であり、機能の下にリストされています。コードはすべて 16 進数です。

IMSAUTH PGFIX (04)

戻りコード

意味

- 00 ストレージが正常にページ固定/ページ解放された。
- 04 1 つ以上の項目にエラーがある。
- 08 1 つ以上のリスト接頭部にエラーがある。
- 0C アドレス妥当性検査エラー。
- 10 リスト位置合わせエラー。

IMSAUTH PGFREE (08)

戻りコード

意味

- 00 ストレージが正常にページ固定/ページ解放された。
- 04 1 つ以上の項目にエラーがある。
- 08 1 つ以上のリスト接頭部にエラーがある。
- 0C アドレス妥当性検査エラー。
- 10 リスト位置合わせエラー。

IMSAUTH BATALLOC (0C)

DFSMDA00 からの戻りコード

IMSAUTH SETABND (10)

この機能は、固有の戻りコードを出力しません。

IMSAUTH RSETABND (14)

戻りコード

意味

- 14 無効な機能。

IMSAUTH RSETAUTH (18)

戻りコード

意味

- 00 要求が正常に終了した。
- 04 呼び出し側が許可されていない。

IMSAUTH NOSWAP (1C)

この機能は、固有の戻りコードを出力しません。

IMSAUTH SETAUTH (20)

戻りコード

意味

- 00 要求が正常に終了した。
- 04 呼び出し側が許可されていない。

IMSAUTH DELSSCT (28)

戻りコード

意味

- 00 SSCT が正常に削除された。
- 04 SSCT が見つからない。
- 0C 呼び出し側が許可されていない。

IMSAUTH BLDMTMWH (2C)

戻りコード

意味

- 00 MTMWQHDR が正常に作成された。
- 04 別の IMS に関する MTMWQHDR が存在する。
- 08 呼び出し側に関する MTMWQHDR が存在する。
- 0C 呼び出し側が許可されていない。
- 10 SP 245 で、MTMWQHDR の GETMAIN に失敗した。
- 1C SSCT が見つからない。

IMSAUTH DELMTMWH (30)

戻りコード

意味

- 00 MTMWQHDR が切断された。
- 04 MTMWQHDR およびブロックが、切断され、解放された。
- 08 MTMWQHDR が見つからない。
- 0C 呼び出し側が許可されていない。
- 10 サブプール 245 で、MTMWQHDR の FREEMAIN が失敗した。
- 1C SSCT が見つからない。

IMSAUTH SSCTSCD (34)

戻りコード

意味

- 00 SCD アドレスが正常に保管された。
- 0C 呼び出し側が許可されていない。
- 1C SSCT が見つからない。

IMSAUTH IEBCOPY (38)

戻りコード

意味

- 00 IEBCOPY へのリンクが正常に完了した
 - 0C 機能が IEBCOPY にリンクできなかった
- その他

IEBCOPY 戻りコード

IMSAUTH SWAP (3C)

戻りコード

意味

- 00 要求が正常に終了した
- 04 要求が現在のアドレス・スペースに関するものではない。
- 08 要求が許可されていない。

IMSAUTH LOCSSCT (40)

戻りコード

意味

- 00 SSCT が正常に見つかった。
- 04 SSCT が見つからない。

IMSAUTH ADDPCB (44)

戻りコード

意味

- 00 関数が正常に完了した。
- 08 GSAM PCB が DIRCA に追加されなかった

IMSAUTH BLDSSCT (48)

戻りコード

意味

- 00 SSCT が正常に作成された。
- 0C 呼び出し側が許可されていない。
- 10 サブプール 245 で、SSCT の GETMAIN が失敗した。
- 18 モジュール DFSRTMIO をロードできない。
- 20 IMS のためのリソース・クリーンアップ環境を確立できない。

IMSAUTH INITSSVT (4C)

戻りコード

意味

- 00 要求が正常に終了した。
- 04 SSCT が見つからない。
- 0C 呼び出し側が許可されていない。

IMSAUTH TERMSSVT (50)

戻りコード

意味

- 00 要求が正常に終了した。
- 04 SSCT が見つからない。
- 0C 呼び出し側が許可されていない。

IMSAUTH BLDIRLM (54)

戻りコード

意味

- 00 要求が正常に終了した。
- 04 IRLM がアクティブでない。
- 08 IMODULE GETMAIN / GETMAIN が失敗した
- 1C SSCT が見つからない。

IMSAUTH CHKSSCT (58)

戻りコード

意味

- 00 サブシステムが使用可能になった
- 04 サブシステムが使用不可になった
- 08 指定された SSCT 名がゼロである

IMSAUTH VECTADDR (5C)

戻りコード

意味

- 00 関数が正常に完了しました。
- 04 呼び出し側が許可されていない。

IMSAUTH SSCTIRLM (60)

戻りコード

意味

- 00 要求が正常に終了した。
- 04 呼び出し側が許可されていない。
- 1C SSCT が見つからない。

IMSAUTH RSETIRLM (64)

戻りコード

意味

- 00 要求が正常に終了した。
- 04 呼び出し側が許可されていない。
- 1C SSCT が見つからない。

IMSAUTH UAMBSUBP (68)

戻りコード

意味

- 00 関数が正常に完了しました。
- 04 無効な機能要求または GETMAIN エラー
- その他

VSAM 拡張インターフェース (XVI) 機能戻りコード

IMSAUTH BDUSRSSI (6C)

戻りコード

意味

- 00 SSCT が正常に作成された。
- 08 パラメーター・リストが無効。
- 0C 呼び出し側が許可されていない。
- 10 サブプール 245 で、SSCT または SSVT の GETMAIN が失敗した。

IMSAUTH BDSSIBLK (70)

戻りコード

意味

- 00 ブロックが正常に SSCT にコピーされ、接続された。
- 04 SSCT が見つからない。
- 08 パラメーター・リストが無効。
- 0C 呼び出し側が許可されていない。
- 10 サブプール 231 で、ブロックの GETMAIN が失敗した。

IMSAUTH RSRINIT (74)

戻りコード

意味

- 00 関数が正常に完了しました。
- 04 ストレージ割り振りに失敗しました
- 08 検証が失敗し、呼び出し元が許可されていません
- 0C 検証が失敗し、SSCT が見つかりません
- 10 オープン・データ・セット (RESLIB) 障害
- 14 DFSLLRN0/DFSFTFX0 に関する IMODULE LOAD の障害
- 18 クローズ・データ・セット (RESLIB) 障害

IMSAUTH T0COPY (78)

戻りコード

意味

- 00 関数が正常に完了しました。
- 04 複数の 非 MVS TCB が提示されました
- 08 ユーザー・インターフェース・モジュール (UIM) が提供されましたがユーザー域ではありません
- 0C DFSMS からの非ゼロ戻りコードです。
- 10 オープン・データ・セット (RESLIB) 障害
- 18 クローズ・データ・セット (RESLIB) 障害

IMSAUTH CALLRTM (7C)

この機能は、固有の戻りコードを出力しません。

IMSAUTH SWITCH_AUTH_CONTEXT (80)

- 00 要求が正常に完了しました。

その他

STORAGE 要求からの戻りコードまたは CTXSWCH サービスからの戻りコード

IMSAUTH WLM_PBPOOL (84)

戻りコード

意味

- 04 呼び出し元が IDENTIFY を発行した TCB の下がない。
- 08 従属領域ディレクトリー・ブロックがない。
- 0C 領域 IDENTIFY ブロックが見つからない。
- 10 サポートされない領域タイプから呼び出しが行われた。
- 14 無効な機能要求。
- 20 呼び出し元の作成は認可されていない。
- 24 2 つ目の PB プールの作成は許可されない。
- 28 DFSWLMPP ブロック用のストレージの取得に失敗した。
- 2C CREATE 要求のための WLM の PB ブロック取得が失敗した。
- 40 ADD 要求のための PB プール・ブロックがなかった。
- 44 ADD 要求が CREATE と同じ TCB から発行されなかった。
- 48 ADD PB 要求のためのストレージの取得に失敗した。
- 4C ADD 要求のための WLM の PB ブロックの取得が失敗した。
- 60 呼び出し元の DELETE は認可されていない。

その他の IMSAUTH 戻りコード

戻りコード

意味

- 14 無効な機能。

DFSBCB 戻りコード

DFSBCB は、GET および RELEASE 機能を使用して、CBT プールと呼ばれる、特定のストレージ・プールにあるストレージを管理するストレージ・マネージャーです。

DFSBCB から戻った後、レジスター 15 には *xxxxyyyy* の形式で戻りコードが入れます。下位 16 ビットの *yyyy* には、DFSBCB からの戻りコードが入れられま

す。上位 16 ビットの xxxx には、修飾情報が入れられることがあります。
DFSBCB 要求からの戻りコードはすべて、16 進数です。

戻りコード

意味

- 04 要求されたすべてのレベル 1 ブロックが利用不能であった。
- 08 要求に使用できる既存のストレージがない。IMODULE GETMAIN が、新規の IPAGE を取得しようとして失敗した。IMODULE GETMAIN の戻りコードは xxxx である。
- 0C BCB IPAGE エレメントのための IMODULE GETMAIN が失敗した。IMODULE GETMAIN の戻りコードは xxxx である。
- 10 RELease 要求から、無効なブロック・アドレスを渡された。理由コードは xxxx です。
 - 0 アドレスが 0 または 0 より小さい。
 - 4 ブロックが、指定されたタイプではない。
 - 8 ブロックが割り振られなかった。
- 14 GET または RELease 要求に渡されたブロック数が、ゼロまたは負の数値であった。
- 18 DFSBCB00 は、要求ブロックのために別のストレージの IPAGE を取得しなければならなかったが、プールはバッチによって拡張することができない。
- 1C レジスター・ストレージ、AWE、または非 ITASK ラッチ用のラッチ制御域のために、BCB キュー・エレメントが必要であるが、フリーな BCBQE がなかった。IMODULE GETMAIN が、新規の BCBQE IPAGE を取得しようとして失敗した。IMODULE GETMAIN の戻りコードは xxxx である。
- 20 SRBC ブロックの GET 要求を受け取ったが、共通 SRB プールは空であった。
- 28 IPAGE フォーマッターが正常に IPAGE をフォーマットできなかったため、新規の BCB IPAGE を取得できなかった。ページ・フォーマッターの戻りコードは、戻りコードの上位ハーフワード (xxxx) にある。
- 2c 要求された BCB ブロックのストレージはページ固定する必要があるが、ページ固定サービスが失敗したため、新規の BCB IPAGE を取得できなかった。ページ固定サービスの戻りコードは、戻りコードの上位ハーフワード (xxxx) にある。
- 30 新規の BCB IPAGE を取得できなかった。IPAGE 取得モジュール DFSSTM00 から予期しない戻りコードが戻された。失敗した下位レベル・サービスからの戻りコード (もしあれば) が、戻りコードの上位ハーフワード (xxxx) に入れられる。

DFSPPOOL マクロ戻りコード

IMS ストレージ・プール・マネージャーは、ストレージ管理サービスを提供するために、さまざまな内部モジュールによって呼び出されます。DFSPPOOL マクロは、ストレージ・プールへのインターフェースとして提供されています。DFSPPOOL は、戻りコードのすべてをレジスター 15 に戻します。戻りコードはすべて 16 進数です。

DFSPOOL GET 要求から戻った後、レジスター 15 には *xxxxyyyy* の形式で戻りコードが入れられます。下位 16 ビットの *yyyy* には、DFSPOOL からの戻りコードが入れられます。上位 16 ビットの *xxxx* には、IMODULE エラーが検出された場合に、IMODULE 戻りコードが入れられます。

DFSPOOL ALLOC

ALLOC 機能により、呼び出し側は、1 つ以上の事前定義された IMS ストレージ・プールを割り振ることができます。

戻りコード

意味

- 00 ストレージ・プールが正常に割り振られた。
- 04 プールが無視された。PALCNULL ('FF') が設定された。
- 08 重複するプール名が渡された。そのプール名は、ハッシュ・テーブルに存在する。
- 0C 要求されたプールの割り振りは、すでに進行中である。
- 10 1 つ以上の 1 次ブロックを割り振ることができなかった。
- 20 要求されたプールのプール定義が、DFSSPM10 内に見つからなかった。
- 24 IMODULE GETMAIN が、プール・ヘッダーを割り振ろうとしたが、失敗した。
- 28 変数プールに指定されたサイズがゼロである。
- 2C IMODULE GETMAIN が、変数プールを割り振ろうとしたが、失敗した。
- 30 IMODULE GETMAIN が、FAQE ストレージを割り振ろうとしたが、失敗した。
- 34 割り振られる 1 次ブロックの累積サイズが、このプールで使用可能な最大ストレージを超えている。
- 44 IMODULE GETMAIN が、作業域を割り振ろうとしたが、失敗した。
- A0 ストレージ・マネージャーに、無効な機能コードが渡された。

注: 戻りコードが X'20' より小さい場合、プール・ヘッダーが割り振られ、バッファをプールから取得できます。戻りコードが X'20' 以上の場合は、1 つ以上のプールを割り振ることができません。

DFSPOOL GET

GET 機能により、呼び出し側は、前に割り振られたストレージ・プールのいずれかからバッファを取得できます。

戻りコード

意味

- 00 バッファが正常に割り振られた。
- 04 要求が満たされると、プールの上限を超えてしまう。呼び出し側が WAIT=NO を指定したため、ストレージ・マネージャーはすぐに呼び出し側に戻った。バッファは割り振られなかった。
- 08 要求が満たされると、プールの上限を超えてしまう。呼び出し側が WAIT=YES を指定したため、ストレージ・マネージャーは、呼び出し側が待機してストレージに関する別の試みを行えるようにした。しかし、呼び出し側は最大の期間待機したが、ストレージはまだ利用不可であった。バッファは割り振られなかった。
- 0C IMODULE GETSTOR が、新規のストレージのブロックを取得しよ

うとして失敗した。戻りコードには、上位 2 バイトに IMODULE
戻りコードが、下位 2 バイトにストレージ・マネージャーの戻りコ
ードが入っています。

- 20 ストレージ・プールは専用ストレージ内にあるが、呼び出し側が同
じアドレス・スペースで実行していない。
- 28 バッファ要求は満たされなかった。要求サイズが、使用可能なス
トレージを超えている。
- 24 バッファ要求サイズが、ゼロまたはそれ以下であった。
- A0 ストレージ・マネージャーに、無効な機能コードが渡された。
- A4 ストレージ・マネージャーに、無効なプール名が渡された。

DFSPOOL REL

REL 機能により、呼び出し側はバッファを既存のストレージ・プールに
戻すことができます。

戻りコード

意味

- 00 バッファが正常に解放された。
- A0 ストレージ・マネージャーに、無効な機能コードが渡された。
- A4 ストレージ・マネージャーに、無効なプール名が渡された。

第 4 章 IMS 戻りコードおよび機能コード

IMS は、さまざまな戻りコードおよび機能コード発行することができます。

バッファ・ハンドラー戻りコード

バッファ・ハンドラー戻りコードは、シンボル名、命令、値、および意味で構成されています。

以下の表に、バッファ・ハンドラーからの考えられる戻りコードを示します。

表 2. バッファ・ハンドラー戻りコード

シンボル名	命令	値または等価値	意味
PSTRTCDE	DC	1XL1'00'	呼び出しの状況
PSTCLOK	EQU	X'00'	すべて良好
PSTGTDS	EQU	X'04'	相対ブロック番号 (RBN) がデータ・セットを超えている
PSTRDERR	EQU	X'08'	永続読み取りエラー
PSTNOSPC	EQU	X'0C'	データ・セットにこれ以上スペースがない
PSTBDCAL	EQU	X'10'	呼び出しが正しくない
PSTENDDA	EQU	X'14''	データ・セットの終わりになった。 *レコードは戻されない
PSTNOTFD	EQU	X'18'	要求されたレコードが見つからない
PSTNWBLK	EQU	X'1C'	バッファ・プールに新しいブロックが作成された
PSTNPLSP	EQU	X'20'	プールのスペースが不十分
PSTTRMNT	EQU	X'24'	ユーザーは終了しなければならない。プールにスペースがない
PSTDUPLR	EQU	X'28'	論理レコードはすでにキー順データ・セット (KSDS) にある
PSTWRERR	EQU	X'2C'	永続書き込みエラー
PSTBUFIN	EQU	X'30'	バッファが無効
PSTBIDIN	EQU	X'34'	BID/B を獲得できない
PSTPDERR	EQU	X'38'	DDIR/PDIR 項目を見つけることができない
PSTNOSTO	EQU	X'3C'	ストレージが利用不能

外部サブシステム・サポートに関連付けられた戻りコードおよび機能コード

外部サブシステム・サポートで検出されたさまざまな条件は、戻りコード (RC) と機能コード (FC) の組み合わせを発行します。

機能コードにより、IMS モジュール名を判別することができます。(RC) は、モジュールによって検出された問題を示します。これにより修正処置を取ることができますが、支援が必要であれば、IBM サポートに連絡してください。

カテゴリ A、D、および E にある疑問符 (??) は、リストされたモジュールが受け取った、サポートされない戻りコードを示します。説明欄では、サポートされない戻りコードを戻した機能分野 (例えば、外部サブシステム出口) を示します。

カテゴリ A および E の場合、疑問符 (??) は、IMS 内部機能 (すなわち、IMODULE) から受け取った戻りコードを示します。

カテゴリ C にリストされていない戻りコードについては、13 ページの『第 3 章 IMS システム・サービス戻りコード』を参照して、コードを解決し、問題を判別してください。

カテゴリ A - 外部サブシステム出口を呼び出す IMS モジュールによって検出される条件

外部サブシステム出口を呼び出す IMS モジュールは、状況または問題を識別するコードを発行します。

表 3. 外部サブシステム出口を呼び出す IMS モジュールによって検出される条件：

機能コード	戻りコード	モジュールまたは ID	説明
X'0000'		DFSESD30	エラー・コード
	X'20'		ESS 副次機能コードまたはゼロの場合、異常終了 3049 が発行される。
X'0005'		DFSESS00	SIGNON
	X'??'		サインオンが失敗した。外部サブシステムから、サポートされていない戻りコードが戻された。
	X'FF'		必要な外部サブシステム・サインオン出口が欠落している。
	X'FE'		DFSESS00 に渡されたパラメーター・リストに、無効な機能コードが含まれていた。
X'0006'		DFSESD50	サインオフ
	X'??'		サインオフが失敗した。外部サブシステムから、サポートされていない戻りコードが戻された。
	X'FF'		必要な外部サブシステム・サインオフ出口が欠落している。
X'0007'		DFSESCT0	スレッド作成
	X'??'		スレッド作成が失敗した。外部サブシステムから、サポートされていない戻りコードが戻された。
	X'FF'		必要な外部サブシステム・スレッド作成出口が欠落している。
	X'FE'		DFSESCT0 に渡されたパラメーター・リストに、無効な機能コードが含まれていた。
	X'FD'		DFSESCT0 に渡されたパラメーター・リストに、無効なパラメーター・カウントが含まれていた。


表 3. 外部サブシステム出口を呼び出す IMS モジュールによって検出される条件 (続き):

機能コード	戻りコード	モジュールまたは ID	説明
X'0008'		DFSESD50	スレッド終了
	X'??'		スレッド終了が失敗した。外部サブシステムから、サポートされていない戻りコードが戻された。
	X'FF'		必要な外部サブシステム・スレッド終了出口が欠落している。
	X'FE'		DFSESD50 に渡されたパラメーター・リストに、無効な機能コードが含まれていた。
X'0009'		DFSESD50	識別終了
	X'??'		識別終了が失敗した。外部サブシステムから、サポートされていない戻りコードが戻された。
	X'FF'		必要な外部サブシステム識別終了出口が欠落している。
X'000D'		DFSESAB0	打ち切りおよび継続
	X'??'		打ち切りおよび継続が失敗した。外部サブシステムから、サポートされていない戻りコードが戻された。
	X'FF'		必要な外部サブシステムの打ち切りおよび継続の出口が欠落している。
X'000E'		DFSESP10	コミット準備
	X'??'		コミット継続が失敗した。外部サブシステムから、サポートされていない戻りコードが戻された。
	X'FF'		必要な外部サブシステム・コミット準備出口が欠落している。
X'000F'		DFSESP20	コミット継続
	X'??'		コミット継続が失敗した。外部サブシステムから、サポートされていない戻りコードが戻された。
	X'FF'		必要な外部サブシステム・コミット準備出口が欠落している。
X'0013'		DFSESD70	初期設定フェーズ 1
	X'04'		作業域の IMODULE GETMAIN ができない。
	X'08'		DFSESI40 を IMODULE ロードできない。おそらく、DFSESL DD ステートメントのエラー。
	X'0C'		DFSESI40 または DFSESP10 が、外部サブシステムのストレージまたはモジュールのロードに失敗した。
	X'10'		DFSESL DD ステートメントで参照されるライブラリーをオープンできない。
	X'??'	リソース ID 'IMOD-GM'	IMODULE GETMAIN が失敗した。IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)を参照。
	X'??'	リソース ID 'IMOD-LD'	IMODULE ロードが失敗した。IMODULE 戻りコード (メッセージおよびコード)を参照。
	X'0C'	リソース ID 'DFSESL'	DFSESL DD ステートメントで参照されるライブラリーをオープンできない。
	X'??'	リソース ID 「DFSESI40」	DFSESI40 または DFSESP10 が、外部サブシステムのストレージまたはモジュールのロードに失敗した。戻りコードが DFSESI40 によって戻される。

表 3. 外部サブシステム出口を呼び出す IMS モジュールによって検出される条件 (続き):

機能コード	戻りコード	モジュールまたは ID	説明
X'0014'		DFSESD80	初期設定フェーズ 2
	X'??'		初期設定が失敗した。外部サブシステムから、サポートされていない戻りコードが戻された。
X'0017'		DFSESS10	外部サブシステム始動サービス
	X'04'		この時点では、外部サブシステムを利用できない。通知メッセージは外部サブシステムへのキューに入れられた。
	X'08'		この時点では、外部サブシステムを利用できない。IMS が外部サブシステムの通知メッセージを待機しているか、またはサブシステム接続 (識別処理) が進行中でまだ完了していない。
	X'0C'		グローバルまたはローカル接続に対して、識別が失敗した。
	X'10'		IMS は正常終了または異常終了します。
	X'14'		外部サブシステムが終了中。
	X'18'		外部サブシステム初期設定出口が、出口で検出された障害のため IMS が識別できないことを示した。
	X'1C'		DFSESS10 が、必要なリソースを見つけられなかった。リソースが外部サブシステム識別出口である場合、DFS3608 メッセージが発行される。その他のリソースの場合、DFS3620 メッセージが発行される。
	X'20'		DFSESS10 に渡されたパラメーター・リストに、無効な機能コードが含まれていた。
	X'24'		外部サブシステム終了サービスが、外部サブシステムを IMS から切断するために呼び出された。
X'28'	外部サブシステム接続が停止されたか、または停止が進行中である。		
X'0020'		DFSESD90	トレース呼び出し
	X'0C'		DFSTRACE マクロが、要求に応じてトレース項目を作成できなかった。
	X'10'		DFSBCB マクロを使用して高速保管域を取得できない。
	X'14'		DFSESD90 に渡されたストレージ・アドレスが無効だった。
	X'20'		DFSESD90 に渡されたパラメーター・リストに、無効な機能コードが含まれていた。
X'0022'		DFSESD31	非メッセージ・ドリブン ROLB 機能
	X'20'		DFSESD31 に渡されたパラメーター・リストに、無効な機能コードが含まれていた。

関連情報:

 3049 (メッセージおよびコード)

カテゴリー B - 外部サブシステム出口によって検出される条件

外部サブシステム出口は、コードを発行して状況または問題を報告します。

表 4. 外部サブシステム出口によって検出される条件：

機能コード	戻りコード	説明
X'0200'		外部サブシステム未確定解決。検出モジュール: 外部サブシステム未確定解決出口。
	X'20'	未確定解決が失敗した。要求の処理中に、外部サブシステム提供の出口で無効な条件が検出された。このような条件には、無効な保管域、プロトコル違反、無効な作業域、無効なパラメーター・リストなどがある。
X'0201'		外部サブシステム終了。検出モジュール: 外部サブシステム終了出口。
	X'08'	サブシステム終了が失敗した。終了通知の処理中に、外部サブシステムで障害が検出された。IMS は終了処理を継続し、それ以降の接続要求を引き受ける。
	X'20'	サブシステム終了が失敗した。要求の処理中に、外部サブシステム提供の出口で無効な条件が検出された。このような条件には、無効な保管域、プロトコル違反、無効な作業域、無効なパラメーター・リストなどがある。
X'0202'		外部サブシステム初期設定。検出モジュール: 外部サブシステム初期設定出口。
	X'08'	初期設定が失敗した。IMS は、外部サブシステムとの接続を開始しない。制御領域 ESET は始動不能とマークされ、/START SUBSYS コマンドによってこの条件がリセットされる。
	X'20'	初期設定が失敗した。要求の処理中に、外部サブシステム提供の出口で無効な条件が検出された。このような条件には、無効な保管域、プロトコル違反、無効な作業域、無効なパラメーター・リストなどがある。
X'0203'		外部サブシステム識別終了。検出モジュール: 外部サブシステム識別終了出口。
	X'08'	識別終了が失敗した。要求を処理中の外部サブシステムでエラーが検出された。IMS は、機能が正常に完了したかのように終了処理を続行する。
	X'20'	識別終了が失敗した。要求の処理中に、外部サブシステム提供の出口で無効な条件が検出された。このような条件には、無効な保管域、プロトコル違反、無効な作業域、無効なパラメーター・リストなどがある。
X'0281'		外部サブシステム通常呼び出し。検出モジュール: 外部サブシステム通常呼び出し出口。
	X'04'	通常呼び出しが失敗した。外部サブシステムによって、リソースのデッドロックが検出された。IMS は、アプリケーション・プログラムを異常終了 0777 で終了させる。すべての変更はバックアウトされ、そのアプリケーションはスケジュール変更される。
	X'08'	通常呼び出しが失敗した。要求を処理中に、外部サブシステムで障害が発生した。IMS は、そのアプリケーションを異常終了 3044 で終了させる。
	X'20'	通常呼び出しが失敗した。要求の処理中に、外部サブシステム提供の出口で無効な条件が検出された。このような条件には、無効な保管域、プロトコル違反、無効な作業域、無効なパラメーター・リストなどがある。アプリケーションが関係している場合は、異常終了 3044 で終了する。

表 4. 外部サブシステム出口によって検出される条件 (続き):

機能コード	戻りコード	説明
X'0283'		外部サブシステム操作不能。検出モジュール: 外部サブシステム操作不能出口 (SNO)。
	X'08'	SNO 出口呼び出しが失敗した。IMS は、アプリケーション・プログラムを異常終了コード 3044 で終了させる。トランザクション入力は保管され、コミットされていないすべての変更はバックアウトされる。
	X'0C'	SNO 出口呼び出しが失敗した。IMS は、アプリケーション・プログラムを異常終了 3047 で終了させ、入力を廃棄する。
	X'10'	SNO 出口呼び出しが失敗した。IMS は、SNO 出口によって戻された z/OS フォーマット異常終了コードを使用して、アプリケーションを異常終了させる。IMS プログラムが打ち切り中に行われることは、異常終了コードによって異なる。この異常終了が発生した場合、外部サブシステムには、インストール先で必要なデバッグを補助するのに十分な資料があるものと想定されている。
	X'20'	SNO が失敗した。要求の処理中に、外部サブシステム提供の出口で無効な条件が検出された。このような条件には、無効な保管域、プロトコル違反、無効な作業域、無効なパラメーター・リストなどがある。アプリケーションが関係している場合は、異常終了 3044 で終了する。
X'0284'		外部サブシステム・エコー。検出モジュール: 外部サブシステム・エコー出口。
	X'20'	ECHO が失敗した。要求の処理中に、外部サブシステム提供の出口で無効な条件が検出された。このような条件には、無効な保管域、プロトコル違反、無効な作業域、無効なパラメーター・リストなどがある。
X'0285'		外部サブシステム初期設定。検出モジュール: 外部サブシステム初期設定出口。従属領域。
	X'08'	初期設定が失敗した。IMS は、この従属領域の実行中は、サブシステムへの接続を開始しない。従属領域 LESE は、識別不能としてマークされる。
	X'20'	初期設定が失敗した。要求の処理中に、外部サブシステム提供の出口で無効な条件が検出された。このような条件には、無効な保管域、プロトコル違反、無効な作業域、無効なパラメーター・リストなどがある。アプリケーションが関係している場合は、異常終了 3044 で終了する。
X'0286'		外部サブシステム識別。検出モジュール: 外部サブシステム識別出口。
	X'04'	識別が失敗した。外部サブシステムは、接続準備ができると、通知メッセージを送信する。
	X'0C'	識別が失敗した。外部サブシステムで識別処理が失敗した。
	X'20'	識別が失敗した。要求の処理中に、外部サブシステム提供の出口で無効な条件が検出された。このような条件には、無効な保管域、プロトコル違反、無効な作業域、無効なパラメーター・リストなどがある。
X'0287'		外部サブシステム・コマンド。検出モジュール: 外部サブシステム・コマンド出口。
	X'20'	コマンドが失敗した。要求の処理中に、外部サブシステム提供の出口で無効な条件が検出された。このような条件には、無効な保管域、プロトコル違反、無効な作業域、無効なパラメーター・リストなどがある。

表 4. 外部サブシステム出口によって検出される条件 (続き):

機能コード	戻りコード	説明
X'0288'		外部サブシステム・サインオン。検出モジュール: 外部サブシステム・サインオン出口。
	X'04'	サインオンが失敗した。外部サブシステムが、指定された要求をリジェクトした。IMS は、サブシステムで作動していない出口を呼び出す。
	X'08'	サインオンが失敗した (一時的な状態)。外部サブシステムは、必要なリソースが使用不能なため、要求を完了できなかった。IMS は、アプリケーション・プログラムを異常終了 3048 で終了させる。現行メッセージのユーザー ID がサインオンできない場合IMS 複数トランザクション・モード処理が、この戻りコードを受け取ることがある。
	X'0C'	サインオンが失敗した (永続的な状態)。外部サブシステムで要求が失敗した。IMS は、アプリケーション・プログラムを異常終了 3045 で終了させる。
	X'10'	サインオンが失敗した。通信が中断したため、外部サブシステムで要求が失敗した。IMS は、アプリケーション・プログラムを異常終了コード 3044 で終了させる。
	X'14'	サインオンが失敗した。2 つのサブシステム間のリソース定義の矛盾のため、外部サブシステムは要求を完了できなかった。IMS は、アプリケーション・プログラムを異常終了 3047 で終了させる。
	X'18'	サインオンが失敗した。サインオン時に IMS によって渡されたリカバリー・トークン (NID) が外部サブシステムに存在するため、要求はリジェクトされた。これは、次のいずれかの条件が発生したことを示す。 1. 未解決のリカバリーが、未確定解決出口によって解決されなかった。 2. IMS はコールド・スタートされ、NID の内容が再び起こった。 IMS が、リカバリー・トークンの起点アプリケーション・スケジュール番号 (OASN) 部分を増やして、サインオン出口を再び呼び出す。アプリケーション・プログラムは、デッドロック異常終了 0777 の場合と同様に、これが発生したことを認識しない。
	X'20'	サインオンが失敗した。要求の処理中に、外部サブシステム提供の出口で無効な条件が検出された。このような条件には、無効な保管域、プロトコル違反、無効な作業域、無効なパラメーター・リストなどがある。アプリケーションが関係している場合は、異常終了 3044 で終了する。
X'0289'		外部サブシステム・サインオフ。検出モジュール: 外部サブシステム・サインオフ出口。
	X'08'	サインオフが失敗した。外部サブシステムで障害が検出された。IMS は、外部サブシステムとの従属領域の接続を終了し、他の従属領域が処理を続行することを許可する。
	X'20'	サインオフが失敗した。要求の処理中に、外部サブシステム提供の出口で無効な条件が検出された。このような条件には、無効な保管域、プロトコル違反、無効な作業域、無効なパラメーター・リストなどがある。アプリケーション・プログラムが関係している場合は、異常終了 3044 で終了する。

表 4. 外部サブシステム出口によって検出される条件 (続き):

機能コード	戻りコード	説明
X'0290'		外部サブシステム・スレッド作成。検出モジュール: 外部サブシステム・スレッド作成出口。
	X'04'	スレッド作成が失敗した。外部サブシステムが、指定された要求をリジェクトした。IMS は、サブシステムで作動していない出口を呼び出す。
	X'08'	スレッド作成が失敗した (一時的な状態)。外部サブシステムは、必要なリソースが利用できないため、要求を完了できなかった。IMS は、そのアプリケーションを異常終了 3048 で終了させる。
	X'0C'	スレッド作成が失敗した (永続的な状態)。外部サブシステムで要求が失敗した。IMS は、アプリケーション・プログラムを異常終了 3045 で終了させる。
	X'10'	スレッド作成が失敗した。通信が中断したため、外部サブシステムで要求が失敗した。IMS は、アプリケーション・プログラムを異常終了 3044 で終了させる。
	X'14'	スレッド作成が失敗した。外部サブシステムは、定義上の矛盾があるため、要求を完了できなかった。IMS は、アプリケーション・プログラムを異常終了 3047 で終了させる。
	X'20'	スレッド作成が失敗した。要求の処理中に、外部サブシステム提供の出口で無効な条件が検出された。このような条件には、無効な保管域、プロトコル違反、無効な作業域、無効なパラメーター・リストなどがある。アプリケーション・プログラムが関係している場合は、異常終了 3044 で終了する。
	X'24'	スレッド作成が失敗した。外部サブシステムによって、リソースのデッドロックが検出された。IMS は、アプリケーション・プログラムを異常終了 0777 で終了させる。

表 4. 外部サブシステム出口によって検出される条件 (続き):

機能コード	戻りコード	説明
X'0291'		外部サブシステム・スレッド終了。検出モジュール: 外部サブシステム・スレッド終了出口。
	X'04'	<p>COMMIT オプションを指定したスレッド終了が失敗した。外部サブシステムが、完了必須フェーズ 2 コミット処理中に失敗した。IMS は、外部サブシステムとの従属領域の接続を終了し、他の従属領域が処理を続行することを許可する。未確定解決処理。</p> <p>IMS は、アプリケーションを異常終了 3046 (入力メッセージが処理され、リソースがコミットされた場合の異常終了のバリエーション) で終了させる。異常終了の理由は、アプリケーションに接続されたすべてのサブシステムが共通リカバリー・トークンを使用し、IMS が未確定解決処理のためにそれを保存しなければならないためである (BMP ジョブは再実行依頼しなければならない、それらはコミット・ポイントの後に処理を再開する)。</p>
	X'04'	<p>ABORT オプションを指定したスレッド終了が失敗した。外部サブシステムによる要求の処理が、打ち切りフェーズ 2 コミット処理中に失敗した。IMS は、外部サブシステムとの従属領域の接続を終了し、他の従属領域が処理を続行することを許可する。その後、未確定解決処理が実行される。</p> <p>IMS は、アプリケーション・プログラムを異常終了 3045 で終了させる (BMP ジョブを再実行する必要がある、ジョブは障害発生の前同期点から処理を再開する)。</p>
	X'08'	無効なスレッド終了が要求され、スレッド終了出口は、要求された情報でエラーを検出したか、またはこの時点で要求が無効であると見なした。この戻りコードは、コミット・オプション文字ストリングが「de」の場合のみ有効である。
	X'20'	スレッド終了が失敗した。要求の処理中に、外部サブシステム提供の出口で無効な条件が検出された。このような条件には、無効な保管域、プロトコル違反、無効な作業域、無効なパラメーター・リストなどがある。アプリケーション・プログラムが関係している場合は、異常終了 3044 で終了する。
X'0292'		外部サブシステム識別終了。検出モジュール: 外部サブシステム識別終了出口。
	X'08'	識別終了が失敗した。要求の処理中に、外部サブシステムで障害が検出された。IMS は、他の従属領域接続に影響を与えずに、接続終了処理を継続する。
	X'20'	識別終了が失敗した。要求の処理中に、外部サブシステム提供の出口で無効な条件が検出された。このような条件には、無効な保管域、プロトコル違反、無効な作業域、無効なパラメーター・リストなどがある。アプリケーション・プログラムが関係している場合は、異常終了 3044 で終了する。






表 4. 外部サブシステム出口によって検出される条件 (続き):

機能コード	戻りコード	説明
X'0293'		外部サブシステム打ち切りおよび継続。検出モジュール: 外部サブシステム打ち切りおよび継続出口。
	X'04'	打ち切りおよび継続が失敗した。外部サブシステムによる要求の処理が、打ち切り中に失敗したか、またはフェーズ 2 コミット処理中に失敗した。IMS は、外部サブシステムとの従属領域の接続を終了させ、他の従属領域が処理を継続するのを可能にする。その後、このアプリケーションに関連する残余リカバリー・エレメント (RRE) に関して、制御領域で未確定解決処理が実行される。IMS は、アプリケーション・プログラムを異常終了 3045 で終了させる (BMP ジョブを再実行する必要があり、ジョブは障害発生前の同期点から処理を再開する)。
	X'20'	打ち切りおよび継続が失敗した。要求の処理中に、外部サブシステム提供の出口で無効な条件が検出された。このような条件には、無効な保管域、プロトコル違反、無効な作業域、無効なパラメーター・リストなどがある。アプリケーション・プログラムが関係している場合は、異常終了 3044 で終了する。
X'0294'		外部サブシステム・コミット準備。検出モジュール: 外部サブシステム・コミット準備出口。
	X'04'	コミット継続が失敗した。外部サブシステムは、コミット処理を実行するように準備されていない。IMS は、関係するすべてのサブシステムについて、サブシステム提供の打ち切り出口を呼び出す。アプリケーション・プログラムは終了し、コミットされていないすべての変更を廃棄する (IMS DL1 ROLB が発行された場合と同様に)。
	X'08'	コミット継続が失敗した。外部サブシステムで準備処理が失敗した。サブシステムが終了中でなければIMSは、関係するすべてのサブシステムについて、サブシステム提供の打ち切り出口を呼び出す。アプリケーション・プログラムは異常終了 3044 で終了し、コミットされていない変更はすべてバックアウトされる。
	X'10'	コミット継続が失敗した。外部サブシステムは、リソースが使用不能なため、要求を完了できなかった。IMS は、そのアプリケーションを異常終了 3055 で終了させる。
	X'18'	<p>コミット継続が失敗した。コミット準備時に IMS によって渡されたリカバリー・トークン (NID) が外部サブシステムに存在するため、要求はリジェクトされた。これは、次のいずれかの条件が発生したことを示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 未解決のリカバリーが、未確定解決出口によって解決されなかった。 2. IMS はコールド・スタートされ、NID の内容が再び起こった。 <p>IMS は、アプリケーション・プログラムを異常終了 3053 で疑似異常終了させ、前のすべての更新をバックアウトする。アプリケーションは、即時にスケジュール変更される。スケジュール変更により、OASN 番号が重複しないように更新される。従属領域接続が再確立され、その結果、リカバリー・トークンが外部サブシステム・コミット準備出口に再び渡される。</p>
	X'20'	コミット継続が失敗した。要求の処理中に、外部サブシステム提供の出口で無効な条件が検出された。このような条件には、無効な保管域、プロトコル違反、無効な作業域、無効なパラメーター・リストなどがある。アプリケーション・プログラムが関係している場合は、異常終了 3044 で終了する。

表 4. 外部サブシステム出口によって検出される条件 (続き):

機能コード	戻りコード	説明
X'0295'		外部サブシステム・コミット継続。検出モジュール: 外部サブシステム・コミット継続出口。
	X'04'	コミット継続が失敗した。外部サブシステムによる要求の処理が、完了必須 (フェーズ 2) コミット処理中に失敗した。IMS は、外部サブシステムとの従属領域の接続を終了し、他の従属領域が処理を続行することを許可する。この PST に関連する残余リカバリー・エレメント (RRE) に関して、制御領域で未確定解決処理が実行される。IMS は、アプリケーションを異常終了 U3046 (入力メッセージが処理され、リソースがコミットされた場合の異常終了のバリエーション) で終了させる。異常終了の理由は、アプリケーションに接続されたすべてのサブシステムが共通リカバリー・トークンを使用し、IMSが未確定解決処理のためにそれを保存しなければならないためである (BMP ジョブは再実行依頼しなければならない、それらはコミット・ポイントの後に通常の処理を再開する)。
	X'20'	コミット継続が失敗した。要求の処理中に、外部サブシステム提供の出口で無効な条件が検出された。このような条件には、無効な保管域、プロトコル違反、無効な作業域、無効なパラメーター・リストなどがある。アプリケーション・プログラムが関係している場合は、異常終了 3044 で終了する。
X'0297'		外部サブシステム識別。検出モジュール: 外部サブシステム識別出口。
	X'0C'	識別が失敗した。外部サブシステムで識別処理が失敗した。
	X'20'	識別が失敗した。要求の処理中に、外部サブシステム提供の出口で無効な条件が検出された。このような条件には、無効な保管域、プロトコル違反、無効な作業域、無効なパラメーター・リストなどがある。

関連情報:

-  0777 (メッセージおよびコード)
-  3044 (メッセージおよびコード)
-  3045 (メッセージおよびコード)
-  3046 (メッセージおよびコード)
-  3053 (メッセージおよびコード)

カテゴリー C - IMS 共通サービス・モジュールによって検出される条件

IMS 共通サービス・モジュールは、状況または問題を報告するためのコードを発行できます。

表 5. IMS 共通サービス・モジュールによって検出される条件：

機能コード	戻りコード	モジュールまたは ID	説明
X'0302'		DFSESD40	サービス・モジュール・ルーター・ルーチン
	X'04'		DFSESD40 がモジュールを IMODULE ロードしようとした。
	X'08'		DFSESD40 が、無効なモジュールにブランチするように要求された。
	X'0C'		DFSESL DD ステートメントで参照されるライブラリーをオープンできない。
	X'10'		DFSESD40 が、IMODULE により DFSDPDIR を探索しようとして失敗した。
	X'14'		ローカル ESET のアドレスが、DFSDPDIR の中になかった。
	X'20'		DFSESD40 に渡された EEVTP が無効だった。
X'0303'		DFSESGLO	サービス・モジュール・グルー・ルーチン
	X'04'		DFSESGLO に渡されたパラメーター・リストで ILOG [®] が要求されたが、ログ・タイプ X'55' に対するものではなかった。
	X'20'		DFSESG10 に渡されたパラメーター・リストに、無効な機能コードが含まれていた。
	X'1C'	SSOB 用のエリアの IMODULE GETMAIN ができない。	
X'0307'		DFSFESPO	同期点マネージャー
	X'04'		サポートされない要求呼び出しで DFSFESPO が呼び出された。
	X'08'		処理中であった RRE のサブシステム名と一致するグローバル ESET を見つけることができなかった。

カテゴリ D - 制御領域サービス・モジュールによって検出される条件

制御領域サービス・モジュールは、状況または問題を報告するためのコードを発行します。





表 6. 制御領域サービス・モジュールによって検出される条件：

機能コード	戻りコード	モジュールまたは ID	説明
X'0400'	X'10'	DFSESI00	DFSESI80 を IMODULE ロードできない。
X'0401'		DFSESI20	ドーター ITASK 初期設定
	X'04'		作業域用のストレージの IMODULE GETMAIN ができない。
	X'08'		DFSBCB マクロを使用して高速保管域を取得できない。
	X'0C'		DFSCDSP マクロを使用して、ディスパッチャー作業域を作成できない。
	X'10'		DFSESI30 を IMODULE ロードできない。
	X'14'		DFSCIR マクロを使用して終了 ITASK を作成できない。
	X'18'		DFSCIR マクロを使用してドーター ITASK (DFSESI30) を作成できない。

表 6. 制御領域サービス・モジュールによって検出される条件 (続き):

機能コード	戻りコード	モジュールまたは ID	説明
X'0402'		DFSESI30	ドーター ITASK コントローラー
	X'10'		DFSESI50 を IMODULE ロードできない。(異常終了 3041)
	X'??'		メッセージ DFS3607I によって示される外部サブシステム出口が、サポートされない戻りコードを戻した。(メッセージ DFS3607I)
X'0403'		DFSESI50	初期設定出口呼び出し
	X'04'		ストレージ・ブロック DFSIWALE 用のストレージの IMODULE GETMAIN ができない。(異常終了 3041)
	X'08'		DFSESI40 または DFSESP10 が、外部サブシステムのストレージまたはモジュールのロードに失敗した。(異常終了 3041)
	X'0C'		DFSESL DCB 用のストレージの IMODULE GETMAIN ができない。(異常終了 3041)
	X'10'		DFSESI40 を IMODULE ロードできない。(異常終了 3041)
	X'??'		外部サブシステム初期設定出口から、サポートされていない戻りコードが戻された。(メッセージ DFS3606I)
X'0404'		DFSESI60	未確定解決プロセッサ
	X'08'		DFSBCB マクロを使用して保管域を終了できない。(異常終了 3041)
	X'??'		外部サブシステム未確定解決出口から、サポートされていない戻りコードが戻された。(メッセージ DFS3606I)
X'409'		DFSIESI0	マザー ITASK コントローラー
	X'04'		DFSESI00 を IMODULE ロードできない。(異常終了 3041)
	X'0C'		DFSESG10 を IMODULE ロードできない (異常終了 3041)。
	X'10'		DFSESD30 を IMODULE ロードできない (異常終了 3041)。
	X'04'		外部サブシステムのマザー・タスク (TCB) のタスク終了出口ルーチン (ETXR) がスケジュールされたが、無効なドーター・タスク (TCB) が渡された。(異常終了 3043)
X'0411'		DFSXESI0	マザー ITASK 初期設定
	X'04'		作業域用のストレージの IMODULE GETMAIN ができない。
	X'08'		DFSBCB マクロを使用して高速保管域を取得できない。
	X'0C'		DFSCDSP マクロを使用して、ディスパッチャー作業域を作成できない。
	X'10'		DFSIESI0 を IMODULE ロードできない。
	X'14'		DFSCIR マクロを使用して終了 ITASK を作成できない。
	X'18'		DFSCIR マクロを使用してドーター ITASK (DFSIESI0) を作成できない。

関連情報:

-  DFS3606I (メッセージおよびコード)
-  DFS3607I (メッセージおよびコード)
-  3041 (メッセージおよびコード)
-  3043 (メッセージおよびコード)

カテゴリ E - 従属領域サービス・モジュールによって検出される条件

従属領域サービス・モジュールは、状況または問題を報告するためのコードを発行します。

表 7. 従属領域サービス・モジュールによって検出される条件：

機能コード	戻りコード	モジュールまたは ID	説明
X'0503'		DFSESD10	従属領域 - IMS 識別
	X' <i>nn</i> '	リソース ID 「IMOD-GM」	IMODULE GETMAIN が失敗した。13 ページの『IMODULE 戻りコード』を参照。
	X' <i>nn</i> '	リソース ID 「IMOD-LD」	IMODULE ロードが失敗した。13 ページの『IMODULE 戻りコード』を参照。
	X'04'	リソース ID 「ESETP」	グローバル ESET 接頭部が見つからない。制御領域に対して SSM が指定されていないか、DFSESI00 が SSM メンバーの処理中に失敗した。
	X'08'	リソース ID 「GESE」	必要な外部サブシステムのグローバル ESET が定義されていない。
	X'0C'	リソース ID 「DFSESL」	DFSESL DD ステートメントで参照されるライブラリーをオープンできない。
	X'10'	リソース ID 「PROCLIB」	従属領域に対して SSM PROCLIB メンバーが指定されたが、従属領域の JCL には PROCLIB DD ステートメントが含まれていなかった。
X'0504'		DFSESD20	従属領域 - IMS サインオン
	X' <i>nn</i> '	リソース ID 「IMOD-GM」	IMODULE GETMAIN が失敗した。13 ページの『IMODULE 戻りコード』を参照。
	X' <i>nn</i> '	リソース ID 「IMOD-LD」	IMODULE ロードが失敗した。13 ページの『IMODULE 戻りコード』を参照。
	X' <i>nn</i> '	リソース ID 「DFSESI40」	DFSESI40 または DFSESP10 が、外部サブシステムのストレージまたはモジュールのロードに失敗した。戻りコードが DFSESI40 によって戻される。
	X' <i>nn</i> '	リソース ID 「WALE」	IMODULE GETMAIN が失敗した。13 ページの『IMODULE 戻りコード』を参照。
	X' <i>nn</i> '	リソース ID 'EZS '	DFSBCB マクロのサービスを介して EZS ブロックを取得できなかった。戻りコードが DFSBCB マクロによって戻される。
	X' <i>nn</i> '	リソース ID X'DFSESL'	DFSESL DD ステートメントで参照されるライブラリーを開けない。
X'0505'	X' <i>nn</i> '	DFSESD60	従属領域 - IMS スレッド作成
	X' <i>nn</i> '	リソース ID 「IMOD-GM」	IMODULE GETMAIN が失敗した。13 ページの『IMODULE 戻りコード』を参照。






表 7. 従属領域サービス・モジュールによって検出される条件 (続き):

機能コード	戻りコード	モジュールまたは ID	説明
X'0506'		DFSESPR0	外部サブシステム・プログラム要求ハンドラー
	X'04'		DFSESPR0 に渡されたローカル ESET が、定義された外部サブシステムと一致しない。(異常終了 3042)
	X'08'		DFSESPR0 に渡されるサインオン・トークンが、この領域の DFSEEVTP で渡されるサインオン・トークンと一致しない。(異常終了 3042)
	X'0C'		DFSESPR0 に渡されたローカル ESET が、制御領域に定義されていない。(異常終了 3042)
	X'10'		DFSEZS のアドレスが、DFSIWALE に設定されていない。(異常終了 3042)
	X'20'		ローカル ESET 接頭部が存在しない。この条件は、この IMS 領域が、Db2 [®] for z/OS などの外部サブシステムへのアクセスを持たない場合に発生する。(異常終了 3042)
	X'24'		ローカル ESET が DFSESPR0 に、利用不能なりソースをいくつか渡した。メッセージ DFS3620I を参照してください。(異常終了 3042)
	X'28'		セル・プールが利用不能である。(異常終了 3042)
	X'FF'		必要な外部サブシステム出口が準備されていない。メッセージ DFS3608I を参照してください。(異常終了 3049)
	X'nn'		メッセージ DFS3607I で参照されている外部サブシステム出口が、サポートされない戻りコードを返した。(異常終了 3049)
X'0507'		DFSVES00	外部サブシステム SVC ルーター
	X'04'		DFSVES00 に渡された SSOB に、EEVTP へのアドレスが含まれていない。
	X'08'		DFSDPDIR がローカル ESET のアドレスを含んでいないか、または SSOB で渡されたローカル ESET と一致しない。
	X'0C'		DFSLESE がローカル ESET 接頭部のアドレスを含んでいないか、または SSOB で渡されたローカル ESET 接頭部と一致しない。
	X'14'		DFSVES00 に渡されたローカル ESET 接頭部に、作業域 (DFSIWALE) のアドレスが含まれていない。

表 7. 従属領域サービス・モジュールによって検出される条件 (続き):

機能コード	戻りコード	モジュールまたは ID	説明
X'0508'		DFSEXM00	システム・サービス支援ルーチン (DFSEXM2)
	X'04'		DFSEEVТ に DFSLESE または DFSIWALE のアドレスが含まれていない。
	X'08'		メッセージまたはログのサービス要求の、ストレージ割り振りエラーが発生した。
	X'32'		パラメーター・リスト・エラー。 PST アドレスがゼロであるか、PSTSOTKN が正しくないか、または DFSEEVТ アドレスがゼロである。 メッセージ・サービス要求の場合、メッセージ標識が欠落しているか、MSG/KEY 呼び出しアドレスがゼロであるか、またはメッセージ長がゼロである。 ログ・サービス要求の場合、ログの長さがゼロである。
X'0509'		DFSEXM00	システム・サービス支援ルーチン (RCVXM2)
			ESS サービス・ルーチンで異常終了が発生した。ESS によって出された異常終了を解決する。ESS は、異常終了 3042 の時点での R7 を使用して特定できる。R7 は EEVP を指している。EEVP+X'C' は IWALE を指している。IWALE+X'14' は 8 バイトの ESS 名を指している。
	X'24'		ESS サービス・ルーチンが異常終了した。この異常終了は、z/OS コンソールまたは LOGREC 項目に示される必要がある。
	X'30'	ESS サービス・ルーチンが異常終了した。考えられる IMS の原因: DFSEEVТ に DFSLESE または DFSIWALE のアドレスが含まれていない。	

関連情報:

-  DFS3602I (メッセージおよびコード)
-  DFS3607I (メッセージおよびコード)
-  DFS3608I (メッセージおよびコード)
-  3042 (メッセージおよびコード)
-  3049 (メッセージおよびコード)

DFS0798I からのメモリの終了コード

メッセージ DFS00798I は、メッセージ終結 (EOM) イベントを検出します。

表 8. 従属領域サービス・モジュールによって検出されるメモリの終了条件

SSI 呼び出しタイプ	戻りコード	理由コード	トレース・ストリング	Module	注
EOM	0000	00000000	000000F134678CD0	DFSBACK00	トレース: - IDT が割り振られた (F) - DFSISI00 が IDT エントリーを検出した (1) - DFSISI00 が SSOB/SSMX を割り振った (3) - DFSBACK00 EOM セクションが入力された (4) - DFSBACK00 作業用ストレージが割り振られた (6) - DFSBACK00 作業用ストレージが初期設定された (7) - DFSBACK00 が ASK00 SSOB1 を構築した (DC、DBDC) (8) - DFSBACK00 が ASK00 TERM ID を呼び出した (C) - DFSBACK00 が VC200 KILLDEP を呼び出した (D) - DFSBACK00 EOM 処理が完了した (0) 結論: - EOM 処理が正常に完了した - RC=0 / RSN=0 / TRC = 0
EOM	0000	00000000	000000F234678CD0	DFSBACK00	トレース: - IDT が割り振られた (F) - DFSVCI00 が IDT エントリーを検出した (2) - DFSVCI00 が SSOB/SSMX を割り振った (3) - DFSBACK00 EOM セクションが入力された (4) - DFSBACK00 作業用ストレージが割り振られた (6) - DFSBACK00 作業用ストレージが初期設定された (7) - DFSBACK00 が ASK00 SSOB1 を構築した (DC、DBDC) (8) - DFSBACK00 が ASK00 TERM ID を呼び出した (C) - DFSBACK00 が VC200 KILLDEP を呼び出した (D) - DFSBACK00 EOM 処理が完了した (0) 結論: - EOM 処理が正常に完了した - RC=0 / RSN=0 / TRC = 0
EOM	0000	00000000	000000F134679CD0	DFSBACK00	トレース: - IDT が割り振られた (F) - DFSISI00 が IDT エントリーを検出した (1) - DFSISI00 が SSOB/SSMX を割り振った (3) - DFSBACK00 EOM セクションが入力された (4) - DFSBACK00 作業用ストレージが割り振られた (6) - DFSBACK00 作業用ストレージが初期設定された (7) - DFSBACK00 が ASK00 SSOB2 を構築した (DBCTL) (9) - DFSBACK00 が DASD0 TERM を呼び出した (ASK00 を使用) (C) - DFSBACK00 が VC200 KILLDEP を呼び出した (D) - DFSBACK00 EOM 処理が完了した (0) 結論: - EOM 処理が正常に完了した - RC=0 / RSN=0 / TRC = 0

表 8. 従属領域サービス・モジュールによって検出されるメモリの終了条件 (続き)

SSI 呼び出しタイプ	戻りコード	理由コード	トレース・ストリング	Module	注
EOM	0000	00000000	000000F234679CD0	DFSBACK00	<p>トレース:</p> <ul style="list-style-type: none"> - IDT が割り振られた (F) - DFSISI00 が IDT エントリーを検出した (1) - DFSISI00 が SSOB/SSMX を割り振った (3) - DFSBACK00 EOM セクションが入力された (4) - DFSBACK00 作業用ストレージが割り振られた (6) - DFSBACK00 作業用ストレージが初期設定された (7) - DFSBACK00 が ASK00 SSOB2 を構築した (DBCTL) (9) - DFSBACK00 が DASD0 TERM を呼び出した (ASK00 を使用) (C) - DFSBACK00 が VC200 KILLDEP を呼び出した (D) - DFSBACK00 EOM 処理が完了した (0) <p>結論:</p> <ul style="list-style-type: none"> - EOM 処理が正常に完了した - RC=0 / RSN=0 / TRC = 0
EOM	0000	00000000	00000000F23467E0	DFSBACK00	<p>トレース:</p> <ul style="list-style-type: none"> - IDT が割り振られた (F) - DFSVCI00 が IDT エントリーを検出した (1) - DFSVCI00 が SSOB/SSMX を割り振った (3) - DFSBACK00 EOM セクションが入力された (4) - DFSBACK00 作業用ストレージが割り振られた (6) - DFSBACK00 作業用ストレージが初期設定された (7) - DFSBACK00 が VC200 TERMDEP を呼び出した (E) - DFSBACK00 EOM 処理が完了した (0) <p>結論:</p> <ul style="list-style-type: none"> - EOM 処理が正常に完了した - RC=0 / RSN=0 / TRC = 0 - IDT スキャンに失敗した場合の特殊な DFSVCI00 TERMDEP 処理
EOM	0000	00000000	000000F13567ABD0	DFSBACK00	<p>トレース:</p> <ul style="list-style-type: none"> - IDT が割り振られた (F) - DFSISI00 が IDT エントリーを検出した (1) - DFSISI00 が SSOB/SSMX を割り振った (3) - DFSBACK00 ABB セクションが入力された (5) - DFSBACK00 作業用ストレージが割り振られた (6) - DFSBACK00 作業用ストレージが初期設定された (7) - DFSBACK00 がラッチ・リカバリー非同期作業エレメント (AWE) を獲得した (A) - DFSBACK00 がラッチ・リカバリー非同期作業エレメント (AWE) をエンキューした (B) - DFSBACK00 が VC200 KILLDEP を呼び出した (D) - DFSBACK00 EOM 処理が完了した (0) <p>結論:</p> <ul style="list-style-type: none"> - EOM 処理が正常に完了した - RC=0 / RSN=0 / TRC = 0

表 8. 従属領域サービス・モジュールによって検出されるメモリの終了条件 (続き)

SSI 呼び出しタイプ	戻りコード	理由コード	トレース・ストリング	Module	注
EOM	0004	00000101 00000102 00000103 00000104 00000105 00000106	000000000000F13	DFSISI00	<p>トレース:</p> <ul style="list-style-type: none"> - IDT が割り振られた (F) - DFSISI00 が IDT エントリーを検出した (1) - DFSISI00 が SSOB/SSMX を割り振った (3) <p>ステップ:</p> <ul style="list-style-type: none"> - DFSISI00 EOM で IDT が検出され、SSOB/SSMX ストレージが割り振られ、BCK00 が呼び出された <p>エラー:</p> <ul style="list-style-type: none"> - DFSBCK00 が入力されていない (次のステップ) <p>RC:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 4 = DFSISI00 がメッセージを発行した <p>RSN (xxxxyyyy):</p> <ul style="list-style-type: none"> - xxxx が使用されていない - yyyy は DFSVC200 からの戻りコード 0102 = VTENTRY が削除された - 詳しくは、DFSVC200 の資料を参照してください。 <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> - DFSISI00 は通常の EOM フローです。 - DFSISI00 は、メモリの終わり/アドレス・スペース SSI ブロードキャストの終わりごとに呼び出されます。終了するアドレス・スペースに IDT エントリーが検出されると、DFSVC200 を使用して DFSBCK00 に対する呼び出しが行われます。 - EOM ブロードキャストはマスター・アドレス・スペースで実行されるので、一部の IMS 機能は使用できません。 - クリーンアップの完了パスは次の通りです。 EOM SSI -> ISI00 -> VC200 -> BCK00 -> VC200 -> ASK00 (TRMID)
EOM	0004	00040008 00080008 000C0008 00100008 00140008	000000000000F134	DFSISI00	<p>トレース:</p> <ul style="list-style-type: none"> - IDT が割り振られた (F) - DFSISI00 が IDT エントリーを検出した (1) - DFSISI00 が SSOB/SSMX を割り振った (3) - DFSBCK00 EOM セクションが入力された (4) <p>ステップ:</p> <ul style="list-style-type: none"> - DFSISI00 EOM で、IDT が検出され、SSOB/SSMX ストレージが割り振られ、BCK00 が呼び出され、BCK00 が入力され、EOM 処理が開始された <p>エラー:</p> <ul style="list-style-type: none"> - DFSBCK00 GETMAIN が失敗した (次のステップ) <p>RC:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 4 = DFSISI00 がメッセージを発行した <p>RSN (xxxxyyyy):</p> <ul style="list-style-type: none"> - xxxx は GETMAIN からの戻りコード 0004 = プログラム・エラー (GETMAIN 情報を参照) - yyyy は DFSBCK00 からの戻りコード 0008 = DFSBCK00 EOM は失敗した <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> - いったん作業域ストレージが割り振られると、すべての DFS078 メッセージが DFSBCK00 によって出されます。

表 8. 従属領域サービス・モジュールによって検出されるメモリの終了条件 (続き)

SSI 呼び出しタイプ	戻りコード	理由コード	トレース・ストリング	Module	注
EOM	0004	0004000C 0008000C 000C000C 0010000C 0014000C	00000000000F135	DFSISI00	<p>トレース:</p> <ul style="list-style-type: none"> - IDT が割り振られた (F) - DFSISI00 が IDT エントリーを検出した (1) - DFSISI00 が SSOB/SSMX を割り振った (3) - DFSBCK00 ABB セクションが入力された (5) <p>ステップ:</p> <ul style="list-style-type: none"> - DFSISI00 EOM で、IDT が検出され、SSOB/SSMX ストレージが割り振られ、BCK00 が呼び出され、BCK00 が入力され、ABB 処理が開始された <p>エラー:</p> <ul style="list-style-type: none"> - DFSBCK00 GETMAIN が失敗した (次のステップ) <p>RC:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 4 = DFSISI00 がメッセージを発行した <p>RSN (xxxxyyyy):</p> <ul style="list-style-type: none"> - xxxx は GETMAIN からの戻りコード 0004 = プログラム・エラー (GETMAIN 情報を参照) - yyyy は DFSBCK00 からの戻りコード 000C = DFSBCK00 ABB が失敗した <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> - いったん作業域ストレージが割り振られると、すべての DFS078 メッセージが DFSBCK00 によって出されます。
EOM	0008	00001004 00001008	000000000F134670 000000000F234670	DFSBCK00	<p>トレース 1:</p> <ul style="list-style-type: none"> - IDT が割り振られた (F) - DFSISI00 が IDT エントリーを検出した (1) - DFSISI00 が SSOB/SSMX を割り振った (3) - DFSBCK00 EOM セクションが入力された (4) - DFSBCK00 作業用ストレージが割り振られた (6) - DFSBCK00 作業用ストレージが初期設定された (7) - DFSBCK00 EOM 処理が完了した (0) <p>トレース 2</p> <ul style="list-style-type: none"> - DFSVCI00 が IDT エントリーを検出した (2) - DFSVCI00 が SSOB/SSMX を割り振った (3) - 他のすべてのエントリーはトレース 1 と同じ <p>ステップ:</p> <ul style="list-style-type: none"> - DFSISI00/VCI00 で、IDT が検出され、SSOB/SSMX ストレージが割り振られ、BCK00 が呼び出され、BCK00 が入力され、EOM が開始され、BCK00 がストレージを割り振り、ストレージを初期設定した <p>エラー:</p> <ul style="list-style-type: none"> - DFSBCK00 IDT スキャンが失敗した (次のステップ) <p>RC:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 8 = DFSBCK00 がメッセージを発行した <p>RSN (xxxxyyyy):</p> <ul style="list-style-type: none"> - xxxx が使用されていない - yyyy は DFSBCK00 理由コード 1004 = IDT が SSMX と一致しない 1008 = IDT が見つからない。

表 8. 従属領域サービス・モジュールによって検出されるメモリの終了条件 (続き)

SSI 呼び出しタイプ	戻りコード	理由コード	トレース・ストリング	Module	注
EOM	0008	0000100C	00000000F134670 00000000F234670	DFSBACK00	<p>トレース 1:</p> <ul style="list-style-type: none"> - IDT が割り振られた (F) - DFSISI00 が IDT エントリーを検出した (1) - DFSISI00 が SSOB/SSMX を割り振った (3) - DFSBACK00 EOM セクションが入力された (4) - DFSBACK00 作業用ストレージが割り振られた (6) - DFSBACK00 作業用ストレージが初期設定された (7) - DFSBACK00 EOM 処理が完了した (0) <p>トレース 2</p> <ul style="list-style-type: none"> - DFSVCI00 が IDT エントリーを検出した (2) - DFSVCI00 が SSOB/SSMX を割り振った (3) - 他のすべてのエントリーはトレース 1 と同じステップ: - DFSISI00/VCI で IDT を検出し、SSOB/SSMX ストレージを割り振り、BCK00 を呼び出し、BCK00 が入力され、EOM が開始され、BCK00 がストレージを割り振り、ストレージを初期設定し、IDT をスキャンした <p>エラー:</p> <ul style="list-style-type: none"> - DFSBACK00 SSOB2 ビルドがスキップされた (次のステップ) RC: - 8 = DFSBACK00 がメッセージを発行した <p>RSN (xxxxyyyy):</p> <ul style="list-style-type: none"> - xxxx が使用されていない - yyyy は DFSBACK00 理由コード 100C = DBCTL Term ID が有効
EOM	0008	xxxxyyyy	0000000F134678C0 0000000F234678C0	DFSBACK00	<p>トレース 1:</p> <ul style="list-style-type: none"> - IDT が割り振られた (F) - DFSISI00 が IDT エントリーを検出した (1) - DFSISI00 が SSOB/SSMX を割り振った (3) - DFSBACK00 EOM セクションが入力された (4) - DFSBACK00 作業用ストレージが割り振られた (6) - DFSBACK00 作業用ストレージが初期設定された (7) - DFSBACK00 が ASK00 SSOB1 を構築した (DC、DBDC) (8) - DFSBACK00 が ASK00 TERM ID を呼び出した (C) - DFSBACK00 EOM 処理が完了した (0) <p>トレース 2</p> <ul style="list-style-type: none"> - DFSVCI00 が IDT エントリーを検出した (2) - DFSVCI00 が SSOB/SSMX を割り振った (3) - 他のすべてのエントリーはトレース 1 と同じステップ: - DFSISI00/VCI00 で IDT を検出し、SSOB/SSMX ストレージを割り振り、BCK00 を呼び出し、BCK00 が入力され、EOM が開始され、BCK00 がストレージを割り振り、ストレージを初期設定し、IDT をスキャンし、SSOB を作成し、ASK00 を呼び出した <p>エラー:</p> <ul style="list-style-type: none"> - DFSBACK00 ASK00 TERM ID 呼び出しが失敗した <p>RC:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 8 = DFSBACK00 がメッセージを発行した <p>RSN (xxxxyyyy):</p> <ul style="list-style-type: none"> - xxxx DFSASK00 異常終了コード (R0 I/o nib) - yyyy DFSASK00/DFSVC200 戻りコード (R15)

表 8. 従属領域サービス・モジュールによって検出されるメモリの終了条件 (続き)

SSI 呼び出しタイプ	戻りコード	理由コード	トレース・ストリング	Module	注
EOM	0008	xxxxyyyy	0000000F134679C0 0000000F234679C0	DFSBCK00	<p>トレース 1:</p> <ul style="list-style-type: none"> - IDT が割り振られた (F) - DFSISI00 が IDT エントリーを検出した (1) - DFSISI00 が SSOB/SSMX を割り振った (3) - DFSBCK00 EOM セクションが入力された (4) - DFSBCK00 作業用ストレージが割り振られた (6) - DFSBCK00 作業用ストレージが初期設定された (7) - DFSBCK00 が ASK00 SSOB2 を構築した (DBCTL) (9) - DFSBCK00 が DASD0 TERM を呼び出した (ASK00 を使用) (C) - DFSBCK00 EOM 処理が完了した (0) <p>トレース 2</p> <ul style="list-style-type: none"> - DFSVCI00 が IDT エントリーを検出した (2) - DFSVCI00 が SSOB/SSMX を割り振った (3) - 他のすべてのエントリーはトレース 1 と同じステップ: - DFSISI00/VCI00 で IDT を検出し、SSOB/SSMX ストレージを割り振り、BCK00 を呼び出し、BCK00 が入力され、EOM が開始され、BCK00 がストレージを割り振り、ストレージを初期設定し、IDT をスキャンし、SSOB を作成し、ASK00 を呼び出した <p>エラー:</p> <ul style="list-style-type: none"> - DFSBCK00 DASD0 TERM ID 呼び出しが失敗した <p>RC:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 8 = DFSBCK00 がメッセージを発行した <p>RSN (xxxxyyyy):</p> <ul style="list-style-type: none"> - xxxx DFSDASD0 異常終了 コード (R0 1/o nib) - yyyy DFSDASD0/DFSVCI00 戻り コード (R15)
EOM	000C	xxxxyyyy	00000000F134670	DFSVCI00	<p>トレース:</p> <ul style="list-style-type: none"> - IDT が割り振られた (F) - DFSISI00 が IDT エントリーを検出した (1) - DFSISI00 が SSOB/SSMX を割り振った (3) - DFSBCK00 ABB セクションが入力された (5) - DFSBCK00 作業用ストレージが割り振られた (6) - DFSBCK00 作業用ストレージが初期設定された (7) - DFSBCK00 EOM 処理が完了した (0) <p>ステップ:</p> <ul style="list-style-type: none"> - DFSISI00 で IDT を検出し、SSOB/SSMX ストレージを割り振り、BCK00 を呼び出し、BCK00 が入力され、ABB が開始され、BCK00 がストレージを割り振り、ストレージを初期設定した <p>エラー:</p> <ul style="list-style-type: none"> - DFSBCK00 Get AWE が失敗した (次のステップ) <p>RC:</p> <ul style="list-style-type: none"> - C = DFSBCK00 がメッセージを発行した <p>RSN (xxxxyyyy):</p> <ul style="list-style-type: none"> - xxxx が使用されていない - yyyy は DFSBCB 戻りコード


表 8. 従属領域サービス・モジュールによって検出されるメモリの終了条件 (続き)

SSI 呼び出しタイプ	戻りコード	理由コード	トレース・ストリング	Module	注
EOM	0014	00000101 00000102 00000103 00000104 00000105 00000106	000000000000F23	DFSVCI00	<p>トレース:</p> <ul style="list-style-type: none"> - IDT が割り振られた (F) - DFSVCI00 が IDT エントリーを検出した (1) - DFSVCI00 が SSOB/SSMX を割り振った (3) <p>ステップ:</p> <ul style="list-style-type: none"> - DFSVCI00 INIT SVC で IDT を検出し、SSOB/SSMX ストレージを割り振り、BCK00 を呼び出した <p>エラー:</p> <ul style="list-style-type: none"> - DFSBCK00 が入力されていない (次のステップ) <p>RC:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 14 = DFSVCI00 がメッセージを発行した <p>RSN (xxxxyyyy):</p> <ul style="list-style-type: none"> - xxxx が使用されていない - yyyy は DFSVC200 からの戻りコード 0102 = VTENTRY が削除された - DFSVC200 の情報を参照 <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> - DFSVCI00 は特殊な EOM フローです。 - クリーンアップの完了パスは次の通りです。Ctl rgn start -> VCI00 -> VC200 -> BCK00 -> VC200 -> ASK00 (TRMID)
EOM	0014	00040008 00080008 000C0008 00100008 00140008	000000000000F234	DFSVCI00	<p>トレース:</p> <ul style="list-style-type: none"> - IDT が割り振られた (F) - DFSVCI00 が IDT エントリーを検出した (1) - DFSVCI00 が SSOB/SSMX を割り振った (3) - DFSBCK00 EOM セクションが入力された (4) <p>ステップ:</p> <ul style="list-style-type: none"> - DFSVCI00 SVC で IDT を検出し、SSOB/SSMX ストレージを割り振り、BCK00 を呼び出し、BCK00 が入力され、EOM 処理が開始された <p>エラー:</p> <ul style="list-style-type: none"> - DFSBCK00 GETMAIN が失敗した (次のステップ) <p>RC:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 14 = DFSVCI00 がメッセージを発行した <p>RSN (xxxxyyyy):</p> <ul style="list-style-type: none"> - xxxx は GETMAIN からの戻りコード 0004 = プログラム・エラー (GETMAIN 情報を参照) - yyyy は DFSBCK00 からの戻りコード 0008 = DFSBCK00 EOM は失敗した <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> - いったん作業域ストレージが割り振られると、すべての DFS078 メッセージが DFSBCK00 によって出されます。

関連資料:

 z/OS: GETMAIN の戻りコードおよび理由コード

関連情報:

 DFS078 (メッセージおよびコード)

第 5 章 BPE コード

基本プリミティブ環境 (BPE) では、2 つのタイプのコード (異常終了コードとサービス戻りコード) を発行します。

BPE 異常終了コード

基本プリミティブ環境 (BPE) は、異常終了するときに異常終了コードを発行します。これらのコードは、ユーザー異常終了として表示されます。

PBE は、以下の異常終了コードを発行することができます。

3400

説明: 早期 BPE 初期設定中のエラーにより、BPE サービスの開始が妨げられました。終了時のレジスター 15 に、異常終了の理由を判別するのに使用できるサブコードが入っています。サブコードには以下のものがあります。

サブコード

説明

- X'01' BPEINIT0 が ESTAE リカバリー・ルーチンを設定できませんでした。
- X'02' BPE スタック・ストレージ・サービスの初期設定が失敗しました。
- X'03' 早期 BPE 初期設定のためのスタック・ブロックを取得する要求が失敗しました。
- X'04' 下位のサービスの初期設定モジュールをロードできませんでした。
- X'05' 下位のサービスの初期設定モジュールが、サービスの初期設定を完了できませんでした。
- X'06' z/OS 始動パラメーター内の BPECFG= パラメーターで指定された BPE 構成 PROCLIB メンバーの構文解析中にエラーが発生しました。
- X'07' BPE サービスを使用するIMS コンポーネント (例えば、CQS、OM、RM、または SCI) が、早期 BPE 初期設定中に問題を検出し、異常終了することを BPE に対して通知しました。
- X'08' IMS コンポーネントのアドレス・スペースのための z/OS 名またはトークンの作成中にエラーが発生しました。
- X'09' IMS コンポーネント (例えば、CQS、OM、RM、または SCI) によって使用される BPE バージョンと BPE モジュールのバージョンとの間にミスマッチが発生しました。
- X'0A' BPE SVC ルーチン (BPESVC00) をインストールできませんでした。

X'0B' BPE リソース・マネージャー (BPERSM00) を設定できませんでした。

X'0C' z/Architecture[®] モードで稼働していなかったマシンで BPE アドレス・スペースが開始されました。BPE には z/Architecture モードが必要です。

X'0D' 64 ビット仮想ストレージ・サービスをサポートしない z/OS リリースで、BPE アドレス・スペースが開始されました。BPE には 64 ビット・ストレージ・サービスが必要です。

X'0E' BPE アドレス・スペースが、サポートされないプロセッサ・タイプ上で開始されました。BPE には、System z10[®] プロセッサ (マシン・タイプ 2097) 以上が必要です。サポートされるプロセッサの詳しいリストについては、「IMS V15 リリース計画」を参照してください。

X'0F' BPE 初期設定モジュール BPEINIT0 が、キー 7 以外のキーで制御を受け取りました。BPE はキー 7 で実行する必要があります。アドレス・スペースのジョブまたは開始タスクの EXEC ステートメントの PGM= パラメーターで指定されたモジュールが、z/OS プログラム・プロパティ・テーブル (PPT) に追加されていること、エントリーがキー 7 を指定していること、および JOBLIB または STEPLIB 連結内のすべてのデータ・セットが APF 許可されていることを確認してください。

システムの処置: アドレス・スペースは異常終了します。

オペレーターの応答: 受け取ったサブコードに応じて、適切な処置を取ります。

サブコード X'01' から X'05' および X'07' から X'0B' の場合: 問題は次のいずれかです。

- IMS.SDFSRESL 内でのモジュール欠落、またはアドレス・スペースのストレージ不足などの環境エラー。
- BPE 内、または BPE を使用するコンポーネント内の内部エラー。

この異常終了の前に、エラーの理由をさらに説明するメッセージが出力されることがあります。このような説明的なメッセージについては、障害のあったジョブからのジョブ・ログ出力を参照してください。

問題についての環境上の原因を判別して訂正することができない場合、メモリー・ダンプおよび SYSLOG 情報を保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

サブコード **X'06'** の場合: この異常終了の原因が内部エラーまたは環境エラーである可能性もありますが、最も可能性が高い原因は、BPE 構成 PROCLIB メンバーに関する問題です。BPE がメンバーを検出または読み取りできない場合、問題を示すメッセージ BPE0002E に続いて、異常終了 3400 が発行されます。問題を訂正してから、IMS コンポーネントのアドレス・スペースを再始動します。


メンバーの構文解析エラーがある場合、エラーが発生したメンバー内の場所を示すメッセージ BPE0003E に続いて、この異常終了が発行されます。構成メンバーを訂正してから、IMS コンポーネントのアドレス・スペースを再始動します。

サブコード **X'09'** の場合: この異常終了は、STEPLIB データ・セットにある IMS コンポーネント・モジュール (例えば、CQS で始まる CQS モジュール、および BPE で始まる BPE モジュール) が異なるバージョンである場合に発生します。この異常終了は、異なったレベルの BPE モジュールを示すメッセージ BPE0013E に続いて発行されます。正しいレベルの BPE モジュールを実行しているかどうかを確認します。


ソース: BPE コード


モジュール: BPEINIT0


関連資料:

 プロセッサ要件 (リリース計画)

関連情報:

 BPE0002E (メッセージおよびコード)

 BPE0003E (メッセージおよびコード)

 BPE0013E (メッセージおよびコード)

3401

説明: IMS コンポーネントのアドレス・スペースで新規 z/OS ディスパッチ可能単位 (TCB または SRB) を初期設定中にエラーがあり、ディスパッチ可能単位 (DU) を開始できませんでした。

終了時のレジスター 15 に、異常終了の理由を判別するのに使用できるサブコードが入っています。サブコードには以下のものがあります。

サブコード

説明

- X'01'** BPESYIN0 が ESTAE リカバリー・ルーチンを設定できませんでした。
- X'02'** DU 初期設定用のスタック・ブロックを取得する要求が失敗しました。
- X'03'** BPE が新規 DU 用の BPE 内部ディスパッチャーを初期設定できませんでした。
- X'04'** 下位の DU 初期設定モジュールが、エラーまたは予期しない状態のために初期設定を完了できませんでした。
- X'05'** BPE が新規 DU の下で実行する内部サーバーを作成できませんでした。
- X'06'** BPE が下位の DU 初期設定モジュールをロードできなかったため、新規 DU 環境の初期設定を完了できませんでした。
- X'07'** BPE 自動 TCB 生成処理が BPE 管理対象 TCB を ATTACH (または BPE 管理対象 SRB をスケジュール) できませんでした。

システムの処置: 作成中の DU が必須の DU ではない場合、IMS コンポーネントのアドレス・スペースは機能し続けます。それ以外の場合、IMS コンポーネントのアドレス・スペースは異常終了します。

オペレーターの応答: 問題は次のいずれかです。

- BPE 内の内部エラー。
- IMS.SDFSRESL 内でのモジュール欠落、またはアドレス・スペースのストレージ不足などの環境エラー。

この異常終了の前に、エラーの理由をさらに説明するメッセージが出力されることがあります。このような説明的なメッセージについては、障害のあったジョブからのジョブ・ログ出力を参照してください。

問題についての環境上の原因を判別して訂正することができない場合、メモリー・ダンプおよび SYSLOG 情報を保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース: BPE コード

モジュール: BPESYIN0、BPESRIN0、BPESYAT0

3402

説明: IMS コンポーネントのアドレス・スペース内でタスク制御ブロック (TCB) の終了中にエラーが発生しました。終了時のレジスター 15 にはサブコードが含まれており、異常終了の理由の判別に使用することができます。サブコードには以下のものがあります。

サブコード

説明

- X'01'** 終了処理中の TCB のクリーンアップ処理に関連するルーチンで、クリーンアップの完了を妨げるエラーが発生しました。
- X'02'** IMS コンポーネントのアドレス・スペースのクリーンアップ処理に関連するルーチンで、クリーンアップの完了を妨げるエラーが発生しました。
- X'03'** BPE が、終了中の TCB の下のサブタスク TCB を終了させるために必要な処理を開始することができませんでした。

システムの処置: 終了中の TCB が必要な TCB でない場合、IMS コンポーネントのアドレス・スペースは機能し続けます。その TCB が必要な場合、または IMS コンポーネントのアドレス・スペースがシャットダウン処理中の場合は、IMS コンポーネントのアドレス・スペースは異常終了します。

オペレーターの応答: 問題は次のいずれかです。

- BPE 内の内部エラー。
- IMS.SDFSRESL 内のモジュール欠落、またはアドレス・スペースのストレージ不足などの環境エラー。

この異常終了の前に、エラーの理由をさらに説明するメッセージが出力されることがあります。このような説明的なメッセージについては、障害のあったジョブからのジョブ・ログ出力を参照してください。

問題についての環境上の原因を判別して訂正することができない場合、メモリー・ダンプおよび SYSLOG 情報を保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース: BPE コード

モジュール: BPESYTR0

3403

説明: BPE アドレス・スペース始動モジュール BPEINI00 がエラーを検出したため、BPE アドレス・スペースを始動できません。

異常終了 3403 は標準の異常終了コードであり、モジュール BPEINI00 が BPE サービスを使用して IMS コンポーネントのアドレス・スペースを始動しようとしたと

きに問題を検出すると、発行されます。異常終了時のレジスター 15 には、異常終了の理由を示すサブコードが入っています。レジスター 2 には、BPEINI00 に渡される z/OS パラメーターのアドレスが入っています。異常終了 3403 になる前に入るメッセージ BPE0037E に、問題がさらに詳しく記述されています。

レジスター 15 に入るサブコードは、以下のものです。

サブコード

説明

- X'01'** 開始されるアドレス・スペースが、APF 許可ではありません。BPE および IMS コンポーネントのモジュールはすべて、APF 許可データ・セット内になければなりません。また、モジュール BPEINI00 は、許可コード 1、つまり SETCODE AC(1) でバインドされている必要があります。
- X'02'** BPEINI00 に 7 以外のキーで制御が渡されました。BPE はキー 7 で実行する必要があります。BPEINI00 が z/OS PPT (プログラム・プロパティ・テーブル) に正しく追加されているかを確認してください。
- X'03'** BPEINI00 が、BPEINIT= キーワードを z/OS JCL 始動パラメーター (PARM=) 内で検出できなかったか、あるいは指定したモジュール名が欠落しているか無効です。BPEINIT= パラメーターは必須です。このパラメーターで BPE 始動パラメーター・モジュールの名前を BPEINI00 に定義し、それにより、始動する IMS コンポーネント・アドレス・スペースのタイプを定義します。
- X'04'** z/OS JCL 始動パラメーター (PARM=) の BPEINIT= キーワードで指定されたモジュールをロードできませんでした。
- X'05'** z/OS JCL 始動パラメーター (PARM=) の BPEINIT= キーワードで指定されたモジュールは、キー 0 のストレージにロードされました。この状態になる原因としては、モジュールが再入可能としてバインドされていることが考えられます。このモジュールは、再入不可としてバインドする必要があります。
- X'06'** BPEINI00 は、z/OS JCL 始動パラメーターの BPEINIT= キーワードで指定されたモジュール内で、有効な始動パラメーター・データ域 (UCDB ブロック) を検出できませんでした。
- X'07'** BPEINI00 は、z/OS 入力パラメーターのコピー用ストレージを獲得できませんでした。

システムの処置: アドレス・スペースは異常終了します。


オペレーターの応答: サブコードで示されたエラーの原因が環境条件である場合 (例えば、不適切な許可または

無効なパラメーターなど)、示された問題を訂正してから、アドレス・スペースを再始動します。そうでなければ、ジョブ・ログおよび SYSLOG 情報をすべて保管し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

ソース: BPE コード

モジュール: BPEINI00

関連情報:

 BPE0037E (メッセージおよびコード)

3404

説明: BPE スレッドのディスパッチング中に、重大エラーが発生しました。障害が起きたディスパッチ可能単位 (TCB または SRB) では、これ以上スレッドをディスパッチできません。異常終了時のレジスター 15 に、異常終了の理由を判別するのに使用できるサブコードが入っています。

サブコードには以下のものがあります。

サブコード

説明

X'01' SRB SUSPEND エラー。BPE は、BPE 管理の SRB を中断するために z/OS SUSPEND マクロを発行しました。SUSPEND マクロは、SUSPEND が処理できなかったことを示すエラー戻りコードを返しました。SRB は続行できません。レジスター 4 に、SUSPEND マクロからの戻りコードが含まれています。

X'02' SRB RESUME エラー。BPE は、BPE 管理の SRB を再開するために z/OS RESUME マクロを発行しました。RESUME マクロは、RESUME が処理できなかったことを示すエラー戻りコードを返しました。SRB は続行できません。レジスター 2 に、RESUME マクロからの戻りコードが含まれています。

システムの処置: 異常終了したディスパッチ可能単位 (TCB または SRB) が、アドレス・スペースが機能するために必要 (必須) ではない場合、IMS コンポーネント・アドレス・スペースは実行を継続します。ディスパッチ可能単位が必要な場合、IMS コンポーネントのアドレス・スペースは異常終了します。

オペレーターの応答: すべてのダンプ、ジョブ・ログ、およびコンソール・ログを保管して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース: BPE コード

モジュール:

BPEDSPX0、BPEDSWT0、BPESRNQ0、BPESRSU0

3405

説明: BPE は、異常終了コード 3405 を使用して、TCB 異常終了中に応答していない SRB を強制終了し、SRB の機能復旧ルーチン (FRR) が予期しない環境に入ったときに BPE ジョブ・ステップ TCB を強制終了します。詳しくはサブコードを参照してください。

サブコードには以下のものがあります。

サブコード

説明

X'01' アドレス・スペースの異常終了時に、BPE は BPE 管理の SRB をすべて終了しようと試みましたが、1 つ以上の SRB が終了しませんでした。BPE は、異常終了を続行する前に、それらの SRB を ABENDU3405 サブコード X'01' で異常終了します。この異常終了を受け取る SRB がループ内にあり、強制終了のための BPE からの元の要求に応答できない可能性があります。また別の可能性として、使用頻度の高いシステムにおいて、CPU リソースの制約のために、SRB が直ちに強制終了するようにディスパッチされなかったことが考えられます。その場合、ABENDU3405 サブコード X'01' の強制終了を 1 つ以上受信しても、実際の問題を示しているかどうかはわかりません。

X'02' BPE 管理 SRB 内の異常終了により、SRB の機能復旧ルーチン (FRR) に入りましたが、一方で CPU ロック (割り込みが無効) を保持されています。この状態は予期されていません。FRR は、限られたクリーンアップ処理のみ実行できません。BPE はメッセージ BPE0052E を発行し、次に BPE ジョブ・ステップ (JSTP) TCB を異常終了させるために、ABENDU3405 サブコード X'02' を指定して z/OS CALLRTM マクロを発行します。

システムの処置: サブコード X'01' の場合: SRB が ABENDU3405 で異常終了し、BPE アドレス・スペースの異常終了処理が続行します。異常終了の原因となった元の異常終了が ABEND222 (ダンプなしの z/OS CANCEL コマンド) であった場合、ABENDU3405 で異常終了する SRB はダンプを生成しません。それ以外の場合は、ABENDU3405 で異常終了する最初の SRB が、問題診断の際に役立つダンプを生成します。

サブコード X'02' の場合: CPU ロック保持の状態でも FRR に入った SRB は、BPE ジョブ・ステップ TCB を異常終了してから、終了します。SRB によってダンプは生成されません。ただし、SYS1.LOGREC にエラーが記録されます。BPE ジョブ・ステップ TCB は、ABENDU3405 を受け取るとアドレス・スペースのダンプを生成します。

オペレーターの応答: すべてのダンプ、ジョブ・ログ、コンソール・ログ、および SYS1.LOGREC を保管して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース: BPE コード

モジュール: BPESRPG0、BPESYFR0

4095

説明: リカバリー不能終了が発生し、そのアドレス・スペースを異常終了させる必要がある場合、BPE はアドレス・スペース内の TCB ごとにこの異常終了を 1 回発行します。

サブコードには以下のものがあります。

サブコード

説明

X'00' BPE TCB が異常終了し、タスク終了出口ルーチン (ETXR) に制御が渡されました。BPE は、異常終了を親 TCB まで伝搬するために、ETXR ルーチンで ABEND4095 サブコード X'00' を発行します。

X'01' BPE SRB が異常終了し、機能復旧ルーチン (FRR) に制御が渡されました。BPE は、SRB 異常終了の後はアドレス・スペースの実行を継続できないと判別した場合、BPE ジョブ・ステップ (JSTP) TCB を異常終了させるために、ABEND4095 サブコード X'01' を指定した z/OS CALLRTM マクロを発行します。

システムの処置: IMS コンポーネントのアドレス・スペースは異常終了します。

オペレーターの応答: BPE は、アドレス・スペースの TCB のいずれかがリカバリー不能異常終了になると、この異常終了を発行します。この異常終了は、残りの TCB を異常終了させるために使用され、これ自体は元の問題とは関係ありません。4095 以外のコードで異常終了した最初の TCB のジョブ・ログ出力を調べて、後続の 4095 異常終了の原因を判別します。

ソース: BPE コード

モジュール: BPESRFR0

BPE サービス戻りコード

基本プリミティブ環境 (BPE) では、戻りコードを発行できます。

これらの戻りコードには、以下のものが含まれます。

BPEATTCH コード

タスク制御ブロック (TCB) の接続で問題が検出されました。

戻りコード

説明

X'00000004'

BPEATTCH に渡された TCB 索引が、有効な索引ではありません。

X'00000008'

要求されたタイプの TCB タイプは BPE に定義されていません。

X'0000000C'

BPE TCB テーブル内に使用可能なエントリがないため、指定されたタイプの新規 TCB を生成できませんでした。このタイプの TCB の最大数がすでに生成されています。

X'00000010'

新規 TCB について z/OS ATTACH が失敗しました。

X'00000014'

呼び出し側は、生成されるように要求された TCB の親 TCB の下で実行中の非スレッドです。この環境は、BPEATTCH 呼び出しでは無効です。

X'00000020'

内部処理エラー: 要求された TCB タイプについて、TCB 生成処理プログラムに対する AWE のエンキューが失敗しました。

X'00000024'

内部処理エラー: 要求された TCB について、TCB 生成処理プログラムからの応答に対する BPEWAIT が失敗しました。

X'00000028'

内部処理エラー: 要求された TCB について、BPEATTCH によって呼び出されたルーチンが TCB 生成処理プログラムに対して AWE をエンキューしました。しかし、ルーチンが AWE に保管した DDB アドレスが無効であったため、生成処理プログラムは生成要求をリジェクトしました。

X'0000002C'

内部処理エラー: 要求された TCB について、BPEATTCH によって呼び出されたルーチンが TCB 生成処理プログラムに対して AWE をエンキューしました。しかし、AWE に無効な機能コードが含まれていたため、TCB 生成処理プログラムは AWE をリジェクトしました。

X'00000030'

内部処理エラー: BPEATTCH が新規 TCB 用の DQCB (ディスパッチャー・キュー制御ブロック) を取得できませんでした。DQCB のための BPECBGET 呼び出しは失敗しました。

X'00000034'

MODE=SRB または MODE=CONDSRB ディスパッチ可能単位の SRB をスケジュールするための IEAMSCHD 呼び出しが失敗しました。

X'00000038'

BPEATTCH は、新規 SRB 用のディスパッチャー作業域 (DWA) 制御ブロックを取得できませんでした。DWA ブロックを取得するための BPECBGET 呼び出しは失敗しました。

X'000000F8'

要求された機能が、実行時に BPE システム内に存在していません。これは、マクロとモジュール間の不一致が原因と考えられます。

X'000000FC'

マクロによって生成されたパラメーター・リストのバージョンが、呼び出されたサービス・ルーチンでサポートされていません。これは、マクロとモジュール間の不一致が原因と考えられます。

BPEAWSRV コード

BPE サービス BPEAWSRV は、問題を識別するためのコードを発行します。

戻りコード

説明

X'00000004'

AWE サーバーに対する CREATE 要求が、要求された AWE サーバーの少なくとも 1 つについては成功しましたが、すべてについてはありません。

X'00000008'

AWE サーバーのためのスレッドを作成できませんでした。スレッド CREATE サービス BPETHDCR が失敗しました。

X'0000000C'

作成中の AWE サーバーのための AQCB ブロックを取得できませんでした。

X'00000010'

AWE サーバー CREATE 要求のための TCBTKN パラメーターを渡した BPE TCB トークンが、有効なトークンではありません。

X'00000020'

作成ルーチンに渡された AQHE が、有効な AQHE ではありません。これは、おそらく内部処理エラーです。

X'00000024'

BPEAWSRV が、どの TCB の下でサーバーを作成すべきかを判別できませんでした。TCB は、このマクロの TCBTKN の値によって、またはキュー・サーバーが定義されるときに BPEAWDEF マクロの TCBTYPE の値によって決定されます。上記のどちらのパラメーターもコーディングされていないと、サーバー作成機能は、どの TCB の下でサーバー・スレッドを作成すべきかを認識できません。

X'00000028'

AWEIDX が指定された場合、渡された値が有効な AWE サーバー索引ではありません。TYPE が指定された場合、指定されたタイプが、AWE サーバー定義モジュールに対応した有効な AWE サーバー・タイプではありません。BPE AWE サーバーの場合、おそらく、マクロ BPEAWIX とモジュール BPEAQHT0 が同期していません。ユーザー・プロダクト AWE サーバーの場合、おそらく、ユーザー・プロダクト・タイプ定義マクロとモジュールが同期していません。

X'0000002C'

NUMTHDS パラメーターに無効な数のスレッドが指定されました。1 から 255 の数を指定する必要があります。

X'000000F8'

要求された機能が、実行時に BPE システム内に存在していません。これは、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

X'000000FC'

マクロによって生成されたパラメーター・リストのバージョンが、呼び出されたサービス・ルーチンでサポートされていません。これは、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

BPEBPCRE コード

バッファ・プールの作成時に問題が発生しました。

戻りコード

説明

X'00000004'

INCREMENT パラメーターで指定された値が、ゼロまたは負でした。

X'00000008'

MINBUF パラメーターで指定された値が、ゼロまたは負でした。

X'0000000C'

MAXBUF パラメーターで指定された値が、MINBUF 値より小さい値でした。

X'00000010'

PRIMARY パラメーターで指定された値が負でした。

- X'00000014'**
UPPERLIMIT パラメーターで指定された値が、PRIMARY 値または MAXIMUM 値より小さい値でした。
- X'00000018'**
SP で指定されたサブプールが無効か、またはサポートされていません。
- X'0000001C'**
FORMAT パラメーターで指定されたバッファーマットが、現行バージョンのバッファーマット作成サービスには有効でないフォーマットでした。
- X'00000020'**
4 文字のバッファーマット・タイプ・ストリングへのポインターが、ゼロであるか、あるいはストリングがすべて空白またはヌルでした。
- X'00000024'**
TYPE パラメーターで指定されたタイプのバッファーマット・プールが、すでに作成されています。既存のプールのトークンが、TOKEN パラメーターで指定された場所に戻されます。
- X'00000040'**
新しいバッファーマット・プール用の制御ブロックのストレージのための BPEGETM 呼び出しが失敗しました。
- X'00000044'**
バッファーマット・ストレージの 1 次割り振りのための BPEGETM 呼び出しが失敗しました。
- X'00000048'**
要求されたプール・フォーマットのための 1 つ以上の BPE バッファーマット・マネージャー・サービス・モジュールの BPELOAD が失敗しました。
- X'0000004C'**
バッファーマット・プールの作成/破壊ラッチを取得しようとして、BPELAGET 呼び出しが失敗しました。
- X'00000050'**
バッファーマット・プール作成処理で異常終了が発生しました。バッファーマット・プールは作成されませんでした。
- X'000000F8'**
要求された機能が、実行時に BPE システム内に存在していません。これは、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。
- X'000000FC'**
マクロによって生成されたパラメーター・リストのバージョンが、呼び出されたサービス・ルーチンでサポートされていません。これは、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

BPEBPGET コード

バッファーマット・プールからバッファーマットの取得時に問題が発生しました。

戻りコード

説明

X'00000004'
プールが上限に達しているため、バッファーマットを取得できませんでした。

X'00000008'
バッファーマット・ストレージに対する BPEGETM 呼び出しが失敗したため、バッファーマットを取得できませんでした。

X'00000020'

SIZE パラメーターで指定された値が、ゼロまたは負でした。

X'00000024'

PREFIX で指定された値が、0 から 256 の範囲ではありません。

X'00000028'

PREFIX パラメーターにゼロ以外の値が指定されたが、バッファ・プールは FORMAT=PREFIX を指定して作成されませんでした。

X'0000002C'

戻されたバッファ・アドレス (BUFFERPTR) を受け取るワードのアドレスが無効でした (ストレージの最初の 4 K の中にありました)。

X'00000030'

BPEBPGET に渡されたトークンが、いずれの BPE 管理のバッファ・プールにも無効なトークンでした。

X'00000034'

100 ページ分より大きい長さでページ固定バッファが要求されました。BPEBPGET では、ページ固定バッファが 100 ページ (409,600 バイト) 以下に制限されています。

X'000000F8'

要求された機能が、実行時に BPE システム内に存在していません。これは、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

X'000000FC'

マクロによって生成されたパラメーター・リストのバージョンが、呼び出されたサービス・ルーチンでサポートされていません。これは、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

BPECBGET コード

制御ブロックの取得に問題が発生しました。

戻りコード

説明

X'00000004'

誤った CBTE アドレスが CB 取得ルーチンに渡されました。取得ルーチンは、渡された CBTE アドレスにあるブロックの最初のワードとして文字ストリング CBTE があるかどうかを検証します。ない場合は、この戻りコードが呼び出し側に戻されます。これは、おそらくある種の内部システム・エラーです。

X'00000008'

ストレージの不足で要求を満たすことができませんでした。

X'000000F8'

要求された機能が、実行時に BPE システム内に存在していません。これは、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

X'000000FC'

マクロによって生成されたパラメーター・リストのバージョンが、呼び出されたサービス・ルーチンでサポートされていません。これは、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

BPECMSRV コード

処理のためのコマンドの実行依頼時に問題が発生しました。

戻りコード

説明

X'00000020'

コマンドが、コマンド・アクション・ルーチンによってリジェクトされ、処理されませんでした。

X'00000024'

コマンドが失敗しました。

X'00000028'

無効なコマンドです。

X'0000002C'

コマンド verb が欠落しています。

X'00000040'

コマンド・ポインターが無効です。 BPECMSRV に渡されたコマンドのアドレスがゼロでした。

X'00000044'

コマンドの長さが無効です。 BPECMSRV に渡されたコマンドの長さがゼロでした。

X'00000048'

BPEWPRNT 出口パラメーター・リストの長さが無効です。 BPECMSRV に渡された出口パラメーター・リストの長さが、ゼロまたは負でした。

X'0000004C'

BPECMSRV の呼び出し側が BPE スレッドとして実行していませんでした。

X'00000060'

BPE が、コマンドの処理に必要な作業用ストレージを取得できませんでした。

X'00000064'

BPE が、コマンドの処理のためのスレッドを作成できませんでした。

X'00000068'

コマンド処理スレッドを開始するための BPEPOST 呼び出しが失敗したため、BPE はコマンドを処理できませんでした。

X'0000006C'

コマンドを逐次化するラッチのための BPELAGET 呼び出しが失敗したため、BPE はコマンドを処理できませんでした。

X'00000070'

コマンドを処理したコマンド・アクション・モジュールが、未定義の戻りコードを BPE に戻しました。コマンド処理の結果は不明です。

X'000000F8'

要求された機能が、実行時に BPE システム内に存在していません。これは、おそらくマクロからモジュールへのミスマッチによるものです。

X'000000FC'

マクロによって生成されたパラメーター・リストのバージョンが、呼び出されたサービス・ルーチンでサポートされていません。これは、おそらくマクロからモジュールへのミスマッチによるものです。

BPEGETM コード

GETMAIN ストレージ・コマンドの発行時に問題が発生しました。

戻りコード

説明

X'00000004'

指定されたサブプールが無効であるか、またはサポートされていません。

X'00000008'

ゼロ (または、負) の長さが要求されました。

X'00000010'

要求された 31 ビット・ストレージを取得できません。呼び出し側は 31 ビット・ストレージを要求しましたが、24 ビット・ストレージのみが使用可能でした。

X'0000000C'

要求されたストレージを取得できません (MVS™ GETMAIN が失敗)。

X'000000F8'

要求された機能が、実行時に BPE システム内に存在していません。この問題は、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

X'000000FC'

マクロによって生成されたパラメーター・リストのバージョンが、呼び出されたサービス・ルーチンでサポートされていません。この問題は、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

BPELAGET コード

ラッチの取得時に問題が発生しました。

戻りコード

説明

X'00000004'

別の呼び出し側によって排他モードで所有されていたため、ラッチが取得されませんでした (WAIT=NO のみ)。

X'00000008'

1 つ以上の呼び出し側によって共用モードで所有されていたため、ラッチが取得されませんでした (WAIT=NO のみ)。

X'0000000C'

排他モードでラッチを待機するものがあったため、共用モードのラッチの要求が認められませんでした (WAIT=NO のみ)。

X'00000010'

ラッチが排他モードで正常に取得され、別のスレッドから現行スレッドに転送されました。

X'00000020'

呼び出し側がすでに排他モードでラッチを所有しているため、ラッチは取得されませんでした。

X'00000024'

ラッチ・サービス・モジュールが呼び出し側を WAIT (待機) することができないため、ラッチは取得されませんでした。この問題は、通常、呼び出し側の環境のエラーが原因です。呼び出し側が TCB モードでないか、または ECB がすでに WAIT 状態であるかのいずれかです。

X'00000028'

ラッチが、別のスレッドによって呼び出し側の ECB に転送されていたの

で、共用モードでのラッチに対する要求は認められませんでした。このため、要求は排他モードで行わなければなりません。

X'000000F8'

要求された機能が、実行時に BPE システム内に存在していません。この問題は、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

X'000000FC'

マクロによって生成されたパラメーター・リストのバージョンが、呼び出されたサービス・ルーチンでサポートされていません。この問題は、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

BPELAREL コード

制御ブロックの取得時に問題が発生しました。

戻りコード

説明

X'00000004'

呼び出し側によって排他モードで所有されていたため、ラッチが解放されませんでした。

X'00000008'

別の呼び出し側によって排他モードで所有されていたため、ラッチが解放されませんでした。

X'0000000C'

1 つ以上の他の呼び出し側によって共用モードで所有されていたため、ラッチが解放されませんでした。

X'00000010'

ラッチは所有されていないため、解放されませんでした。

X'00000014'

ラッチが転送される先のイベント制御ブロック (ECB) が共用モードでラッチの取得を待機していたため、ラッチは転送されませんでした。

X'00000018'

ラッチは解放されたが (MODE=EX)、プロトコル・エラーが発生した可能性があります。ラッチは、別の ECB から呼び出し側の ECB に転送されたが、呼び出し側はまったくラッチを受け入れませんでした。

X'000000F8'

要求された機能が、実行時に BPE システム内に存在していません。これは、おそらくマクロまたはモジュールのミスマッチによるものです。

X'000000FC'

マクロによって生成されたパラメーター・リストのバージョンが、呼び出されたサービス・ルーチンでサポートされていません。これは、おそらくマクロまたはモジュールのミスマッチによるものです。

BPELOAD コード

モジュールのロード時に問題が発生しました。

戻りコード

説明

X'00000004'

リスト形式のロードの場合 (MODLIST)、リスト内の少なくとも 1 つのモジュールにエラーがありました。

X'0000000C'

指定されたモジュールが見つかりませんでした。

X'00000010'

モジュールの BLDL が失敗しました。このエラーは、おそらく、ストレージ不足状態などの BLDL に関する内部エラーが原因です。

X'00000014'

モジュールのロードが失敗しました。モジュールはライブラリー内で見つかったが、LOAD がゼロ以外の戻りコードを戻しました。

X'00000018'

BPE SRB モードの呼び出し元が TCB=CURRENT を指定しました。SRB モードの呼び出し元は TCB=JSTP を指定する必要があります。

X'00000028'

TCB=JSTP の場合は LOAD 処理のために AWE を JSTP TCB にキューする必要があるが、AWE のエンキューが失敗しました。

X'00000030'

ロード処理中に内部障害がありました。

X'000000F8'

要求された機能が、実行時に BPE システム内に存在していません。この問題は、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

X'000000FC'

マクロによって生成されたパラメーター・リストのバージョンが、呼び出されたサービス・ルーチンでサポートされていません。この問題は、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

BPELOADC コード

モジュールのロード、呼び出し、または削除の試行時に問題が発生しました。

戻りコード

説明

X'00000004'

モジュールの LOAD および呼び出しは正常だったが、その後のモジュールの DELETE が失敗しました。モジュールがレジスター 15 に戻した戻りコードは、MODRC で指定したワードまたはレジスターにあります。

X'00000008'

EP または EPLOC で指定されたモジュールをロードできませんでした。MODRC で指定されたワードまたはレジスターの内容は未定義です。

X'000000F8'

要求された機能が、実行時に BPE システム内に存在していません。この問題は、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

X'000000FC'

マクロによって生成されたパラメーター・リストのバージョンが、呼び出されたサービス・ルーチンでサポートされていません。この問題は、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

BPEPARSE コード

データの構文解析時に問題が発生しました。

戻りコード

説明

X'00000004'

PADEF で渡された構文解析プログラム定義の文法が、無効な BPEPADEF 文法でした。

X'00000008'

CBSTG で渡された制御ブロックのストレージの大きさが不十分なため、構文解析される入力データを収容するために作成する必要がある制御ブロックを収容できませんでした。CBSTG ストレージの量をより大きく指定して、再度 BPEPARSE を発行します。CBSTG エリアにあるデータは不完全であるため、使用しないでください。

X'0000000C'

構文解析サービスに渡された CBSTG アドレスがゼロでした。

X'00000010'

構文解析サービスに渡された入力データ・アドレスがゼロでした。

X'00000014'

構文解析サービスで内部エラーが発生しました。

X'00000040'

入力データ内で、無効なキーワードが検出されました。

X'00000044'

入力データ内で、不明な定位置パラメーターが検出されました。

X'00000048'

キーワード・パラメーターが、1 つの等号のみを付けて指定されたが (KEYWORD=値)、キーワードは値のサブリストを持つように定義されました。サブリストは括弧内でのみ指定できます。等号を単独で (すなわち、括弧なしで) 使用できるのは、キーワードの値が単一値の場合だけです。

X'0000004C'

サブリストまたはキーワードのすべてが構文解析される前に、入力が終了しました。

X'00000050'

値が必要なときに、キーワード (KEYWORD または KEYWORD=) が検出されました。

X'00000054'

構文解析される入力数値が、出力フィールド長に許された範囲を超えました。10 進数の場合、1、2、3、および 4 バイト・フィールドに対して、255、65535、16777215、および 2147483647 以下の数でなければなりません。16 進数の場合、数値は出力フィールドのバイト数の 2 倍を超える桁数であってはなりません。

X'00000058'

10 進数として定義されたパラメーター値に、10 進数以外の数字が含まれていました。

X'0000005C'

16 進数として定義されたパラメーター値に、16 進数以外の数字が含まれていました。

X'00000060'

キー値パラメーターとして定義されたパラメーター値に、不明なキー値がありました。

X'00000064'

キーワード・パラメーターが複数回現れたが、繰り返し可能 (REPEAT=YES または BPEPADEF) と定義されていませんでした。

X'00000068'

BPEPADEF で REQUIRED=YES と定義されたパラメーターが、入力データ内で見つかりませんでした (省略された)。

X'0000006C'

文字パラメーター値が、定義された出力フィールド長より大きかったが、パラメーター定義では、BPEPADEF で、切り捨てを認めるための TRUNC=YES を指定していませんでした。

X'00000070'

ヌル値を指定してキーワードがコーディングされました。非ヌル値が必要です。

X'00000074'

入力データ内で、予期しない右括弧が検出されました。

X'00000078'

サブリスト内で構文解析プログラム・ディレクティブが検出されました。

X'0000007C'

構文解析プログラムで、無効な構文解析プログラム・ディレクティブが検出されました。

X'00000080'

構文解析プログラムで、無効な構文解析プログラム・ディレクティブ値が検出されました。

X'00000084'

構文解析プログラムは構文解析プログラム・ディレクティブを検出しましたが、keyword= パラメーターの値を予想しました。

X'000000F8'

要求された機能が、実行時に BPE システム内に存在していません。この問題は、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

X'000000FC'

マクロによって生成されたパラメーター・リストのバージョンが、呼び出されたサービス・ルーチンでサポートされていません。この問題は、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

X'00000088'

入力データ内の左括弧と一致する、予想された右括弧が検出されませんでした。

BPERDPDS コード

PDS メンバーの読み取り時に問題が発生しました。

戻りコード

説明

X'00000004'

PDS 読み取りルーチンに渡されたメンバー名のアドレスが 0 でした。

X'00000008'

PDS 読み取りルーチンに渡された出力バッファー・ポインターのアドレスが 0 でした。

X'0000000C'

PDS 読み取りルーチンに渡された出力バッファー長ワードのアドレスが 0 でした。

- X'00000010'**
RIGHTMAR パラメーターで指定された値が、負であるか、またはデータ・セットの実際の LRECL より小さくない値でした。
- X'00000014'**
PDS 読み取りルーチンに渡された DD 名のアドレスが 0 であり、PDS=NO がコーディングされていました。
- X'00000018'**
BPERDPDS が SRB モードで呼び出されました。SRB モードはサポートされていません。
- X'00000040'**
PDS の OPEN が失敗しました。
- X'00000044'**
指定された PDS が固定フォーマットではありません。
- X'00000048'**
MEMBER パラメーターで指定されたメンバーが、PDS 内にありません。
- X'0000004C'**
指定されたメンバーに対する BSAM READ が失敗しました。
- X'00000050'**
PDS データを保持するバッファのためのストレージを取得できませんでした。
- X'00000054'**
指定されたデータ・セットは、サポートされない RECFM (例えば、RECFM=U または RECFM=VBS) になっています。
- X'000000F8'**
要求された機能が、実行時に BPE システム内に存在していません。この問題は、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。
- X'000000FC'**
マクロによって生成されたパラメーター・リストのバージョンが、呼び出されたサービス・ルーチンでサポートされていません。この問題は、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

BPESTART コード

基本プリミティブ環境 (BPE) 限定機能サービスを開始しようとして、問題が発生しました。このサービスは、一部の IMS アドレス・スペースで使用される BPE のサブセットです。戻りコードを使用して問題を判別してください。

戻りコード

説明

- X'00000020'**
サービスは、BPE 限定機能サービス制御ブロック用のストレージを取得できませんでした。
- X'00000024'**
モジュール BPEZLFS0 に対する LOAD が失敗しました。
- X'00000028'**
モジュール BPEZLFS0 内の無効なベクトル・テーブルが検出されました。
- X'0000002C'**
サービスは、BPE 名前トークンを作成できませんでした。

X'00000030'

サービスは、SPEXIT パラメーターで指定された BPESPRNT 出口モジュールをロードできませんでした。

X'00000034'

サービスは、BPESPRNT 出口モジュール作業域用のストレージを取得できませんでした。

X'00000038'

WPEXIT パラメーターで指定された BPEWPRNT 出口モジュールをロードできませんでした。

X'0000003C'

サービスは、BPEWPRNT 出口モジュール作業域用のストレージを取得できませんでした。

X'00000040'

ハッシュ・テーブル・サービス・モジュール BPEZHT00 に対する LOAD が失敗しました。

X'00000044'

モジュール BPEZHT00 内の無効なベクトル・テーブルが検出されました。

BPESVC コード

基本プリミティブ環境監視プログラム呼び出し (BPE SVC) で問題が検出されました。

戻りコード

説明

X'00000004'

BPE SVC ルーチンが、内部作業域用のストレージを GETMAIN できませんでした。R0 = GETMAIN からの戻りコード。

X'00000008'

BPE SVC ルーチンが、MVS ESTAE マクロを使用してリカバリー環境を確立することができませんでした。R0 = ESTAE からの戻りコード。

X'0000000C'

BPE SVC ルーチンが、メイン制御ブロック (BPESVCA) を見つけることができませんでした。この問題はおそらく、BPE SVC ルーチンまたは他の BPE システム・サービスの初期設定のエラーが原因です。

X'00000010'

無効な SVC 機能コードがレジスター 0 で BPE SVC ルーチンに渡されました。R0 に、無効な機能コードが入っています。

X'00000014'

要求された BPE SVC 機能では、呼び出し側が許可されている (監視プログラム状態およびキー 0 から 7) 必要があるが、呼び出し側は許可されていませんでした。

X'00000018'

BPE SVC モジュール BPESVC00 で異常終了が発生しました。R0 に、異常終了コードが入っています。

X'0000001C'

名前付き機能の名前のアドレスがゼロでした (REGISTER、DEREGISTER、CALL)。

X'00000020'

BPE SVC モジュールが、リソース SYSZBPE SVCNFHTB で SYSTEM レベル ENQ を取得できませんでした。このリソースは、名前付き機能ハッシュ・テーブルを逐次化するのに必要です。R0 = ENQ マクロからの戻りコード。

X'00000024'

指定された名前付き機能を見つけることができませんでした (QUERY、REGISTER、DEREGISTER、CALL)。OTMA 呼び出し可能インターフェース (C/I) の SVC 初期設定ジョブ (DFSYSVIO) を実行済みであることを確認してください。このジョブは各 IPL の後に実行する必要があります。

X'00000028'

BPE SVC がインストールされていません。

X'00000040'

登録される名前付き機能に指定された PSW (プログラム状況ワード) キーが 0 から 7 の範囲にありませんでした。名前付き機能ルーチンは、システム・キーで実行しなければなりません (REGISTER)。

X'00000044'

BPE SVC ルーチンが、登録される機能に必要な SVC 機能ブロック (SVCF) のためのストレージを取得できませんでした。R0 = GETMAIN からの戻りコード (REGISTER)。

X'00000048'

登録される名前付き機能がすでに登録されており、REPLACE パラメーターは、それを置き換えることを許可していませんでした (REGISTER)。

X'00000060'

呼び出しが要求された名前付き機能は、呼び出し側が許可されている (監視プログラム状態およびキー 0 から 7) 必要があるが、呼び出し側は許可されていませんでした (CALL)。

X'00000064'

BPE SVC ルーチンが、呼び出し先の名前付き機能ルーチンのための作業域ストレージを取得できませんでした。R0 = GETMAIN からの戻りコード (CALL)。

X'00000080'

EOMCLEANUP 機能に渡された STOKEN アドレスがゼロでした (EOMCLEANUP)。

X'000000FC'

マクロによって生成されたパラメーター・リストのバージョンが、呼び出されたサービス・ルーチンでサポートされていません。この問題は、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

BPE SVCIO コード

BPE SVC モジュールの初期設定時に問題が発生しました。

戻りコード

説明

X'00000004'

BPE SVC を初期設定するための INIT ルーチン BPESVCIO をロードできませんでした。

X'00000008'
BPESVCIO 用の ESTAE のための ESTAE 作成が失敗しました。 R0 = ESTAE からの戻りコード。

X'0000000C'
BPE SVC モジュールの BLDL が失敗しました。 R0 = BLDL からの戻りコード。

X'00000010'
SVC モジュール用のストレージの GETMAIN が失敗しました。 R0 = GETMAIN からの戻りコード。

X'00000014'
SVC モジュールの LOAD が失敗しました。 R0 = LOAD からの戻りコード。

X'00000018'
リソース名 SYSZBPE SVCUPDTE に対する排他的 ENQ が失敗しました。 R0 = ENQ からの戻りコード。

X'0000001C'
SYSZSVC TABLE に対する排他的 ENQ が失敗しました。 R0 = ENQ からの戻りコード。

X'00000020'
MVS ECVTCTBL を見つけることができませんでした (CVT から CVTECVT を経由して ECVTCTBL = 0)。z/OS システムは、少なくとも、APAR OW13312 および OW13315 を適用した SP 4.2.0 でなければなりません。

X'00000024'
BPE グローバル機能ベクトル・テーブル (BPEGFVT) ブロックの GETMAIN が失敗しました。 R0 = GETMAIN からの戻りコード。

X'00000028'
SVC 制御域 (SVCA) ブロックの GETMAIN が失敗しました。 R0 = GETMAIN からの戻りコード。

X'0000002C'
BPE SVC の SVCUPDTE が失敗しました。 R0 = SVCUPDTE からの戻りコード。

X'00000040'
SVC の初期設定中に ABEND が発生しました。 R0 = 異常終了コード。

X'000000FC'
マクロによって生成されたパラメーター・リストのバージョンが、呼び出されたサービス・ルーチンでサポートされていません。この問題は、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

BPETCBSW コード

新しいタスク制御ブロック (TCB) への切り替え実行中に問題が発生しました。

戻りコード

説明

X'00000000'

スレッドが正常に切り替えられました。

X'00000004'

無効な TCB トークンが TCBTKN で渡されました。

- X'00000008'**
無効な TCB 索引が TCBIDX で渡されました。
- X'0000000C'**
無効な TCBT が渡されました。
- X'00000010'**
呼び出し側が、BPE スレッドの下で実行していません。
- X'00000014'**
TCBTKN (または TCBTKNPTR) によって指定された TCB が存在しません。
- X'00000018'**
複数の TCB について、TCBTYPE または TCBIDX のいずれかで非プール TCB タイプが指定されました。
- X'000000F8'**
要求された機能が、実行時に BPE システム内に存在していません。この状態は、おそらくマクロまたはモジュールのミスマッチによるものです。
- X'000000FC'**
マクロによって生成されたパラメーター・リストが、呼び出されたサービス・ルーチンでサポートされていません。この状態は、おそらくマクロまたはモジュールのミスマッチによるものです。

BPETHDCR コード

スレッドの作成時に問題が発生しました。

戻りコード

説明

- X'00000004'**
作成が失敗しました。無効な BPE TCB トークンが TCBTKN パラメーターで渡されました。
- X'00000008'**
作成が失敗しました。無効な TCB 索引値が TCBIDX パラメーターで渡されました。
- X'0000000C'**
作成が失敗しました。ルーチン・アドレスとしてゼロが ROUTINE パラメーターで渡されました。
- X'00000010'**
作成が失敗しました。無効な TCB テーブル項目アドレスがスレッド作成ルーチンに渡されました。BPETHDCR マクロは、TCBIDX、TCBTKN、または TCBTYPE パラメーターのいずれが指定されるかに基づいて、TCBT アドレスを決定します。このパラメーターが正しくコーディングされていることを確認してください。
- X'00000014'**
作成が失敗しました。スレッドのスレッド制御ブロック (THCB) 用のストレージを獲得できませんでした。
- X'00000018'**
作成が失敗しました。スレッド用のスタック・ストレージを取得できませんでした。
- X'0000001C'**
作成が失敗しました。スレッドの最初の POST が失敗しました。

X'00000020'

作成が失敗しました。要求されたスレッド・モジュールをロードできません。

X'000000F8'

要求された機能が、実行時に BPE システム内に存在していません。この問題は、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

X'000000FC'

マクロによって生成されたパラメーター・リストのバージョンが、呼び出されたサービス・ルーチンでサポートされていません。この問題は、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

BPETIMER コード

タイマー要求の発行時に問題が発生しました。

戻りコード

説明

X'00000004'

FUNC=TIMER 要求が取り消されました。

X'00000008'

タイマー・サービスがシャットダウンされているため、要求は取り消されました。

X'0000000C'

一致するトークンを持った未解決のタイマー要求が見つからないため、FUNC=CANCEL 要求は失敗しました。

X'00000010'

タイマー・サービスにエンキューされたタイマー AWE に、無効な機能コードが含まれていました。

X'00000014'

FUNC=TIMER 要求により、有効期限の値が TOD として指定されていることが示されました。現行バージョンのタイマー・サービスでは、TOD= がサポートされていません。

X'00000018'

DINTVL パラメーターに 10 進数でない桁が含まれていました。

X'00000020'

DINTVL パラメーターの分フィールドが 59 を超えていました。これは、0 から 59 の範囲でなければなりません。

X'00000024'

DINTVL パラメーターの秒フィールドが 59 を超えていました。これは、0 から 59 の範囲でなければなりません。

X'00000028'

要求に応じたタイマー・キュー・エレメント (TQUE)用のストレージを獲得できなかったため、FUNC=TIMER 要求を処理できませんでした。

X'0000002C'

BPETIMER 要求が失敗しました。MVS STIMERM サービスがゼロ以外の戻りコードを戻しました。

X'00000080'

タイマー要求を開始するために、制御ブロック・サービス (BPECBGET) か

ら AWE を取得することができませんでした。レジスター 0 に、BPECBGET からの戻りコードが入っています。タイマー要求は発行されませんでした。

X'00000084'

タイマー開始要求をエンキューできませんでした。タイマー・サーバーへの AWE エンキューが失敗しました。R0 に、BPEAWSRV FUNC=ENQ からの戻りコードが入っています。AWE の状態は不確定です。おそらく、AWE キュー上にあるが、処理されている場合があります。

X'000000F8'

要求された機能が、実行時に BPE システム内に存在していません。この問題は、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

X'000000FC'

マクロによって生成されたパラメーター・リストのバージョンが、呼び出されたサービス・ルーチンでサポートされていません。この問題は、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

BPETRSRV コード

トレース・サービスの要求時に問題が発生しました。

戻りコード

説明

X'00000004'

BPE に定義された要求タイプのトレース・テーブルがありません。

X'00000008'

入力トレース・トークンが無効であるか、または指定されたタイプのトレース・テーブル用ではありません。(FUNC=DELETE、GETUDATA、SETUDATA)

X'0000000C'

指定されたトレース・テーブルが、複数のトレース・テーブルをサポートするトレース・タイプとして定義されていませんでした。CREATE および DELETE 機能は、複数タイプとして定義されたトレース・タイプに対してのみ発行できます。詳しくは、BPETRDEF および BPETRIX を参照してください。(FUNC=CREATE および DELETE)

X'00000010'

USERDATA で渡されたユーザー・データ・アドレスが無効です (00001000 より小さい)。(FUNC=GETUDATA および SETUDATA)

X'00000014'

指定されたトレース・テーブルがユーザー・データをサポートしていません (トレース・テーブルの BPETRDEF 定義で、UDATALEN が指定されていないか、またはゼロが指定されました)。(FUNC=GETUDATA および SETUDATA)

X'00000030'

新しいトレース・テーブルのトレース・テーブル・ヘッダー項目に必要なストレージを取得できませんでした。(FUNC=CREATE)

X'00000034'

新しいトレース・テーブルに必要なストレージを取得できませんでした。(FUNC=CREATE)

X'000000F8'

要求された機能が、実行時に BPE システム内に存在していません。この問題は、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

X'000000FC'

マクロによって生成されたパラメーター・リストのバージョンが、呼び出されたサービス・ルーチンでサポートされていません。この問題は、おそらくマクロとモジュールとのミスマッチによるものです。

BPEUXRF0 コード

ユーザー出口のロード時に問題が発生しました。

戻りコード

説明

X'00000001'

BPE PROCLIB を読み取ることができませんでした (理由コード = BPERDPDS RC)

X'00000002'

ユーザー・プロダクト PROCLIB を読み取ることができませんでした (理由コード = BPERDPDS RC)

X'00000003'

BPE 構文解析データ域の BPEGETM が失敗しました (理由コード = BPEGETM RC)。

X'00000004'

BPE 構文解析データ域の BPEGETM が失敗しました (理由コード = BPEGETM RC)。

X'00000005'

BPE 出口リスト PROCLIB メンバーの BPEPARSE が失敗しました (理由コード = BPEPARSE RC)。

X'00000006'

ユーザー・プロダクト出口リスト PROCLIB メンバーの BPEPARSE が失敗しました (理由コード = BPEPARSE RC)。

X'00000010'

UIXB ブロックの BPECBGET が失敗しました (理由コード = BPECBGET RC)。

X'00000011'

グローバル・ユーザー出口ラッチ (UXRF_Lhdr) の BPELAGET が失敗しました (理由コード = BPELAGET RC)。

X'00000012'

リフレッシュ処理中の異常終了のため、ユーザー出口のリフレッシュが失敗しました (理由コード = 異常終了コード)。

X'00000013'

ユーザー出口モジュールの静的作業域の BPECBGET が失敗しました (理由コード = BPECBGET RC)。

X'00000014'

ユーザー出口モジュールのストレージの BPEGETM が失敗しました (理由コード = BPEGETM RC)。

X'00000015'

ユーザー出口モジュールの BLDL が失敗しました (理由コード = BLDL RC)。

X'00000016'

ユーザー出口モジュールの LOAD が失敗しました (理由コード = LOAD RC)。

第 6 章 CQS コード

Common Queue Server (CQS) は、さまざまなコードを発行することができます。

CQS 異常終了コード

共通キュー・サーバー (CQS) が異常終了すると、異常終了コードを発行します。これらのコードは、ユーザー異常終了として表示されます。

以下は、CQS が発行できる異常終了コードです。

0001

説明: CQS アドレス・スペースの初期設定中に障害が発生しました。

サブコード

説明

X'00000004'

CQS アドレス・スペース初期設定モジュール CQSINIT0 が、キー 7 での実行を許可されていませんでした。

システムの処置: CQS アドレス・スペース初期設定は、この異常終了コードで異常終了します。

システム・プログラマーの応答: 以下を確認します。

- モジュール名 CQSINIT0 がキー 7 で実行するように、プログラム特性テーブル (PPT) で定義されている。
- CQSINIT0 が AC(1) で SDFSRESL にリンクされている。

ソース: CQS コード

0010

説明: CQS の初期設定中に障害が発生しました。障害の原因については、異常終了サブコードを参照してください。この異常終了の前に発行されるメッセージ CQS0001E に、関連する戻りコードおよび障害関連情報が表示されます。

サブコード

説明

X'00000004'

CQS アンカー・ブロックのストレージ割り振りの障害。

X'00000008'

BPEPARSE 作業域のストレージ割り振りの障害。

X'0000000C'

CQS 構造ブロックのストレージ割り振りの障害。

X'00000010'

CQSLRRT のストレージ割り振りの障害。

X'00000030'

CQSIPxxx PROCLIB メンバーの読み取り時のエラー。

X'00000034'

CQSSLxxx PROCLIB メンバーの読み取り時のエラー。

X'00000038'

CQSSGxxx PROCLIB メンバーの読み取り時のエラー。

X'00000050'

CQS 実行パラメーターの構文解析時のエラー。エラー・メッセージ BPE0003E を参照して、構文解析エラーを判別してください。

X'00000054'

CQSIPxxx PROCLIB メンバーの構文解析時のエラー。エラー・メッセージ BPE0003E を参照して、構文解析エラーを判別してください。

X'00000058'

CQSSLxxx PROCLIB メンバーの構文解析時のエラー。エラー・メッセージ BPE0003E を参照して、構文解析エラーを判別してください。

X'0000005C'

CQSSGxxx PROCLIB メンバーの構文解析時のエラー。エラー・メッセージ BPE0003E を参照して、構文解析エラーを判別してください。

X'00000070'

構造パラメーターの妥当性検査時のエラー。各エラーごとに、CQS0001E エラー・メッセージが 1 つ発行されます。

X'00000080'

構造トレース・テーブルを作成できません。

0010

- X'00000084'**
モジュールのプリロードを実行できません。各ロード障害ごとに、CQS0001E エラー・メッセージが 1 つ発行されます。
- X'00000088'**
下位初期設定モジュールをロードし、呼び出すことができません。
- X'000000A0'**
PUT バッファ・プールを作成できません。
- X'000000A4'**
RETRIEVE バッファ・プールを作成できません。
- X'000000E0'**
z/OS システム間カップリング・ファシリティ (XCF) の通信を初期設定できません。
- X'000000E4'**
クライアントと CQS との間の通信が初期設定できません。
- X'00000100'**
ENF 35 出口を確立できません。
- X'00000104'**
ENF 38 出口を確立できません。
- X'00000108'**
ENF 48 出口を確立できません。
- X'00000204'**
TM 証明書が LM リポジトリから欠落しているか、または使用ベース価格設定を初期化できません。
- X'00000300'**
初期設定で無効な TCB タイプが検出されました。
- X'00000310'**
再始動親スレッド・ルーチン CQSIST00 をロードできません。
- X'00000314'**
再始動子スレッド・ルーチン CQSIST10 をロードできません。
- X'00000318'**
チェックポイント親スレッド CQSCHK0 をロードできません。
- X'0000031C'**
ENF スレッド・ルーチン CQSIENF0 をロードできません。
- X'00000320'**
オーバーフロー親スレッド CQSIOFL0 をロードできません。
- X'00000324'**
要求親スレッド・ルーチン CQSIRQS0 をロードできません。
- X'00000360'**
再始動親タスク (STRM) TCB の STRM スレッドを作成できません。
- X'00000364'**
再始動子タスク (STRD) TCB の STRD スレッドを作成できません。
- X'00000368'**
チェックポイント・タスク (CHKP) TCB の CHKP スレッドを作成できません。
- X'0000036C'**
ENF タスク (ENF) TCB の ENF スレッドを作成できません。
- X'00000370'**
オーバーフロー・タスク (OFLM) TCB の OFLM スレッドを作成できません。
- X'00000374'**
要求親タスク (RQST) TCB の RQST スレッドを作成できません。
- X'00000400'**
再始動子 (STRD) TCB を生成できません。
- X'00000404'**
ログ・タスク (LOG) TCB を生成できません。
- X'00000480'**
AWE キュー・サーバー XESE を作成できません。
- X'00000484'**
AWE キュー・サーバー XEST を作成できません。
- X'00000488'**
AWE キュー・サーバー LOG を作成できません。
- X'0000048C'**
AWE キュー・サーバー STRU を作成できません。
- X'00000490'**
AWE キュー・サーバー STE1 を作成できません。
- X'00000494'**
AWE キュー・サーバー STE2 を作成できません。
- X'00000498'**
AWE キュー・サーバー STE3 を作成できません。
- X'00000500'**
チェックポイント・ドーター (CHKD) TCB を生成できません。
- X'00000504'**
システム・チェックポイント書き込み (CSTW) TCB を生成できません。
- X'00000580'**
AWE キュー・サーバー CHKP を作成できません。
- X'00000584'**
AWE キュー・サーバー CSYS を作成できません。

X'00000588'
AWE キュー・サーバー CSTR を作成できません。

X'0000058C'
AWE キュー・サーバー CSTW を作成できません。

X'00000680'
AWE キュー・サーバー LENF を作成できません。

X'00000700'
オーバーフロー子 (OFLD) TCB を生成できません。

X'00000780'
オーバーフロー処理用のキュー・サーバー を作成できません。

X'00000800'
PUT 要求 (RQPT) TCB を生成できません。

X'00000804'
検索要求 (RQRT) TCB を生成できません。

X'00000808'
要求 (RQOT) TCB を生成できません。

X'00000880'
AWE キュー・サーバー CONN を作成できません。

X'00000884'
AWE キュー・サーバー QRY を作成できません。

X'00000888'
AWE キュー・サーバー BRWS を作成できません。

X'0000088C'
AWE キュー・サーバー DEL を作成できません。

X'00000890'
AWE キュー・サーバー INFM を作成できません。

X'00000894'
AWE キュー・サーバー MOVE を作成できません。

X'00000898'
AWE キュー・サーバー PUT を作成できません。

X'0000089C'
AWE キュー・サーバー READ を作成できません。

X'000008A0'
AWE キュー・サーバー RCVR を作成できません。


X'000008A4'
AWE キュー・サーバー RSYN を作成できません。


X'000008A8'
AWE キュー・サーバー UNLK を作成できません。

X'000008AC'
AWE キュー・サーバー UPD を作成できません。

ソース: CQS コード

関連情報:

 BPE0003E (メッセージおよびコード)

 CQS0001E (メッセージおよびコード)

0014

説明: 構造の初期設定および再始動中に、障害が発生しました。障害の原因については、異常終了サブコードを参照してください。この異常終了の前に発行されるメッセージ CQS0014E または CQS0001E に、関連する戻りコードおよび障害関連情報が表示されます。

サブコード

説明

X'00000004'
PUT ハッシュ・テーブルのストレージ割り振りの障害。

X'00000008'
読み取りハッシュ・テーブルのストレージ割り振りの障害。

X'0000000C'
ブラウズ・ハッシュ・テーブルのストレージ割り振りの障害。

X'00000010'
移動ハッシュ・テーブルのストレージ割り振りの障害。

X'00000014'
削除ハッシュ・テーブルのストレージ割り振りの障害。

X'00000018'
再作成ハッシュ・テーブルのストレージ割り振りの障害。

X'0000001C'
通知ハッシュ・テーブルのストレージ割り振りの障害。

X'00000020'
キュー・タイプ・テーブルのストレージ割り振りの障害。

X'00000024'
CQS ログ・ブロックのストレージ割り振りの障害。

X'00000028'
構造統計ブロックのストレージ割り振りの障害。

X'0000002C'

オーバーフロー・ハッシュ・テーブルのストレージ割り振りの障害。

X'00000080'

構造接続モジュール CQSIST20 をロードし、呼び出すことができません。

X'00000084'

CQSIST30 のロードまたは呼び出し中のエラー。

X'00000088'

CQSIST40 のロードまたは呼び出し中のエラー。

X'0000008C'

STRM スレッドに切り替えられません。

X'00000090'

STRD スレッドに切り替えられません。

X'000000A0'

z/OS システム・ログへの接続を初期設定できません。

エラーの原因が IXGCONN エラーである場合、レジスター 2 に、IXGCONN 要求からの戻りコードおよび理由コードが含まれていません。最初のハーフワードには戻りコードが入り、2 番目のハーフワードには理由コードが入ります。

IXGCONN からの戻りコードおよび理由コードのエラーに関する追加情報については、z/OS: IXGCONN マクロの戻りコードおよび理由コードを参照してください。

X'000000A4'

CQSBRWSE タイマー AWE のストレージ割り振りの障害。

X'000000A8'

CQSBRWSE タイマーを初期設定できません。

X'000000AC'

オーバーフロー・タイマー AWE のストレージ割り振りの障害。

X'000000B0'

オーバーフロー・タイマーを初期設定できません。

X'00000200'

次のいずれかの理由で、構造接続が失敗しました。

- IXLCONN 要求が失敗しました。
レジスター 6 に IXLCONN 要求からの戻りコード、レジスター 7 に理由コードが入ります。
- IXLCONN 要求は成功しましたが、構造属性が CQS で受け入れ可能ではありませんでした。
理由については、メッセージ CQS0014E を参照してください。 IXLCONN 要求は成功

したので、レジスター 6 およびレジスター 7 にはゼロが入っています。異常終了の前に、CQS は構造を切り離します。

X'00000204'

制御リスト・ヘッダーをロックできません。レジスター 6 に IXLLIST REQUEST=LOCK 要求からの戻りコード、レジスター 7 に理由コードが入ります。

X'00000220'

カップリング・ファシリティ接続 (IXLCONN) 処理中に、CQS が基本構造を割り振りました。カップリング・ファシリティは、CQS グローバル構造定義 PROCLIB メンバーの STRMIN= サイズで指定された最小割り振りサイズより小さい基本構造を割り振りました。この異常終了の前に、メッセージ CQS0014I が発行されます。

X'00000224'

CQSGLOBAL 制御リスト項目の作成または読み取りができません。レジスター 6 に IXLLIST REQUEST=WRITE または READ 要求からの戻りコード、レジスター 7 に理由コードが入ります。

X'00000228'

CQSIPxxx PROCLIB メンバーまたは CQSSGxxx PROCLIB メンバー内の CQS 実行パラメーターとして指定された 1 つ以上のグローバル構造パラメーターが、構造を割り振った CQS によって構造内で定義された値と一致しませんでした。

X'0000022C'

CQSLOCAL 制御リスト項目の作成または読み取りができません。レジスター 6 に IXLLIST REQUEST=WRITE または READ 要求からの戻りコード、レジスター 7 に理由コードが入ります。

X'00000234'

CQSSTRCHKPTINPRG 制御リスト項目の読み取りができません。レジスター 6 に IXLLIST REQUEST=READ 要求からの戻りコード、レジスター 7 に理由コードが入ります。

X'00000238'

CQSRECOVER 制御リスト項目の読み取りができません。レジスター 6 に IXLLIST REQUEST=READ 要求からの戻りコード、レジスター 7 に理由コードが入ります。

X'00000244'

CQSLOGFULL 制御リスト項目の読み取りまたは削除ができません。レジスター 6 に IXLLIST 要求からの戻りコード、レジスター 7

- に理由コードが入ります。メッセージ CQS0014E が発行されて、追加エラー情報が提供されます。
- X'00000260'**
制御リスト・ヘッダーをアンロックできません。レジスター 6 に IXLLIST REQUEST=UNLOCK 要求からの戻りコード、レジスター 7 に理由コードが入ります。
- X'00000264'**
オーバーフロー・キュー名テーブルのストレージ割り振りが失敗しました。
- X'00000268'**
カップリング・ファシリティのレベルが下位レベルです。
- X'0000026C'**
CQSGLOBALCONN 制御リスト項目の作成または読み取りができません。
- X'00000270'**
IXLLIST REQUEST=MONITOR_EVENTQ が失敗しました。
- X'00000274'**
構造静止ラッチを取得できません。
- X'00000278'**
構造静止ラッチを解放できません。
- X'00000300'**
CQSLOCAL データ入力バッファのストレージ割り振りの障害。
- X'00000304'**
チェックポイント・データ・セット制御レコード・バッファのストレージ割り振りの障害。
- X'00000308'**
構造リカバリー・データ・セット制御レコード・バッファのストレージ割り振りの障害。
- X'00000330'**
チェックポイント・データ・セットのデータ・セット割り振りの障害。
- X'00000334'**
チェックポイント・データ・セットをオープンできません。
- X'00000338'**
チェックポイント・データ・セットから読み取れません。
- X'0000033C'**
チェックポイント・データ・セットへ書き込めません。
- X'00000340'**
チェックポイント・データ・セットをクローズできません。
- X'00000344'**
チェックポイント・データ・セットの割り振りを解除できません。
- X'00000348'**
無効なチェックポイント・データ・セット。このエラーに対して発行されるメッセージ CQS0015E を参照してください。
- X'00000360'**
構造リカバリー・データ・セット (SRDS) のデータ・セット割り振りの障害。構造チェックポイント (CQS0220I) または構造リカバリー (CQS0240I) が進行中の場合、このエラーは、タイミングに関連している可能性があります。構造チェックポイントおよび構造リカバリーは、SRDS を割り振ります。SRDS は、構造プロセスが完了するまで割り振られたままです。この間に、別の CQS が初期設定しようとする、SRDS がすでに割り振られていることを検出します。CQS 初期設定は待機してから、割り振りを再試行します。何度か試行した後でそのデータ・セットがまだ割り振られたままであると、初期設定は異常終了します。この場合は、CQS アドレス・スペースを再始動してください。
- X'00000364'**
構造リカバリー・データ・セットをオープンできません。
- X'00000368'**
構造リカバリー・データ・セットを読み取れません。
- X'0000036C'**
構造リカバリー・データ・セットを書き込めません。
- X'00000370'**
構造リカバリー・データ・セットをクローズできません。
- X'00000374'**
構造リカバリー・データ・セットの割り振りを解除できません。
- X'00000390'**
基本構造をリカバリーできません。再作成の障害理由については、メッセージ CQS0242E を参照してください。
- X'00000394'**
オーバーフロー構造をリカバリーできません。再作成の障害理由については、メッセージ CQS0242E を参照してください。
- X'000003A0'**
オーバーフローの初期設定が失敗しました。メッセージ CQS0001E が発行されて、追加エラー情報が提供されます。
- X'000003A8'**
基本構造からオーバーフロー構造にキューを移動できません。メッセージ CQS001E が発行されて、追加エラー情報が提供されます。

X'000003B0'

構造のコード・スタート処理中に、ログ・ストリームを削除できません。

X'000003B4'

構造のコード・スタート処理中に、ログ・ストリーム内の初期ログ・レコードを書き込めません。

ソース: CQS コード

関連資料:

➡ z/OS: IXGCONN マクロの戻りコードおよび理由コード

関連情報:

➡ CQS0001E (メッセージおよびコード)

➡ CQS0014E (メッセージおよびコード)

➡ CQS0242E (メッセージおよびコード)

0018

説明: CQS 再始動処理中にエラーが発生しました。メッセージ CQS0018E が発行され、エラーのあった構造が示されます。エラーによっては、メッセージ CQS0001E も発行され、追加情報が提供されます。異常終了 0018 サブコードには以下のものがあります。

サブコード

意味

X'00000004'

BPELAGET の障害。

X'00000008'

BPECBGET AWE の障害。

X'0000000C'

BPEAWSRV エンキューの障害。

X'00000010'

BPELOAD の障害。

X'00000014'

BPETHDCR の障害。

X'00000040'

再始動フェーズ 1 中のエラー。レジスター 2 に、エラーを検出した処理からの追加エラー情報が含まれています。

X'00000044'

再始動の「フェーズ 1 完了」時のエラー。レジスター 2 に、READ または MOVE 処理からの追加エラー情報が含まれています。

X'00000048'

再始動の「フェーズ 1 打ち切り」時のエラー。レジスター 2 に、PUT、READ、MOVE、または DELETE 処理からの追加エラー情報が含まれています。

X'00000060'

再始動フェーズ 2 中のエラー。レジスター 2 から 5 に、追加エラー情報が含まれています。

- R2 に、PUT 処理からの戻りコードが入っています。
- R3 に、READ 処理からの戻りコードが入っています。
- R4 に、MOVE 処理からの戻りコードが入っています。
- R5 に、DELETE 処理からの戻りコードが入っています。

エラーが発生した処理のみが、ゼロ以外の値を戻します。正常に完了した処理は、ゼロ値を戻します。

X'00000080'

コード・スタート中のエラー。レジスター 2 から 5 に、追加エラー情報が含まれています。

- R2 に、PUT 処理からの戻りコードが入っています。
- R3 に、READ 処理からの戻りコードが入っています。
- R4 に、MOVE 処理からの戻りコードが入っています。
- R5 に、DELETE 処理からの戻りコードが入っています。

エラーが発生した処理のみが、ゼロ以外の値を戻します。正常に完了した処理は、ゼロ値を戻します。

システムの処置: CQS は異常終了します。

システム・プログラマーの応答: 障害の理由を判別し、問題を訂正してから、CQS を再始動します。異常終了サブコード X'00000040' から X'00000080' に関する追加情報は、CQS 再始動および再作成の理由コードにあります。問題を解決できない場合は、SYSLOG およびダンプを保管してから、IBM ソフトウェア・サポートに連絡して支援を受けてください。

ソース: CQS コード

0020

説明: オペレーターが最新のシステム・チェックポイントからログ・トークンを入力できるように、CQS が CQS0031A または CQS0032A メッセージを発行しました。オペレーターは、CANCEL を入力して、CQS 再始動処理を終了させました。

サブコード

説明

X'00000004'

オペレーターが、メッセージ CQS0031A に対して CANCEL を応答しました。

X'00000008'




オペレーターが、メッセージ CQS0032A に対して CANCEL を応答しました。

X'0000000C'

オペレーターが、メッセージ CQS0034A に対して CANCEL を応答しました。

ソース: CQS コード

関連情報:

-  CQS0031A (メッセージおよびコード)
-  CQS0032A (メッセージおよびコード)
-  CQS0034A (メッセージおよびコード)

0100

説明: z/OS システム間拡張サービス (XES) の出口処理中に障害が発生しました。サブコードにより、エラーの理由が示されます。

サブコード

説明

X'00000004'

CQS が、構造を静止するために IXLUSYNC 要求を開始しました。ラッチを取得しようとしているときにエラーが発生したため、構造を静止できませんでした。

X'00000008'

BPEBPGET エラーが発生しました。

X'0000000C'

BPECBGET エラーが発生しました。

X'00000010'

BPEAWSRV エンキュー・エラーが発生しました。

X'00000014'

BPEAWSRV CREATE エラーが発生しました。

X'00000018'

制御項目の読み取りエラーが発生しました。

X'0000001C'

QNAME テーブル更新エラーが発生しました。

システムの処置: CQS は異常終了します。

システム・プログラマーの応答: CQS を再始動します。

ソース: CQS コード

0104

説明: CQS ログ処理中に障害が発生しました。障害の原因については、異常終了サブコードを参照してください。

サブコード

説明

X'00000004'

CQS ログ処理が、z/OS システム・ロガーから、z/OS がログ・ストリームを処理できなかったことを示す戻りコードおよび理由コードを受け取りました。CQS は ENF 48 信号を待たなければなりません。ENF 48 が受け取られたとき、CQS が z/OS ログ・ストリームに再接続しなければならないことを示していました。ログ・ストリームへの接続が失敗しました。

レジスター 2 に IXGCONN 要求からの戻りコードおよび理由コードが含まれています。最初のハーフワードには戻りコードが入り、2 番目のハーフワードには理由コードが入ります。レジスター 3 に、CQS ログ接続サービスからの戻りコードが入っています。

X'00000008'

構造リカバリー処理中に、CQS ログ・レコード・ルーターでエラーが発生しました。リカバリー処理は継続できませんでした。ユーザーは CQS の異常終了を選択しました。


システムの処置: CQS は異常終了します。

システム・プログラマーの応答: サブコード X'00000004' の場合: IXGCONN 障害の理由を判別し、問題を訂正してから、CQS を再始動します。

サブコード X'00000008' の場合: ログ・ストリームを削除し、SRDS を初期設定して CQS をコールド・スタートさせます。

ソース: CQS コード

関連タスク:

-  CQS 構造のコールド・スタート (オペレーションおよびオートメーション)

0372

説明: 元の構造の障害後に、リカバリー不能な CQS キュー構造を初期設定しようとして、エラーが発生しました。CQS は、新しいリカバリー不能な構造の使用を許可するために、構造のコールド・スタート処理を完了できません。

CQS は、リカバリー不能な構造で障害が起きると、新

しい構造を割り振り、それを空の CQS キュー構造に初期設定しようとしています。リカバリー不能な構造で障害が起きると、すべてのメッセージが失われます。新しい構造のこの初期設定を実行しようとしてエラーが発生すると、異常終了コード 0372 が発行されます。

システムの処置: CQS は異常終了します。

システム・プログラマーの応答: 障害のあった構造または新しく再作成する構造がまだ割り振られている場合は、それを手動で削除します。CQS を再始動して、CQS の初期設定によるコールド・スタートを許可します。構造を削除するには、その構造を使用するすべての CQS が停止していることを最初に確認します。次に、以下の z/OS コマンドを使用して、構造を削除します。

```
SETXCF FORCE,STR,STRNAME=structurename
```

ソース: CQS コード

0373

説明: リカバリー不能キュー構造の障害、またはリカバリー不能キュー構造への接続の喪失の後、共通キュー・サーバー (CQS) が異常終了しました。この異常終了は、次のいずれかの理由で出されます。

- CQS が、再作成マスターではない CQS によって発行されたリカバリー不能キュー構造をコールド・スタートした。
- CQS が構造に接続し、再作成が進行中であることを検出した。
- CQS が構造のコールド・スタート後に構造に接続し、構造の論理インスタンス・バージョン番号が前回 CQS がその構造に接続したときから変更されていることを検出した。

リカバリー可能な構造で障害が起きた場合、CQS は、構造リカバリー・データ・セット (SRDS) および z/OS ログ・ストリームからその構造のリカバリーを試みません。CQS は、新しい構造を割り振って、SRDS およびログからその新しい構造にデータ・オブジェクトを配置します。リカバリー不能な構造 (CQSSGxxx PROCLIB メンバーに RECOVERABLE=NO が定義されている構造) には、そこからリカバリーするログ・ストリームはありません。代わりに、CQS は新しい構造を割り振り、それをコールド・スタートします。つまり、それを空の CQS 構造として初期設定します。

障害のあった構造のクリーンアップとそのコールド・スタート後に、CQS は、続いて CQS 異常終了 0373 で異常終了します。これが必要なのは、次の理由によります。つまり、CQS は、CQS の再始動後のクライアント再接続処理中に起きる、CQS の再同期処理をアクティ

ブ・クライアントが経るまで、アクティブ・クライアントに新しい空の構造の使用を許可できないからです。

この異常終了はダンプが要求されずに発行されます。したがって、構造の障害またはコールド・スタート後にすべての CQS が同時に異常終了したときに、複数のダンプ要求が原因で起こるシステムの中断が最小限に抑えられます。

分析: サブコードには、次の意味があります。

サブコード

説明

X'00000004'

CQS が、障害が発生したりリカバリー不能キュー構造をコールド・スタートした再作成処理を完了しました。この CQS は再作成プロセスに関与していますが、再作成マスターではありませんでした。

X'00000008'

CQS が理由コード

IXLRNSCODESPECIALCONN (RC=04, RSN=0407) を受け取りました。この理由コードは、前に障害が発生したりリカバリー不能キュー構造に CQS が接続したときに、再作成が進行中であったことを示します。CQS は異常終了し、再始動時にそのクライアントとの再同期が強制的に行われます。この CQS は進行中の再作成には関与しません。

X'0000000C'

CQS が理由コード

IXLRNSCODESPECIALCONN (RC=04, RSN=0407) を受け取りました。この理由コードは、前に CQS が接続を失ったりリカバリー不能キュー構造に CQS が接続したときに、再作成が進行中であったことを示します。CQS は異常終了し、再始動時にそのクライアントとの再同期が強制的に行われます。この CQS は進行中の再作成には関与しません。

X'00000010'

CQS がリカバリー不能キュー構造に接続された後、切断されました。CQS は、その構造に再接続されると、コールド・スタートなどが行われた結果、その構造の論理インスタンス・バージョン番号が新しくなっているか確認します。CQS は異常終了し、再始動時にそのクライアントとの再同期が強制的に行われます。

システムの処置: CQS は異常終了します。

システム・プログラマーの応答: CQS を再始動します。CQS は、そのクライアントが再接続するとき、新しい空の構造に接続して再同期処理を実行します。障害が起きた元の構造上にあったメッセージは、その構造が

リカバリー不能と定義されていたためすべてが失われます。

ソース: CQS コード

0374

説明: 元のリカバリー不能キュー構造に障害が発生した後、その構造のコールド・スタートに続いて共通キュー・サーバー (CQS) が異常終了しました。この CQS 異常終了を発行した CQS がコールド・スタートの再作成マスターでした。

リカバリー可能な構造で障害が起きた場合、CQS は、構造リカバリー・データ・セット (SRDS) および z/OS ログ・ストリームからその構造のリカバリーを試みません。CQS は、新しい構造を割り振って、SRDS およびログからその新しい構造にデータ・オブジェクトを配置します。しかし、リカバリー不能構造 (IMS PROCLIB データ・セットの CQSSGxxx メンバーに RECOVERABLE=NO が指定された構造) の場合は、リカバリー元となるログ・ストリームがありません。代わりに、CQS は新しい構造を割り振り、それを空の CQS 構造としてコールド・スタートします。

障害のある構造がクリーンアップされ、コールド・スタートされると、再作成マスターである CQS はこの異常終了コードとともに異常終了します。CQS 再始動後のクライアント再接続中に行われる CQS の再同期処理を

アクティブ・クライアントが完了するまで、CQS はアクティブ・クライアントに新しい空の構造の使用を許可できないため、この処理が必要になります。

再作成マスターである CQS のみがこの CQS 異常終了を発行できます。再作成マスターでないその他の CQS は、CQS 異常終了 0373 を発行します。0374 は、診断用のダンプの要求を含めて発行されます。0373 異常終了コードはダンプが要求されずに発行されます。

分析:

サブコード

説明

X'00000004'

再作成マスターである CQS が、障害が発生したりリカバリー不能キュー構造をコールド・スタートした再作成処理を完了しました。

システムの処置: CQS は異常終了します。

システム・プログラマーの応答: CQS を再始動します。CQS は新しい空の構造に接続し、クライアントがその構造に再接続すると、クライアントとの再同期を行います。障害が起きた元の構造上にあったメッセージは、その構造がリカバリー不能と定義されていたためすべてが失われます。

ソース: CQS コード。

CQS 再始動および再作成の理由コード

構造の再作成または共通キュー・サーバーに障害が起きると、CQS はメッセージと異常終了コードを発行します。再始動または再作成時には、CQS は理由コードも発行します。

これらの CQS 再始動および再作成の理由コードは、CQS メッセージおよび CQS 異常終了コードに関連付けられています。83 ページの表 9 は、1 つ以上の CQS メッセージまたは異常終了に共通な追加の診断情報を提供します。

再作成エラーに関する一般的な指針: 再作成の失敗が起こった場合は、次の一般ステップに従って対処してください。

- オペレーターが開始した構造のコピーが失敗した場合は、構造へのアクセスを復元するための処置は必要ありません。構造は依然として有効であり、アクセス可能です。構造のコピーが失敗した理由を分析して、以降の再作成失敗を防ぐための処置が必要かどうか判断してください。
- リンク障害のために構造再作成が開始され、その構造再作成が失敗した場合は、リンクを復元して構造へのアクセスの復元を試行してください。構造は依然として有効です。構造再作成が失敗した理由を分析して、以降の再作成失敗を防ぐための処置が必要かどうか判断してください。
- 構造再作成または CQS 再始動に関するエラー・メッセージに表示される理由コードを分析します。下記の CQS 再始動および再作成理由コード表を参照して、エラー理由コードを分析してください。表の「システム・プログラマーの処置」

の列の追加の推奨処置を検討してください。追加処置に注記 (番号付き) がある場合は、詳細について「システム・プログラマーの処置の注記」の表を参照してください。

- 問題を解決できない場合は、SYSLOG をコピーし、CQS アドレス・スペースをすべて (特に再作成マスター CQS アドレス・スペース) ダンプし、CQS ログ・レコードおよび IMS ログ・レコードを保存してから、IBM サポートに連絡して支援を依頼してください。

以下のように、理由コードのフォーマットは *ttssrrrr* です。

tt 1 バイトのログ・タイプで、処理中のログ・レコードのタイプ、またはエラーの時点で実行していた CQS プロセスを示します。

コード 意味

X'00' CQSLRR00 がエラーを検出した
X'03' クライアント接続処理またはクライアント接続ログ・レコード
X'07' 書き込む処理または書き込みログ・レコード
X'08' 読み取り処理または読み取りログ・レコード
X'0B' 移動処理または移動ログ・レコード
X'0D' 削除処理または削除ログ・レコード
X'43' 構造再作成処理または構造再作成ログ・レコード
X'44' 構造オーバーフロー処理または構造オーバーフロー・ログ・レコード

ss 1 バイトのログ・サブタイプ。障害が発生したときにログ・レコードを処理中だった場合、このフィールドはゼロ以外の値です。このフィールドがゼロの場合は、再始動または再作成のプロセスはログ・レコードを処理中ではありませんでした。ログ・レコードのサブタイプは、ログ・レコード DSECT で定義されています。ログ・レコードの DSECT を見つける方法については、「IMS V15 システム・プログラミング API」を参照してください。

rrrr 2 バイトの理由コード。

tt フィールドが X'00' の場合、次の理由コードが使用されます。

コード 意味

X'0004'

CQS ログ・レコード・ルーターが、一連のログ・レコードの読み取りを開始するため、CQS ロガーを呼び出しました。しかし、CQS ロガーは、読み取り開始値がゼロであることを判別しました。

X'0008'

CQS ログ・レコード・ルーターが、一連のログ・レコードの読み取りを開始するため、CQS ロガーを呼び出しました。しかし、CQS ロガーは、読み取り停止値がゼロであることを判別しました。

X'000C'

CQS ログ・レコード・ルーターが、一連のログ・レコードの読み取りを開始するため、CQS ロガーを呼び出しました。しかし、検索基準を満たすログ・レコードが見つかりませんでした。

X'000E'

リソース構造が構造リカバリーをサポートしないので、構造リカバリーはリジェクトされます。リソース構造はチェックポイントをサポートしないので、構造リカバリーをサポートできません。

X'000F'

構造リカバリーをサポートしない構造のため、構造リカバリーはリジェクトされました。

構造へのリンクが失われ、構造のコピーを実行するための CQS による構造アクセスができなくなると、CQS は構造リカバリーの実行を試みます。リソース構造などの、構造リカバリーをサポートしない構造の場合、CQS は構造リカバリーをリジェクトします。構造を再度使用可能にするには、リンクを復元するか、または構造障害を起こさせて、構造の再移植を開始します。

X'0010'

CQS ログ・レコード・ルーターが、無効な副次機能を CQS ロガーに渡しました。

X'0014'

CQS ログ・レコード・ルーターが CQS ロガーを呼び出したが、内部ログ・エラー戻りコードを受け取りました。

表 9 に示す理由コードは、## フィールドが

X'03'、X'07'、X'08'、X'0B'、X'0D'、X'43'、または X'44' である場合に使用されます。表 9 は、CQS 再始動または構造再作成エラー・メッセージに表示されることがある理由コードをリストしています。この表には、各理由コードの意味と、推奨されるシステム・プログラマーの処置が記載されています。90 ページの表 10 には、システム・プログラマーの処置についてさらに詳細な説明があります。

表 9. CQS 再始動および再作成の理由コード

コード	意味	システム・プログラマーの処置 (詳細は 90 ページの表 10 を参照)
X'0001'	構造へのアクセス中に IXL 要求エラー。	再作成を再試行します (1)。
X'0002'	構造フル	構造を拡大します (3)。
X'0003'	再作成構造の初期設定エラー。	指定された構造の初期設定エラーが表示されているメッセージ CQS0014E を評価します。再作成を再試行します (1)。
X'0004'	構造障害。	CQS 再始動エラーについては、CQS のバックアップを試行します。再作成エラーについては、再作成を再試行します (1)。
X'0005'	制御リスト・ヘッダーのロック取得エラー。	再作成を再試行します (1)。
X'0006'	制御リスト・ヘッダーのロック解放エラー。	再作成を再試行します (1)。
X'0007'	CQSRECOVER 制御リスト項目の作成エラー。	再作成を再試行します (1)。

表 9. CQS 再始動および再作成の理由コード (続き)

コード	意味	システム・プログラマーの処置 (詳細は 90 ページの表 10 を参照)
X'0008'	CQSRECOVER 制御リスト項目の更新エラー。	再作成を再試行します (1)。
X'0009'	CQSGlobalCONN 制御リスト項目の読み取りエラー。	再作成を再試行します (1)。
X'000A'	CQSGlobalCONN 制御リスト項目の書き込みエラー。	再作成を再試行します (1)。
X'000B'	再作成構造の接続エラー。どの CQS も再作成構造に接続できませんでした。	CF 使用量を調整します (2)。
X'000C'	再作成構造の接続エラー。この CQS は再作成構造に接続できませんでした。	再作成を再試行します (1)。
X'000D'	再作成構造の接続エラー。アクティブ CFRM ポリシーに指定された設定リストおよび構造サイズに基づいて構造を割り振るための適切なカップリング・ファシリティがありません。この問題は、構造サイズ (STRSIZE) 増加の問題に起因するカップリング・ファシリティ障害によって引き起こされることもあります。	CF 使用量を調整します (2)。
X'000E'	構造再作成がタイムアウトになりました。再作成マスターの異常終了が原因である可能性が最も高いです。	ありません。CQS は自動的に再作成を再試行します。
X'0010'	CQSTBL SCAN 要求エラー。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0011'	CQSTBL SCANEND 要求エラー。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0012'	CQSTBL FIND 要求エラー。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0013'	CQSTBL FINDFRST 要求エラー。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0014'	CQSTBL ADD 要求エラー。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0015'	CQSTBL DELETE 要求エラー。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0016'	CQSTBL DELETEALL 要求エラー。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0017'	表ストレージ割り振りエラー (BPECBGET)。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0018'	CQSTBL UNLOCK 要求エラー。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0019'	表移動に関する CQSTBL FIND または DELETE 要求のエラー。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'001A'	CQSTBL FIND 要求エラー。	CQS をシャットダウンします (4)。

表 9. CQS 再始動および再作成の理由コード (続き)

コード	意味	システム・プログラマーの処置 (詳細は 90 ページの表 10 を参照)
X'0020'	GETMAIN ストレージ割り振りエラー (BPEGETM)。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0021'	GETMAIN ストレージ解放エラー (BPEFREEM)。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0022'	制御ブロック・ストレージ割り振りエラー (BPECBGET)。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0023'	制御ブロックストレージ解放エラー (BPECBREL)。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0024'	ラッチ取得エラー (BPELAGET)。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0025'	ラッチ解放エラー (BPELAREL)。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0026'	AWE キュー・サーバー作成エラー。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0027'	キュー・サーバーへの AWE エンキュー・エラー。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0028'	バッファ・プール・ストレージ割り振りエラー (BPEBPGET)。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0029'	バッファ・プール・ストレージ解放エラー (BPEBPREL)。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0030'	ログ・レコードの読み取り中に再作成フェーズ 2 エラー (CQSLRR00)。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0040'	CQSLHS 要求エラー。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0041'	CQSLOG WRITE 要求エラー。	CQS 再始動を再試行します (5)。
X'0042'	オペレーターが開始した再作成は、オーバーフローしきい値プロセスまたはスキャンが進行中であるためリジェクトされました。	オーバーフロー・プロセスの完了後に再作成コマンドを再試行します。
X'0043'	PUT 表更新エラー (CQSPTRRQ)。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0044'	READ 表削除エラー (CQSRDDEL)。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0045'	データ・オブジェクト項目ストレージ割り振りエラー (BPEBPGET)。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0046'	表無効状況エラー。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0047'	クライアント・キュー・スキャン・エラー。	CQS 再始動を再試行します (5)。
X'0048'	専用キュー・スキャン・エラー。	ありません。未使用
X'0049'	データ・オブジェクト削除エラー (CQSDLOBJ)。	再作成を再試行します (1)。

表 9. CQS 再始動および再作成の理由コード (続き)

コード	意味	システム・プログラマーの処置 (詳細は 90 ページの表 10 を参照)
X'004A'	基本構造データ・オブジェクト削除エラー。	CQS 再始動を再試行します (5)。
X'004B'	オーバーフロー構造データ・オブジェクト削除エラー。	CQS 再始動を再試行します (5)。
X'004C'	データ・オブジェクト移動エラー (CQSMOV10)。	再作成を再試行します (1)。
X'004D'	クライアント・キューから専用キューへのデータ・オブジェクト移動エラー。	ありません。未使用
X'004E'	専用キューからクライアント・キューへのデータ・オブジェクト移動エラー。	ありません。未使用
X'004F'	1 つの専用キューから別の専用キューへのデータ・オブジェクト移動エラー。	CQS 再始動を再試行します (5)。
X'0050'	基本構造移動キュー・データ・オブジェクト移動取り消しエラー。	CQS 再始動を再試行します (5)。
X'0051'	オーバーフロー構造移動キュー・データ・オブジェクト移動取り消しエラー。	CQS 再始動を再試行します (5)。
X'0052'	データ・オブジェクト内部アンロック・エラー (CQSMOV10)。	CQS 再始動を再試行します (5)。
X'0053'	CQSSTR00 パラメーター・リストに無効な機能コードが含まれています。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0054'	CQSSTR10 AWE に無効な機能コードが含まれています。	再作成を再試行します (1)。
X'0055'	削除ログ・レコードに無効なキュー・タイプ値が含まれています。	再作成を再試行します (1)。
X'0056'	再作成データ・オブジェクト項目の値が無効です。	ありません。未使用
X'0057'	構造リカバリー・データ・セット読み取りエラー。	再作成を再試行します (1)。
X'0058'	バッファー・サイズを超えるため構造リカバリー・データ・レコードの移動が失敗しました。	再作成を再試行します (1)。
X'0059'	構造リカバリー・データ・セット 1 オープン・エラー。	CQS0054E を参照して、OPEN が失敗した理由を判別してください。問題を訂正してから、再作成を再試行します。
X'005A'	構造リカバリー・データ・セット 2 オープン・エラー。	CQS0054E を参照して、OPEN が失敗した理由を判別してください。問題を訂正してから、再作成を再試行します。
X'005B'	再作成表データ・オブジェクト項目が見つかりません。	再作成を再試行します (1)。

表 9. CQS 再始動および再作成の理由コード (続き)

コード	意味	システム・プログラマーの処置 (詳細は 90 ページの表 10 を参照)
X'005C'	データ・オブジェクト削除エラーのため、構造間のデータ・オブジェクト移動が失敗しました。	再作成を再試行します (1)。
X'005D'	データ・オブジェクト書き込みエラーのため、構造間のデータ・オブジェクト移動が失敗しました。	再作成を再試行します (1)。
X'005E'	構造リカバリー・データ・セットが無効なため、CQS をログの始めから再作成できません。構造は、再作成またはコールド・スタートが可能になるまで、使用できません。構造リカバリー・データ・セットは、アクセス不能か、空か、または構造チェックポイント・ログ・トークンを含まない場合は無効です。	構造を再び使用可能にするには、次のいずれかを試行できます。 <ul style="list-style-type: none"> • 構造リカバリー・データ・セットの問題が一時的なものである場合、別の構造再作成を開始する。 • CQS を取り消し、構造リカバリー・データ・セットを復元してから、CQS を再始動して構造をウォーム・スタートする。 • CQS を取り消してから、CQS を再始動して構造をコールド・スタートする。
X'0060'	CQSOVFLW FUNC=GETSTRUC 要求エラー。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0061'	オーバーフロー構造制御リスト・ヘッダーのロック・エラー。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0062'	オーバーフロー構造制御リスト・ヘッダーのアンロック・エラー。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'0063'	CQSOVERFLOW 制御リスト項目の読み取りエラー。	再作成を再試行します (1)。
X'0064'	CQSOVERFLOW 制御リスト項目の書き込みエラー。	再作成を再試行します (1)。
X'0065'	CQSOVERFLOW 制御リスト項目の削除エラー。	ありません。未使用
X'0066'	CQSOVERFLOWQNAME 制御リスト項目の読み取りエラー。再作成構造または再作成構造リンクに障害がある可能性があります。	再作成を再試行します (1)。
X'0067'	CQSOVERFLOWQNAME 制御リスト項目の書き込みエラー。	再作成を再試行します (1)。
X'0068'	CQSOVERFLOWQNAME 制御リスト項目の削除エラー。	再作成を再試行します (1)。

表 9. CQS 再始動および再作成の理由コード (続き)

コード	意味	システム・プログラマーの処置 (詳細は 90 ページの表 10 を参照)
X'0069'	CQSOVERFLOWQNMA 制御リスト項目の書き込みエラー。	再作成を再試行します (1)。
X'006A'	CQSOVERFLOWQNMA 制御リスト項目の削除エラー。	再作成を再試行します (1)。
X'006B'	CQSOVERLOWQNMR 制御リスト項目の書き込みエラー。	再作成を再試行します (1)。
X'006C'	CQSOVERFLOWQNMR 制御リスト項目の削除エラー。	再作成を再試行します (1)。
X'00E0'	CQS 再作成マスターが接続を失いました。この再作成は、CQS が再作成マスターの役割を引き継ぐことによって終了します。	ありません。CQS は新しい再作成を開始します。
X'00E1'	IXLEERSP EVENT=DISCFailCONN 要求エラー。	再作成を再試行します (1)。
X'00E2'	再作成がオペレーターによって停止されました。	ありません。オペレーターは意図して再作成を停止しました。
X'00E3'	再作成構造がフル。	構造を拡大します (3)。
X'00E4'	再作成構造の接続が失われました。	再作成を再試行します (1)。
X'00E5'	再作成中に古い構造の接続が失われました。	再作成を再試行します (1)。
X'00E6'	再作成構造に障害があります。	再作成を再試行します (1)。
X'00E7'	再作成中に古い構造に障害が発生しました。	再作成を再試行します (1)。
X'00E9'	リカバリー不能データ・オブジェクトの再作成表が見つかりません。	再作成を再試行します (1)。
X'00EA'	再作成データ・オブジェクト項目にゼロの無効ログ・シーケンス番号があります。	再作成を再試行します (1)。
X'00EB'	CQS 再作成マスターに障害がありました。	再作成を再試行します (1)。

表 9. CQS 再始動および再作成の理由コード (続き)

コード	意味	システム・プログラマーの処置 (詳細は 90 ページの表 10 を参照)
X'00EC'	この理由コードは、次のいずれかの理由で発行されます。 <ul style="list-style-type: none"> 再作成マスターが決定される前に CQS に障害が発生したため、再作成マスターが不明である。構造再作成処理が、障害のある不明なマスターについて引き継ぎを行っています。この再作成は、障害のある CQS を検出した CQS によって終了させられます。その CQS は新しい再作成を自動的に開始します。残りの CQS は、再作成マスターの役割を求めて競合します。 再作成に必要な構造リカバリー・データ・セットがすでに使用中である。 構造が、構造チェックポイント、オーバーフロー、または対のもう一方の構造再作成のため、すでに静止している。 	再作成が CQS によって自動的に開始されない場合は、再作成を再試行します (1)。
X'00ED'	再作成フェーズ 3 処理エラー。2 つの再作成データ・オブジェクト項目に、同じログ・シーケンス番号が含まれています。ログ・シーケンス番号は固有でなければなりません。	再作成を再試行します (1)。
X'00EE'	基本構造再作成が進行中のため、オーバーフロー構造再作成が停止しました。	ありません。CQS は、新しいオーバーフロー構造再作成を開始します。
X'00F0'	データ・オブジェクト PUT エラー。	再作成を再試行します (1)。
X'00F1'	データ・オブジェクト移動エラー。	再作成を再試行します (1)。
X'00F2'	データ・オブジェクト読み取りエラー。	再作成を再試行します (1)。
X'00F3'	ログ・レコード経路エラー。	再作成を再試行します (1)。
X'00F4'	テーブル・ブラウズ・エラー。	CQS をシャットダウンします (4)。
X'00F5'	クライアント接続状況アクセス・エラー。	再作成を再試行します (1)。
X'00FF'	不明なエラー。	再作成を再試行します (1)。
X'0070	RECOVERABLE=NO のオーバーフロー構造に構造リカバリーが発生しました。	ありません。CQS はコールド・スタートを自動的に実行します。
X'0071'	CQS は、RECOVERABLE=NO のオーバーフロー構造の構造リカバリーをスキップしています。	ありません。CQS はコールド・スタートを自動的に実行します。

表 9. CQS 再始動および再作成の理由コード (続き)

コード	意味	システム・プログラマーの処置 (詳細は表 10 を参照)
X'0072'	RECOVERABLE=NO のコールド・スタート中にエラーが検出されました。	構造を削除して、CQS をコールド・スタートします。
X'0080'	構造サイズまたは再作成された構造の要素と項目の比率が、SRDS からの構造属性と一致していません。	ありません。CQS は、SRDS から読み取った有効な構造属性を使用して、別の再作成を開始します。

表 10. システム・プログラマーの処置の注

システム・プログラマーの処置の注	処置の詳細
再作成を再試行します (1)	<p>再作成中の追加の障害 (再作成構造の障害、再作成構造のリンクの障害など) が再作成構造の障害の原因である場合は、再作成を再試行します。再作成を再試行するには、次のコマンドを実行します。</p> <p>SETXCF START,REBUILD,STRNAME=<i>strname</i></p> <ul style="list-style-type: none"> 再作成が依然として失敗する場合は、ダンプ付きでこの CQS を取り消し、メモリー・ダンプを保管します。稼働中の CQS がない場合は、CQS を再始動します。再作成を再試行します。 再作成が依然として失敗する場合は、再作成が成功するまで、またはアクティブな CQS がなくなるまで、別の CQS を選択し、メモリー・ダンプ付きで取り消します (メモリー・ダンプは保管します)。CQS を再始動し、再作成を再試行します。 依然として再作成が失敗する場合は、構造のコールド・スタートを検討してください。 <p>収集したダンプは IBM に送付してください。</p>

表 10. システム・プログラマーの処置の注 (続き)

システム・プログラマーの処置の注	処置の詳細
CF 使用量を調整します (2)	<p>構造再作成は、CFRM ポリシー設定リスト内のいずれかの CF に CQS 再作成構造を割り振ることができませんでした。CF 使用量を分析し、調整を行って CQS 再作成構造を適応させてから、再作成を再試行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CF 使用量を分析するには、次のようにします。 <ul style="list-style-type: none"> - 次のコマンドを実行して、構造の設定リストを表示します。 <pre>D XCF,STRUCTURE,STRNAME=strname</pre> - CF ごとに次のコマンドを実行して、構造の設定リストの各 CF に割り振られている構造、およびそれらの構造が占めているスペースを表示します。 <pre>D XCF,CF,CFNAME=cfname</pre> • 次の 1 つ以上を試行して、CF 使用量を調整します。 <ul style="list-style-type: none"> - 可能な場合、他の構造のサイズを減らして、CF 上に場所を作ります。次の ALTER コマンドを実行して、使用可能なフリー・スペースのある構造の構造サイズを減らします。 <pre>SETXCF START,ALTER,STRNAME=strname,SIZE=size</pre> - 別の CF に構造をコピーします。次のコマンドを実行して、別の構造を別の CF にコピーし、この CF 上に CQS 構造用の場所を作ります。 <pre>SETXCF START,REBUILD,STRNAME=strnameanother</pre> <p>続いて、次のコマンドを実行して、この構造再作成を再試行します。</p> <pre>SETXCF START,REBUILD,STRNAME=strnamethis</pre> - 適切なスペースのあるカップリング・ファシリティ上に CQS 構造が再作成されるように、CQS 構造用の CFRM ポリシー CF 設定リストを変更します。次のコマンドを実行して、CFRM ポリシーを停止します。 <pre>SETXCF STOP,POLICY,TYPE=CFRM,POLNAME=name</pre> <p>次のコマンドを実行して、別の設定リストのある新しい CFRM ポリシーをアクティブにします。</p> <pre>SETXCF START,POLICY,TYPE=CFRM,POLNAME=name</pre> • 再作成を再試行します。 <ul style="list-style-type: none"> - 再作成を再試行するには、次のコマンドを実行します。 <pre>SETXCF START,REBUILD,STRNAME=strname</pre>
構造を拡大します (3)	<p>次のコマンドを実行して、CFRM ポリシーを停止します。</p> <pre>SETXCF STOP,POLICY,TYPE=CFRM,POLNAME=name</pre> <p>次のコマンドを実行して、より大きい構造サイズを定義された新しい CFRM ポリシーをアクティブにします。</p> <pre>SETXCF START,POLICY,TYPE=CFRM,POLNAME=name</pre> <p>再作成を再試行するには、次のコマンドを実行します。</p> <pre>SETXCF START,REBUILD,STRNAME=strname</pre>
CQS をシャットダウンします (4)	<p>メモリー・ダンプ付きでこの CQS を取り消し、メモリー・ダンプを保管し、IBM サポートに支援を依頼してください。稼働中の CQS がいない場合は、CQS を再始動します。再作成を再試行します。</p>

表 10. システム・プログラマーの処置の注 (続き)

システム・プログラマーの処置の注	処置の詳細
CQS 再始動を再試行します (5)	CQS を再び開始して、CQS 再始動を再試行します。CQS 再始動が失敗した場合は、CQS コールド・スタートを検討してください。

注: モジュールが呼び出され、無効な再始動または再作成のフェーズ値を渡された場合、*ttssrrrr* がゼロになる可能性があります。ただし、このエラーは発生してはなりません。

CQS サービス戻りコード

共通キュー・サーバー (CQS) は、サービス戻りコードを発行します。

これらのサービス戻りコードには、以下のものが含まれます。

CQSDSS00

説明: データ・セット・サービスの問題が発生しました。

戻りコード

説明

X'00000004'

無効なパラメーターがサービスに渡されました。

X'00000008'

サービスが内部エラーを検出しました。

X'0000000C'

GETCTRL または POINT サービスの場合、レコードが存在しません。

X'00000010'

GET サービスの場合、データ・セットの終わりに達しました。

X'00000014'

データ・セットの初期ロード中は、GET、POINT、2ND PUTCTRL 要求は許可されません。

X'00000018'

VSAM 要求の結果、警告戻りコードが戻されました。

X'0000001C'

VSAM 要求の結果、警告以外のエラー戻りコードが戻されました。CQS0054E メッセージを参照して、VSAM 要求が失敗した理由を判別してください。

X'00000020'

サービスで異常終了が発生し、再試行ルーチンが駆動されました。

ソース: CQS コード

CQSDYNA0

説明: 動的割り振りサービスの問題が発生しました。

戻りコード

説明

X'00000004'

無効な機能コードがサービスに渡されました。

X'00000008'

無効なデータ・セット状況がサービスに渡されました。

X'0000000C'


この CQS または別の CQS にデータ・セットがすでに割り振られているため、動的割り振りサービスが失敗しました。

X'00000010'

DYNALLOC 要求の結果、エラー戻りコードが戻されました。CQS0050E メッセージを参照して、DYNALLOC 要求が失敗した理由を判別してください。

ソース: CQS コード

関連情報:

 CQS0050E (メッセージおよびコード)

CQSISCI0

説明: 構造化呼び出しインターフェースの初期設定中に問題が発生しました。

戻りコード

説明

X'00000020'

構造化呼び出しインターフェースの初期設定で、z/OS 名前/トークンの検索を (BPEIEANT を使用して) 試みているときに、予期しないエラーを検出しました。

X'00000024'

構造化呼び出しインターフェースの初期設定で、z/OS 名前/トークンを (BPEIEANT を使用して) 作成できませんでした。

X'00000028'

構造化呼び出しインターフェースの初期設定で、名前/トークンがすでに存在していたため、z/OS 名前/トークンを (BPEIEANT を使用して) 作成できませんでした。これは、通常、同じ SSN を持つ別の CQS が同時に開始され、すでに名前/トークンを作成している場合に発生します。

X'0000002C'

構造化呼び出しインターフェースの初期設定で、ロードしようとしているモジュールについての情報を (BLDL を介して) 検索できませんでした。

X'00000030'

構造化呼び出しインターフェースの初期設定で、この CQS の STOKEN を (ALESERV を介して) 取得できませんでした。

X'00000034'

構造化呼び出しインターフェースの初期設定で、この CQS ジョブ・ステップ TCB の TTOKEN を (TCBTOKEN を介して) 取得できませんでした。

X'00000038'

構造化呼び出しインターフェースの初期設定で、この CGIB のストレージを (GETMAIN を介して) 割り振れませんでした。

X'0000003C'

構造化呼び出しインターフェースの初期設定で、この CGCT のストレージを (GETMAIN を介して) 割り振れませんでした。

X'00000040'

構造化呼び出しインターフェースの初期設定で、このリンケージ・ルーチンのストレージを (GETMAIN を介して) 割り振れませんでした。

X'00000044'

構造化呼び出しインターフェースの初期設定で、この RVVT のストレージを (BPEGETM を介して) 割り振れませんでした。

X'00000048'

構造化呼び出しインターフェースの初期設定で、この CXSH のストレージを (STORAGE を介して) 割り振れませんでした。

X'0000004C'

構造化呼び出しインターフェースの初期設定で、モジュールを (LOAD を介して) ロードできませんでした。

X'00000050'

構造化呼び出しインターフェースの初期設定で、モジュールを (BPELOAD を介して) ロードできませんでした。

X'00000054'

構造化呼び出しインターフェースの初期設定で、リソース・マネージャーを (RESMGR を介して) 追加できませんでした。

X'00000060'

構造化呼び出しインターフェースの初期設定で、SVC モジュールの BLDL を実行できませんでした。

X'00000064'

構造化呼び出しインターフェースの初期設定で、この SVC モジュールのストレージを (GETMAIN を介して) 割り振れませんでした。

X'00000068'

構造化呼び出しインターフェースの初期設定で、SVC モジュールを (LOAD を介して) ロードできませんでした。

X'0000006C'

構造化呼び出しインターフェースの初期設定で、BPESVC REGISTER が発行されたが、失敗しました。

X'00000080'

構造化呼び出しインターフェースの初期設定で、このインターフェース・バッファ・マネージャーの制御ブロックのストレージを、BPEGETM を使用して割り振れませんでした。

X'00000084'

構造化呼び出しインターフェースの初期設定で、インターフェース・バッファ・マネージャー・モジュール CQSRQBM0 を、BPEGETM を使用してロードできませんでした。

X'00000088'

構造化呼び出しインターフェースの初期設定で、このインターフェース・バッファ・プールのストレージを、BPEGETM を使用して割り振れませんでした。

ソース: CQS コード

CQSIXCF0

説明: XCF 通信の初期化中に問題が発生しました。

戻りコード

説明

X'00000020'

XCF サービスの初期設定で、制御ブロックのストレージを (BPEGETM を介して) 割り振れませんでした。

CQSLOG10 • CQSLOGP0

X'00000024'

XCF サービスの初期設定で、XCF 応答域のストレージを (BPEGETM を介して) 割り振れませんでした。

X'00000028'

XCF サービスの初期設定で、XCF グループを結合できませんでした。このサブシステム名を持つ CQS が、すでにグループ内に存在しません。

X'0000002C'

XCF サービスの初期設定で、XCF グループを結合できませんでした。

X'00000030'

XCF サービスの初期設定で、XCF グループの他のメンバーに関する情報を (IXCQUERY を介して) 取得できませんでした。

X'00000034'

XCF サービスの初期設定で、XCF グループの現行の全メンバーを XCFM テーブルに追加できませんでした。

ソース: CQS コード

CQSLOG10

説明: CQS ログとの接続時に問題が発生しました。

戻りコード

説明

X'00000004'

CQS ログ接続処理が MVS IXGCONN 要求を出したが、失敗しました。ログ・ストリーム名が無効です。ログ・ストリーム名は、CQSSGxxx PROCLIB メンバー内で CQS に対して定義されます。ログ・ストリーム名が CQS と z/OS の両方に対して正しく定義されているかどうかを確認してください。

X'00000010'

BPE JSTP TCB への切り替え中にエラーが発生しました。

X'00000014'

CQSLOG10 呼び出し側のホーム TCB への切り替え中にエラーが発生しました。

X'00000018'

CQSLOG10 に渡された機能コードが無効です。

X'00000020'

CQS ログ接続処理が MVS IXGCONN 要求を出したが、失敗しました。

X'00000028'

CQS ログ接続処理が MVS IXGCONN 要求を出したが、失敗しました。戻りコードは、呼び

出し側が ENF 48 信号を待機すべきであることを示したが、呼び出し側が待機しようとしませんでした。

ソース: CQS コード

CQSLOG20

説明: ログ・レコードの書き込み時に問題が発生しました。

戻りコード

説明

X'00000004'

CQSLOG20 に渡されたログ・レコードのアドレスが無効です。

X'00000008'

CQSLOG20 に渡されたログ・レコードの長が無効です。

X'0000000C'

ログ・ストリームが満杯であるが、呼び出し側はログ・ストリームが使用可能になるのを待ちません。

X'00000020'

CQS ログ書き込み処理が MVS IXGWRITE 要求を出したが、失敗しました。

ソース: CQS コード

CQSLOG40

説明: ログ・レコードの削除時に問題が発生しました。

戻りコード

説明

X'00000004'

CQSLOG40 に渡されたログ・トークンが、無効であるか、またはそれが示しているログ・レコードがもうログ・ストリーム内にはありません。

X'0000001C'

CQSLOG40 に渡された副次機能コードが無効です。

X'00000020'

CQS ログ削除処理が MVS IXGDELET 要求を出したが、失敗しました。

ソース: CQS コード

CQSLOGP0

説明: CQS バッチ・ログ・レコードのページが異常終了しました。

戻りコード

説明

X'00000000'

ページは正常に終了しました。書き込まれなかったバッチ・ログ・レコードはすべて、z/OS ログにページされました。

X'00000008'

z/OS ログ・ストリームが利用不可であったため、バッチ・ログ・レコードの少なくとも 1 セットをページできませんでした。

X'00000010'

計算されたログ・レコード長が無効であったため、バッチ・ログ・レコードの少なくとも 1 セットをページできませんでした。理由コードに、正しくない最後のレコード長が含まれています。

X'00000018'

バッチ・ログ・レコードをページするための IXGWRITE 呼び出しがゼロ以外の戻りコードを受け取ったので、バッチ・ログ・レコードの少なくとも 1 セットをページできませんでした。理由コードの高位ハーフワードには、最後のゼロ以外の IXGWRITE 戻りコードが入り、低位ハーフワードに理由コードが入ります。

ソース: CQS コード

CQSMOV10

説明: CQSREAD 再同期処理中に問題が発生しました。

戻りコード

	説明
4	構造または接続の障害。
8	ロック・トークンが無効です。
12	キュー名が無効です。
16	内部エラー。
20	CQSMOV1P パラメーター値エラー。
24	データ・オブジェクトが存在しません。
28	構造のキュー・フル。
30	再作成によるオブジェクトの逸失。
34	成功したが、ログ満杯のため、読み取りテーブルのスキャンは終了しました。

ソース: CQS コード

CQSOFL50

説明: オーバーフロー・サービス (オーバーフローの初期設定の機能およびオーバーフロー構造へのキューの移動の機能) で問題が発生しました。

戻りコード

	説明
X'00000008'	無効な機能コードがサービスに渡されました。

X'0000000C'

オーバーフロー・サービスが内部エラーを検出しました。

X'00000010'

オーバーフロー・サービスが BPETHDCR 要求を出したが、失敗しました。

X'00000014'

オーバーフロー・サービスが、バッファーストトレージを (BPEBPGET を介して) 割り振れませんでした。

X'00000018'

オーバーフロー・サービスが制御リスト・ヘッダーに対するロックを取得できませんでした。

X'0000001C'

オーバーフロー・サービスが制御リスト・ヘッダーに対するロックを解放できませんでした。

X'00000020'

オーバーフロー・サービスが制御リスト項目を読み取れませんでした。

X'00000024'

オーバーフロー・サービスが制御リスト項目を書き込めませんでした。

X'00000028'

オーバーフロー・サービスが IXLLIST READLIST 要求を出したが、失敗しました。

X'0000002C'

オーバーフロー・サービスが IXLLIST WRITE 要求を出したが、失敗しました。

X'00000030'

オーバーフロー・サービスが構造静止ラッチを取得できませんでした。

X'00000034'

オーバーフロー・サービスが構造静止ラッチを解放できませんでした。

X'00000038'

オーバーフロー・サービスが CQSLOG 要求を出したが、失敗しました。

X'0000003C'

オーバーフロー・サービスが内部オーバーフロー・サービス要求を出したが、失敗しました。

X'00000040'

オーバーフロー・サービスが BPE AWE サービスからゼロ以外の戻りコードを受け取りました。

X'00000044'

オーバーフロー・サービスがキュー・タイプをリスト・ヘッダーに変換しようとした。CQS サービス CQSLHS が、キュー・タイプが無効であることを示しました。

X'00000048'

オーバーフロー・サービスが制御リスト項目の削除に失敗しました。

<p>X'0000004C' 構造リカバリーが、1 次またはオーバーフロー構造のいずれかに対して実行されました。</p> <p>X'00000050' 構造コピーが、1 次またはオーバーフロー構造のいずれかに対して実行されました。</p> <p>X'00000054' 構造障害が発生し、再作成が実行されました。</p> <p>X'00000058' 構造障害が発生したが、再作成は実行されませんでした。</p> <p>X'0000005C' クライアント出口をスケジュールしようとしたが、失敗しました。</p> <p>X'00000060' 制御ブロックの BPECBGET が失敗しました。</p> <p>X'00000064' しきい値処理のフェーズ 2 中に、オーバーフロー構造にキューが移動されませんでした。次</p>	<p>のいずれかが発生するまでは、しきい値処理は再び行われることはありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CQS がもうオーバーフロー・モードではない (現行のしきい値処理が開始する前に CQS がすでにオーバーフロー・モードであった場合)。 • オーバーフロー構造が再作成される。 • CQS が基本構造に関する CQS0206I メッセージを発行します。 <p>X'00000068' 構造接続が失われました。</p> <p>X'0000006C' 基本構造で満杯状態が検出されました。</p> <p>X'00000070' オーバーフロー構造で満杯状態が検出されました。</p> <p>ソース: CQS コード</p>
---	--

CQS 制御リスト項目

CQS は、制御リスト項目を使用して、構造チェックポイント、構造リカバリー、オーバーフローなどのリスト構造を管理します。

リスト項目は、z/OS 用語の 1 つであり、カップリング・ファシリティー・リスト構造リスト上のデータの 1 断片を表します。制御リスト項目は、CQS が制御リスト・ヘッダー (リスト・ヘッダー番号 = 0) に書き込むリスト項目です。

次のリストでは、CQS 制御リスト項目が説明されています。

CQSGLOBAL (グローバル・リスト項目)

- 構造への接続に関するグローバル情報を含みます。
- 構造を割り振る CQS によって作成されます。

CQSGLOBALCONN (グローバル・クライアント接続項目)

- すべてのクライアントに関するクライアント接続情報を含みます。

CQSLOCAL (ローカル・リスト項目)

- 最後のシステム・チェックポイントのログ・トークンなどの CQS ローカル情報を含みます。
- 構造に接続された CQS ごとに 1 つの CQSLOCAL が存在します。

CQSSTRCHKPT (構造チェックポイント・リスト項目)

- 最後の 2 つの構造チェックポイントのログ・トークンおよびタイム・スタンプを含みます。

CQSSTRCHKPTINPRG (進行中構造チェックポイント・リスト項目)

- 構造チェックポイントが進行中であることを示します。

CQSLOGFULL (ログ・フル処理リスト項目)

- 進行中のログ・フル処理に関する情報を含みます。

CQSOVERFLOW (オーバーフロー・リスト項目)

- 構造がオーバーフロー・モードにあるかどうかを示します。
- 構造がオーバーフローしきい値処理モードにあることを示す場合があります。

CWSOVERFLOWQNAME (オーバーフロー・キュー名リスト項目)

- オーバーフロー・モードにあるキュー名のリストを含みます。

CQSOVERFLOWQNMA (オーバーフロー・キュー名追加リスト項目)

- 現在のしきい値処理中にオーバーフローから除去されたキューの名前を含みます。

CQSOVERFLOWQNMR (オーバーフロー・キュー名除去リスト項目)

- 現在のオーバーフロー・スキャンの処理中にオーバーフローから除去されたキューの名前を含みます。

CQSRECOVER (リカバリー・リスト項目)

- 構造のコピーまたはリカバリーが進行中であることを示します。

第 7 章 CSL コード

Common Service Layer (CSL) では、さまざまなサブコンポーネントからコードが発行されます。

ODBM 異常終了コード

Open Database Manager (ODBM) が特定の問題を検出すると、ODBM は異常終了し、Common Service Layer (CSL) は異常終了コードを発行します。これらのコードは、ユーザー異常終了として表示されます。

ODBM 異常終了コードには次のものがあります。

0010

説明: Open Database Manager (ODBM) 初期設定でエラーが起り、ODBM アドレス・スペースを開始できません。メッセージ BPE0006I はこの異常終了 0010-xxxxxxx として発行されます。ここで、xxxxxxx は異常終了サブコードです。異常終了が発行されると、レジスター 15 に異常終了の理由を示すコードが入ります。この異常終了でメッセージ CSL0001E または CSL0002E が発行されていれば、そのメッセージでさらに問題を説明しています。

異常終了のサブコードとその意味を以下で説明します。

コード
説明

X'010'

CSLDANCH ブロックを割り振ることができませんでした。

X'014'

BPEPARSE 作業域を割り振ることができませんでした。

X'018'

CSLDPLEX ブロックを割り振ることができませんでした。

X'01C'

CSLDCMDE ブロックを割り振ることができませんでした。

X'020'

ORRS TCB トークン・テーブルを割り振ることができませんでした。

X'080'

CSLDIxxx メンバーの読み取り中に、エラーが発生しました。

X'0C0'

ODBM ランタイム・パラメーターの構文解析中に、エラーが発生しました。

X'0C4'

CSLDIxxx メンバーの構文解析中に、エラーが発生しました。

X'100'

CSLDIxxx または ODBM のパラメーターの妥当性検査中に、エラーが発生しました。

X'180'

モジュールのプリロード中に、エラーが発生しました。

X'184'

BPELOAD の呼び出し中に、エラーが発生しました。

X'1C8'

BPE バッファ・プール作成サービス (BPEBPCRE) は、出力バッファ・プールの作成を試みているときに、エラーを検出しました。

X'200'

CSLZARM0 エラーが発生しました。これは自動再始動マネージャー (Automatic Restart Manager) エラーです。

X'204'

CSLZLIC0 エラーが発生しました。CSLZLIC0 に無効な機能コードが渡されました。

X'300'

構成メンバー (CSLDCxxx) を処理しようとしたときに、BPEPARSE 作業域ストレージを取得できませんでした。

X'304'

CSLDCxxx メンバーを読み取れませんでした。

X'308'

CSLDCxxx メンバーの処理時に、GLOBAL セクションで構文解析エラーが発生しました。

X'30C'

CSLDCxxx メンバーの処理時に、LOCAL セクションで構文解析エラーが発生しました。

X'310'

CSLDCxxx メンバーの処理時に、LOCAL セクションに重複 ODBM() 名が定義されていました。

X'314'

CSLDCxxx メンバーの処理時に、LOCAL セクションに ODBM() 名が定義されていませんでした。

X'318'

CSLDCxxx メンバーの処理時に、指定の ODBM() 名の LOCAL セクションに DATASTORE() 名が定義されていませんでした。

X'31C'

CSLDCxxx メンバーの処理時に、指定の ODBM() 名の LOCAL セクションに無効な DATASTORE() 名が定義されていました。

X'320'

CSLDCxxx メンバーの処理時に、指定の DATASTORE() 名の LOCAL セクションに無効な ALIAS() 名が定義されていました。

X'324'

CSLDCxxx メンバーの処理時に、指定の ODBM() 名の LOCAL セクションに重複 DATASTORE() 名が定義されていました。

X'328'

CSLDCxxx メンバーの処理時に、指定の DATASTORE() 名の LOCAL セクションに重複 ALIAS() 名が定義されていました。

X'32C'

CSLDCxxx メンバーの処理時に、指定の DATASTORE() 名のデータ・ストア制御ブロック (CSLDDSCB) ストレージを取得できませんでした。

X'330'

CSLDCxxx メンバーの処理時に、指定の DATASTORE() 名の CSLDPRP 制御ブロック・ストレージを取得できませんでした。

X'334'

CSLDCxxx メンバーの処理時に、指定の DATASTORE() 名の別名制御ブロック (CSLDALCB) ストレージを取得できませんでした。

X'400'

TCB タイプが不明です。

X'440'

CSLDIN10 がロードを試みているときに、エラーが発生しました。

X'4C0'

ODBM が ODBM スレッドの作成を試みているときに、エラーが発生しました。

X'4D0'

CSLDTOT0 はロードに失敗しました。

X'4D4'

ODBM が RQCR スレッドの作成を試みているときに、エラーが発生しました。

X'4D8'

ODBA CIMS CONNECT 呼び出しが ODBM の初期設定中に失敗しました。ODBM 異常終了 0010-4D8 の前に、メッセージ CSL4005W が出力されます。この異常終了が発行される場合は、以下の状態になっています。

- レジスター 2 に AIB 戻りコードが入っています
- レジスター 3 に AIB 戻りコードが入っています
- レジスター 4 に AIB 戻りコードが入っています

X'4DC'

IMS.PROCLIB の CSLDCxxx メンバーの LOCAL_DATASTORE_CONFIGURATION セクションで識別されたサブシステムが見つからなかったため、DRA の初期設定が失敗しました。

X'500'

サーバー REGR 用の非同期作業エレメント (AWE) を作成できませんでした。

X'504'

サーバー DMIR 用の AWE を作成できませんでした。

X'508'

サーバー ODBS 用の AWE を作成できませんでした。

X'50C'

サーバー ODBR 用の AWE を作成できませんでした。

X'510'

サーバー CMDR 用の AWE を作成できませんでした。

X'530'

PLEX TRACE テーブルを作成できませんでした。

X'534'

APSB スレッド・ハッシュ・テーブルを作成できませんでした。

X'538'

SCI 登録 (CSLSCREG) が失敗しました。

X'53C'

SCI 作動可能機能 (CSLSRDY) が失敗しました。

X'540'

CSLDSTT 統計ブロックを割り振ることができませんでした。

システムの処置: アドレス・スペースは異常終了します。




オペレーターの応答: 異常終了サブコードで示されたエラーの原因が環境条件である場合 (例えば、無効なパラメーター)、示された問題を訂正してから、アドレス・スペースを再始動します。そうでなければ、ジョブ・ログおよびシステム・ログ情報を保管し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース: CSL ODBM コード

モジュール:

CSLDIN00, CSLDIN10, CSLDIT00, CSLDTMA0, CSLDCF00

関連情報:

-  CSL0001E (メッセージおよびコード)
-  CSL0002E (メッセージおよびコード)
-  CSL4005W (メッセージおよびコード)

0400

説明: CSL Open Database Manager (ODBM) が処理エラーを検出しました。異常終了が発行されると、レジスター 15 に異常終了の理由を示すコードが入ります。

コード

説明

X'100'

ODBM は、分散リレーショナル・データベース体系 (DRDA) の出力応答域の無効なアドレスを検出しました。

X'104'

ODBM は、要求プロトコルを使用する APSB 呼び出しの処理中に、呼び出し元が提供するストレージに出力をコピーしているときに異常終了を検出しました。

X'108'

ODBM は、メッセージ・プロトコルを使用する

APSB 呼び出しの処理中に、呼び出し元が提供するストレージに出力をコピーしているときに異常終了を検出しました。

X'10C'

ODBM は、要求プロトコルを使用する DL/I 呼び出しの処理中に、呼び出し元が提供するストレージに出力をコピーしているときに異常終了を検出しました。

X'110'

ODBM は、メッセージ・プロトコルを使用する DL/I 呼び出しの処理中に、呼び出し元が提供するストレージに出力をコピーしているときに異常終了を検出しました。

システムの処置: 問題のある CSL ODBM 処理スレッドは異常終了します。

システム・プログラマーの応答: ODBM スレッドの処理中に異常終了が発生した場合、ODBM スレッドに依存する領域が異常終了しますが、ODBM の実行は継続します。

プログラマーの応答: この問題は、内部エラーです。IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

ソース: CSL ODBM コード

モジュール: CSLDDMO0

0411

説明: CSL Open Database Manager (ODBM) がリカバリー可能リソース管理サービス (RRMS) との間の処理を行っている際にエラーが発生しました。異常終了が発行されると、レジスター 15 に異常終了の理由を示すコードが入ります。呼び出し先のサービスからの戻りコードはすべてレジスター 2 に入ります。

異常終了のサブコードとその意味を以下で説明します。

コード

説明

X'01'

ODBM が CSLDRRSB 制御ブロック用のストレージの取得に失敗しました。レジスター 2 に BPEGETM 戻りコードが入っています。

X'02'

ODBM がモジュール CSLDRRS1 の内部的な作業域用のストレージの取得に失敗しました。レジスター 2 に STORAGE OBTAIN 戻りコードが入っています。

X'03'

RRS/MVS ATRIRLN への ODBM 呼び出しが失敗しました。レジスター 2 に ATRIRLN 戻りコードが入っています。

X'07'

システム・オペレーターが、WTOR メッセージ CSL4001A に対して CANCEL を応答しました。ODBM が開始したときに RRS がアクティブでなかったために CSL4001A が発行され、ODBM は現在、RRS を要求するように構成されています。

X'08'

RRS/MVS ATRISLN への ODBM 呼び出しが失敗しました。レジスター 2 に ATRISLN 戻りコードが入っています。

X'09'

RRS/MVS ATRIBRS への ODBM 呼び出しが失敗しました。レジスター 2 に ATRIBRS 戻りコードが入っています。

X'0A'

RRS/MVS ATRIRNI への ODBM 呼び出しが失敗しました。レジスター 2 に ATRIRNI 戻りコードが入っています。

X'0B'

RRS/MVS ATRIRRI への ODBM 呼び出しが失敗しました。レジスター 2 に ATRIRRI 戻りコードが入っています。

X'0E'

コンテキスト・サービスの出口マネージャーに登録するための CRGSEIF への ODBM 呼び出しが失敗しました。レジスター 2 に CRGSEIF 戻りコードが入っています。

X'0F'

RRS 出口マネージャーに登録するための CRGSEIF への ODBM 呼び出しが失敗しました。レジスター 2 に CRGSEIF 戻りコードが入っています。

X'11'

RRS/MVS ATRIERS への ODBM 呼び出しが失敗しました。レジスター 2 に ATRIERS 戻りコードが入っています。

X'1B'

ODBM RRMS NOTIFICATION 出口ルーチンが失敗しました。

X'23'

リソース・マネージャーとして RRS に登録するための CRGGRM への ODBM 呼び出しが失敗しました。レジスター 2 に CRGGRM 戻りコードが入っています。

X'2B'

ODBM が、RRMS 呼び出し可能サービスを内部的な ODBM ベクトル・テーブルにロードすることに失敗しました。レジスター 2 に BPELOAD 戻りコードが入っています。レジスター 6 に、ロードに失敗した RRMS 呼び出し可能サービスの名前のアドレスが入っています。

システムの処置: CSL Open Database Manager (ODBM) は異常終了します。

システム・プログラマーの応答: この異常終了が初期設定中に発生した場合、ODBM は異常終了します。


ODBM スレッドの処理中に異常終了が発生した場合、ODBM スレッドに依存する領域が異常終了しますが、ODBM の実行は継続します。

プログラマーの応答: この問題が RRS/MVS サービス障害などの内部エラーの場合、まず、システム内で RRS/MVS がアクティブであったかを確認します。その後、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース: CSL ODBM コード

モジュール: CSLDRRS1

関連情報:

 CSL4001A (メッセージおよびコード)

OM 異常終了コード

Operations Manager (OM) が問題を検出すると、Common Service Layer (CSL) によって異常終了コードが発行されます。これらのコードは、ユーザー異常終了として表示されます。

OM 異常終了コードには、以下のものがあります。

0010

説明: OM 初期設定でエラーが起こり、OM アドレス・スペースを開始できません。メッセージ BPE0006I はこの異常終了 0010-xxxxxx として発行されます。ここで、xxxxxx は異常終了サブコードです。異常終了が発行されると、レジスター 15 に異常終了の理由を示すコードが入ります。この異常終了でメッセージ CSL0001E または CSL0002E が発行されていれば、そのメッセージでさらに問題を説明しています。

異常終了のサブコードとその意味を以下で説明します。

コード 意味

- X'010' CSLOANCH ブロックを割り振ることができませんでした。
- X'014' BPEPARSE 作業域を割り振ることができませんでした。
- X'018' CSLOPLEX ブロックを割り振ることができませんでした。
- X'080' CSLOIxxx メンバーの読み取り中に、エラーが発生しました。
- X'0C0' OM ランタイム・パラメーターの構文解析中に、エラーが発生しました。
- X'0C4' CSLOIxxx メンバーの構文解析中に、エラーが発生しました。
- X'100' CSLOIxxx または OM exec のパラメーターの妥当性検査中に、エラーが発生しました。
- X'180' モジュールのプリロード中に、エラーが発生しました。
- X'184' BPELOAD の呼び出し中に、エラーが発生しました。
- X'1C0' BPE バッファ・プール作成サービス (BPEBPCRE) は、コマンド・バッファ・プールの作成を試みているときに、エラーを検出しました。
- X'1C4' BPE バッファ・プール作成サービス (BPEBPCRE) は、文法バッファ・プールの作成を試みているときに、エラーを検出しました。
- X'1C8' BPE バッファ・プール作成サービス (BPEBPCRE) は、出力バッファ・プールの作成を試みているときに、エラーを検出しました。
- X'200' CSLZARM0 エラーが発生しました。これは自動再始動マネージャー (Automatic Restart Manager) エラーです。
- X'204' CSLZLIC0 エラーが発生しました。これはライセンス・マネージャー許可 (License Manager Authorization) エラーです。
- X'400' TCB タイプが不明です。
- X'440' CSLOIN10 がロードを試みているときに、エラーが発生しました。

- X'4C0' OM が RQST スレッドの作成を試みているときに、エラーが発生しました。
- X'4D0' CSLOTOT0 はロードに失敗しました。
- X'4D4' OM が RQCR スレッドの作成を試みているときに、エラーが発生しました。
- X'4E0' RACROUTE REQUEST-LIST 要求は失敗しました。
- X'500' サーバー RQST 用の非同期作業エレメント (asynchronous work element) (AWE) を作成できませんでした。
- X'504' サーバー RQOC 用の AWE を作成できませんでした。
- X'508' サーバー RQCR 用の AWE を作成できませんでした。
- X'50C' サーバー RQCR 用の AWE を作成できませんでした。
- X'510' サーバー RQOU 用の AWE を作成できませんでした。
- X'514' サーバー RQQY 用の AWE を作成できませんでした。
- X'51C' サーバー RQRG 用の AWE を作成できませんでした。
- X'530' PLEX TRACE テーブルを作成できませんでした。
- X'534' コマンド・インスタンス・ハッシュ・テーブルまたはコマンド登録ハッシュ・テーブル (verb ハッシュ・テーブル) を作成できませんでした。
- X'538' SCI 登録 (CSLSCREG) が失敗しました。
- X'53C' SCI 作動可能機能 (CSLSCRDY) が失敗しました。
- X'540' CSLOSTT 統計ブロックを割り振ることができませんでした。

システムの処置: アドレス・スペースは異常終了します。


オペレーターの応答: 異常終了サブコードで示されたエラーの原因が環境条件である場合 (例えば、不適切な許可または無効なパラメーター)、示された問題を訂正してから、アドレス・スペースを再始動します。そうでなければ、ジョブ・ログおよびシステム・ログ情報を保管し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース: CSL OM コード

モジュール:

CSLOIN00, CSLOIN10, CSLOIT00, CSLOPL10

関連情報:

 BPE0006I (メッセージおよびコード)

0104

説明: Operations Manager (OM) のログ処理中に障害が発生しました。この異常終了で、障害の原因について詳しく説明した異常終了サブコードが示されます。

異常終了のサブコードとその意味を以下で説明します。

サブコード

意味

X'00000004'

OM ログ処理が、z/OS システム・ロガーから、z/OS がログ・ストリームを処理できなかったことを示す戻りコードおよび理由コードを受け取りました。OM は ENF 48 信号を待たなければなりません。ENF 48 が受け取られたとき、OM が z/OS ログ・ストリームに再接続しなければならないことを示していました。ログ・ストリームへの接続が失敗しました。

レジスター 2 に IXGCONN 要求からの戻りコードおよび理由コードが含まれています。最初のハーフワードには戻りコードが入り、2 番目のハーフワードには理由コードが入ります。レジスター 3 に、OM ログ接続サービスからの戻りコードが入っています。

システムの処置: OM は異常終了します。

システム・プログラマーの応答: サブコード X'00000004' の場合、IXGCONN 障害の理由を判別し、問題を解決してから OM を再始動してください。

ソース: CSL OM コード

関連資料:

➡ z/OS: IXGCONN マクロの戻りコードおよび理由コード

RM 異常終了コード

リソース・マネージャー (RM) で問題が発生すると、Common Service Layer (CSL) によって異常終了コードが発行されます。これらのコードは、ユーザー異常終了として表示されます。

これらの異常終了コードには、以下のものがあります。

0010

説明: Resource manager (RM) 初期設定でエラーが起こり、RM アドレス・スペースを開始できません。メッセージ BPE0006I はこの異常終了 0010-xxxxxxx として発行されます。ここで、xxxxxxx は異常終了サブコードです。異常終了が発行されると、レジスター 15 に異常終了の理由を示すコードが入ります。この異常終了でメッセージ CSL0001E または CSL0002E が発行されていれば、そのメッセージでさらに問題を説明しています。

異常終了のサブコードとその意味を以下で説明します。

コード 意味

X'00000010'

RM アンカー・ブロック (CSLRANCH) のストレージ割り振りが失敗しました。

X'00000014'

BPEPARSE 作業域のストレージ割り振りが失敗しました。

X'00000018'

IMSpIex ブロック (CSLRPLEX) のストレージ割り振りが失敗しました。

X'0000001C'

コマンド拡張ブロックの CSLRCMDE を割り振ることができませんでした。

X'00000080'

CSLRxxxx PROCLIB メンバーの読み取り中に、エラーが発生しました。

X'000000C0'

RM ランタイム・パラメーターの構文解析中に、エラーが発生しました。エラーになったランタイム・パラメーターごとに、CSL0001E メッセージが 1 つ発行されます。構文解析エラーの判別方法について詳しくは、メッセージ BPE0003E を参照してください。

X'000000C4'

CSLRxxxx PROCLIB メンバーの構文解析中に、エラーが発生しました。エラーになったパラメーターごとに CSL0001E メッセージが 1 つ発行されます。構文解析エラーの判別方法について詳しくは、メッセージ BPE0003E を参照してください。

X'00000100'

CSLRxxxx または RM 実行パラメーターの妥当性検査中に、エラーが発生しました。

X'00000180'

CSLRxxxx PROCLIB メンバー内に無効なパラメーターがあるか、RM ランタイム・パラメーターが無効です。エラーになったパラメーターごとに CSL0001E メッセージが 1 つ発行されます。

- X'00000184'**
下位の RM 初期設定モジュールをロードできなかったか、または呼び出せませんでした。
- X'00000188'**
BPELOAD は、RM コマンド・モジュールをロードできませんでした。
- X'000001C0'**
更新バッファ・プールを作成できませんでした。
- X'000001C4'**
照会バッファ・プールを作成できませんでした。
- X'00000200'**
自動再始動マネージャー (CSLZARM0 ルーチン) を初期設定できませんでした。
- X'00000204'**
ライセンス・マネージャー (CSLZLIC0 ルーチン) の許可を得られませんでした。
- X'00000300'**
高水準 RM で IMSRSC リポジトリを使用可能なために、RM の初期設定が失敗しました。
- X'00000400'**
TCB タイプが不明です。
- X'00000440'**
RQST TCB 初期設定ルーチン (CSLRIN10) をロードできませんでした。
- X'000004C0'**
要求マザー TCB (RQST) の RQST スレッドを作成できませんでした。
- X'000004D0'**
RM プロセス・タイムアウト・ルーチン (CSLRTOT0) をロードできませんでした。
- X'000004D4'**
プロセス要求 TCB (RQPR) の TOUT スレッドを作成できませんでした。
- X'00000508'**
RM と CQS 間の通信を初期設定できませんでした。
- X'0000050C'**
キュー・サーバー STRE の AWE を作成できませんでした。
- X'00000510'**
キュー・サーバー DEL の AWE を作成できませんでした。
- X'00000514'**
キュー・サーバー PRCS の AWE を作成できませんでした。
- X'00000518'**
キュー・サーバー QRY の AWE を作成できませんでした。
- X'0000051C'**
キュー・サーバー REG の AWE を作成できませんでした。
- X'00000520'**
キュー・サーバー UPD の AWE を作成できませんでした。
- X'00000524'**
RM と SCI 間の通信を初期設定できませんでした。
- X'00000528'**
PLEX トレース・テーブルまたはリポジトリ・トレース・テーブルを作成できませんでした。
- X'0000052C'**
RM が作動可能になったことを、SCI に通知できませんでした。
- X'00000530'**
要求マザー TCB (RQST) の RQDL スレッドを作成できませんでした。
- X'00000534'**
要求マザー TCB (RQST) の RQPR スレッドを作成できませんでした。
- X'00000538'**
要求マザー TCB (RQST) の RQYQ スレッドを作成できませんでした。
- X'0000053C'**
要求マザー TCB (RQST) の RQUP スレッドを作成できませんでした。
- X'00000540'**
リソース・タイプ・ブロック (CSLRRTYP) のストレージ割り振りが失敗しました。
- X'00000544'**
RM 統計ブロック (CSLRSTT) のストレージ割り振りが失敗しました。
- X'00000548'**
キュー・サーバー CMD の AWE を作成できませんでした。
- X'00000549'**
キュー・サーバー NTF の AWE を作成できませんでした。
- X'0000054C'**
プロセス・ハッシュ・テーブルを作成できませんでした。
- X'00000550'**
リソース構造を接続できませんでした。
- X'00000554'**
RM グローバル・リソース・ブロック (CSLRGBL) を、リソース構造上に作成できなかったかまたは更新できませんでした。
- X'00000558'**
この RM に対して定義された IMSplex 名は、

すでに IMSplex に正常に結合された RM によって定義された IMSplex 名に一致していません。

X'0000055C'

IMSplex 内の RM の数が正しくありません。リソース構造が定義されていない場合、IMSplex 内に許可される RM は 1 つのみです。

X'00000560'

IMSplex 内の他の RM について、SCI を照会できませんでした。

X'00000564'

構造タイプが無効です。RM は、リソース構造として CQS に定義されていない構造に、接続しようとした。CSLRlxxx PROCLIB メンバーで RM に定義された構造は、リソース構造として CQSSGxxx PROCLIB メンバーで CQS に定義しなければなりません。

X'00000568'

RM グローバル・リソース・ブロック (CSLRPGBL) をリソース構造上で読み取り、作成、または更新できませんでした。

X'00000570'

キュー・サーバー PRCI の AWE を作成できませんでした。

X'00000574'

キュー・サーバー PRCT の AWE を作成できませんでした。

X'00000578'

キュー・サーバー PRCR の AWE を作成できませんでした。

X'00000630'

リポジトリ要求ハッシュ・テーブルを作成できませんでした。

X'00000631'

リポジトリ・サービスの AWE を作成できませんでした。

X'00000632'

リポジトリ・サービスの AWE をエンキューできませんでした。

X'00000633'

CQS 要求のバッファーを取得しようとしたましたが、失敗しました。

X'00000634'

RM 初期設定メンバー CSLRlxxx と、リソース構造内のリポジトリ・グローバル項目との間で、XCF グループの不一致があります。

X'00000635'

リポジトリ内部ブロックを取得しようとしたましたが、失敗しました。

X'00000636'

リポジトリ要求のバッファーを取得しようとしたましたが、失敗しました。

システムの処置: RM アドレス・スペース初期設定は異常終了します。


オペレーターの応答: 異常終了サブコードで示されたエラーの原因が環境条件である場合 (例えば、不適切な許可または無効なパラメーター)、示された問題を訂正してから、アドレス・スペースを再始動します。そうでなければ、ジョブ・ログおよびシステム・ログ情報を保管し、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。


ソース: CSL RM コード


モジュール:

CSLRIN00, CSLRIN10, CSLRIT00, CSLRPL10, CSLRL20

関連情報:

 BPE0006I (メッセージおよびコード)

 CSL0001E (メッセージおよびコード)

 CSL0002E (メッセージおよびコード)

SCI 異常終了コード

構造化呼び出しインターフェース (SCI) が問題を検出すると、Common Service Layer (CSL) によって異常終了コードが発行されます。これらのコードは、ユーザー異常終了として表示されます。

0010

説明: SCI 初期設定でエラーが起これ、SCI アドレス・スペースを開始できません。メッセージ BPE0006I はこの異常終了 0010-xxxxxxx として発行されます。ここで、xxxxxxx は異常終了サブコードです。異常終了が

発行されると、レジスター 15 に異常終了の理由を示すコードが入ります。この異常終了でメッセージ CSL0001E または CSL0002E が発行されていれば、そのメッセージでさらに問題を説明しています。

CSLSFRC0 が発行するサブコード

X'00000604'	同名の SCI が、OS イメージですすでにアクティブです。	サブコード	
CSLSIN00	が発行するサブコード	説明	
サブコード		X'00000600'	名前またはトークンの検索エラーが発生しました。
説明		X'00000604'	同名の SCI が、OS イメージですすでにアクティブです。
X'00000010'	CSLSANCH 制御ブロックの割り振り中に、エラーが発生しました。	X'00000608'	SGBL 割り振りでエラーが発生しました。
X'00000014'	BPEPARSE 作業域制御ブロックの割り振り中に、エラーが発生しました。	X'0000060C'	SGRT ストレージの取得中にエラーが発生しました。
X'00000018'	CSLSPLEX 制御ブロックの割り振り中に、エラーが発生しました。	X'00000610'	SGRT ストレージの解放中にエラーが発生しました。
X'00000080'	CSLSIxxx PROCLIB メンバーの読み取り中に、エラーが発生しました。	X'00000614'	ALESERV 抽出エラーが発生しました。
X'000000C0'	SCI 実行パラメーターの構文解析中に、エラーが発生しました。	X'00000618'	TCBTOKEN エラーが発生しました。
X'000000C4'	CSLSIxxx の構文解析中に、エラーが発生しました。	X'0000061C'	インターフェース・モジュールの BLDL マクロでエラーが発生しました。
X'00000100'	パラメーターの妥当性検査でエラーが発生しました。	X'00000620'	インターフェース・モジュールのロード中に、エラーが発生しました。
X'00000140'	トレース・テーブル作成アクションでエラーが発生しました。	X'00000624'	仮想記憶間モジュールのロード中に、エラーが発生しました。
X'00000180'	モジュール・プリロード・アクションでエラーが発生しました。	X'00000628'	ETCRE エラーが発生しました。
X'00000184'	BPELOADC マクロの発行中に、エラーが発生しました。	X'0000062C'	SVC モジュールの BLDL マクロ呼び出しでエラーが発生しました。
X'000001C0'	CSLSCQRY バッファ・プール作成アクションでエラーが発生しました。	X'00000630'	SVC モジュールのストレージ取得中に、エラーが発生しました。
X'00000200'	モジュール CSLZARM0 のエラーです。	X'00000634'	SVC モジュールのロード中に、エラーが発生しました。
X'00000204'	モジュール CSLZLIC0 でエラーが発生しました。	X'00000638'	BPESVC エラーが発生しました。
X'00000280'	ENFREQ 38 要求の発行中に、エラーが発生しました。	X'0000063C'	リソース・マネージャーの追加時に、エラーが発生しました。
CSLSING0	が発行するサブコード	X'00000640'	スタブ・モジュールの BLDL マクロでエラーが発生しました。
		X'00000644'	スタブ・モジュールのストレージ取得時に、エラーが発生しました。

0010

X'00000648'

スタブ・モジュールのロード中に、エラーが発生しました。

CSLSINP0 が発行するサブコード

X'00000700'

BPEIEANT RETRIEVE エラーが発生しました。

X'00000704'

RMBR ブロックの BPECBGET がエラーを検出しました。

X'00000708'

TYPL ブロックの BPECBGET がエラーを検出しました。

X'0000070C'

名前テーブルの BPEHTADD エラーが発生しました。

X'00000710'

トークン・テーブルの BPEHTADD エラーが発生しました。

X'00000714'

タイプ・テーブルの BPEGETM エラーが発生しました。

X'00000718'

名前テーブルの BPEHTCRE エラーが発生しました。

X'0000071C'

トークン・テーブルの BPEHTCRE エラーが発生しました。

X'00000720'

PGBL ブロックの STORAGE(OBTAIN) がエラーを検出しました。

X'00000724'

BPEIEANT CREATE エラーが発生しました。

X'00000728'

CSLSCREG func(REGISTER) エラーが発生しました。

X'0000072C'

IMSplex は、同じ z/OS イメージ上で別の名前の SCI によって管理されています。IMSplex は、1 つの z/OS イメージ上で単一の SCI のみが管理することができます。

X'00000730'

IMSplex は、以前 z/OS イメージ上で別の名前の SCI により管理されていました。IMSplex を新規 SCI で管理するには、FORCE=(ALL,SHUTDOWN) 始動パラメーターを指定し、前の名前を使用して SCI を立ち上げる必要があります。これで、前の SCI が残したグローバル・ブロックがクリーンアップされるので、別の名前の SCI を用いて IMSplex を管理できるようになります。

X'00000734'

CMBR の STORAGE(OBTAIN) が失敗しました。

X'00000738'

ALESERVE SEARCH が失敗しました。

X'0000073C'

ALESERV ADD が失敗しました。

X'00000740'

CSLSCRDY func(READY) エラーが発生しました。

X'00000744'

SCI をタイプ・テーブルに追加時に、エラーが発生しました。

X'00000748.'

タイプ・テーブルの BPEHTCRE エラーが発生しました。

X'0000074C'

IXCSETUS エラーが検出されました。

X'00000750'

到達不能なチェーン・ラッチの取得中に、BPELAGET エラーが発生しました。

X'00000754'

到達不能なチェーン・ラッチの解放中に、BPELAREL エラーが発生しました。

X'00000780'

INPO スレッドの作成中に BPETHDCR エラーが発生しました。

X'00000784'

INPO スレッドの待機中に BPRWAIT エラーが発生しました。

X'000007B0'

XCFC ラッチの取得中に、BPELAGET エラーが発生しました。

X'000007B4'

XCFC ラッチの解放中に、BPELAREL エラーが発生しました。

CSLSPL10 が発行するサブコード

X'00000780'

INPO スレッドの作成中に BPETHDCR エラーが発生しました。

X'00000784'

INPO スレッドの待機中に BPEWAIT エラーが発生しました。

CSLSPLR0 が発行するサブコード

X'000007A0'

RMBR ブロックの取得中に BPECBGET エラーが発生しました。

X'000007A4'

トークン・ハッシュ・テーブルに追加中に
BPEHTADD エラーが発生しました。

X'000007A8'

名前ハッシュ・テーブルに追加中に
BPEHTADD エラーが検出されました。

X'000007AC'

タイプ・テーブルに追加中に、エラーが発生し
ました。

CSLSIS00 が発行するサブコード

サブコード

説明

X'00000504'

IPLX スレッド作成エラーが発生しました。

X'00000508'

CSLTOT0 のロード中に、エラーが発生しまし
た。

X'0000050C'

RQTO スレッド作成エラーが発生しました。

X'00000510'

CSLSSRT0 のロード中に、エラーが発生しまし
た。

X'00000514'

SRTO スレッド作成エラーが発生しました。

CSLSIT00 および **CSLSIT10** が発行するサブコード

サブコード

説明

X'00000400'

不明な TCB タイプ・エラーが発生しました。

X'00000440'

CSLSIS00 のロード中に、エラーが発生しまし
た。

X'00000444'

SCIM スレッド作成エラーが発生しました。

X'00000448'

XCFP スレッド作成エラーが発生しました。

X'0000044C'

INTF スレッド作成エラーが発生しました。

CSLSXCG0 が発行するサブコード

X'00000800'

同名の SCI が、IMSpIex 内ですでにアクティ
ブです。

X'00000804'

BPEGETM エラーが発生しました。

X'00000808'

XCF グループの結合を試みているときに
IXCJOIN エラーが発生しました。

X'0000080C'

BPECBGET エラーが発生しました。

システムの処置: SCI は異常終了します。

プログラマーの応答: 障害の理由を判別します。メッセ
ージ CSLS0001E または CSLS0002E が発行され、追加
の診断情報が提供されます。問題を解決できない場合
は、SYSLOG およびダンプを保管してから、IBM ソフ
トウェア・サポートに連絡して、支援を受けてくださ
い。

ソース: CSL SCI コード

モジュール: CSLSIN00、CSLSIT00、CSLSIT10、
CSLSIS00、CSLSINP0、CSLPL10、CSLPLR0、
CSLSXCG0、CSLING0、CSLSFR0C

関連情報:

➡ BPE0006I (メッセージおよびコード)

➡ CSL0001E (メッセージおよびコード)

➡ CSL0002E (メッセージおよびコード)

CSL 戻りコードおよび理由コード

Common Service Layer (CSL) は、Common Service Layer メッセージに関連した
戻りコードおよび理由コードを発行します。エラー・ログは XML で発行されま
す。

CSL 出力で使用されているタグについては、「CSL OM 応答として返される XML
タグ (システム・プログラミング API)」を参照してください。

異なるコンポーネントからの戻りコードを区別するために、個々のコンポーネント
は CSL マクロ呼び出しで固有の戻りコード・セットを使用します。最初の 2 文字
が、戻りコードを生成したコンポーネントを示します。戻りコードの残りの 6 文字
は、以下のどのコンポーネントでも同じ意味を表します。

IMS 制御領域
00
構造化呼び出しインターフェース
01
Operations Manager
02
リソース・マネージャー
03
ODBM
04
IMS Connect
0C

最初の 2 文字で、戻りコード値および理由コード値について調べる文書を判別します。

- IMS コマンドの戻りコードおよび理由コードについては、DFSCMDRR に文書化されています。
- Structured Call Interface (SCI) の戻りコードおよび理由コードについては、CSLSRR に文書化されています。
- Operations Manager (OM) の戻りコードおよび理由コードについては、CSLORR に文書化されています。
- Resource Manager (RM) の戻りコードおよび理由コードについては、CSLRRR に文書化されています。
- ODBM の戻りコードおよび理由コードについては、CSLDRR に文書化されています。
- IMS Connect (ICON) の戻りコードおよび理由コードについては、HWSHRR に文書化されています。
- DBRC コマンドの戻りコードおよび理由コードについては、IMS.SDFSMAC データ・セット内の DSPIXL を参照してください。

CSLZ の戻りコードは、SCI、OM、または RM によって生成されることがあるので、個々の戻りコードは固有です。CSLZ 理由コードは、それを生成したコンポーネントに関係なく同じであり、CSLZRR に文書化されています。

上記のマクロはすべて、IMS.SDFSMAC データ・セット内にあります。

CSLOMCMD 戻りコードおよび理由コード

CSLOMCMD 要求は、どのように実行されたかを説明するために、戻りコードおよび理由コードを発行することができます。

これらのコードのリストは、CSLOMCMD: コマンド要求 (システム・プログラミング API)を参照してください。

CLSOMREG 戻りコードおよび理由コード

CLSOMREG マクロ要求は、戻りコード、理由コード、および完了コードを発行できます。

これらのコードのリストは、CSL0MREG: コマンド登録要求 (システム・プログラミング API)を参照してください。

REXX SPOC 戻りコードおよび理由コード

REXX SPOC 戻りコードおよび理由コードでは、REXX 単一制御点 (SPOC) から発行される戻りコードと理由コードについて説明します。戻りコードおよび理由コードは、16 進値ではなく、文字値です。コードの末尾の X は、読みやすくするためのものです。

IMSSPOC コマンド、IMS コマンド、および CSLULGTS コマンドでは、特殊変数を設定できます。これらの変数は、IMSRC と IMSREASON です。標準 REXX 戻りコードがゼロ以外の場合、これらの変数を参照してください。

REXX SPOC は、CSLSCREG または CSLOMCMC から戻りコードも生成します。

表 11. REXX SPOC API の戻りコードおよび理由コード

戻りコード	理由コード	意味
00000000X	00000000X	要求が正常に完了しました。
08000004X	00001000X	コマンドはまだ実行中です。
08000008X	00002000X	待機値が欠落しているか、または無効です。
	00002008X	IMSplex 値が欠落しているか、または無効です。
	00002012X	語幹名が欠落しているか、または無効です。
	00002016X	トークン名が欠落しているか、または無効です。
	00002020X	パラメーターが多すぎます。
	00002024X	要求トークンが見つかりませんでした。
	00002028X	CART 値が欠落しているか、または無効です。
	00002030X	オプションが認識されませんでした。
	00002044X	無効値が指定されました。
08000010X		環境エラーが発生しました。
08000014X	00004000X	GETMAIN 障害が発生しました。

第 8 章 OM を介して経路指定される IMS コマンドのコード

Operations Manager (OM) から経路指定されるすべての IMS コマンドは、戻りコード、理由コード、および完了コードを発行することができます。

コードは、DFSCMDRR マクロで定義されます。DFSCMDRR マクロは IMS.SDFSMAC データ・セット内にあります。

OM へのコマンドの戻りコードおよび理由コード

Operations Manager (OM) に経路指定されるコマンドは、問題の原因を特定するのに役立つ戻りコードおよび理由コードを発行することができます。

これは、コマンド処理クライアントのエラーである可能性があります。あるいは、コマンドがコマンド処理クライアントに送信される前にエラーが発生した場合には、TSO SPOC、SCI、または OM のエラーである可能性があります。このコマンドについてエラーを戻したアドレス・スペースを特定する上で、戻りコードの上位バイトが役立ちます。このエラーを戻したアドレス・スペースを判別すると、ソース・マクロから、コマンドについて戻された戻りコードおよび理由コードをさらに調査することができます。

以下の表は、エラーの戻りコードと理由コード、およびマクロを識別する上で役立ちます。マクロは IMS.SDFSMAC データ・セット内にあります。

表 12. エラーの戻りコードと理由コード、および対応するマクロの識別

戻りコードの上位バイト	エラーを戻したアドレス・スペース	戻りコードと理由コードを識別するためのマクロ名
X'00'	IMS	DFSCMDRR
X'01'	構造化呼び出しインターフェース (SCI) (Structured Call Interface (SCI))	CSLSRR
X'02'	Operations Manager (OM)	CSLORR
X'03'	Resource Manager (RM)	CSLRRR
X'04'	Open Database Manager (ODBM)	CSLDRR
X'08'	単一制御点 (SPOC)	CSLUXRR
X'0C'	IMS Connect	HWSHRR

完了コード

完了コードは、コマンドが実行されたリソースごとに、コマンド出力としてリスト形式で生成されます。

これらの完了コードの前に、RC=X'00000000' RN=X'00000000'、RC=X'0000000C' RN=X'00003000'、または RC=X'0000000C' RN=X'00003004' の戻りコードおよび理由コードが出されます。

これらの完了コードは、16 進数の文字表現です。

表 13. OM を介して経路指定される IMSplex コマンドの完了コード

完了コード	意味
C' 0'	要求は正常に終了しました。
C' 1'	発行されたコマンドは、この IMS に適用されません。
C' 2'	コマンドは、この IMS で試行されませんでした。
C' 3'	IMS はすでに、要求オンライン変更状態です。
C' 4'	オンライン変更フェーズがこの IMS で未完了です。
C' 8'	コマンドは一部について完了します。
C' C'	コマンドはいずれについても完了しません。
C' 10'	リソース名が無効です。
C' 11'	重複リソース名があります。
C' 14'	リソースは区画名ではありません。
C' 18'	区画は OLC によって削除されました。
C' 1C'	リソースは区分副次索引です。
C' 20'	INIT OLREORG が発行され、OLR はすでに進行中です。
C' 24'	進行中の OLR はありません。
C' 28'	ロードされた DMB はありません。データベースを参照する PSB をスケジュールに入れる必要があります。
C' 30'	コマンドが、共用キュー用に動的に構築されたトランザクションには無効です。
C' 31'	コマンドは DEDB に対して無効です。
C' 32'	コマンドは MSDB に対して無効です。
C' 33'	コマンドは HALDB マスターに対して無効です。
C' 34'	コマンドが、CPIC トランザクションには無効です。
C' 38'	コマンドが、BMP には無効です。
C' 3C'	ロード・バランシングがありません。MAXRGN が無効です。
C' 40'	PARLIM を変更できません。
C' 44'	トランザクションは話中です。コマンドはリジェクトされます。
C' 45'	トランザクションに無効な SID# があります。
C' 50'	CQS が使用できません。
C' 51'	リソース構造が存在しません。
C' 52'	リソース構造が満杯です。
C' 53'	リソース・マネージャー (RM) アドレス・スペースが存在しません。
C' 54'	SCI アドレス・スペースが存在しません。
C' 55'	インストールされた FASTPATH はありません。
C' 56'	全機能 (DLI) DB + ローカル・ストレージ・オプション + XRF トラッカー。
C' 57'	キュー構造がありません。

表 13. OM を介して経路指定される IMSplex コマンドの完了コード (続き)

完了コード	意味
C' 58'	IMS は RM サービスを使用しません (RMENV=N)。
C' 60'	GETMAIN ストレージ・エラーが発生しました。
C' 61'	DFSBCB ストレージ・エラーが発生しました。
C' 62'	HIOP ストレージ・エラーが発生しました。
C' 63'	WKAP ストレージ・エラーが発生しました。
C' 64'	GETSTOR ストレージ・エラーが発生しました。
C' 65'	DMB プール・ストレージ・エラー。
C' 66'	DMB プールがフル。
C' 70'	モジュール・ロード・エラーが発生しました。
C' 71'	モジュールの位置指定エラーが発生しました。
C' 72'	ランダムマイザー・ロード・エラーが発生しました。
C' 80'	データ・セット・エラーが発生しました。
C' 81'	DBRC エラー。
C' 90'	内部エラーが発生しました。
C' 91'	タイムアウト・エラーが発生しました。
C' 92'	コマンド処理エラー。
C' 94'	RM 要求エラーが発生しました。
C' 95'	SCI 要求エラーが発生しました。
C' 98'	CQS 要求エラーが発生しました。
C' A0'	動的割り振りが失敗しました。
C' A1'	データベースはバッチによって許可されています。
C' A2'	データベースは別の IMS によって許可されています。
C' A3'	許可変更が失敗しました。
C' A4'	データベースは DBRC に登録されていません。
C' A5'	データベースのそれ以上の DBRC 許可を防止します。
C' A6'	RECON データ・セット内に無効なデータベース・レコード。
C' A7'	CHNGAUTH に対して DBRC UNAUTH が失敗しました。
C' A8'	RECON データ・セット内に無効なデータベース・レコード。
C' A9'	データベース許可エラー。
C' AA'	データベースが使用中 - BMP。
C' AB'	データベースが使用中 - DBCTL 長スレッド。
C' AC'	高速機能エリア保留 - 長時間使用中待ち。
C' AD'	動的割り振り解除が失敗しました。
C' AE'	動的割り振りエラー。
C' AF'	OLC 待ちでデータベースが従属領域により使用中。
C' B0'	リソース定義エラーが発生しました。
C' B1'	リソース状態エラーが発生しました。
C' B2'	IMS 状態エラーが発生しました。
C' C1'	OLR DDIR が欠落しているか、DFSPNT がゼロです。
C' C2'	OLR が既に所有されています。

表 13. OM を介して経路指定される IMSplex コマンドの完了コード (続き)

完了コード	意味
C' C3'	OLR 区画が STOPPED/LOCKED/DBDUMPED です。
C' C4'	OLR 区画がリカバリー中です。
C' C5'	OLR 区画アクセスが UPDATE/EXCLUSIVE ではありません。
C' C6'	OLR スケジューリングが失敗しました。
C' C7'	OLR 区画が許可されていません。
C' C8'	OLR マスター・データベース STOPPED/LOCKED/DBDUMPED。
C' C9'	OLR マスター・データベース・アクセスが UPDATE/EXCLUSIVE ではありません。
C' CA'	OLR 所有権設定が失敗しました。
C' CB'	区画は指定された状況がありません。
C' CC'	区画について OLR がすでにアクティブです。
C' CE'	EEQE が存在しているため、HALDB OLR は区画内のデータのすべてをアクセスすることはできません。
C' D0'	データベース CLOSE エラー。
C' D1'	データベース WRITE エラー。
C' D2'	データベースはバックアウトが必要です。
C' D3'	データベースまたはエリアはリカバリーが必要です。
C' D4'	データベースはイメージ・コピーが必要です。
C' D5'	データベースにバックアウトがありません。
C' D6'	データベースは使用中です。
C' D7'	データベース入出力防止が完了しません。
C' D8'	データベース・バックアウトは保留中です。
C' D9'	データベース OPEN が失敗しました。
C' DA'	データベースは HSM から再呼び出し中です。
C' DB'	区画 OPEN が失敗しました。
C' DC'	HALDB 区画作成の失敗。
C' DD'	HALDB 区画 INIT の失敗。
C' DE'	ACBLIB 読み取りの失敗。
C' DF'	データベース・ディレクトリー INIT の失敗。
C' E0'	データベースまたはエリアがリカバリー中。
C' E2'	並列データベース OPEN が完了していません。
C' EE'	データベース・バックアウト・エラー。
C' EF'	データベースでエラー。
C' F0'	エリア・ロックがありません。
C' F1'	エリアが停止しません。
C' F2'	エリアに対してプリロードがアクティブ。
C' F3'	エリアに未解決の未確定。
C' F4'	割り振りが失敗しました。
C' F5'	エリアはリカバリーが必要です。
C' F6'	ADS 番号の矛盾。

表 13. OM を介して経路指定される IMSplex コマンドの完了コード (続き)

完了コード	意味
C' F7'	エリアが CF にロードされていません。
C' F8'	エリアに入出力許容 CI があります。

第 9 章 DL/I 状況コード

DL/I 処理中に、システムは、状況コードを発行することにより、DL/I コードで発生するイベントを報告します。

DL/I 状況コードについては、以下のトピックを参照してください。

関連資料:

277 ページの『第 19 章 IMS によって設定される AIB 戻りコードおよび理由コード』

DL/I 状況コードの概要

DL/I 操作は、状況または問題を報告するためのコードを発行します。

状況コード表では、簡単に各状況コードを説明し、それぞれの状況コードを受け取る可能性のある呼び出しをリストしています。また、この表では、各状況コードのカテゴリを示す番号の列を含みます。番号および対応する説明は次の項にあります。

サブセクション:

- 『DL/I 状況コードのカテゴリ』
- 120 ページの『データベース呼び出し』
- 127 ページの『メッセージ呼び出し』
- 131 ページの『システム・サービス呼び出し』

DL/I 状況コードのカテゴリ

状況コード表のカテゴリ列にある番号は、以下の状況コードのカテゴリを示します。

1. 例外ではあるが、有効な条件を示す状況コード。呼び出しは完了します。
2. 呼び出しが成功したときの、警告または通知のみの状況コード (例えば、GA および GK)。呼び出しがデータを要求した場合、IMS はデータを入出力域に戻します。呼び出しは完了します。
3. 呼び出しは成功したが、データは入出力域に戻されない場合の警告を示す状況コード。呼び出しは完了します。
4. ユーザーの指定が不適切であることを示す状況コード。ほとんどの状況コードがこのカテゴリに入ります。呼び出しは完了しません。
5. 入出力要求の実行中に、システム、入出力、またはセキュリティーのエラーが検出されたことを示す状況コード。呼び出しは完了しません。
6. データが利用不能であることを示す状況コード。
7. IRLM ロック要求で LOCKTIME 値を超えたため、呼び出しが完了できませんでした。

データベース呼び出し

表 14. データベース呼び出し :

P C B - S t a t u s - C o d 	C L S E - G S A M	D E Q	G U H U	G U R	G N G H N	G N P - G H N P	D L E T - R E P L	I R S T - O A D D	I R S T - A D D	F L D	P O S	O P E N - G S A M	Q U E R Y	R E F R E S H	T E R M	C a t e g o r y	説明
AB		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X			X		4	セグメント入出力域が必要であるが、呼び出しで何も指定されていない。全機能 DEQ 呼び出しにのみ適用される。
AC			X	X	X	X	X	X	X							4	SSA での階層上のエラー。
AD		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X			X		4	機能パラメーターが不適切。全機能 DEQ 呼び出しにのみ適用される。
AF			X	X	X											4	GSAM が無効な可変長レコードを検出した。
AG											X					4	無条件の POS 入出力域が小さすぎます。
AH								X	X							4	必要な SSA が欠落している。SETO 呼び出しでオプション・リストが指定されていない。
AI			X	X	X	X	X	X	X							5	データ管理でのオープン・エラー。
AJ		X	X	X	X	X	X	X	X	X						4	入出力域のパラメーター・フォーマットが不適切、SSA フォーマットが不適切、論理子セグメントの挿入に使用されたコマンドが不適切。AIB での入出力域の長さが無効、高速機能 Q コマンド・コードで指定されたクラス・パラメーターが不適切。
AK			X	X	X	X		X	X	X	X					4	SSA のフィールド名が無効。

表 14. データベース呼び出し (続き):

P C B - S t a t u s - C o d 	C L S E - G S A M	D E Q	G U - G H U	G U R	G N - G H N	G N P - G H N P	D L E T - R E P L	I R S T - L O A D	I R S T - A D D	F L D	P O S	O P E N - G S A M	Q U E R Y	R E F E R E N C E	T E R M	C a t e g o r y	説明
AM			X	X	X	X	X	X	X	X	X					4	呼び出し機能が、処理オプション、セグメントのセンシティブティ、トランザクション・コード、定義、またはプログラム・タイプと不適合。
AO			X	X	X	X	X	X		X						5	OSAM、BSAM、またはVSAMの入出力エラー。
AT							X	X	X							4	ユーザー入出力域が長過ぎる。
AU			X	X	X	X	X	X								4	SSA が長過ぎる。
BA			X	X	X	X	X		X							6	データが利用不能のため、呼び出しが完了しなかった。
BB			X	X	X	X	X		X							6	データが利用不能のため、呼び出しが完了しなかった。更新は、最後のコミット・ポイント以降のみがバックアウトされる。
BC		X														6	デッドロックの発生のため、呼び出しが完了しなかった。更新は、最後のコミット・ポイント以降のみがバックアウトされる。
BD			X	X	X	X	X		X							7	IRLM ロック要求で LOCKTIME で指定された値を超えたため、呼び出しが完了しなかった。
DA							X			X						4	セグメント・キー・フィールドまたは変更不能なフィールドが変更された。
DE				X												4	GUR 呼び出しは、AIB インターフェースでのみ発行できる。

表 14. データベース呼び出し (続き):

P C B - S t a t u s - C o d 	C L S E - G S A M	D E Q	G U - G H U	G U R	G N - G H N	G N P - G H N P	D L E T - R E P L	I R S T - L O A D	I R S T - A D D	F L D	P O S	O P E N - G S A M	Q U E R Y	R E F E R E N C E	T E R M	C a t e g o r y	説明
DJ							X									4	先行する GHU または GHN 呼び出しが成功していないか、または検索されないレベルの SSA が指定された。
DX							X									4	削除規則に違反。
EM										X							通常は、ユーティリティ用。
FA			X	X					X							4	MSDB 算術オーバーフロー・エラーが発生した。
FC										X						4	POS 呼び出しは、直接従属セグメント専用。
FD			X	X	X	X	X	X	X							3,6	CHKP または SYNC 呼び出し中にデッドロックが発生したか、外部サブシステムの障害が発生した。
FE									X							4	FSA エラー (フィールド名以外)。
FF								X								3	MSDB にスペースがない。
FG									X							4	FE と FW のコードの組み合わせ。
FH			X	X	X	X	X	X	X	X						3	領域が使用不可であるか、または更新呼び出しと CHKP または SYNC との間で領域の状況が変化した。
FI			X	X	X	X	X	X	X	X						4	入出力域がユーザーの従属領域内にない。
FM			X	X	X	X		X	X	X						4	ランダム化ルーチンの戻りコード = 4。
FN									X							4	FSA エラー (フィールド名)。
FP							X	X	X							4	無効な 16 進データまたは 10 進データ。

表 14. データベース呼び出し (続き):

P C B - S t a t u s - C o d 	C L S E - S A M	D E Q	G U - H U	G U R	G N - G H N	G N P - G H N P	D L E T - R E P L	I R S T - L O A D	I R S T - A D D	F L D	P O S	O P E N - G S A M	Q U E R Y	R E F E R E N C E	T E R M	C a t e g o r y	説明
FR			X	X	X	X	X	X	X	X	X					5	合計バッファ割り振りを超えた。
FS								X								3	DEDB エリアがフル。
FT			X	X	X	X	X	X			X					4	呼び出しでの SSA が多過ぎる。
FV										X						3	MSDB 条件検査が失敗した。
FW		X	X	X	X	X	X	X	X	X	X					2	通常認められているよりも多くのリソースが必要。 DEQ 呼び出しの場合、高速機能がバッファを解放できなかった。 COMMIT の発行を検討する。
FY			X	X	X	X	X	X	X	X	X					4	現在位置より前にある順次データを読み取ろうとした。
GA					X	X										2	階層境界を交差した。
GB					X											1	データベースの終わり。
GC			X	X	X			X			X					3	作業単位 (UOW) 境界を交差した。
GD									X							1	呼び出しが挿入より上位の全レベルの SSA を持たないため、セグメント位置が失われた。
GE			X	X	X	X			X							1	セグメントが見つからない。
GG			X	X	X	X										5	セグメントに、無効なポインターが含まれている。
GK					X	X										2	同じレベルのセグメント境界を交差した。
GL		X														4	無効なユーザー・ログ・コード。全機能 DEQ 呼び出しにのみ適用される。
GP						X			X		X					4	親子関係が設定されていない。
HT											X						通常は、ユーティリティー用。

表 14. データベース呼び出し (続き):

P C B - S t a t u s - C o d 	C L S E - G S A M	D E Q	G U - G H U	G U R	G N - G H N	G N P - G H N P	D L E T - R E P L	I R S T - L O A D	I R S T - A D D	F L D	P O S	O P E N - G S A M	Q U E R Y	R E F R E S H	T E R M	C a t e g o r y	説明
II								X								3	セグメントが存在する。
IX								X								4	挿入規則の違反。
L2								X								1	エリアのロックが失敗した。
LB								X								1	ロードしようとしているセグメントが、データベース内に存在している。
LC								X								4	セグメントのキー・フィールドの順序に誤りがある。
LD								X								4	このセグメントの親がロードされていない。
LE								X								4	兄弟セグメントのシーケンスが、DBD シーケンスと同じではない。
LF								X								4	HALDB PHDAM または PHIDAM データベースのいずれかに、論理子セグメントをロードしようとした。
LS								X								1	エリア用に十分な CI スペースが事前割り振りされなかったか、または SDEP CI ロックが失敗したため、処理はバックアウトされることがある。
NA													X	X		6	データベースが使用不能。
NE							X									3	索引保守によって発行された DL/I 呼び出しがセグメントを見つけれない。
NI							X	X	X							1	索引保守で索引内に重複したセグメントが見つかったか、またはオープン・エラーが検出された。

表 14. データベース呼び出し (続き):

P C B - S t a t u s - C o d 	C L S E - G S A M	D E Q	G U - G H U	G U R	G N - G H N	G N P - G H N P	D L E T - R E P L	I R S T - L O A D	I R S T - A D D	F L D	P O S	O P E N - G S A M	Q U E R Y	R E F E R E N C E	T E R M	C a t e g o r y	説明
NO							X	X	X							5	OSAM、BSAM、またはVSAMの入出力エラー。
NU													X	X		6	データベースが更新には使用不能。
OS										X							通常は、ユーティリティ用。
RX							X									4	置き換え規則に違反。
SD			X		X	X										4	コマンド・コード O と高速機能副次索引データベースに対する位置および長さを指定したSSAは許可されない。
SF			X		X	X			X							4	変更されたセグメントは、変更されたACBメンバーがオンライン変更によって活動化されるまでは、フィールド・レベル・センシティブティを使用してアクセスできない。
TH													X			4	PSBがスケジュールされなかった(コマンド・レベルのみ)。
TI								X								4	セグメントへのパスが無効(コマンド・レベルのみ)。
			X	X	X	X	X		X						X	5	DL/Iがアクティブでない(コマンド・レベルのみ)。
			X	X	X	X	X	X	X							5	システムDIBが無効(コマンド・レベルのみ)。
TO							X									4	パス置換エラー(コマンド・レベルのみ)。
TP			X	X	X	X	X	X	X							4	PCBの番号が無効、または処理オプションが無効(コマンド・レベルのみ)。

表 14. データベース呼び出し (続き):

P C B - S t a t u s - C o d 	C L S E - G S A M	D E Q	G U - G H U	G U R	G N - G H N	G N P - G H N P	D L E T - G R E P L	I R S T - L O A D	I R S T - A D D	F L D	P O S	O P E N - G S A M	Q U E R Y	R E F E R E N C E	T E R M	C a t e g o r y	説明
TR		X	X	X	X	X	X	X			X				X	4	CICS® XDLPRE ユーザー出口が、前の要求を実行すべきでないと判別した。
TY			X	X	X	X	X	X	X							5	データベースがオープンしていない (コマンド・レベルのみ)。
TZ			X	X	X	X	X		X			X				5	セグメントの長さが 64 KB を超えている。
UC								X								1	チェックポイントが取られた (ユーティリティ制御機能 (UCF) の状況コード)。
US								X								1	停止 (UCF 状況コード)。
UX								X								1	チェックポイントおよび停止 (UCF 状況コード)。
V1							X	X	X							4	セグメントの長さが DBDGEN の制限内ではない。
V2			X	X	X	X	X	X	X			X			X	4	セグメントの長さが無効 (コマンド・レベルのみ)。
V3			X	X	X	X			X							4	フィールド長が欠落または無効 (コマンド・レベルのみ)。
V4			X	X	X	X	X	X	X							4	可変長セグメントの長さが無効 (コマンド・レベルのみ)。
V5			X	X	X	X	X		X							4	オフセットが無効 (コマンド・レベルのみ)。
V6			X	X	X	X	X		X							4	連結キーの長さが無効 (コマンド・レベルのみ)。
XX			X	X	X			X	X							5	内部 GSAM エラー。
bb1	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	1	状況コードは戻されない。先へ進む。

注:
1. bb はブランクを示します。

メッセージ呼び出し

表 15. メッセージ呼び出し :

P C B - s t a t u s - c o d e	A U T H	G U	G N	I S R T	C H N G	C M D	G C M D	P U R G E	S E T O	C a t e g o r y	説明
AA				X	X					4	代替応答 PCB に対する CHNG 呼び出しでは、論理端末宛先のみ指定できるが、トランザクション・コード宛先が指定された。
AB	X	X	X	X	X	X	X			4	セグメント入出力域が必要であるが、呼び出しで何も指定されていない。
AD		X	X	X	X	X	X	X	X	4	機能パラメーターが無効。
AH									X	4	必要な SSA が欠落している。 SETO 呼び出しでオプション・リストが指定されていない。
AJ									X	4	入出力域の無効なパラメーター・フォーマット、無効な SSA フォーマット、論理子セグメントの挿入に使用された無効なコマンド。 AIB の入出力域の長さが無効。
AL	X	X	X	X	X	X	X	X		4	バッチ・プログラムで入出力 PCB を使用した呼び出し。
AP	X	X	X	X	X	X	X	X		4	TP PCB に対して 4 つを超えるユーザー呼び出しパラメーターを指定するのは無効。
AR					X				X	4	IMS オプション・キーワードに関連した、オプション・リスト内のエラー。
AS					X				X	4	PRTO= オプションに、無効なデータ・セット処理オプションが含まれていた。
AT	X			X				X		4	ユーザー入出力域が長過ぎる。
AX	X			X	X				X	5	システム・エラー。呼び出しは正常に終了しない。
AY				X						4	ISRT 呼び出しで参照される代替応答 PCB に、入力目的で割り当てられた複数の物理端末がある。マスター端末オペレーターに通知する。
AZ								X		4	会話型プログラムが、バージできない PCB に対して PURGE 呼び出しを発行した。
A1	X			X	X					4	無効な総称クラスで AUTH 呼び出しを行おうとしたか、あるいは、CHNG または ISRT 呼び出しで指定された宛先名を設定しようとしたときにエラーが発生した。

表 15. メッセージ呼び出し (続き):

P C B - s t a t u s - c o d e	A U T H	G U	G N	I S R T	C H N G	C M D	G C M D	P U R G	S E T O	C a t e g o r y	説明
A2					X					4	無効な PCB (変更可能ではない PCB、またはすでに ISRT 操作済み) で呼び出しを行おうとした。
A3				X				X		4	宛先を設定せずに、変更可能な TP PCB に対して呼び出しを行おうとした。
A4	X			X	X					4	AUTH 呼び出し、CHNG 呼び出し、または会話型の応答での ISRT のいずれかの処理中に、セキュリティー違反が検出された。
A5				X				X		4	2 番目以降のメッセージ ISRT または PURG で形式名が指定された。
A6				X						4	呼び出しで、出力セグメント・サイズの制限を超えた。
A7				X						4	挿入された出力セグメント数が制限を 1 つ超えた。これ以降のキュー・マネージャー呼び出しは、メッセージ・キュー・オーバーフローを防止するため、禁止される。
A8				X						4	代替応答 PCB への ISRT の後に入出力 PCB への ISRT が続いたか、あるいはその逆があった。
A9				X						4	呼び出しで参照される代替応答 PCB では、送信元物理端末が出力応答を受信することが要求される。
CA						X				4	コマンドが無効。コマンド応答は生成されない。
CB						X				4	入力されたコマンドが AOI では使用できない。コマンド応答は生成されない。
CC						X				2	コマンドが実行された。1 つ以上のコマンド応答が生成された。
CD						X				4	入力されたコマンドがセキュリティーに違反する。コマンド応答は生成されない。
CE		X								2	CMD 呼び出しの後、トランザクションがスケジュール変更された。コミット・ポイントには達していなかった。
CF		X								2	IMS の最新の開始前に、メッセージがキューにあった。
CG		X								2	トランザクションは、AOI 出口ルーチンから発信された。
CH						X				5	AOI でシステム・エラーが検出された。CMD 要求は処理されない。CMD 呼び出しを再発行する。

表 15. メッセージ呼び出し (続き) :

P C B - s t a t u s - c o d 	A U T H	G U	G N	I S R T	C H N G	C M D	G C M D	P U R G	S E R T O	C a t e g o r y	説明
CI		X								2	IMS の最新の開始前に、トランザクションがキューにあった。トランザクションはスケジュール変更された。コミット・ポイントには達していない。
CJ		X								2	トランザクションは、AOI 出口ルーチンから発信された。メッセージはスケジュール変更された。コミット・ポイントには達していない。
CK		X								2	トランザクションは、AOI 出口ルーチンから発信された。IMS の前回の開始前に、メッセージがキューにあった。
CL		X								2	トランザクションは、AOI 出口ルーチンから発信された。IMS の前回の開始前に、メッセージがキューにあった。メッセージはスケジュール変更された。コミット・ポイントには達していなかった。
CM						X				3	コマンドが実行された。コマンド応答は生成されない。
CN						X				4	PSBGEN マクロの IOASIZE= パラメーターが、CMD 呼び出しの最小要件を満たしていない。
E1				X	X					4	DFSMSCE0 ユーザー経路指定出口で、CHNG または ISRT 呼び出しがリジェクトされた。
E2				X	X					4	DFSMSCE0 ユーザー経路指定出口で、CHNG または ISRT 呼び出しがリジェクトされた。
E3				X	X					4	DFSMSCE0 ユーザー経路指定出口で、CHNG または ISRT 呼び出しがリジェクトされた。
FF		X								3	MSDB にスペースがない。
FH		X								3	DEADB がアクセス不能。
FI			X	X	X					4	入出力域がユーザーの従属領域内にはない。
FS		X								3	DEADB エリアがフル。
FV		X								3	MSDB 条件検査が失敗した。
MR		X	X	X		X	X	X		4	IBM IMS Queue Control Facility for z/OS ルーチンによって検出されたエラー。
QC		X								3	これ以上、入力メッセージはない。
QD			X				X			3	これ以上、このメッセージのセグメントはない。

表 15. メッセージ呼び出し (続き):

P C B - s t a t u s - c o d e	A U T H	G U	G N	I S R T	C H N G	C M D	G C M D	P U R G	S E T O	C a t e g o r y	説明
QE			X				X			4	GU の前に、GN が要求された。 CMD の前に、GCMD が要求された。
QF		X		X				X	X	4	セグメントが 5 文字より短い (セグメントの長さは、メッセージ・テキストの長さに制御文字の 4 文字を加えたもの)。 (非共用キュー)
				X							共用キューがフル。 (共用キュー)
QH				X	X			X	X	4	端末シンボリック・エラー。出力指定が IMS に認識されない (論理端末またはトランザクション・コード)。メッセージ・セグメントの LL が 5 バイト未満か、あるいは、入出力域内の宛先名がブランクまたは無効である。
TG	X									4	PSB がスケジュールされなかった (コマンド・レベルのみ)。
	X									5	システム DIB が無効 (コマンド・レベルのみ)。
TP	X									4	PCB の番号が無効、または処理オプションが無効 (コマンド・レベルのみ)。
TY	X									5	データベースがオープンしていない (コマンド・レベルのみ)。
TZ	X									5	セグメントの長さが 64 KB を超えている。
XA				X						4	端末に回答した後で、プログラム間通信で SPA を渡すことにより、会話の処理を継続しようとした。
XB				X						4	プログラムが、SPA を他のプログラムに渡したにもかかわらず、応答しようとした。
XC				X						4	プログラムが Z1 フィールドのビットを設定してメッセージを挿入した。これらのビットは、システム使用のために予約済み。
XE				X						4	高速 PCB に対して SPA を挿入しようとした。
XF				X	X					4	SPA の ISRT 呼び出しで指定された代替 PCB は、論理端末に対して宛先が設定されているが、ALTRESP=YES として定義されていなかった。 MSC 直接経路指定では、会話型トランザクション間のプログラム間通信がサポートされていない。

表 15. メッセージ呼び出し (続き):

P C B - s t a t u s - c o d e	A U T H	G U	G N	I S R T	C H N G	C M D	G C M D	P U R G	S E T O	C a t e g o r y	説明
XG				X						4	現行の会話では固定長の SPA が必要である。長さの異なる SPA または非固定長の SPA を持つトランザクションに SPA を挿入しようとした。
X2				X				X		4	会話型のトランザクション・コード PCB への最初の挿入が SPA ではなかった。
X3				X						4	無効な SPA。
X4				X						4	会話型ではないトランザクション・コード PCB に挿入されたが、セグメントが SPA であった。
X5				X						4	トランザクション・コード PCB に複数の SPA が挿入された。
X6				X						4	無効なトランザクション・コード名が SPA に挿入された。APPC または OTMA 保護トランザクションの場合、即時プログラム間通信または据え置きプログラム切替えは許されません。
X7				X						4	SPA の長さが不適切である (ユーザーが、最初の 6 バイトを変更した)。
X9				X						4	SPA の長さが、PSB 入出力域のサイズよりも大きい。
bb1	X	X	X	X	X	X	X	X	X	1	状況コードは戻されない。先へ進む。
注:											
1. bb はブランクを示します。											

システム・サービス呼び出し

APSB、DPSB、および ROLL の各呼び出しは、下の表に含まれていますが、状況コードを受け取りません。

表 16. システム・サービス呼び出し :

P C B - s t a t u s - c o d 	C H K P	I N T	I N Q Y	J A V A - S Y N C	L O G	P C B	R O L B	R O L L	R O L S	S E T S	S E T U	S N A P - (1)	S T A T - (2)	S Y N C	X R S T	C a t e g o r y	説明
AB	X	X	X		X								X			4	セグメント入出力域が必要であるが、呼び出しで何も指定されていない。
AC													X			4	SSA での階層上のエラー。
AD	X	X	X		X		X	X	X	X			X	X	X	4	機能パラメーターが無効。
AG			X													4	データの一部分が戻された。入出力域が小さ過ぎる。
AJ		X	X						X							4	入出力域の無効なパラメーター・フォーマット、無効な SSA フォーマット、論理子セグメントの挿入に使用された無効なコマンド。 AIB の入出力域の長さが無効。
AL							X		X	X						4	バッチ・プログラムで入出力 PCB を使用した呼び出し。
AP	X															4	TP PCB に対して 4 つを超えるユーザー呼び出しパラメーターは無効。
AQ			X													4	無効な副次機能コード。
AT					X											4	ユーザー入出力域が長過ぎる。
BE		X														4	INIT 呼び出しの VERSION 機能で指定されたデータベース名が見つからない。
BF		X														4	INIT VERSION 呼び出しが無効であるか、データベースのバージョン管理が使用可能になっていない。
BG		X														4	サポートされないデータベース・タイプ
BJ			X													6	PSB に含まれるすべてのデータベースが利用不能、または PSB 内にデータベース PCB がない。

表 16. システム・サービス呼び出し (続き):

P C B - s t a t u s - c o d 	C H K P	I N T	I N Q Y	J A V A - S Y N C	L O G	P C B	R O L B	R O L L	R O L S	S E T S	S E T U	S N A P - (1)	S T A T - (2)	S Y N C	X R S T	C a t e g o r y	説明
BK			X													6	PSB に含まれるデータベースの少なくとも 1 つが利用不能または使用が制限されているか、あるいは、少なくとも 1 つの PCB が NA または NU 状況コードを受け取った。
FA	X													X		4	MSDB 算術オーバーフロー・エラーが発生した。
FD		X												X		3	デッドロックが発生した。
FF	X															3	MSDB にスペースがない。
FH	X													X		3	DEADB がアクセス不能。
FI	X						X									4	入出力域がユーザーの従属領域内がない。
FS	X													X		3	DEADB エリアがフル。
FV	X													X		3	MSDB 条件検査が失敗した。
GA													X			2	階層境界を交差した。
GE	X												X	X		1	セグメントが見つからない。
GL					X											4	無効なユーザー・ログ・コード。
NA		X														6	データベースが使用不能。
NL	X															4	XEFRDER カードが指定されていない。
NU		X														6	データベースが更新には使用不能。
QC	X															3	これ以上、入力メッセージはない。
QE	X						X									4	GU の前に、GN が要求された。 CMD の前に、GCMD が要求された。
QF	X															4	セグメントが 5 文字より短い (セグメントの長さは、メッセージ・テキストの長さに制御文字の 4 文字を加えたもの)。

表 16. システム・サービス呼び出し (続き):

P C B - s t a t u s - c o d 	C H K P	I N T	I N Q Y	J A V A - S Y N C	L O G	P C B	R O L B	R O L L	R O L S	S E T S	S E T U	S N A P - (1)	S T A T - (2)	S Y N C	X R S T	C a t e g o r y	説明
RA									X							4	トークンが SETS 用のものと一致しない。あるいは、前回の呼び出しで PCB が BA または BB を受け取っていない。
RC									X							4	PSB 内のサポートされていない PCB を使用して ROLS 呼び出しが発行された。あるいは、プログラムが接続サブシステムを使用中。
SA										X						5	スペース不足
SB										X						4	可能な最大レベル数を超える可能性がある。
SC										X	X					5	PSB 内のサポートされていない PCB を使用して SETS/SETU 呼び出しが発行された。あるいは、プログラムが接続サブシステムを使用中。
SY				X												5	IMS Java™ アプリケーションの同期点の処理中に内部エラー。
TA						X										5	PSB が PSB ディレクトリーにない (コマンド・レベルのみ)。
TC						X										4	PSB はすでにスケジュールされている (コマンド・レベルのみ)。
TE						X										5	PSB の初期設定が失敗した (コマンド・レベルのみ)。
TJ						X										5	DL/I がアクティブでない (コマンド・レベルのみ)。
TL						X										4	スケジューリング意図に矛盾がある (コマンド・レベルのみ)。
TN	X				X	X	X	X					X		X	5	システム DIB が無効 (コマンド・レベルのみ)。

表 16. システム・サービス呼び出し (続き):

P C B - s t a t u s - c o d 	C H K P	I N T	I N Q Y	J A V A - S Y N C	L O G	P C B	R O L L B	R O L L L	R O L L S	S E T S	S E T U	S N A P - (1)	S T A T - (2)	S Y N C	X R S T	C a t e g o r y	説明
TP						X							X			4	PCB の番号が無効、または処理オプションが無効 (コマンド・レベルのみ)。
TR					X	X				X			X			4	CICS XDLPRE ユーザー出口が、前の要求を実行すべきでないと判別した。
TY						X							X			5	データベースがオープンしていない (コマンド・レベルのみ)。
TZ						X							X			5	セグメントの長さが 64 KB を超えている。
V2						X										4	セグメントの長さが無効 (コマンド・レベルのみ)。
V7													X			4	統計エリアの長さが無効 (コマンド・レベルのみ)。
XD	X													X		1	IMS が終了中。これ以上の DL/I 呼び出しを発行してはならない。メッセージは戻されない。
bb3	X	X	X		X	X	X		X	X	X	X	X	X	X	1	有効。状況コードは戻されない。先へ進む。

注:

1. SNAP は、プロダクト・センシティブ・プログラミング・インターフェースです。
2. STAT は、プロダクト・センシティブ・プログラミング・インターフェースです。
3. bb はブランクを示します。

DL/I 状況コードの説明

EXEC DL/I コマンドの場合、アプリケーション・プログラムに戻されることが示されている状況コードを除き、すべての状況コードによって、アプリケーション・プログラムの異常終了が引き起こされます。

すべての説明は、説明が別れている場合を除いて、DL/I 呼び出し (呼び出しレベル) プログラムおよび EXEC DLI (コマンド・レベル) プログラムの両方に適用されます。「要求」という用語は、呼び出しまたはコマンド、あるいはその両方を意味します。

DL/I 呼び出しの状況コードは、以下のとおりです。

AA

説明: 呼び出しで参照される代替応答 PCB で宛先としてトランザクション・コードが指定されているため、IMS は、CHNG または ISRT 呼び出しを無視しました。代替応答 PCB には、宛先として論理端末を指定する必要があります。

プログラマーの応答: CHNG または ISRT 呼び出しを訂正します。

ソース: DL/I コード

AB

説明: この呼び出しのパラメーターの 1 つとして入出力域が必要であるが、呼び出しで入出力域が指定されませんでした。この状況コードが戻された後、データベース内の位置は変更されません。AB は、全機能 DEQ 呼び出しにのみ適用されます。

プログラマーの応答: 呼び出しパラメーターの 1 つとして入出力域のアドレスを指定して、呼び出しを訂正します。

ソース: DL/I コード

AC

説明: 呼び出しレベルのプログラムの場合: 次のいずれかの理由により、DLET、Get、ISRT、REPL、または FLD 呼び出しの SSA にエラーがあります。

- DL/I は、呼び出しで指定された DB PCB 内で、SSA に指定されたセグメント名を持つセグメントを見つけることができなかった。
- セグメント名は DB PCB 内にあったが、そのセグメント名を指定する SSA の階層シーケンスが正しくない。
- 呼び出しで、同じ階層レベルの 2 つの SSA が指定されている。
- PROCSEQD= パラメーターを指定した PCB を使用して、副次索引により 1 次 DEDB データベースにアクセスする場合、ターゲット従属セグメントの主キー・フィールドを使用した SSA の修飾 GU または GN セグメント名呼び出しはサポートされていません。
- GUR 呼び出しは、PSB または DBD のレベルを超えて SSA を指定します。

- SRCH、SUBSEQ、または DDATA など、高速機能副次索引の関連フィールドを更新するために、FLD 呼び出しが発行されました。これはデータ保全性のためには許可されていません。

IMS は、この状況コードを STAT¹呼び出しに無効な統計機能が指定されている場合にも戻します。この状況コードが戻された後、データベース内の位置は変更されません。

コマンド・レベルのプログラムの場合: 次のいずれかの理由により、Get または ISRT コマンドの WHERE または SEGMENT オプションのいずれかにエラーがあります。

- DL/I は、SEGMENT オプションに指定されたセグメント名を持つセグメントを DB PCB 内で見つけることができなかった。
- セグメント名は DB PCB 内にあったが、コマンドの修飾はそのセグメント名を正しい階層シーケンスで指定していない。
- コマンドで、同じ階層レベルの 2 つの SEGMENT オプションが指定されている。

プログラマーの応答: SSA または SEGMENT オプションのセグメント名、あるいは STAT¹ 呼び出しの統計機能のセグメント名を訂正します。

ソース: DL/I コード

AD

説明: 呼び出しレベルのプログラムの場合: 呼び出しの機能パラメーターが無効であるか、または呼び出しで指定された PCB のタイプではその機能がサポートされていません。全機能 DEQ 呼び出しにのみ適用されます。原因として、次のものが考えられます。

- 機能パラメーターが無効である。
- システム・サービス呼び出しで、入出力 PCB 以外の PCB が使用された。
- DCCTL 環境で発行された呼び出しが、サポートされない PCB またはデータベースを参照した。
- メッセージ GU または GN 呼び出しで、入出力 PCB の代わりに代替 PCB が使用された。

1. STAT はプロダクト・センシティブ・プログラミング・インターフェースです。

- データベース呼び出しで、DB PCB でない PCB が使用された。
- BMP JCL で IN=trancode を指定せずに、メッセージ GU で入出力 PCB が使用された。
- SETS または ROLS 呼び出しで入出力域が指定されたが、トークンが省略された。
- CPI Communications ドリブン・プログラムが、入出力 PCB で SETO 呼び出しを発行した。
- 入出力 PCB に対して、IFP 領域から呼び出しが発行された。
- スプール API 処理に対して、無効なサブシステム・レベルが指定された。
- 非高速機能システムで DEDB または MSDB PCB に対して DL/I 呼び出しが行われた。

コマンド・レベルのプログラムの場合: この環境でサポートされていないコマンドが発行されました。オンライン・プログラムでのシステム・サービス・コマンドが一例です。コマンドが正しい場合、他に可能性のある原因は次のとおりです。

- システム・サービス・コマンドで DB PCB を参照している。システム・サービス・コマンドは、入出力 PCB を参照しなければなりません。
- データベース・コマンドで入出力 PCB を参照しているか、またはシステム・サービス・コマンドを発行する前に入出力 PCB を定義していない。
- DCCTL 環境で発行されたコマンドが、サポートされないデータベースまたは DB PCB を参照した。

プログラマーの応答: 指定された機能が、要求で指定された PCB に対して有効かどうかを確認します。

ソース: DL/I コード

AF

説明: GSAM が、GU、GHU、GN、または GHN 呼び出しで無効な長さの可変長レコードを検出しました。

プログラマーの応答: プログラムを訂正します。

ソース: DL/I コード

AG

説明: INQY 呼び出し処理時に、入出力域の大きさが不十分のため、出力データをすべて収容できませんでした。入出力域には、用意されたエリアに収まるだけの、部分的なデータが入られました。AIBOALEN には、アプリケーションに戻されたデータの実際の長さが含まれ、AIBOAUUSE には、アプリケーション・プログラムがデータをすべて受け取るのに必要な出力域の長さが含まれます。

POS 呼び出しの処理中に、入出力域の大きさが不十分のため、出力データをすべて収容できませんでした。入

出力域のサイズは PSBIOASZ に基づきます。このサイズは、PSBGEN で IOASIZE パラメーターによってユーザーが指定するか、または ACBGEN により計算されます。詳しくは、PSBGEN ステートメント (システム・ユーティリティ)を参照してください。

IMS バージョン 13 以降のシステムで INIT VERSION 呼び出しを処理中に、入出力域の大きさが出力データのすべてを収容するのに十分な大きさではありませんでした。出力データは、入出力域に収まるように切り捨てられました。

プログラマーの応答: より大きな入出力域を使用するようにアプリケーション・プログラムを訂正します。

INQY 呼び出しの場合、入出力域の最小サイズは、AIBOAUUSE フィールドに入っている値です。

POS 呼び出しの場合、入出力域の最小サイズは $((\text{領域の数}) * 24) + 2$ で計算され、最大サイズは 49154 バイトです。

IMS バージョン 13 以降のシステムでの INIT VERSION 呼び出しの場合、入出力域の LL フィールドまたは LLLL フィールドで指定されたサイズを増やします。入出力域の最小サイズは、入出力域に指定されているデータベースの数に 20 を乗算して計算します。例えば、次の FUNCTION 指定には 3 つのデータベース名が含まれているので、入出力域には 60 バイト必要です。

VERSION (DBa=1,DBb=2,DBc=3)

ソース: DL/I コード

AH

説明: 次の場合に、この状況コードが戻されます。

1. オプション・リスト・パラメーターを呼び出しリストに指定しなかった。
2. プログラムが、SSA を指定しない ISRT 呼び出しを発行した。ISRT 呼び出しには SSA が必要です。
3. プログラムが GSAM データベースに対して GU 呼び出しを発行したときに、GU で RSA を指定しなかった。RSA は、GSAM データベースに対する GU 呼び出しに必要です。この状況コードが戻された後、データベース内の位置は変更されません。

プログラマーの応答: 2 番目の理由の場合、修飾を含めるように ISRT 呼び出しを訂正します。3 番目の理由の場合、RSA を追加するように GU 呼び出しを訂正します。

ソース: DL/I コード

AI

説明: データ管理のオープン・エラーが発生しました。原因として、次のものが考えられます。

- DD ステートメントにエラーがある。
- このデータベースについて、DD ステートメントも DFSMDA 動的割り振りメンバーも指定されなかった。
- データ・セットの OPEN 要求でロード・モードが指定されなかったが、データ・セットは空であった。空のデータ・セットの場合、PCB でロード・オプションが必要です。
- バッファが小さすぎて、オープン時に読み取られたレコードを保持できない。
- 論理関係を持つデータベースについて、DD ステートメントも DFSMDA メンバーも指定されなかった。
- OSAM データ・セットの場合、OSAM DCB、DSCB、または JFCB の DSORG フィールドに PS または DA が指定されていない。
- 古い OSAM データ・セットの場合、DSCB の BUFL または BLKSIZE フィールドが 0 である。
- データ・セットがロード用にオープンされているが、1 つ以上のセグメントの処理オプションが L または LS 以外である。
- OSAM データ・セットの割り振りが無効である。割り振りが (x,y) ではなく (x,y,z) になっている可能性があり、この割り振りのため DSORG が P0 になっています。
- 処理オプションが L であり、OSAM データ・セットが古く、しかも DSCB の LRECL または BLKSIZE (あるいはその両方) が DBD の LRECL または BLKSIZE (あるいはその両方) と一致しない。
- 正しくない、または欠落した情報のため、IMS がブロック・サイズまたは論理レコード長を判別できない。
- 要求された VSAM データベースにアクセスするためのカタログが利用不能である。
- OS は OPEN を実行できなかったが、入出力要求は妥当である。データ定義情報が正しくないか、または情報が欠落しています。
- OSAM データ・セットを保護するために RACF® が使用されているが、制御領域は更新許可を持っていない。

IMS がメッセージ DFS0730I を戻した場合、ジョブ・ログ内のこのメッセージから OPEN 障害の原因を判別できます。


プログラマーの応答: この種の問題では、システム・プログラマーまたはシステム管理者の支援が必要になることがあります。しかし、これらの担当者の支援を受ける

前に、次のことを行ってください。

- DD ステートメントを検査する。DD 名が DBD の DATASET ステートメントで指定された名前と同じかどうかを確認します。DB PCB (呼び出しレベル) または DIB (コマンド・レベル) のセグメント名エリアに、オープンできなかったデータ・セットの DD 名が入っています。
- PSB を検査し、プログラムが使用する DB PCB ごとに適切な処理オプションが指定されているかどうかを確認します。

ソース: DL/I コード

関連情報:

 DFS0730I (メッセージおよびコード)

AJ

説明: 呼び出しレベルのプログラムの場合: SETS、ROLS、および INIT などの、入出力域でパラメータを指定する呼び出しの場合、入出力域のパラメータのフォーマットが無効です。

INIT VERSION (*dbname=number*) の場合、入出力域のパラメータの構文が無効です。例えば、必須値が欠落している可能性があります。

SSA を含むデータベース呼び出し (GET タイプの呼び出し、DLET、REPL、および ISRT など) の場合、いずれかの SSA のフォーマットが無効です。DB PCB のセグメント・レベル番号フィールドに、無効であった SSA のレベル番号が入っています。無効な SSA フォーマットの理由として、次のものが考えられます。

- SSA に、その呼び出しでは無効なコマンド・コードが含まれている。
- 修飾ステートメントの関係演算子が無効である。
- 修飾ステートメントで、右括弧またはブール結合子が欠落している。
- 比較値には、1 つ以上の括弧が指定されている。
- DLET 呼び出しで、複数の SSA または修飾された SSA が指定されている。
- REPL 呼び出しで、修飾された SSA が指定されている。
- ISRT 呼び出しで、最後の SSA が修飾されている。
- 論理子セグメントを既存のデータベースに挿入する ISRT 呼び出しに、D コマンド・コードが含まれている。論理子セグメントの ISRT 呼び出しでは、パス CALL を使用できません。
- GSAM 呼び出しの RSA パラメータが無効である。
- DBD でサブセット・ポインターが定義されていないセグメントに対して、SSA に R、S、Z、W、または M コマンド・コードが使用された。

- SSA に含まれるサブセット・コマンド・コード間で矛盾がある。例えば、ある SSA に S 状況コードおよび Z 状況コードが含まれていると、高速機能から AJ 状況コードが戻されます。S は、ポインタを現在位置に設定することを意味し、一方、Z は、ポインタを 0 に設定することを意味します。これらの状況コードを 1 つの SSA 内で使用することはできません。
- サブセット・ポインタ・コマンド・コードに続くポインタ番号が無効です。番号を指定しなかったか、または無効文字を指定しました。コマンド・コードに続く番号は、1 から 8 の範囲にする必要があります。
- SSA で複数の R コマンド・コードが指定された。1 つの SSA には、R コマンド・コードを 1 つだけしか指定できません。
- SSA に指定されたサイズが小さ過ぎる。この状況コードが戻された後、データベース内の位置は変更されません。
- SETS または ROLS 呼び出しへの応答で、入出力域の長さが 0 か、LL フィールドが 4 未満か、または ZZ フィールドが 0 以外である。
- INIT 呼び出しへの応答で、入出力域のフォーマットが不適切である。
- INQY などの、AIB で入出力域の長さを指定する呼び出しで、入出力域の長さが無効である。
- SETO で、入出力域の長さが 4096 より短いか、または最小値より短い。
- Q コマンド・コードで、指定されたロック・クラスが、A から J 以外の文字である。
- 複数の SSA を持つ DL/I 呼び出しが、SSA が矛盾しているためにリトリーブが不可能になる方法で作成された。

コマンド・レベルのプログラムの場合: ISRT コマンドで、パス・コマンドを使用して論理子セグメントを挿入しようとした。論理子セグメントの ISRT コマンドでは、パス・コマンドを使用できません。

プログラマーの応答: SETS、ROLS、または INIT 要求でこの状況コードを受け取った場合、入出力域に指定するパラメータを訂正します。

Get、DLET、REPL、または ISRT 要求でこの状況コードを受け取った場合、SSA の無効な部分を訂正します。GSAM 呼び出しで要求でこの状況コードを受け取った場合、RSA を訂正します。

ソース: DL/I コード

AK

説明: 呼び出しレベルのプログラムの場合: SSA に無効なフィールド名、すなわち、DBD に定義されていないフィールド名が指定されています。DB PCB のセグメント・レベル番号フィールドの番号は、無効な名前を含む SSA のレベル番号です。

コマンド・コード O が指定されている場合、指定された位置または長さは無効です。無効値は 0、あるいはセグメントの最大長を超える値の可能性があります。

プログラムが論理親経由で論理子にアクセスする場合にも、この状況コードを受け取ることがあります。修飾の中で指定されたフィールドが、論理子セグメントに対して定義されており、しかも論理親の連結キーを含む論理子の部分を (少なくとも部分的に) を含む場合、DL/I は AK を戻します。

フィールド・レベル・センシティブティイーを使用する場合に、SSA で指定されたフィールドが PSB で定義されていません。この状況コードが戻された後、データベース内の位置は変更されません。

コマンド・レベルのプログラムの場合: WHERE オプションに無効なフィールド名が指定されています。(そのフィールド名が DBD で定義されていません)。DIB の DIBSEGLV フィールドにある番号は、無効な名前を含む WHERE オプションのレベル番号です。

プログラマーの応答: SSA または WHERE オプションを訂正します。

ソース: DL/I コード

AL

説明: 次の場合に、この状況コードが戻されます。

1. バッチ・プログラムでメッセージ呼び出しを発行する。
2. 次のいずれかの条件の下で、バッチ・プログラムから ROLB、ROLS、または SETS 呼び出しを発行する。
 - システム・ログが DASD 上ではない。
 - システム・ログは DASD 上であるが、BKO 実行パラメータを使用した動的バックアウトが指定されていない。

プログラマーの応答: 原因 1 の場合、プログラムを訂正して、バッチ・プログラムでメッセージ呼び出しが発行されないようにします。原因 2 の場合、プログラムを変更するか、またはログを DASD 上に設定し、実行パラメータで BKO を指定します。

ソース: DL/I コード

AM

説明: 呼び出しレベルのプログラムの場合: 呼び出し機能が、PCB の処理オプション、セグメントのセンシティブィティ、トランザクション・コードの定義、またはプログラム・タイプと不適合です。PCB 内のレベル番号は、無効である SSA のレベル番号を示します。この状況コードを受け取る原因として、次の場合が考えられます。

- 入出力域を用意しないで GSAM データベースをオープンしようとした場合。
- プログラムで D コマンド・コードを使用して検索呼び出しを発行したが、呼び出しで使用された DB PCB に P 処理オプションが指定されていない場合。
- 入力 LTERM が存在しないプログラムから、端末関連の動的 MSDB に対して DLET または ISRT 呼び出しが発行された場合。バッチ指向の BMP はその例です。
- SSA で参照されたサブセット・ポインターが、そのプログラムの PSB で定義されていなかった場合。例えば、ユーザーのプログラムの PSB で、プログラムがサブセット・ポインター 1 および 4 を使用できるように定義され、SSA がサブセット・ポインター 5 を参照する場合、高速機能で AM 状況コードがプログラムに戻されます。
- プログラムがサブセット・ポインターに対して S、Z、W、または M コマンド・コードを使用しようとしたが、サブセット・ポインターは、そのプログラムの PSB では更新センシティブィティであるポインターとして定義されていなかった場合。
- BMP、CICS オンライン・プログラム、または MPP が D コマンド・コードを使用して ISRT 呼び出しを発行したが、この呼び出しで参照される DB PCB ではプログラムに必要な P 処理オプションが指定されていない場合。バッチ・プログラムでは、フィールド・レベル・センシティブィティを使用しない限り、D コマンド・コードを使用して ISRT 呼び出しを発行するのに、P 処理オプションは必要ありません。
- 処理オプションが L であるのに、プログラムが ISRT 呼び出し以外の呼び出しを発行した場合。ロード・プログラムは、ISRT 呼び出しのみ発行できません。
- DLET、REPL、または ISRT 呼び出しで参照する DB PCB に、その呼び出しに応じた必要な処理オプションがない場合。これらの呼び出しに必要な最小限の処理オプションは、DLET には D、REPL には R、ISRT には I です。
- プログラムに対してセンシティブィティでないセグメントを対象に、DLET、REPL、または ISRT 呼び出しを発行した場合。

- 出力用にオープンされた GSAM または VSAM データ・セットに対して、CHKP 呼び出しを発行した場合。このコードは、GSAM PCB に戻されます。
- 無効な呼び出し機能コードを指定して GSAM 呼び出しを発行した場合。
- 代替処理シーケンスを使用しているときに、索引ターゲット・セグメント、または物理データベース内で索引ターゲットが従属しているセグメントに対して ISRT または DLET 呼び出しを発行した場合。
- プログラムが置換センシティブィティを持たず、コマンド・コード N が指定されず、入出力域でセグメントのデータが変更されているときに、パス置換を発行した場合。
- 領域サイズが小さ過ぎるため、GSAM がバッファースペースを取得できなかった場合。この状態は、フィールド GBCRTNCD の値 X'1C' によって示されます。
- IMS システム定義で使用される TRANSACT マクロで、入力メッセージに対して INQUIRY=YES が指定されているのに、プログラムから DLET、ISRT、または REPL 呼び出しを発行した場合。
- ETO 端末から端末関連 MSDB に、または端末関連キーを持つ非端末関連 MSDB に対して呼び出しを発行した場合。ETO について詳しくは、ETO を用いた高セキュリティ環境の計画 (コミュニケーションおよびコネクション)を参照してください。
- LU 6.2、ETO、または OTMA 装置などの動的に定義される装置から、MSDB に対して、更新意図を持つ任意のタイプの呼び出しを発行した場合。
- VIEW=MSDB を指定する PCB を使用して REPL 呼び出しを発行する場合、セグメントはキーを持っている必要があります。コマンド・コード「D」が指定された場合、これには、パス内の任意のセグメントが含まれます。

この状況コードが戻された後、データベース内の位置は変更されません。

コマンド・レベルのプログラムの場合: コマンドが、PCB の処理オプションまたはセグメントのセンシティブィティと不適合です。DIB 内のレベル番号は、無効である修飾のレベル番号を示します。この状況コードを受け取る原因として、次の場合が考えられます。

- プログラムでパス検索コマンドを発行したが、呼び出しで使用された DB PCB に P 処理オプションが指定されていない場合。
- 処理オプションが L であるのに、プログラムが LOAD コマンド以外のコマンドを発行した場合。ロード・プログラムは、LOAD コマンドのみ発行できます。
- DLET、REPL、または ISRT コマンドで参照する DB PCB に、そのコマンドに応じた必要な処理オプションがない場合。

ションがない場合。これらの呼び出しに必要な最小限の処理オプションは、DLET には D、REPL には R、ISRT には I です。

- プログラムに対してセンシティブでないセグメントを対象に、DLET、REPL、または ISRT コマンドを発行した場合。
- 出力用にオープンされた GSAM または VSAM データ・セットに対して、CHKP コマンドを発行した場合。
- 無効な呼び出し機能コードを指定して GSAM 呼び出しを発行した場合。
- 代替処理シーケンスを使用しているときに、索引ターゲット・セグメント、または物理データベース内で索引ターゲットが従属しているセグメントに対して ISRT または DLET コマンドを発行した場合。
- プログラムが置換センシティブティータを持たず、コマンド・コード N が指定されず、入出力域でセグメントのデータが変更されているときに、パス置換を発行した場合。
- GSAM ダミー・データ・セットに対して呼び出しを発行した場合。GSAM ダミー・データ・セットに対するどのような呼び出しも無効です。

プログラマーの応答: 要求を訂正するか、または PCB に必要な変更を加えます。

ソース: DL/I コード

AN

説明: DEDB エリアに対して DEDB 変更ユーティリティが実行されている最中に、アプリケーションはサブセット・ポインターの更新を試みていました。DEDB 変更ユーティリティがアクティブな間は、サブセット・ポインターの更新は許可されません。

プログラマーの応答: DEDB 変更ユーティリティがアクティブな間は SUBSET POINTERS を更新するアプリケーションはすべて実行しないでください。

重要: サブセット・ポインターがコマンド・コードと共に指定されている場合、読み取りによってサブセット・ポインターが更新される可能性があります。

ソース: DL/I コード

AO

説明: BSAM、GSAM、VSAM、または OSAM 物理入出力エラーが発生しました。GSAM から発行された場合、この状況コードは、エラーが次の場合に発生したことを示します。

- データ・セットがアクセスされたとき。

- CLOSE SYNAD ルーチンに入ったとき。データ・セットをクローズする前に、レコードの最後のブロックが書き込まれるときに、エラーが発生しました。

IMS は、BSAM、VSAM、および OSAM の書き込みエラーの場合には、AO 状況コードを戻しません。

呼び出しを発行した後でプログラムがこの状況コードを受け取った場合、この呼び出しによってデータベースが停止されることはありません。

プログラマーの応答: エラーが入力中または出力中のいずれかで発生したかを判別し、問題を訂正します。これらの問題は、通常、システム・プログラマーまたはシステム管理者の支援が必要になります。

ソース: DL/I コード

AP

説明: トランザクション指向 BMP で発行されたメッセージ呼び出しまたは CHPK 呼び出しで、5 つ以上のパラメーター (または、パラメーター・カウントが指定されている場合は、6 つ以上のパラメーター) が指定されているため、メッセージ呼び出しまたは CHPK が無効です。次の例外が適用されます。

- バッチ指向 BMP は、5 つ (または 6 つ) 以上のパラメーターを指定して CHPK 呼び出しを発行できる。
- アプリケーション・プログラムが ISRT 呼び出しで MOD 名を指定するために、入出力域パラメーターの後にパラメーターを 1 つ指定できる。これは、最大 4 つ (または 5 つ) のパラメーターに含まれません。

プログラマーの応答: 呼び出しを訂正します。

ソース: DL/I コード

AQ

説明: AIB に無効な副次機能が含まれるか、または INQY 呼び出しで無効な機能が指定されています。

プログラマーの応答: 有効な副次機能を指定します。INQY 呼び出しの有効な副次機能は、ヌル、DBQUERY、ENVIRON、FIND、または PROGRAM です。

ソース: DL/I コード

AR

説明: オプション・リストに、キーワードに関連するエラーがあります。フィードバック域が用意されていれば、追加のエラー情報が含まれています。

プログラマーの応答: 要求を訂正します。

AS • AZ

ソース: DL/I コード

AS

説明: IAFP 固有の処理エラーが発生しました。PRTO= オプションに、無効なデータ・セット処理オプションが含まれていました。フィードバック域が用意されていれば、追加のエラー情報が含まれています。

プログラマーの応答: 要求を訂正します。

ソース: DL/I コード

AT

説明: プログラムの入出力域のデータの長さが、制御領域内に予約されたエリアを超えています。予約されたエリアの長さは、ACB ユーティリティ・プログラム DFSUACB0 によって定義されており、その出力の一部として印刷されます。

プログラマーの応答: プログラムにエラーがある場合は、プログラムを訂正します。プログラムが正しい場合は、PSBGEN の PSBGEN ステートメントでパラメーターを指定して、より大きなエリアを制御領域内に予約します。

ソース: DL/I コード

AU

説明: データベース呼び出しでの SSA の全長が、制御領域内で SSA 用に予約されたエリアを超えています。予約されたエリアの長さは、ACB ユーティリティ・プログラム DFSUACB0 によって定義されており、その出力の一部として印刷されます。この状況コードが戻された後、データベース内の位置は変更されません。

プログラマーの応答: プログラムにエラーがある場合は、プログラムを訂正します。プログラムが正しい場合は、PSBGEN で定義される PSB SSA スペースを増やします。

ソース: DL/I コード

AX

説明: この状況コードは、以下のいくつかのエラー条件が原因で出されます。

- CSA ストレージの取得の失敗。
- DFSLUMIF 呼び出しの失敗。
- IAFP スプール API での処理エラー。この場合は、DFS0013E メッセージも出されます。
- LU 6.2 に対する AUTH 呼び出し中に行われた RACROUTE REQUEST=VERIFY,EVIRON=CREATE (RACF RACINIT) が失敗した。

- OTMA ユーザー出口 (DFSPRX0、DFSYDRU0、またはクライアント DRU 出口) が無効なルーティング情報を返した。

このコードが返される場合は、追加の診断情報が X'67D0'ログ・レコードに書き込まれています。

プログラマーの応答: これらの問題は、通常、システム・プログラマーまたはシステム管理者の支援が必要になります。


ソース: DL/I コード

関連資料:

73 ページの『第 6 章 CQS コード』

235 ページの『67D0 ログ・レコード内の OTMA 戻りコード』

関連情報:

 DFS0013E (メッセージおよびコード)

AY

説明: 代替応答 PCB によって参照されている論理端末が、現在は入力目的で複数の物理端末に割り当てられているため、IMS が ISRT 呼び出しを無視しました。

プログラマーの応答: マスター端末オペレーターに依頼して、(/DISPLAY ASSIGNMENT LTERM x を使用して) この論理端末を参照している物理端末 (複数) を判別してもらいます。/ASSIGN コマンドを使用して、問題を訂正します。

ソース: DL/I コード

AZ

説明: IMS が、会話型プログラムの PURG または ISRT 呼び出しを無視しました。原因として、次のものが考えられます。

- 入出力 PCB または代替応答 PCB を参照する PURG 呼び出しを発行した。会話型プログラムでは、PURG 呼び出しを発行できるのは、その PURG 呼び出しが代替応答 PCB 以外の代替 PCB を参照する場合のみです。
- SPA を送信するために PURG 呼び出しを発行した。
- 無効な宛先、または IMS が判別できない宛先が設定されている代替 PCB を参照する ISRT または PURG 呼び出しが発行された。
- 最初に挿入されるセグメントが SPA でない場合、または SPA が最初に挿入されるセグメントかどうかを IMS が判別できない場合に、宛先が会話型トランザクション・コードである代替 PCB を参照する ISRT 呼び出しが発行された。

プログラマーの応答: PURG または ISRT 呼び出しを訂正します。

ソース: DL/I コード

A1

説明: IMS は、次のいずれかの理由で A1 状況コードを戻します。

- LU 6.2 入力に対する AUTH 呼び出しで、PST LU 6.2 拡張ブロックまたは UTOKEN が見つからなかった。
- アプリケーション・プログラムでまだ GU を発行していないのに、代替応答 PCB に対して CHNG 呼び出しが発行された。
- CHNG 呼び出しの処理中に MSC プログラム・ルーティング出口ルーチン (DFSCMPR0) が呼び出され、次のいずれかが発生した。
 - 出口ルーチンが、戻りコード 8 (A1 状況コード) を戻すことにより、呼び出しをリジェクトした。
 - 出口ルーチンが RC=4 を戻して、発信元システムにメッセージを返そうとしたが、アプリケーション・プログラムが GU を発行していないため、発信元システムを判別できなかった。
 - 出口ルーチンによって R0 に戻された SYSID が、有効なりモート SYSID ではない。
 - 出口ルーチンによって設定された R1 のアドレスが指し示す MSNAME が、有効なりモート MSNAME ではない。
- ISRT または CHNG 呼び出しの処理中に MSC プログラム・ルーティング出口ルーチン (DFSMSCE0) が呼び出され、次のいずれかが発生した。
 - 出口に渡された DFSMSCEP ユーザー・パラメーター・リストで MSPRFL3=MSPR3REJ を設定することにより、出口ルーチンが呼び出しをリジェクトした。
 - 出口からの転送要求の処理中に、IMS がエラーを検出した。メッセージ "DFS070 Unable to route message RSN=xyxy" が発行され、6701-MSCE ログ・レコードが IMS ログに書き込まれた。このエラーについての詳細は、IMS 診断情報でメッセージ・ルーティング問題の診断に関するトピックを参照してください。
- CHNG 呼び出しの入出力域に指定された宛先名が無効である。
- CHNG 呼び出しの入出力域に指定された宛先名は有効である (宛先がプログラムであり、PCB は代替応答 PCB ではない) が、トランザクションは高速機能専用である。
- AUTH 呼び出しパラメーター・リストに、無効な総称 CLASS 名が含まれている。アクセス検査は行われませんでした。

- ルーティング出口ルーチン (DFSCMPR0 または DFSMSCE0) が、直接ルーティング要求をオーバーライドするように無効な要求を試みた。
- OTMA 宛先解決ユーザー出口 (OTMAYPRX) が、16 バイトの不適切な OTMA クライアント・オーバーライド名を指定した可能性がある。クライアント名をすべて空白にすることはできません。クライアント名が 16 バイトより短い場合、空白を埋め込む必要があります。
- OTMA DFSYDRU0 出口の、変更された OTMA ユーザー・データの長さが、1K を超えている。
- OTMAYPRX および DFSYDRU0 ユーザー出口ルーチンが、サポートされない戻りコードを戻した。
- CHNG 呼び出し用に配置された OTMA 宛先記述子項目で、このタイプの IMSTRAN は使用できません。
- OTMA メンバー名または OTMA クライアント・オーバーライド名を、OTMA ALTPCB 出力用の OTMA 内部メンバー名 DFSYICAL とすることはできません。

プログラマーの応答: CHNG または AUTH 呼び出しを訂正するか、MSC プログラム・ルーティング出口 (DFSCMPR0 または DFSMSCE0) を訂正するか、あるいは指定された宛先が有効かどうかを確認します。

ソース: DL/I コード

A2

説明: プログラムが、無効な PCB に対して CHNG 呼び出しを発行しました。次のいずれかの理由で、PCB が無効です。

- 代替 PCB ではなかった。
- 代替 PCB であったが、変更可能ではなかった。
- メッセージを処理するために使用されたが、その処理を完了していなかった。

プログラマーの応答: CHNG 呼び出しで使用された PCB をチェックし、呼び出しに使用すべきだった PCB を判別します。

ソース: DL/I コード

A3

説明: プログラムが、変更可能代替 PCB を参照する ISRT または PURG 呼び出しを発行したが、その PCB に宛先が設定されていませんでした。IMS がこの状況コードを PURG 呼び出しに戻すのは、PURG 呼び出しでパラメーターの 1 つとして入出力域が指定されていた場合のみです。

プログラマーの応答: CHNG 呼び出しを発行して、変更可能な代替 PCB に宛先を設定してから、ISRT または

A4 • A7

PURG 呼び出しを再発行します。

ソース: DL/I コード

A4

説明: AUTH、CHNG、または会話型の応答での SPA の ISRT 呼び出しの処理中に、セキュリティ違反が検出されました。この状況コードの理由には次のものがあります。

- トランザクション許可がアクティブであり、RACF またはトランザクション許可出口ルーチンがゼロ以外の戻りコードを戻した。
- ユーザーは、AUTH 呼び出しで要求されたクラスのリソース名へのアクセスを許可されていません。インストール・データは戻されません。
- ソース CNT が使用可能ではない。原因として、アプリケーション・プログラムが GU を発行していなかったことが考えられます。
- プログラム間メッセージ通信が進行中である。この場合、適用できる許可は元のメッセージに基づいて決められるが、この機能の実行は許可されていません。

プログラマーの応答: トランザクション・コードを検査して、正しく入力されているかどうかを確認します。正しい場合は、インストール先のセキュリティ担当者に連絡してください。

ソース: DL/I コード

A5

説明: ISRT または PURG 呼び出しで無効なパラメーター・リストが指定されました。呼び出しには 4 番目のパラメーター (MOD 名) が指定されたが、発行された ISRT または PURG は、出力メッセージの最初のセグメントに対するものではありません。

プログラマーの応答: ISRT または PURG 呼び出しを訂正します。

ソース: DL/I コード

A6

説明: メッセージ処理プログラム (MPP または BMP) の場合に、挿入されるメッセージ・セグメントの長さが、TRANSACT マクロの SEGSIZE キーワードで指定されたサイズを超えるため、IMS が ISRT 呼び出しを無視しました。

高速機能プログラム (IFP) で、以下のいずれかの状態が発生しました。

- 高速機能端末への出力メッセージの長さが、TERMINAL マクロの FPBUF パラメーターで指定されたサイズを超えています。

- ETO 端末への出力メッセージの長さが、以下の値のいずれかを超過しています。

- IMS PROCLIB データ・セットの DFSPBxxx メンバーの EMHL パラメーターで指定されたサイズ
- OLDS バッファ・サイズ

プログラマーの応答: 出力メッセージ・セグメントを訂正します。

ソース: DL/I コード

A7

説明: 次のいずれかの理由で、IMS がメッセージ ISRT 呼び出しを無視しました。

- 挿入されるメッセージ・セグメントの数が、TRANSACT マクロの SEGNO キーワードで指定された数を超えた。
- メッセージ・キュー・データ・セットのオーバーフローを防ぐために、IMS ユーザー・キュー・スペース通知出口ルーチン (DFSQSPC0) が挿入を禁止した。ただし、DFSQSPC0 しきい値を超えると進行中であったメッセージに関する ISRT は無視されません。進行中のメッセージは処理されます。そのアプリケーションからの後続の ISRT は、即時に、状況コード A7 でリジェクトされます。
- IMS 共用キュー・スペース通知出口ルーチン (DFSQSSP0) がメッセージの挿入を禁止しました。理由として、次のものが考えられます。
 - 共用キュー構造がオーバーフロー状態である。
 - 宛先のキューがオーバーフロー構造上にある。
 - この作業単位で挿入されるメッセージの数が、ユーザー定義の制限を超える。

進行中のメッセージは処理されます。そのアプリケーションからの後続の ISRT は、即時に、状況コード A7 でリジェクトされます。

- 宛先の TRANSACTION または LTERM が停止されたため、IMS ユーザー・キュー・マネージャーのスペース通知出口ルーチン (DFSQSPC0、または共用キューの場合は DFSQSSP0) が挿入を禁止した。進行中のメッセージは処理されます。そのアプリケーションからの後続の ISRT は、即時に、状況コード A7 でリジェクトされます。

プログラマーの応答: 出力メッセージを調べて、訂正します。ROLB を使用して、処理中のメッセージをバックアウトします。

ソース: DL/I コード

A8

説明: 次の理由で、IMS が ISRT 呼び出しを無視しました。

- 入出力 PCB に対する ISRT 呼び出しの後に、代替応答 PCB に対する ISRT 呼び出しを続けてはならない。
- 代替応答 PCB に対する ISRT 呼び出しの後に、入出力 PCB に対する ISRT 呼び出しを続けてはならない。

プログラマーの応答: ISRT 呼び出しを訂正します。

ソース: DL/I コード

A9

説明: 次の理由で、IMS が ISRT 呼び出しを無視しました。

- ISRT 呼び出しで、SAMETRM=YES として定義された代替応答 PCB を参照したが、PCB が、発信元物理端末の一部ではない論理端末を表している。SAMETRM=YES として定義された代替応答 PCB は、発信元の論理端末に関連付けられた物理端末と同じ物理端末を表さなければなりません。
- 発信元端末が応答モードであるが、代替応答 PCB がその論理端末と関連付けられていない。

MSC を介してリモート IMS システムの端末と通信しているときに、プログラムがこれらのエラーのいずれかを起こした場合は、IMS はこの状況コードを戻しません。

プログラマーの応答: アプリケーション・プログラムにエラーがあるか、出力論理端末が (/ASSIGN コマンドを使用して) 誤って再割り当てされていないか、あるいは代替応答 PCB に対して SAMETRM=YES を指定すべきでなかったかどうかを判別します。

ソース: DL/I コード

BA

説明: 使用不能なデータへのアクセスを要求したため、要求は完了しませんでした。データが使用不能である原因は予測不能です。例えば、DBRC からデータに対する許可を取得できない、IRLM からロックを取得できない、あるいはデータベースが停止しているか、リカバリモードにあることが原因として考えられます。

使用不能な区画にアクセスしようとする DL/I 呼び出しの場合、状況 BA が戻されます。すぐ次の DL/I 呼び出しが完全に非修飾またはルート名のみを修飾した GN の場合、次の区画が選択されます。次の区画の選択は、使用可能な区画が見つかるか、またはデータベースの区画がなくなるまで続きます。使用可能な区画が戻され

る場合、呼び出しは、その区画の最初のルートに戻りません。前の呼び出しで、ルート・レベルについて BA 状況が戻されていた場合、従属セグメント名についてのみ修飾される GN 呼び出しの結果は BA 状況になります。

INIT STATUS GROUPA 呼び出しを出したアプリケーション・プログラムは、データベースのバージョン管理が使用可能になっているときに、無効なデータベース・バージョンが指定されていた場合、BA 状況コードを受け取ることがあります。

使用可能でないデータを検出した時点より前に現在の要求で行われた更新のみが、バックアウトされます。データベースは、失敗した要求が発行される前の状態になります。要求が REPL または DLET であった場合、PCB の位置は変更されません。要求が Get または ISRT 要求であった場合、PCB の位置は予測不能です。

DEDB の場合、現在の呼び出しで更新が行われなかった場合に、この状況コードが戻されます。最後のコミット・ポイント以降に現在の呼び出しによって更新が行われた場合は、代わりに BB 状況コードが戻されます。変更が前の呼び出しにより行われた場合、アプリケーション・プログラムで、これらの更新をコミットするかどうかを決めなければなりません。

異常終了を起こす代わりに、この状況コードは、EXEC DLI コマンドを発行したアプリケーション・プログラムに戻されます。

PROCOPT=GO を使用し、SDEP セグメントで DEB エリアにアクセスする場合は、共用 SDEP 環境でいくつかのロック要求を行う必要があることに注意してください。これらのロック要求を行わないと、SDEP セグメントを必要とする DL/I 呼び出しで BA 状況コードが発生する可能性があります。例えば、障害が発生した IMS サブシステムによって保持されている現行 SDEP CI に保持ロックがあり、パートナー IMS が PCB PROCOPT=GO を指定して DL/I GET 呼び出しを発行した場合、呼び出しの宛先がロックされた CI であると、BA 状況コードが戻されます。

HALDB 区画にアクセスする PROCOPT=GOx トランザクションの実行時にこれを受け取り、しかもデータベース・コマンドが進行中のために 1 つの区画が使用不可であることが検出された場合は、DFSVMxx オブジェクトの PPUR=Y を使用するとこの状況を回避できます。

プログラマーの応答: これは、通知専用の状況コードです。

ソース: DL/I コード

BB

説明: BB 状況コードは BA と同様であるが、最後のコミット・ポイント以降にプログラムが行ったデータベース更新がすべてバックアウトされること、および最後のコミット・ポイント以降に送信された非高速メッセージがすべて取り消されることが異なります。どの PCB でも、データベースの開始点が PCB 位置となります。

DEDB の場合、現在の呼び出しで更新が行われた場合に、この状況コードが戻されます。

異常終了を起こす代わりに、この状況コードは、EXEC DLI コマンドを発行したアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマーの応答: これは、通知専用の状況コードです。

ソース: DL/I コード

BC

説明: 使用不能なデータへのアクセスを要求したため、INIT STATUS GROUPB 呼び出しからの応答は完了していませんでした。

最後のコミット・ポイントまでに割り当てられたデータベース・リソースは、GSAM と Db2 for z/OS を除いて、すべてバックアウトされます。すべての出力メッセージは、最後のコミット・ポイントまでバックアウトされます。入力メッセージは、再キューイングされます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

ソース: DL/I コード

BD

説明: IRLM ロック要求で LOCKTIME 値を超えたため、呼び出しが完了できませんでした。

プログラマーの応答: DFSVSMxx proclib メンバー (バッチの場合、DFSVSAMP) で LOCKTIME 値を増やすか、IRLM ロックのタイムアウトの理由を分析します。

ソース: DL/I コード


BE

説明: INIT 呼び出しの VERSION 機能で指定されたデータベース名が見つからない。


プログラマーの応答: VERSION 機能の入出力域のデータベース名を修正してください。

ソース: DL/I コード

関連概念:

 データベースのバージョン管理 (データベース管理)

関連資料:

 INIT 呼び出し (アプリケーション・プログラミング API)

BF

説明: INIT VERSION 呼び出しが無効です。

INIT 呼び出しの VERSION 機能の入出力域で指定されているデータベース・バージョン番号が無効であるか、ターゲット・データベースが含まれている IMS システムでバージョン管理が使用不可になっています。

データベースのバージョン番号は、以下の理由で無効になる場合があります。


- INIT VERSION 呼び出しで指定されたバージョン番号が、指定されたデータベースのバージョンのバージョン番号ではない。
- バージョン番号がサポートされる値の範囲内でない。
- INIT VERSION 呼び出しで指定されたバージョン番号が、同じデータベースに対してアプリケーション・プログラムにより以前に発行された INIT VERSION 呼び出しで指定されたバージョン番号と異なる。

プログラマーの応答: INIT VERSION 呼び出しのデータベース名とバージョン番号が正しく指定されていることを確認してください。


ターゲット・データベースが含まれている IMS システムでデータベースのバージョン管理が使用可能になっていることを、システム・プログラマーかデータベース管理者に確認してください。有効になっていない場合、アプリケーション・プログラムから INIT VERSION 呼び出しを削除するか、データベースのバージョン管理が使用可能になるように、システム・プログラマーやデータベース管理者と調整してください。

ソース: DL/I コード

関連概念:

 データベースのバージョン管理 (データベース管理)

関連資料:

 INIT 呼び出し (アプリケーション・プログラミング API)

BG


説明: INIT 呼び出しの VERSION 機能で指定されたデータベースのデータベース・タイプはデータベースのバージョン管理をサポートしません。データベースのバージョン管理をサポートしないデータベース・タイプは以下のとおりです。

- GSAM
- 論理データベース
- MSDB


プログラマーの応答: データベース名が正しく指定されていることを確認してください。

ソース: DL/I コード

関連概念:

 データベースのバージョン管理 (データベース管理)

関連資料:

 INIT 呼び出し (アプリケーション・プログラミング API)

BH

説明: この状況コードは、データベースのバージョン管理を使用可能にして DL/I 呼び出しを実行しているときに内部エラーが検出された場合に発生します。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース: DL/I コード

BJ

説明: PSB に含まれるすべてのデータベースが利用不能、または PSB 内にデータベース PCB がありません。

INQY DBQUERY 呼び出しの結果、各 PCB (GSAM を除く) が NA 状況コードを受け取りました。

プログラマーの応答: これは、通知専用の状況コードです。

ソース: DL/I コード

BK

説明: PSB に含まれるデータベースの少なくとも 1 つが、利用不能または使用が制限されています。

INQY DBQUERY 呼び出しの処理の結果、少なくとも 1 つの PCB が、NA または NU 状況コードを受け取りました。

プログラマーの応答: これは、通知専用の状況コードです。

ソース: DL/I コード

BY

説明: 現在の DL/I 呼び出しが、DFSDMU 副次機能を指定した INIT 呼び出しの後に発行されたため、失敗しました。

DFSDMU 副次機能は、このアプリケーションが、オンライン IMS システム内のデータベース変更を反映するために IMS カタログを更新することを示します。INIT 呼び出しに DFSDMU 副次機能が指定された後に発行できる DL/I 呼び出しは以下のみです。

- CHKP
- DLET
- GHU
- GUR
- IR
- ROLB

プログラマーの応答: DL/I 呼び出しの順序を訂正してください。

ソース: DL/I コード

CA

説明: プログラムが、無効なコマンド verb で CMD 呼び出しを発行したか、またはコマンド verb が、そのプログラムを実行中の IMS システムには適用されません。IMS はコマンド応答を戻しません。

プログラマーの応答: CMD 呼び出しのコマンドを訂正します。

ソース: DL/I コード

CB

説明: CMD 呼び出しで入力されたコマンドは、AOI プログラムからの入力が許可されていません。IMS はコマンド応答を戻しません。

プログラマーの応答: コマンドを訂正します。AOI プログラムが発行できるコマンドのリストについては、「IMS V15 コマンド 第 1 巻: IMS コマンド A-M」を参照してください。

ソース: DL/I コード

CC

説明: IMS が、コマンドを実行し、1 つ以上の応答を戻しました。

プログラマーの応答: ユーザーのプログラムは、必要に応じて GCMD 呼び出しを発行して、応答を検索しなければなりません。

ソース: DL/I コード

CD

説明: CMD 呼び出しで入力されたコマンドがセキュリティに違反しているか、またはアプリケーション・プログラムが CMD 呼び出しを発行する許可を得ていません。IMS はコマンドを実行しないか、またはコマンド応答を戻しません。

プログラマーの応答: コマンドを訂正します。必要な場合、インストール先のセキュリティ担当者に連絡を取り、ユーザーのプログラムがそのコマンドの使用を制限されている理由を調べます。

ソース: DL/I コード

CE

説明: 最後の CMD 呼び出し以降にこの GU 呼び出しで検索したメッセージを、IMS がスケジュール変更しました。メッセージがスケジュール変更されたときに、プログラムはコミット・ポイントに達していませんでした。

プログラマーの応答: これは、通知専用の状況コードです。

ソース: DL/I コード

CF

説明: GU 呼び出しで戻されるメッセージは、この IMS 実行が開始される前に IMS によって受け取られたものです。MPP またはメッセージ指向の BMP の場合、入出力域が指定された CHKP 呼び出しで CF が戻されることがあります。これは、CHKP 呼び出しが内部 GU 呼び出しを発行した場合に起きます。このコードは、コマンドを発行するのに適格なトランザクションによってのみ受信されます。

プログラマーの応答: これは、通知専用の状況コードです。

ソース: DL/I コード

CG

説明: この GU によって検索されたメッセージは、AOI 出口ルーチンから発信されました。この状況コードが返されるのは、タイプ 1 AO アプリケーション・プログラム (TRANSACT マクロに指定された AOI=TRAN) によって制御されるトランザクションから GU が発信される場合のみです。

プログラマーの応答: これは、通知専用の状況コードです。

ソース: DL/I コード

CH

説明: AOI コマンド・インターフェースがシステム・エラーを検出し、コマンドを処理できないため、IMS は、直前に発行された CMD 呼び出しを無視しました。IMS の処理は続きます。

プログラマーの応答: コマンドを再発行してください。

ソース: DL/I コード

CI

説明: CI は、CE と CF の組み合わせです。この GU によって検索されたメッセージは、IMS が最後に開始される前に伝送のためにスケジュールされました。メッセージがスケジュール変更されたが、プログラムはコミット・ポイントに達していませんでした。

プログラマーの応答: これは、通知専用の状況コードです。

ソース: DL/I コード

CJ

説明: CJ は、CE と CG の組み合わせです。この GU によって検索されたメッセージは、IMS が最後に開始される前に伝送のためにスケジュールされました。このメッセージは、AOI 出口ルーチンから発信されました。

プログラマーの応答: これは、通知専用の状況コードです。

ソース: DL/I コード

CK

説明: CK は、CF と CG の組み合わせです。この GU によって検索されたメッセージは、AOI ユーザー出口から発信されました。このメッセージは、IMS が最後に開始される前に伝送のためにスケジュールされました。

プログラマーの応答: これは、通知専用の状況コードです。

ソース: DL/I コード

CL

説明: CL は CE、CF、および CG の組み合わせです。これらのコードの説明を参照してください。

プログラマーの応答: これは、通知専用の状況コードです。

ソース: DL/I コード

CM

説明: CMD 呼び出しで入力されたコマンドは実行されて完了したが、汎用作業域 (WKAP) の不足のために作成できなかった例外応答があります。

プログラマーの応答: 応答の検索が必要な場合は、WKAP を増やします。

ソース: DL/I コード

CN

説明: PSBGEN マクロで指定された IOASIZE= パラメーターが、CMD 呼び出しに必要な最小値 (132 バイト) より小さく定義されています。

プログラマーの応答: PSBGEN マクロの IOASIZE= パラメーターを、最低でも 132 バイトに再定義します。

ソース: DL/I コード

DA

説明: プログラムが、セグメントのキー・フィールドを変更しようとする DLET または REPL を発行したか、あるいは、フィールド・レベル・センシティブティーを使用している場合に、PSB の SENFLD ステートメントで REPL=NO が指定されているフィールドを変更しようとする REPL 呼び出しを発行しました。セグメントのキー・フィールドを変更することはできません。

プログラマーの応答: 要求を訂正します。

ソース: DL/I コード

DE

説明: Get Unique Record (GUR) 呼び出しが AIB インターフェースを使用せずに出されたため、IMS はこれを無視しました。GUR 呼び出しは、AIB インターフェースを介してのみ許可されます。

プログラマーの応答: AIB インターフェースを使用しているプログラムを除き、GUR 呼び出しは行わないでください。

ソース: DL/I コード

DF

説明: DLET 呼び出しが IMS カタログ内のリソースに対して発行されましたが、GHU 固有呼び出しによって、削除するリソースのヘッダー・セグメントの位置の取得およびそのヘッダー・セグメントの保留が正常に行われていなかったため、DLET 呼び出しは失敗しました。

プログラマーの応答: DL/I 呼び出しの順序を訂正してください。

ソース: DL/I コード

DJ

説明: プログラムが DLET または REPL 呼び出しを発行したが、セグメントが保留状況でないためリジェクトされました。この状況コードの原因として、次の場合が考えられます。

- セグメントが、前に Get Hold 呼び出しで検索されていない。
- セグメントが、この PCB を使用してすでに削除された。Get Hold 呼び出しの後で、複数の REPL 呼び出し、または 1 つの REPL 呼び出しに続けて 1 つの DLET 呼び出しの発行は有効であるが、複数の DLET 呼び出しの発行は無効です。
- セグメントが、処理シーケンスとして副次索引を使用して取得された。この PCB または PSB 内の別の PCB を使用して、後続の DLET または REPL 呼び出しを発行したため、この PCB の現在の副次索引項目が削除されました。
- Get Hold 呼び出しの後で、REPL または DLET 呼び出しの前に、チェックポイント呼び出しが発行された。
- Get Hold 呼び出しの後で、REPL または DLET 呼び出しの前に、ロールバック呼び出しが発行された。

プログラマーの応答: DLET または REPL が発行されるときに、セグメントが保留状況になるようにプログラムを訂正します。

ソース: DL/I コード

DX

説明: プログラムが、そのセグメントの削除規則に違反する DLET を発行しました。

プログラマーの応答: プログラムを調べて、プログラム

EM • FD

がそのセグメントを削除する必要があるかどうかを確認します。削除する必要がある場合、DBA (または、インストール先の同等の担当者) に連絡して、そのセグメントに指定されている削除規則を調べます。

ソース: DL/I コード

EM

説明: EM 状況 (空のエリア) は、そのエリアに有効な順次従属セグメントがないことを示します。

プログラマーの応答: ユーティリティによって正しいエリアを処理中かどうか、およびその順次従属セグメントが挿入されているかどうかを調べます。

ソース: DL/I コード

E1

説明: 出口に渡された DFSMSCEP ユーザー・パラメーター・リストで MSPRFL3=MSPR3REJ および MSPRSTAT=E1 を設定することにより、DFSMSCE0 出口ルーチンが ISRT または CHNG 呼び出しをリジェクトしました。

プログラマーの応答: MSPR3REJ および MSPRSTAT の設定値については、DFSMSCE0 出口のユーザー・インストール・コピーを参照してください。システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

E2

説明: 出口に渡された DFSMSCEP ユーザー・パラメーター・リストで MSPRFL3=MSPR3REJ および MSPRSTAT=E2 を設定することにより、DFSMSCE0 出口ルーチンが ISRT または CHNG 呼び出しをリジェクトしました。

プログラマーの応答: MSPR3REJ および MSPRSTAT の設定値については、DFSMSCE0 出口のユーザー・インストール・コピーを参照してください。システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

E3

説明: 出口に渡された DFSMSCEP ユーザー・パラメーター・リストで MSPRFL3=MSPR3REJ および MSPRSTAT=E3 を設定することにより、DFSMSCE0 出口ルーチンが ISRT または CHNG 呼び出しをリジェクトしました。

プログラマーの応答: MSPR3REJ および MSPRSTAT の設定値については、DFSMSCE0 出口のユーザー・イ

ンストール・コピーを参照してください。システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

FA

説明: IMS がこの状況コードを戻すのは、プログラムがコミット・ポイントに達し、さらに算術オーバーフローが、最後のコミット・ポイント以降 (または、プログラムがコミット・ポイントに達していない場合は、プログラムの処理開始以降) のコミット・インターバルの間に、MSDB、DEDB、または VSO DEDB で発生する場合です。プログラムによっては、SYNC 呼び出し、CHKP 呼び出し、またはメッセージ・キューに対する GU 呼び出しでこの状況コードを受け取ることもあります。このオーバーフローは、プログラムが

FLD/CHANGE 呼び出し、または MSDB、DEDB、または VSO DEDB に対する REPL 呼び出しを発行した後に発生しました。これが発生すると、IMS は内部 ROLB 呼び出しを発行して、最後のコミット・ポイント以降にプログラムが行った変更を除去します。データベース位置付けはすべて失われます。

プログラマーの応答: トランザクションを再処理します。

ソース: DL/I コード

FC

説明: プログラムが、このセグメント・タイプに無効な要求を出しました。

プログラマーの応答: 要求を訂正します。

ソース: DL/I コード

FD

説明: IMS が非メッセージ・ドリブン・バッチ・メッセージ処理 (BMP) のために DEDB または MSDB リソース (DEDB 作業単位 (UOW) またはオーバーフロー・ラッチ) を取得しようとしたときに、そのプログラムがデッドロックに達しました。あるいは、混在モード BMP が、高速機能または全機能のいずれかのリソースに対してデッドロックに達しました。IMS は、最後の SYNC 呼び出し、CHKP 要求、または SYMCHKP コマンド以降 (あるいは、プログラムが SYNC 呼び出しまたは CHKP 要求を発行していない場合は、プログラムの処理開始以降) にプログラムが行ったすべてのデータベース更新を (gsam データベースを除いて) 除去します。データベース位置付けは、PCB で P 処理オプションを指定していない限り、すべて失われます。非高速代替 PCB へのメッセージは廃棄されます。

異常終了を起す代わりに、この状況コードは、EXEC DLI コマンドを発行したアプリケーション・プログラムに戻されます。

このコードのその他の考えられる原因としては、アプリケーションが 1 つ以上の外部サブシステムに接続したときに、外部サブシステムのいずれかが COMMIT 要求に対して問題を検出した場合、FD 状況コードがアプリケーションに戻された可能性があります。同様に、フェーズ 1 同期点の処理中にアプリケーションがバックアウトを要求した場合にも、FD 状況コードが戻されることがあります。

プログラマーの応答: 最後のコミット・ポイントから処理を開始します。再びデッドロックに達した場合、プログラムを終了します。

ソース: DL/I コード

FE

説明: プログラムが FLD 呼び出しを発行して、FSA にブランク以外の状況コードを受け取ったときは常に、IMS によりこの状況コードが戻されます。

プログラマーの応答: FSA 状況コードについてフィールドの内容の検査: FLD/VERIFY (アプリケーション・プログラミング)を参照し、FLD 呼び出しを訂正してください。

ソース: DL/I コード

FF

説明: プログラムが、フリー・スペースのない MSDB に対して ISRT 呼び出しを発行しました。プログラムが ISRT 呼び出しを発行したときに、フリー・スペースがないと IMS で判断されると、プログラムはその呼び出しに対する FF 状況コードを受け取ります。プログラムが次のコミット・ポイントに達するまで、IMS がフリー・スペースの有無を判別できないこともあります。この場合、IMS が FF 戻すのは、プログラムが、メッセージ・キューに対する GU 呼び出し、SYNC 呼び出し、または CHKP 呼び出しを発行したときです (どの呼び出しでコミット・ポイントが発生するかによります)。

プログラマーの応答: この状態を回避するには、次のシステム始動時 (コールド・スタートまたは正常リスタート) に、MSDB にスペースを増やします。

ソース: DL/I コード

FG

説明: FG は FE と FW のコードの組み合わせです。バッチ指向 BMP が FLD 呼び出しを発行したが、FSA にブランク以外の状況コードを受け取り、また、プログラムが通常のバッファ割り振りを使い尽くしました。

プログラマーの応答: FSA 状況コードを調べて、FLD 呼び出しを訂正してから、プログラム内での SYNC または CHKP 呼び出しの頻度を増やします。この状況コードを処理する方法の 1 つは、この状況コードを受け取ったときに、プログラムに SYNC または CHKP 呼び出しをより頻繁に発行させるようなエラー・ルーチンにブランチすることです。

ソース: DL/I コード

FH

説明: アプリケーション・プログラムがデータベース要求を発行したとき、またはアプリケーション・プログラムがコミット・ポイントに達したときに、DEDB エリアが、要求されたサービスのためにはアクセス不能でした。AREA が停止されたか、または DEDB ランダム化ルーチンがストレージにロードされませんでした。/START DATABASE dedbname コマンドまたは UPDATE DB NAME(name) START(ACCESS) コマンドにより、DEDB ランダム化ルーチンが再ロードされません。

コミット・ポイントが発生する呼び出し (SYNC 呼び出し、メッセージ GU、CHKP 要求、または SYMCHKP コマンド) で IMS がこの状況コードを戻す場合、IMS は内部 ROLB 呼び出しを発行して、最後のコミット・ポイント以降に作成されたプログラムのデータベース更新およびメッセージ出力を除去します。

データ共用環境でプログラムが DEDB にアクセスしていて、プログラムが DEDB への最初の DL/I 呼び出しを発行したときに許可が失敗した場合、高速機能はこの状況コードを戻します。また、高速機能は、マスター端末オペレーターにも許可の失敗を通知します。データベース内の位置は、次のエリアの最初のルートの前です。GN により、次の使用可能なレコードが得られます (そのレコードもアクセス不能でない限り)。

プログラムが、PROCOPT=H を指定した PCB および PROCOPT=H を指定していない別の PCB を介してエリアにアクセスする場合、PROCOPT=H を指定した PCB に対する呼び出しのみが FH 状況コードを受け取る可能性があります。この理由は、IMS はエリアにアクセス可能であるが、必要な HSSP (高速順次処理) のセットアップが確立できないためです。メッセージ DFS0535I が、このオカレンスの理由を説明し、このメッセージはジョブ・ログに送られます。ある PCB の

PROCOPT が、同じ PSB 内の別の PCB の PROCOPT より制約が多い場合にも、この状況コードが戻されません。位置は、次にアクセス可能なエリアの先頭に設定されます。


異常終了を起こす代わりに、この状況コードは、EXEC DLI コマンドを発行したアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマーの応答: このエリアのデータが重要である場合は、DBA に連絡を取ってください。このエリアのデータが重要でない場合は、プログラムが変更をロールバックしなければなりません。プログラムは、次の使用可能なエリアに対して処理を継続できます。

この状況コードが、HSSP のセットアップの問題に関連している場合、ジョブ・ログのメッセージ DFS0535I の説明に従ってエラーを修正します。

ソース: DL/I コード

関連情報:

 DFS0535I (メッセージおよびコード)

FI

説明: IMS は、以下のイベントのいずれかが発生したことを判別しました。

- プログラムによって提供された入出力域の始めにあるストレージ・アドレスを参照できなかった。
- 入出力域の始めに、戻されるセグメント (複数の場合もあり) の長さをプラスして計算されたストレージ・アドレスを参照できなかった。

IMS は、データ移動中の潜在的プログラム・チェック異常終了を回避するためにこの状況コードを設定します。

FI 状況コードが表示されないからといって、必ずしも、提供された入出力域アドレスが論理的に正しいとか、領域の大きさが十分であるということではありません。

AIB インターフェースが使用される場合、AIB の提供された長さが、戻されたセグメント長に照らして検証されます。この検証が失敗した場合、該当の AIB 戻りコードおよび理由コードが設定されます。この検証が成功した場合、IMS は、移動に関連した実際のストレージ・アドレスをさらに検査し、FI 状況コードを戻すことができます。AIB インターフェースが使用されない場合は、ストレージ・アドレス検証だけが実行されます。

プログラマーの応答: プログラムを訂正します。

ソース: DL/I コード

FM

説明: HALDB の場合:

アプリケーション・プログラムが要求を出したが、ランダム化ルーチンが戻りコード 4 を戻しました。

DL/I 呼び出しで HALDB に対して指定されたキーが、最後の区画のハイ・キー値より大きな値です。あるいは、ユーザーの区画選択出口が、区画を選択するためのキー値を渡された後で、RC=04 で戻りました。割り振り可能な区画を制限するために DFSHALDB DD カードが使用され、要求されたキーはこれらのいずれのパーティションにもないが、他の区画に入っている可能性がある場合は、FM 状況コードも戻されます。

異常終了を起こす代わりに、この状況コードは、EXEC DLI コマンドを発行したアプリケーション・プログラムに戻されます。

DEDB の場合 (モジュール DBFMGAP0、DBFMGAP1、および DBFDADC2 の場合):

ユーザー提供のランダムマイザーが、DEDB ルート・キーを渡されたときに RC=04 を戻しました。

異常終了を起こす代わりに、この状況コードは、EXEC DLI コマンドを発行したアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマーの応答: データベース位置は変更されていません。アプリケーション・プログラムが後続の処理を決定しなければなりません。

ソース: DL/I コード

FN

説明: プログラムが発行した FLD 呼び出しの FSA に、DBD で定義されていないフィールド名が含まれています。IMS は、FLD 呼び出し、または FLD 呼び出しの FSA の処理を継続しません。この状態では、同じ FLD 呼び出し内の前の FSA で FE 状況コードを受け取ったとしても、IMS は FN 状況コードを戻します。

プログラマーの応答: ROLB 呼び出しを発行して、不適切な FLD 呼び出しの影響を除去してから、FLD 呼び出しを訂正します。

ソース: DL/I コード

FP

説明: MSDB に対する REPL、ISRT、または FLD/CHANGE 呼び出しで参照される入出力域に、無効なバック 10 進数または 16 進数フィールドが含まれています。

プログラマーの応答: 入出力域のデータを訂正します。

ソース: DL/I コード

FR

説明: 次のいずれかの状態が存在します。

- 非メッセージ・ドリブン領域 (つまり、MPP、JMP、IFP のいずれでもない領域) が、その領域に指定されている DEDB バッファ制限を超えるようシステムに強制するデータベース要求を発行した。
- バッチ指向 BMP が、PROCOPT=H を指定した PCB で GC 状況コードを受け取った。この PCB を再び使用する前に、別のコミット処理が必要です。

IMS は、プログラムが発行した最後の SYNC 呼び出し、CHKP 要求、または SYMCHKP コマンド以降 (あるいは、プログラムが SYNC 呼び出し、CHKP 要求、または SYMCHKP コマンドを発行していない場合は、プログラムの処理開始以降) にプログラムが行ったデータベース変更をすべて除去します。PROCOPT=P または H がアクティブな DEDB を参照していない PCB のデータベース位置はすべて失われます。PCB が PROCOPT=P または H をアクティブに指定して DEDB を参照した場合、位置は最後のコミット処理後に有効な位置に設定されるか、またはコミット処理が行われていなければ、有効な範囲の先頭に設定されます。

異常終了を起こす代わりに、データベース呼び出しを発行したアプリケーション・プログラムにこの状況コードが返されます。メッセージ・ドリブン領域は、状況 FR を受け取る代わりに U1033 で異常終了します。

プログラマーの応答: プログラムを終了させて、より大きなバッファ割り振りをしてから再始動するか、あるいは頻繁にコミット・ポイントを発生させるルーチンを使用します。PROCOPT=H が使用される場合、GC コードが戻された後でコミット・ポイントが要求されるようになります。

ソース: DL/I コード

FS

説明: ルート・セグメントまたは直接従属セグメントの場合、この状況コードは BMP に対してのみ戻されます。順次従属セグメントの場合、この状況コードは BMP またはメッセージ・ドリブン・プログラムに戻されます。

- BMP が、ルート・セグメント、直接従属セグメント、または順次従属セグメントの ISRT 要求を出したが、IMS は DEDB エリアのルート・アドレス可能

部分または順次従属部分のいずれにも、新しいセグメントを挿入するための十分なスペースを取得できなかった。

- ルート・セグメント、直接従属セグメント、または順次従属セグメントの ISRT 要求で IMS がこの状況コードを戻した場合、このエリアのルート・アドレス可能部分、独立オーバーフロー域、または順次従属域に問題があります。
- プログラムが SYNC 呼び出し、CHKP 要求、または SYMCHKP コマンドを発行したときに、IMS がこの状況コードを戻した場合、このエリアの順次従属部分に問題があります。

いずれの場合も、IMS は、最後のコミット・ポイント以降 (プログラムがコミット・ポイントに達していない場合は、プログラムの処理開始以降) にプログラムが行ったデータベース更新をすべて除去します。

- メッセージ・ドリブン・プログラムが順次従属セグメントの ISRT 要求を出したが、順次従属部分が満杯であった。

異常終了を起こす代わりに、この状況コードは、EXEC DLI コマンドを発行したアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマーの応答: 他の処理を継続し、この問題をシステム・プログラマーに報告してください。

ソース: DL/I コード

FT

説明: 高速機能プログラムが高速機能データベースに対して発行した呼び出しに含まれている SSA の数が多過ぎます。DEDB への呼び出しに含めることができる SSA は、最高 15 までです。MSDB への呼び出しに含めることができる SSA は、ただ 1 つのみです。

プログラマーの応答: 呼び出しを訂正します。

ソース: DL/I コード

FV

説明: バッチ指向 BMP で発行された FLD 呼び出しの検証操作の少なくとも 1 つが、プログラムがコミット・ポイントに達したときに失敗しました。IMS は、最後の SYNC または CHKP 呼び出し以降 (あるいは、プログラムが SYNC または CHKP 呼び出しを発行していない場合は、プログラムの処理開始以降) データベース位置付けはすべて失われます。

プログラマーの応答: トランザクションを再処理するか、またはプログラムを終了させます。

ソース: DL/I コード

FW

説明: BMP が通常の使用のために割り振られているバッファをすべて使用したか、またはすべてのバッファが更新されました。IMS は、ユーザーがバッファ・スペースを使い切る可能性があることを警告するために、この状況コードを戻します。FR 状況コードがすぐ後に戻される可能性があります。

DEDB を処理している場合、データを変更する要求で FW が戻されます。

MSDB を処理している場合、データを変更するすべての呼び出しおよび GH 呼び出しで FW が戻されます。

DEQ 呼び出しの場合、解放できるバッファがないときに、このコードが戻されます。

異常終了を起こす代わりに、この状況コードは、EXEC DLI コマンドを発行したアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマーの応答: FW 状況コードによって起動されるエラー処理ルーチンを用意して、FW 状況コードがプログラムに戻されたらすぐに、SYNC 呼び出し、CHKP 要求、または SYMCHKP コマンドを発行させることができます。これにより、バッファ所要量の合計が削減されます。FW 状況コードを受け取らないようにするには、SYNC または CHKP 呼び出しをより頻繁に発行します。

ソース: DL/I コード

FY

説明: PROCOPT=H の PCB では、セグメントが順方向に順次処理されます。位置は UOW 上に設定され、順方向にのみ移動されます。HSSP アプリケーション・プログラムでは、現在の UOW 位置より前のセグメントを検索しようとしても認められないため、処理されません。プログラムには、この状況コードが戻されます。

プログラマーの応答: アプリケーション・プログラムを変更して、順方向にのみセグメントを検索するようにします。セグメントを逆方向にアクセスするには、PROCOPT に H 以外の値を指定した PCB を使用します。

ソース: DL/I コード

GA

説明: 非修飾の GN または GNP 呼び出しを満たそうとして、IMS が階層境界を越えてより高位のレベルに入りました。

IMS が STAT²要求の後で GA を戻した場合、発行された要求がすべての VSAM バッファ・サブプールの全体の統計を検索したことを意味します。

異常終了を起こす代わりに、この状況コードは、EXEC DLI コマンドを発行したアプリケーション・プログラムに戻されます。この呼び出しの結果は、戻りコード 0 です。

プログラマーの応答: この状況コードは、通知専用の状況コードです。

ソース: DL/I コード

GB

説明: GN 呼び出しを満たそうとして、DL/I がデータベースの終わりに達したか、または SETR ステートメントを使用した場合は、現行の範囲の終わりに達しました。この場合、呼び出しの SSA またはコマンドの修飾は、最後のオカレンスを超えたデータを指定していたので、検索は、既知のまたは期待されるセグメント・オカレンスが存在するところまでに限定されませんでした。

例えば、最大値を超えるキー値を指定した GU 呼び出しではなく、GN 呼び出しで特定の値より大きいキーが指定された場合です。

GB 状況コードは次の場合に戻されることがあります。

- 非修飾 GN 呼び出し
- 最大キーが指定されていない、修飾された GN 呼び出し (入出力域にデータが戻されない場合)

これに対して、次の場合には、GB 状況コードの代わりに GE 状況コードが戻されます。

- GU 呼び出し
- 最大キーが指定されていない、修飾された GN 呼び出し (入出力域にデータが戻される場合)
- 最大キーが指定された、修飾された GN 呼び出し

IMS は、GSAM データ・セットをクローズした場合にもこの状況コードを戻します。後続の要求で想定される位置は、GSAM または全機能データベースの場合は、データベースの先頭であり、SETR ステートメントが DEDB データベースに対して使用された場合は、現行の範囲の先頭です。

異常終了を起こす代わりに、この状況コードは、EXEC DLI コマンドを発行したアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマーの応答: ユーザーが決定します。

ソース: DL/I コード

2. STAT はプロダクト・センシティブ・プログラミング・インターフェースです。

GC

説明: 作業単位 (UOW) 境界を横切ろうとしたか、または PROCOPT=H の場合はエリア境界を横切ろうとしました。PROCOPT=H または PROCOPT=P を指定したバッチ指向 BMP の場合は、最後のコミット処理以降またはプログラムが実行を開始した後、参照された PCB 上の少なくとも 1 つの呼び出しがデータベース内で位置を変更しました。IMS はセグメントの検索または挿入を行いませんでした。位置は次の UOW の先頭のセグメントの前です。

異常終了を起こす代わりに、この状況コードは、EXEC DLI コマンドを発行したアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマーの応答: ユーザーが決定します。ただし、GC 状況コードが PROCOPT=H を指定した PCB を参照する呼び出しからの結果である場合、プログラムは、その PCB に対して別の呼び出しが発行される前にコミット処理が実行されるようにする必要があります。そうしない場合、FR 状況コードが戻されます。

ソース: DL/I コード

GD

説明: プログラムが、挿入されるセグメントのレベルより上位のすべてのレベルについて修飾せずに ISRT 呼び出しを発行しました。修飾が指定されなかったレベルの少なくとも 1 つについて、この PCB を使用する先行の要求で有効な位置がセグメントに設定されました。その位置が、次のいずれかの理由で無効になりました。

- そのセグメントが、別の DB PCB を使用した DLET 呼び出しにより削除された。
- セグメントが代替処理シーケンスを使用して検索され、この DB PCB に対する REPL または DLET 呼び出しによって、既存の位置に対する索引が削除された。

異常終了を起こす代わりに、この状況コードは、EXEC DLI コマンドを発行したアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマーの応答: ユーザーが決定します。

ソース: DL/I コード

GE

説明: 呼び出しレベルのプログラムの場合: IMS がこの状況コードを戻す原因として、次の場合が考えられます。

- DL/I が、Get 呼び出しで指定されたセグメント検索引数を満たすセグメントを見つけることができなかった。

- ISRT 呼び出しの場合、DL/I が、挿入されるセグメントのいずれかの親を見つけれなかった。
- ISRT 呼び出しの場合、DL/I が、SETR ステートメントで決定されているアクセス可能な範囲以外にルート・セグメントを挿入するように要求された。
- プログラムが、OSAM バッファ・プール統計を要求する STAT³ 呼び出しを発行したが、バッファ・プールが存在しなかった。
- プログラムが、VSAM バッファ・サブプール統計を要求する STAT³ 呼び出しを発行したが、サブプールが存在しなかった。
- 非メッセージ・ドリブン BMP が MSDB セグメントに対して FLD 呼び出しを発行した。FLD 呼び出しの後で、コミット・ポイントの前に、その MSDB セグメントが削除されました。このため、SYNC または CHKP 呼び出しの後で、GE が戻されることがあります。

コマンド・レベルのプログラムの場合:

- DL/I が、Get コマンドで指定されたセグメントを満たすセグメントを見つけることができなかった。
- ISRT コマンドの場合、DL/I が、挿入されるセグメントのいずれかの親を見つけれなかった。
- プログラムが、OSAM バッファ・プール統計を要求する STAT³ コマンドを発行したが、バッファ・プールが存在しなかった。
- プログラムが、VSAM バッファ・サブプール統計を要求する STAT³ 呼び出しを発行したが、サブプールが存在しなかった。

異常終了を起こす代わりに、この状況コードは、EXEC DLI コマンドを発行したアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマーの応答: ユーザーの処置はユーザーのプログラムにより異なります。

注: DEDB 順次従属セグメントの GNP 呼び出しで GE 状況コードが戻された場合、入出力域には、10 バイトの長さ標識および順次従属部分の削除された部分の元の位置が含まれます。位置は、順次従属チェーンの最後になります。CI 分割時にデータベースに存在しているセグメントについて、PROCOPT=GOx を使用してプログラムに GE 状況コードが戻されることがあります。

ソース: DL/I コード

GG

説明: 検索されるセグメントに無効なポインタが含まれ、しかもアプリケーション・プログラムの処理オプション

3. STAT はプロダクト・センシティブ・プログラミング・インターフェースです。

GK • HT

ョンが GOT または GON である場合、DL/I はこの状況コードを戻します。(処理オプションについては、「プログラム仕様ブロック (PSB) 生成ユーティリティー (システム・ユーティリティー)」の『プログラム仕様ブロック生成』の PROCOPT の項で説明されています)。この状態は、データベースの更新処理がユーザーのプログラムの処理と並行して行われている場合に発生することもあります。

HALDB 区画にアクセスする PROCOPT=GOx トランザクションの実行時にこれを受け取り、しかもデータベース・コマンドが進行中のために 1 つの区画が使用不可であることが検出された場合は、DFSVMxx オプションの PPUR=Y を使用するとこの状況を回避できます。

呼び出しレベルのプログラムの場合: PCB キー・フィードバック長およびキー・フィードバック域は、この呼び出しを満たした最後のセグメントに基づいて設定されます。位置はデータベースの先頭になります。

コマンド・レベルのプログラムの場合: 要求で KEYFEEDBACK を指定した場合、このコマンドを満たした最後のセグメントのキーの長さが DIBKFBL に含まれます。位置はデータベースの先頭になります。

異常終了を起こす代わりに、この状況コードは、EXEC DLI コマンドを発行したアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマーの応答: 別のセグメントに対する処理を継続するか、またはプログラムを終了させます。GG 状況コードを起こした要求を再び発行した場合、正常に処理されることもあります。

ソース: DL/I コード

GK

説明: 非修飾 GN または GNP 呼び出しで、DL/I が同じ階層レベルの別のセグメント・タイプを戻しました。

異常終了を起こす代わりに、この状況コードは、EXEC DLI コマンドを発行したアプリケーション・プログラムに戻されます。この呼び出しの結果は、戻りコードおよび理由コード共に 0 です。

プログラマーの応答: これは、通知専用の状況コードです。

ソース: DL/I コード

GL

説明: 呼び出しレベルまたはコマンド・レベルのいずれかのプログラムの場合:

プログラムが発行した LOG 要求に、ユーザー・ログ・レコードに対して無効なログ・コードが含まれていまし

た。LOG 要求のログ・コードは、X'A0' 以上でなければなりません。

呼び出しレベルのプログラムの場合: DEQ 要求で参照される入出力域の先頭バイトに有効な DEQ クラス (B から J)が入っていないなかった場合、DL/I は GL を戻します。

コマンド・レベルのプログラムの場合: GN、GNP、GU、または DEQ コマンドで、LOCKCLASS オプションにコーディングされた英字が B から J の範囲にない場合、EXEC DLI は GL 状況を戻します。その後、異常終了 1041 が発行されます。

プログラマーの応答: ログ・メッセージの先頭バイトにあるログ・コードを訂正します。

呼び出しレベルのプログラムの場合: プログラムが、DEQ 要求でこの状況コードを受け取った場合、入出力域内の DEQ クラス・コードを調べます。

コマンド・レベルのプログラムの場合: LOCKCLASS オプションでクラス用にコーディングされた英字を調べて、B から J の範囲内であるかどうかを確認します。

ソース: DL/I コード

GP

説明: プログラムが GNP を発行したが、親子関係が設定されていないか、または GNP で指定されたセグメント・レベルが、設定された親のレベルより下位ではない。

プログラマーの応答: GNP を発行する前に親子関係が設定されているかどうかを確認し、GNP で指定されたセグメント・レベルを調べます。

ソース: DL/I コード

HT

説明: HT 状況は、最高水準点タイム・スタンプ (HWM TS) が論理開始タイム・スタンプ (LB TS) より小さいことを示します。

プログラマーの応答: ユーティリティーのセットアップおよびパートナー通知のときに、最高水準点セグメントのタイム・スタンプがエリア・データ・セット上で更新されませんでした。データ共用パートナーがまだ実行中かどうか調べます。RLM が、順次従属 CI をロックしている可能性があります。

ソース: DL/I コード

II

説明: プログラムが、ISRT 呼び出しを発行して、データベース内にすでに存在するセグメントを挿入しようとした。II 状況コードのあとの現在位置は、挿入しようとしたセグメントと重複しているセグメントの直前です。この状況コードを受け取る原因として、次の場合が考えられます。

- この親に対して、同じ物理兄弟シーケンス・フィールドを持つセグメントがすでに存在する。
- この親に対して、同じ論理兄弟シーケンスを持つセグメントがすでに存在する。
- 論理親が論理子ポインターを持ち、論理子が論理兄弟ポインターを持たないのに、挿入されるセグメントがその論理親の 2 番目の論理子である。
- セグメント・タイプが物理兄弟順方向ポインターを持たないのに、挿入されるセグメントがその親に対するこのタイプの 2 番目のセグメントであるか、あるいは、1 つのアンカー・ポイントに対して 2 番目の HDAM または PHDAM ルートである。
- 挿入されるセグメントが反転構造になっている。(論理構造内でのこのセグメントの直接の親が、実際は、物理構造内ではその物理子です)
- 挿入しようとしているセグメントのシーケンス・フィールドと等しいシーケンス・フィールドを持つ物理対の論理子セグメントが、すでに存在する。例えば、セグメントが重複もなく挿入できるはずが、その物理対の挿入のために位置付けを試みたときに、そのセグメントが、既存の兄弟セグメントに対して重複キーを持っていました。
- アプリケーション・プログラムがキー X'FF...FF' を HISAM、HIDAM、または PHIDAM データベースに挿入した。

異常終了を起こす代わりに、この状況コードは、EXEC DLI コマンドを発行したアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマーの応答: ユーザーが決定します。

ソース: DL/I コード

IX

説明: プログラムが ISRT 呼び出しを発行したが、セグメントの挿入規則に違反しています。IMS がこの状況コードを戻す原因として、次の場合が考えられます。

- プログラムが論理子と論理親を挿入しようとしたが、論理親の挿入規則が物理であるのに、論理親が存在していない。
- プログラムが論理子と論理親を挿入しようとしたが、挿入規則が論理または仮想であり、しかも論理親が存在していない。入出力域にある論理親のキーが、論理子の連結キー内の対応するキーに一致していない。

- プログラムが論理子を挿入しようとしたが、論理親の挿入規則が仮想であるのに、論理親が存在している。入出力域にある論理親セグメントのキーが、論理子の連結キー内の対応するキーに一致していない。
- プログラムが物理対セグメントを挿入しようとしたが、物理対の両方が同じセグメント・タイプであり、しかも物理親と論理親が同じオカレンスである。
- AI または AO 状況コードを受け取った後で、プログラムが GSAM データベースに ISRT 呼び出しを発行した。

プログラマーの応答: ISRT またはプログラムを訂正します。

ソース: DL/I コード

L2

説明: アプリケーション・プログラムが、DEDB の特定の AREA に対するアプリケーション・プログラムの挿入アクティビティーを行うために、SDEP CI RBA を割り振る必要があったが、AREA ロックを取得する要求が失敗しました。

プログラマーの応答: IMS DBA または IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

LB

説明: プログラムがロードしようとしたセグメントが、すでにデータベース内に存在します。その他の原因として、次のものが考えられます。

- この親に対して、同じ物理兄弟シーケンス・フィールドを持つセグメントがすでに存在する。
- セグメント・タイプが物理兄弟順方向ポインターを持たないのに、挿入されるセグメントがその親に対するこのタイプの 2 番目のセグメントであるか、あるいは、1 つのアンカー・ポイントに対して 2 番目の HDAM または PHDAM ルートである。
- アプリケーション・プログラムがキー X'FF...FF' を HISAM、HIDAM、または PHIDAM データベースに挿入した。

異常終了を起こす代わりに、この状況コードは、EXEC DLI コマンドを発行したアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマーの応答: ISRT 呼び出しまたは LOAD コマンドを訂正するか、あるいはロード順序が不適切でないかどうかを調べます。インストール先の DBA またはこれに相当する担当者に確認してください。

ソース: DL/I コード

LC

説明: ロードされるセグメントのキー・フィールドの順序が正しくありません。

プログラマーの応答: セグメントを調べて、ロードすべき場所を判別します。

ソース: DL/I コード

LD

説明: ロードされるセグメントの親がロードされていません。

プログラマーの応答: ロードされているセグメントの順序を調べて、親をロードすべき場所を判別します。

ソース: DL/I コード

LE

説明: ロードされる兄弟セグメントの順序が、DBD で定義されている順序と異なります。

プログラマーの応答: ロードされるセグメントの順序を調べて、訂正します。

ソース: DL/I コード

LF

説明: 論理子セグメントのソース・データが、高可用性ラージ・データベース (HALDB) のロード・ジョブの入力ストリームで見つかりました。論理子セグメントを HALDB PHDAM または PHIDAM データベースにロードすることはできません。このセグメントは、後で更新実行のときに追加する必要があります。

プログラマーの応答: ロード・ジョブから論理子セグメント用のソース・データをすべて除去し、それらは、更新ジョブを使用して後で挿入します。

ソース: DL/I コード

LS

説明: LS 状況は、アプリケーション・プログラムが、高速処理データベースの特定のエリアに対するアプリケーション・プログラムの挿入アクティビティを行うために、SDEP CI RBA を割り振る必要があったが、CI を RLM によってロックできなかったことを示します。アプリケーション作業はコミットされるが、別のアプリケーション作業には十分な CI スペースがないこともあります。これは、SDEP の挿入作業が行われた程度、および最初にコミットされたアプリケーションによって決まります。

プログラマーの応答: コミットを行い、挿入する SDEP

セグメントが多過ぎないように注意します。

ソース: DL/I コード

MR

説明:

GU、GN、ISRT、CMD、または PURG 呼び出しのときに、IBM IMS Queue Control Facility for z/OS ルーチンによって、エラーが検出されました。呼び出しを発行するアプリケーション・プログラムが IMS Queue Control Facility ではない場合、問題は MRQPSB ブロックの無効な使用にあります。この PSB ブロックは、IMS Queue Control Facility でのみ使用できます。MRQPSB ブロックの指定方法については、IMS システム定義情報内の MSGQUEUE マクロの MRQPSBN= パラメーターの説明を参照してください。アプリケーション・プログラムが IMS Queue Control Facility である場合、AIBRETRN コードは X'00000F0' になります。

プログラマーの応答: アプリケーション・プログラムが IMS Queue Control Facility ではない場合は、MRQPSB 以外の PSB を使用してください。

アプリケーションが IMS Queue Control Facility である場合は、AIBREASN コードを見つけて、IMS Queue Control Facility の AIBREASN コードについて、IMS マクロ DFSMRAEQ を参照してください。

ソース: DL/I コード

関連資料:

 [IMS Queue Control Facility AIB 理由コード](#)

 [IBM IMS Queue Control Facility for z/OS インターフェース \(診断\)](#)

NA

説明: この PCB を使用してアクセスできる 1 つ以上のデータベースが使用不可です。

この状況コードは、データベースが使用不可の場合に、以下のアクションの結果として発行されることがあります。

- 入出力域に DBQUERY が指定された INIT 呼び出し、または QUERY コマンドが発行された。
- DL/I 呼び出しを実行するには IMS カタログが必要であるが、IMS カタログが使用不可である。
- 入出力域に VERSION(*dbname=version*) が指定された INIT 呼び出しが発行された。
- QUERY コマンドが発行された。

- IMS カタログ PCB DFSCAT00 に対して DL/I 呼び出しが発行されたが、カタログ PSB DFSCP000 をスケジュールできなかった。IMS は PSB の動的な接続を試みますが、PSB が使用不可の場合、呼び出しは失敗します。トラブルシューティング情報を最新の DFS1769W、DFS1852W、および DFS1934E メッセージで調べてください。

この PCB を使用した要求を出すと、おそらく、INIT STATUS GROUPA が発行されていれば BA 状況コードが戻され、発行されていなければ DFS3303I メッセージおよび 3303 疑似異常終了になります。動的割り振りが失敗したためにデータベースが使用できない場合は例外です。この場合には、要求の結果は AI (オープン不能) 状況コードになります。

プログラマーの応答: これは、通知専用の状況コードです。

ソース: DL/I コード

NE


説明: 索引保守が DL/I 呼び出しを発行したが、セグメントが見つかりませんでした。この状況コードは、メッセージ DFS0840I に含まれます。システム・コンソールは、メッセージ DFS0840I INDEX ERROR (*dbdname*) NE (キーの先頭の 45 バイト) を受け取ります。アプリケーション・プログラムは、ブランクの状況コードを受け取ります。

アプリケーション・プログラムは副次索引をデータベースとして処理し、そのため一部の副次索引項目を削除した可能性があります。その後、ソース・セグメントが削除されるとき、そのソース・セグメントの副次索引が存在しない可能性があります。この理由で、アプリケーション・プログラムがソース・セグメントを削除し、索引項目が存在しない場合、DFS0840I メッセージがシステム・コンソールに送られるが、アプリケーション・プログラムにはブランクの状況コードが戻されます。

プログラマーの応答: 副次索引がデータベースとして処理され、その結果により DFS0840I メッセージに含まれるキーが削除されたのかどうかを判別します。これが理由でない場合は、索引がデータベースと不整合である原因を調べて、訂正します。

ソース: DL/I コード

関連情報:

 DFS0840I (メッセージおよびコード)

NI

説明: IMS がこの状況コードを戻す理由は、次のとおりです。

- 固有の副次索引内に重複セグメントがあります。IMS が、固有のシーケンス・フィールドが定義された副次索引のソース・セグメントを挿入または置換しているときに、副次索引セグメントを挿入しようとしたが、同じキーの索引セグメントが見つかったため、挿入できませんでした。索引内でセグメントが重複する原因の 1 つとして考えられるのは、索引 DBD が固有キー値を正しく指定しなかったためです (副次索引の場合のみ)。
- 索引データ・セットをオープンするときに、データ管理のオープン・エラーが発生しました。

オンライン・アプリケーション・プログラムでは、呼び出しはバックアウトされ、プログラムは NI 状況コードを受け取ります。

IMS DASD ログにログを取らないバッチ・プログラムの場合、IMS はプログラムを 0828 異常終了で終了させます。バッチ・バックアウトの実行が必要です。

プログラマーの応答:

応答はユーザーが決定します。副次索引項目の重複が発生している場合、索引を非固有として指定し、オーバーフロー入力順データ・セットを用意します。オープン・エラーが発生している場合、メッセージ DFS0730I を参照してオープン・エラーの原因を調べます。

ソース: DL/I コード

NL

説明: アプリケーション・プログラムが拡張チェックポイント呼び出しを発行しました。チェックポイント情報はログ・データ・セットに書き込まれるが、ログのバッチ・ステップに DD ステートメントがないため、チェックポイントは書き込まれませんでした。ログ・データ・セット用の DD 名は IEFRDER です。チェックポイント情報は書き込まれなかったが、通常のコミット処理は行われました。

プログラマーの応答: IEFRDER DD ステートメントを指定します。DD DUMMY ステートメントの場合は、状況が戻されません。

ソース: DL/I コード

NO

説明: 索引保守機能によって発行されたデータベース要求の処理中に、BSAM または VSAM 物理入出力エラーが発生しました。

オンライン・プログラムの場合、この呼び出しで行われた更新はすべてバックアウトされ、アプリケーション・プログラムは NO 状況コードを受け取ります。IMS DASD ログにログを取らないバッチ・プログラムの場合、IMS はプログラムを 826 異常終了で終了させます。

プログラマーの応答: エラーの詳細を説明する付随メッセージを参照してください。バッチ環境では、バッチ・バックアウトを実行します。

ソース: DL/I コード

NU

説明: この PCB を使用して ISRT、DLET、または REPL 要求を出すと、INIT STATUS GROUPA 呼び出しまたは QUERY コマンドが発行されていれば BA 状況コードが戻され、発行されていなければ、DFS3303I メッセージまたは 3303 疑似異常終了になります。使用不能なデータベースが削除処理のみに必要な場合は、ISRT および REPL 要求は処理される可能性があります。

プログラマーの応答: これは、通知専用の状況コードです。

ソース: DL/I コード

OB

説明: OB 状況は、DEDB 順次従属スキャンまたは削除ユーティリティに指定された STOPRBA パラメーター値が、/DBR または RESTART からのタイム・スタンプを持つ、既に割り振り済みの順次従属 CI 境界またはそのダミー・セグメントと一致し、SDEP ユーティリティが応じられないことを示しています。

プログラマーの応答: パラメーター値の妥当性を調べ、/DBR または IMS 再始動によって書き込まれたダミー・セグメントまたは既に割り振り済みの SDEP CI 境界ではない正しい値を使用します。

ソース: DL/I コード

OS

説明: OS 状況は、DEDB 順次従属スキャン・ユーティリティに指定された STOPRBA パラメーター値が、現在の順次従属 CI セットに対して大き過ぎることを示しています。

プログラマーの応答: パラメーター値の妥当性を調べ、正しい値を使用するか、またはスキャン終了に関してはユーティリティのデフォルトを使用します。

ソース: DL/I コード

QC

説明: このプログラムのキューには、もうメッセージがありません。IMS がこの状況コードを戻す理由は、次のとおりです。

- アプリケーション・プログラムが正常な CHKP 呼び出しを発行したが、CHKP 呼び出しによって内部的に発行された GU 呼び出しが失敗した (すなわち、メッセージが戻されなかった)。
- メッセージ GU ごとに同期点を設定しない (すなわち、TRANSACT マクロで mode=MULT を指定) APPC 同期メッセージを処理するアプリケーション・プログラムが、QC 状況コードを戻されて、GU 呼び出し後の同期点が強制された。

TRANSACT マクロについて詳しくは、IMS システム定義の説明を参照してください。

- MPP またはトランザクション指向 BMP が、別のメッセージを検索するため GU 呼び出しを発行したが、もうメッセージがないか、または処理限界 (TRANSACT マクロの PROCLIM=parm で指定) に達した。
- IMS がシャットダウンされたか、または次のいずれかである。
 - アプリケーション・プログラムが処理中である従属領域に対して /PSTOP REGION コマンドが発行された。
 - データベース・ダンプ (/DBD) コマンドが発行された。
 - データベース・リカバリー (/DBR) コマンドが処理中である。
 - サブシステム停止 (/STOP SUBSYS) コマンドが発行された。

- IMS が領域をスケジュール変更しようとした (即時スケジュール変更)。
- アプリケーション・プログラムが DB2® などの外部サブシステムにアクセスする場合、外部サブシステムによって提供されるコミット確認出口は MODE=MULT (CMTMODE(MULT)) がサポートされているかどうかを判別できます。次のメッセージがデキューされてアプリケーション・プログラムに提示される前に、IMS は、この出口ルーチン呼び出しします。この出口ルーチンにより、外部サブシステムは、直前のメッセージのコミットを開始せずに新しいメッセージを正しく処理できるかどうかを決定することができます。外部サブシステムは、IMS に通常の MODE=MULT (CMTMODE(MULT)) 処理の続行を要求するかまたはコミット・アクションの開始を要求する戻りコードを設定して、IMS に戻ります。コミット・アクションが要求されると、IMS は、次のメッセージをキューから出す前にコミット・アクション

を開始し、アプリケーション・プログラムを「QC」状況コードで終了します。

プログラマーの応答: これは、通知専用の状況コードです。アプリケーション・プログラムを終了させます。

ソース: DL/I コード

関連概念:

➡ DB/DC 環境および DCCTL 環境での領域の高速スケジュール変更 (システム定義)

関連資料:

➡ TRANSACT マクロ (システム定義)

➡ コミット確認出口ルーチン (出口ルーチン)

QD

説明:

プログラムが GN または GCMD 呼び出しを発行したが、このメッセージのセグメントはもうありません。

プログラマーの応答: メッセージを処理します。

ソース: DL/I コード

QE

説明: プログラムが、メッセージ・キューに対して GU 呼び出しを発行する前に、メッセージ GN 呼び出しを発行しました。メッセージ・ドリブン高速機能プログラムでは、このコードはメッセージ呼び出しのみに適用されます。プログラムが、メッセージ・キューに対して GU 呼び出しを発行する前に、メッセージ GN 呼び出しを発行しました。メッセージ・ドリブン高速機能プログラムでは、このコードはメッセージ呼び出しのみに適用されます。コミット・インターバル中に、プログラムが、正常なメッセージ GU 呼び出しを発行せずに、入出力域パラメーターを指定した ROLB 呼び出しを発行した場合にも、このコードが戻されます。メッセージ・ドリブン高速機能プログラムが、内部 GU 呼び出しを設定するために CHKP 呼び出しを発行したが、CHKP 呼び出しが QC 状況コードで失敗しました。失敗した CHKP 呼び出しのコミット・インターバル中は、正常な GU 呼び出しが行われませんでした。SDEP フルまたは FLD 検査の失敗 (ROLB を使用して再処理される) を検出した呼び出しに対する通知専用の状況コードです。

プログラマーの応答: 以下により、プログラムを訂正します。

- GN 呼び出しの前に GU 呼び出しを発行する。
- GCMD 呼び出しの前に CMD 呼び出しを発行する。

- ROLB 呼び出しの前に GU 呼び出しを発行する。

ソース: DL/I コード

QF

説明: 非共有キュー環境では、セグメント長が 5 文字より短くなります (セグメント長は、メッセージ・テキスト長に制御文字の 4 文字を加えたものです)。

共有キュー環境で、アプリケーション・プログラムの挿入 (ISRT) により複数のキュー・バッファーにまたがるメッセージが生じる場合は、2 番目および後続のバッファーは共有キューに PUT (書き込み) されます。共有キューがフルのためそれらの CQS PUT がリジェクトされる場合は、STATUSQF がアプリケーション・プログラムに戻されます。

プログラマーの応答: 非共有キュー環境の場合は、セグメントを訂正し、ROLB を発行して、不完全なデータをバックアウトします。

共有キュー環境の場合は、キュー・サイズを増やす手順に従います。

ソース: DL/I コード

QH

説明: 端末シンボリック・エラーがありました。出力論理端末名またはトランザクション・コードが、IMS に認識されません。この状況コードを受け取る原因として、次の場合が考えられます。

- プログラムが、GU で QC 状況コードを受け取ったにもかかわらず、代替応答 PCB に挿入しようとした。
- プログラムが、論理端末名がブランクになっている入出力 PCB に挿入しようとした。バッチ指向 BMP または CPI 通信ドリブン・プログラムから発信されたメッセージに対してプログラムが GU 呼び出しを発行した後に、この状況が発生することがあります。
- SMB または CNT が見つからなかった。
- プログラムが、DEALLOCATE_ABEND オプションを指定した SETO 呼び出しで会話を割り振り解除した。後続の ISRT 呼び出しは、この状況コードでリジェクトされます。
- プログラムが、最初に GU 呼び出しを発行せずに、ISRT 呼び出しを発行した。
- 指定された論理端末名またはトランザクション・コードは高速機能専用であり、このプログラムでは使用不能である。
- プログラムが、5 バイトより短いセグメントの ISRT 呼び出しを発行した。
- プログラムが、6 バイトより短い SPA の ISRT 呼び出しを発行した。

RA • SD

- 出力論理端末名またはトランザクション・コードが、左寄せでなく、先行ブランクがある。

プログラマーの応答: 出力論理端末名またはトランザクション・コードを調べて、訂正します。

ソース: DL/I コード

RA

説明: トークンが、未解決の SETS 要求のどれとも一致しません。あるいは、この要求が、前の要求で BA 状況を受け取っていないデータベース PCB に対して発行されました。

プログラマーの応答: 未解決の SETS 要求は、コミット処理によって取り消された可能性があります。あるいは、エラーはトークンの用法にあります。

ソース: DL/I コード

RC

説明: PSB 内のサポートされていない PCB を使用して ROLS 呼び出しが発行されました。あるいは、プログラムが接続サブシステムを使用中です。ROLS 呼び出しが、SETS 呼び出しに対応している場合、この呼び出しはリジェクトされます。ROLS 呼び出しが、SETU 呼び出しに対応している場合、この呼び出しは処理されるが、サポートされない PCB または接続サブシステムへの更新はバックアウトされません。接続サブシステムが使用されている場合、この状況が戻されるのは、SETU 呼び出しに対応して ROLS 呼び出しが発行されたときのみです。

説明: PSB が、DEDB、MSDB、または GSAM 編成へのアクセスを含んでいるか、または接続サブシステムへのアクセスがあるため、ROLS 要求がリジェクトされました。

プログラマーの応答: ユーザーが決定します。

プログラマーの応答: この環境では ROLS 要求は無効です。プログラムは、ROLS 呼び出しの使用を妨げているデータベース編成の使用を除去するか、または ROLS 呼び出しの使用を止めなければなりません。

ソース: DL/I コード

RX

説明: プログラムが、そのセグメントの置き換え規則に違反する REPL を発行しました。

プログラマーの応答: REPL 呼び出しを訂正するか、あるいはインストール先の DBA またはこれに相当する担当者に確認してください。

ソース: DL/I コード

SA

説明: IMS がストレージ・スペースを取得できませんでした。

SETS 要求の場合、IMS は入出力域のデータ用のストレージを取得できませんでした。

INIT VERSION(*dbname=version*) 要求の場合、IMS は必要な内部ブロックを作成するための CSA ストレージを取得できませんでした。

プログラマーの応答: ジョブ・ステップに対して、より大きな領域サイズを使用します。

ソース: DL/I コード

SB

説明: SETS 要求の最大レベル数 9 がすでに指定されているのに、この要求で 10 番目を設定しようとした。

プログラマーの応答: プログラムを訂正します。

ソース: DL/I コード

SC

説明: PSB 内のサポートされていない PCB (DEDB、MSDB、または GSAM) を使用して SETS または SETU 呼び出しが発行されました。あるいは、プログラムが接続サブシステムを使用中です。

プログラマーの応答: SETS 呼び出しの場合、要求はリジェクトされます。サポートされない PCB を除去するか、または SETU 呼び出しを使用します。SETU 呼び出しの場合、ROLS 呼び出しでは、サポートされない PCB の変更はバックアウトされないということを承知した上でプログラムを継続することができます。他の選択肢は、SETS または ROLS 機能を使用しないことです。

ソース: DL/I コード

SD

説明: 呼び出しレベルのプログラムの場合: セグメント検索索引数 (SSA) でコマンド・コード O が指定されているときは、SSA に高速機能副次索引データベースのセグメントの位置および長さの値を含めることは許可されません。

コマンド・レベルのプログラムの場合: コマンド・コード O が指定されているときは、高速機能副次索引データベースのセグメントに対して、位置および長さの値を持つ SSA フォーマットは許可されません。

プログラマーの応答: SSA を訂正してください。

ソース: DL/I コード

SF

説明: フィールド・レベルのセンシティブティティーを使用するアプリケーション・プログラムがバックレベル・バージョンのデータベースのセグメントにアクセスしようとしたが、現行バージョンのデータベースでターゲット・セグメントの長さが変更されていました。データベースのバージョン間でセグメントの長さが変更されている場合、フィールド・レベルのセンシティブティティーを使用するアプリケーション・プログラムは、現行バージョンのデータベース内のセグメントにのみアクセスできます。

システムの処置: IMS は、この状況コードを返して、通常どおりに実行を続行します。

システム・プログラマーの応答: セグメントにアクセスするには、アプリケーション・プログラムは現行バージョンのデータベースにアクセスする必要があります。

要求されたバージョンのデータベースが PCB または DL/I INIT VERSION 呼び出しのいずれかで指定されている場合、指定されているバージョンを現行バージョンに変更する必要があります。

PCB または INIT VERSION 呼び出しのどちらにもバージョンが指定されていない場合、PSB または IMS.PROCLIB データ・セットの DFSDFxxx メンバーで DBLEVEL=CURR を指定することにより、IMS がアプリケーション・プログラムに返すデフォルトのバージョンを変更できます。

PCB または PSB に変更を加えるには、PSB 生成ユーティリティを実行して PSB を再生成する必要があります。

DFSDFxxx メンバーに対する変更を検出するには、変更が行われた後にオンライン IMS システムを再始動する必要があります。DLIBATCH および DBBBATCH ジョブは、IMS の再始動を必要とすることなく、ジョブが再開された後で DFSDFxxx メンバーに対する変更を検出できます。

ソース: DL/I コード

モジュール: DFSDFLS0

関連概念:

➡ データベースのバージョン管理 (データベース管理)

関連資料:

➡ PSBGEN ステートメント (システム・ユーティリティ)

➡ 全機能または高速機能データベースの PCB ステートメント (システム・ユーティリティ)

➡ INIT 呼び出し (アプリケーション・プログラミング API)

➡ DFSDFxxx メンバーの DATABASE セクション (システム定義)

SY

説明: IMS Java SYNC 要求呼び出しの同期点処理中に、IMS が内部エラーを検出しました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

TA

説明: この状況コードは CICS オンライン・コマンド・レベル・プログラムにのみ適用され、スケジューリング要求の後で戻されます。要求で指定された PSB が、PSB ディレクトリー内にありません。

プログラマーの応答: スケジューリング要求で指定した PSB の名前を訂正するか、または PSB ディレクトリーにこの PSB 名を追加します。

ソース: DL/I コード

TC

説明: この状況コードは CICS オンライン・コマンド・レベル・プログラムにのみ適用され、スケジューリング要求の後で戻されます。これは、すでに PSB をスケジューリングしていることを意味します。

プログラマーの応答: プログラムを訂正して、別の PSB をスケジューリングする前に PSB を終了させるようにします。PSB をスケジューリング変更する場合、その前に PSB を終了させておかなければなりません。

ソース: DL/I コード

TE

説明: この状況コードは CICS オンライン・コマンド・レベル・プログラムにのみ適用され、スケジューリング要求の後で戻されます。初期設定エラーが発生したため、PSB をスケジューリングできませんでした。

プログラマーの応答: システム・プログラマーまたは DBA に問い合わせてください。考えられる PSB 初期設定エラーの原因については、「IMS プログラムの異常

TG • TO

終了時の処置 (アプリケーション・プログラミング)』を参照してください。

ソース: DL/I コード

TG

説明: この状況コードは CICS オンライン・コマンド・レベル・プログラムにのみ適用され、終了要求の後に戻されます。プログラムが終了要求を出したが、スケジュールされている PSB がありませんでした。

プログラマーの応答: これは、通知専用の状況コードです。PSB を終了させるだけの場合は、処理を継続します。同期点も発生させる場合は、SYNCPOINT コマンドを発行します。(不成功に終わった終了要求では、同期点は発生しませんでした)

異常終了を起こす代わりに、この状況コードは、EXEC DLI コマンドを発行したアプリケーション・プログラムに戻されます。

ソース: DL/I コード

TH

説明: この状況コードは CICS オンライン・コマンド・レベル・プログラムにのみ適用され、データベース要求または統計要求の後に戻されます。プログラムが、PSB をスケジュールする前に、データベースにアクセスしようとした。

プログラマーの応答: プログラムを訂正して、データベースにアクセスする前に PSB をスケジュールするようにします。

ソース: DL/I コード

TI

説明: この状況コードはコマンド・レベル・プログラムにのみ適用され、ISRT コマンドの後に戻されます。ISRT コマンドで、セグメントへの無効なパスが定義されました。最初に指定されたセグメントと最後に指定されたセグメントの間のすべてのセグメントについて、データが転送されなければなりません。

プログラマーの応答: ISRT コマンドを訂正して、転送すべきセグメントごとに FROM オプションを指定するようにします。

ソース: DL/I コード

TJ

説明: この状況コードは CICS オンライン・コマンド・レベル・プログラムにのみ適用され、CICS オンライン・プログラムが使用する任意のコマンドの後に戻さ

れます。DL/I はアクティブではありません。

プログラマーの応答: DBA に連絡してください。SIT で DL/I をアクティブと定義して、CICS を再初期設定する必要があります。

ソース: DL/I コード

TL

説明: この状況コードは CICS オンライン・コマンド・レベル・プログラムにのみ適用され、スケジューリング要求の後に戻されます。スケジューリング意図内で矛盾が生じました。(プログラム分離が指定されていれば、これは発生しません)

プログラマーの応答: SIT でプログラム分離を指定しません。プログラム分離が指定されていない場合、PSB が使用されなくなるまで待機してから、PSB をスケジュール変更します。

ソース: DL/I コード

TN

説明: この状況コードはコマンド・レベル・プログラムにのみ適用され、すべてのコマンドの後に戻されます。無効な SDIB が存在します。初期設定呼び出しが行われなかったか、またはシステムの DIB (アプリケーション・プログラムの DIB ではなく) がオーバーレイされました。

プログラマーの応答: プログラムを調べて、呼び出しレベルのバッチ・プログラムで使用しているのと同様の入り口ステートメントを使用しなかったかどうかを確認します。また、プログラム内に、オーバーレイの原因になるアドレッシング・エラーがないかどうかを確認します。

ソース: DL/I コード

TO

説明: この状況コードはコマンド・レベル・プログラムにのみ適用され、REPL コマンドの後に戻されます。パス置換エラーが発生しました。置換されるセグメントは、前の Get コマンドと比較され、次のいずれかの状態が発生しました。

- Get コマンドで検索されなかったセグメントが、置換の対象に指定されている。
- Get コマンドで、このセグメントについては、データが転送されなかった (INTO オプションがない)。
- 転送されるデータの属性が、データベース内のデータと一致しない。

プログラマーの応答: プログラムを訂正します。

ソース: DL/I コード

TP

説明: この状況コードはコマンド・レベル・プログラムにのみ適用され、データベース・コマンド、LOAD コマンド、または統計要求の後で戻されます。USING オプションで指定された PCB の番号が、使用されている PSB 内の PCB の数より大きいか、または無効な処理オプションが指定されました。例えば、PSB 内で L 処理オプションが指定されていないのに、プログラムが LOAD コマンドを発行しようとした。

EXEC DLI コマンドを GSAM PCB に対して実行しようとしています。これは無効です。

プログラマーの応答: PSB を調べて、プログラムを訂正します。

ソース: DL/I コード

TR

説明: この状況コードは、CICS XDLPRE 出口ルーチンがレジスター 15 に X'04' を戻したことを示しています。これは、直前の DL/I 要求を実行してはならないと、この出口ルーチンが判断したためです。

プログラマーの応答: CICS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

TY

説明: この状況コードは CICS オンライン・コマンド・レベル・プログラムにのみ適用され、データベース要求または統計要求の後で戻されます。要求が発行されたときに、データベースがオープンされていませんでした。

プログラマーの応答: DBA またはシステム・プログラマーに連絡してください。オペレーター・コマンドを使用して、このデータベースを検査し、オープンすることができます。

ソース: DL/I コード

TZ

説明: この状況コードは CICS オンライン・コマンド・レベル・プログラムにのみ適用され、データベース要求または統計要求の後で戻されます。検索されたセグメントの長さが 64 KB を超えています。

プログラマーの応答: DBA またはシステム・プログラマーに連絡してください。データベース定義の変更が必要になる場合もあります。

ソース: DL/I コード

UB

説明: この状況コードが戻されるのは、IMS が専用バッファ・プールを取得できない場合です。

プログラマーの応答: この状況コードが受け取られたときに、高速再編成ユーティリティ (HSRE) が使用中であると、DFS0535I メッセージは発行されません。ユーティリティ終了時に発行される DFS2712I メッセージで、モジュールの名前、異常終了サブコード、ユーティリティ高速作業域 (UHSW) のストレージ域ダンプ、IOAR (DEDB I/O)、およびレジスター内容を調べます。

DBFPAPB0 戻りコードが 08 の場合、専用バッファ・プールに使用できるストレージがありません。

DBFHUSS0 戻りコードが 10 の場合、専用バッファの要求は初期バッファ・セットに対するものであり、専用プール・アンカー・アドレスがすでに存在しています。

ソース: DL/I コード

UC

説明: この状況コードは、次の理由で戻されます。

- バッチ・プログラムで、チェックポイント・レコードがユーティリティ制御機能 (UCF) ジャーナル・データ・セットに書き込まれました。

ユーティリティ制御機能 (UCF) の管理の下で、HD 再編成、HD 再ロード、または初期ロード・プログラムを処理中に、チェックポイント・レコードが UCF ジャーナル・データ・セットに書き込まれました。IMS は、最後の ISRT 呼び出しが正しかったこと、初期ロード・プログラムを継続できること、または継続する前にチェックポイント・プロシージャーを実行できることを示すために、この状況コードを戻します。


- 接続が失敗した。

プログラマーの応答: 最初の状況コードの理由の場合、これは、通知専用の状況コードです。

接続障害に対してこの状況コードが戻された場合、エラーの訂正方法についての詳細は、メッセージ DFS0535I を参照してください。

ソース: DL/I コード

関連情報:

 DFS0535I (メッセージおよびコード)

UJ

説明: 199 ページの『第 12 章 高速機能ユーティリティの状況コードおよび理由コード』を参照してください。

UP

説明: この状況コードが戻されるのは、要求された作業単位 (UOW) が UOW 範囲を超えている場合です。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再実行します。

ソース: DL/I コード

UR

説明: この状況コードが戻されるのは、バッチ・プログラムの場合のみです。初期ロード・プログラムがユーティリティ制御機能 (UCF) の下で再始動されています。このプログラムは、UCF の下で実行中に終了しました。このジョブは、再始動要求によって再実行されました。

プログラマーの応答: プログラムが適切な順序でデータベース・ロードを実行しているかどうかを確認してください。プログラムは入出力域および DB PCB キー・フィールドバック域を使用します。

ソース: DL/I コード

US

説明: この状況コードが戻されるのは、バッチ・プログラムの場合のみです。初期ロード・プログラムが処理を停止しているところです。ユーティリティ制御機能 (UCF) の管理下で、HD 再編成再ロード、またはユーザーの初期ロード・プログラムを処理中に、オペレーターが UCB からの WTOR に応答し、現行の機能を終了するように要求しました。最後の ISRT 呼び出しは処理されました。

プログラマーの応答: 初期ロード・プログラムがデータ・セットのチェックポイント・プロシージャーを実行し、ゼロ以外の値をレジスター 15 に戻すかどうかを確認します。

ソース: DL/I コード

UW

説明: この状況コードが戻されるのは、IMS が作業域を取得できない場合です。

プログラマーの応答: REGION サイズを増やして、ジョブを再実行します。

ソース: DL/I コード

UX

説明: この状況コードが戻されるのは、バッチ・プログラムの場合のみです。チェックポイント・レコードが書き込まれ、処理が停止しました。これは、UC 状況コードと US 状況コードの組み合わせです。

プログラマーの応答: UC 状況コードと US 状況コードの説明を参照してください。

ソース: DL/I コード

U1

説明: この状況コードが戻されるのは、指定されたエリア名が無効な場合です。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ユーティリティ・ジョブを再実行します。

ソース: DL/I コード

U9

説明: この状況コードが戻されるのは、エリアのアクセス意図が読み取りまたは読み取り専用の場合です。アクセス意図は、UP または EX でなければなりません。

プログラマーの応答: /START DB ACCESS コマンドまたは UPDATE DB START(ACCESS) SET(ACCTYPE()) コマンドを使用して、UP または EX にアクセス意図を設定し、ジョブを再実行します。

ソース: DL/I コード

V1

説明: プログラムが挿入または置換しようとした可変長セグメントが長過ぎます。セグメントの長さは、DBD で指定された最大長以下でなければなりません。IMS は、指定された最小の長さではそのセグメント・タイプのシーケンス・フィールドを完全に保持できない場合にも、状況コード V1 を戻します。この状態では、状況コード V1 が戻される原因として次の 3 つ場合があります。編集/圧縮ルーチンを使用しない処理の場合、編集/圧縮ルーチンを使用するがキー圧縮オプションを使用しない処理の場合、指定された最小の長さより短い長さフィールド (LL) をコーディングする場合です。長さは、参照フィールド全体が入る十分な長さでなければなりません。セグメントが論理子の場合であれば、論理親の連結キー全体および対セグメントの全シーケンス・フィールドが入らなければなりません。プログラムが、可変長セグメントを削除しようとした。ユーザーの入出力域にあるこのセグメントのコピーの長さフィールドが無効です。

IMS は、GSAM 呼び出しで無効なレコード長が指定された場合にも、この状況コードを戻します。

プログラマーの応答: プログラムを訂正します。

ソース: DL/I コード

V2

説明: この状況コードはコマンド・レベル・プログラムにのみ適用され、データベース・コマンドまたは LOAD コマンドの後で戻されます。セグメント長が欠落しているか、または無効です。セグメント長は、正の整数でなければなりません。可変長セグメントの場合、セグメント長はプログラムの入出力域で受け入れ可能な最大サイズです。

プログラマーの応答: プログラムの変換およびコンパイラが正しく行われているかどうかを調べます。パス・コマンドでは、どのセグメント長の値も 32 KB を超えてはならず、また、長さの合計が 64 KB を超えてはなりません。

ソース: DL/I コード

V3

説明: この状況コードはコマンド・レベル・プログラムにのみ適用され、Get コマンドまたは ISRT コマンドの後で戻されます。フィールド長が欠落しているか、または無効です。フィールド長は正の整数でなければならず、WHERE オプションのフィールドごとに指定する必要があります。

プログラマーの応答: プログラムを訂正します。

ソース: DL/I コード

V4

説明: この状況コードはコマンド・レベル・プログラムにのみ適用され、データベース・コマンドまたは LOAD コマンドの後で戻されます。可変長セグメントの長さが無効です。プログラムが ISRT または REPL コマンドで指定した LL フィールド、または Get コマンドで入出力域に受け取った LL フィールドが、SEGLength の値を超えています。

プログラマーの応答: プログラムを訂正します。

ソース: DL/I コード

V5

説明: この状況コードはコマンド・レベル・プログラムにのみ適用され、Get コマンド、REPL コマンドまたは ISRT コマンドの後で戻されます。オフセットが無効です。オフセットは、正の整数でなければならず、セグメ

ント長を超えてはなりません。

プログラマーの応答: プログラムを訂正します。

ソース: DL/I コード

V6

説明: この状況コードはコマンド・レベル・プログラムにのみ適用され、KEYS オプションを使用した Get コマンドまたは ISRT コマンドの後で戻されます。連結キー長が欠落しているか、または無効です。連結キー長は、正の整数でなければなりません。

プログラマーの応答: プログラムを訂正します。

ソース: DL/I コード

V7

説明: この状況コードはコマンド・レベル・プログラムにのみ適用され、STAT コマンドの後で戻されます。これは、統計エリアの長さが短過ぎるか、または無効であることを意味します。この長さは、正の整数でなければならず、不定様式の統計の場合は少なくとも 72 バイト、要約統計の場合は 120 バイト、定様式の統計の場合は 360 バイトが必要です。

プログラマーの応答: プログラムを訂正します。

ソース: DL/I コード

XA

説明: プログラムが、すでに端末に回答した後で、プログラム間メッセージ通信を介して別のプログラムに SPA を渡すことによって、会話の処理を継続しようとした。

プログラマーの応答: 応答が送信済みであれば、SPA を IMS に戻さなければなりません。プログラムを訂正します。

ソース: DL/I コード

XB

説明: プログラムが、SPA を別のプログラムに渡したが、発信元端末に回答しようとしています。

プログラマーの応答: プログラム間メッセージ通信を介してプログラムの制御を渡したプログラムは、応答することができません。

ソース: DL/I コード

XC

説明: プログラムが挿入したメッセージで、Z1 フィールドの一部のビットが設定されています。Z1 フィールドは、IMS 用に予約済みです。

プログラマーの応答: プログラムを訂正して、それらのビットを設定しないようにします。

ソース: DL/I コード

XD

説明: IMS が、CHECKPOINT FREEZE または DUMPQ によって終了中です。IMS は、CHKP または SYNC 呼び出しを発行した BMP にこのコードを戻します。トランザクション指向 BMP の場合、IMS はメッセージを戻しません。

IMS は、バッチ・プログラムが SYNC 呼び出しを発行した場合にも XD を戻します。

プログラマーの応答: 即時に、プログラムを終了させます。プログラムが別の呼び出しを発行するとIMS はプログラムを異常終了させます。

ソース: DL/I コード

XE

説明: プログラムが、代替高速 PCB に SPA を挿入しようとした。

プログラマーの応答: PSB を再生成して、PCB から EXPRESS=YES オプションを除去するか、または ISRT 呼び出しで使用する別の非高速 PCB を定義します。

ソース: DL/I コード

XF

説明: IMS が ISRT 呼び出しを無視しました。指定された代替 PCB は、宛先に論理端末が設定されていたが、PSB 生成時に ALTRESP=YES として定義されなかったためです。

MSC 直接経路指定では、会話型トランザクション間でのプログラム間通信はサポートされません。

プログラマーの応答: アプリケーション・プログラムを訂正するか、またはその代替 PCB に ALTRESP=YES を指定するように PSB 生成を変更します。

ソース: DL/I コード

XG

説明: IMS が ISRT 呼び出しを無視しました。理由は、ソース IMS システムが IMS 6.1 より前である場合に、現在の会話が固定長 SAP を必要としているのに、挿入 (ISRT) 呼び出しが、異なる長さの SPA または可変長の SPA を持つプログラムに対するものだったためです。リモート・システムでの SPA ISRT が入力端末 (IOPCB) に戻らない場合、ソース IMS システムが IMS 6.1 より前であれば、SPA サイズは現在のものと同じでなければなりません。

プログラマーの応答: プログラムまたは SPA 定義を訂正します。

ソース: DL/I コード

XX

説明: GSAM 初期設定中、または GSAM 呼び出し処理中に、エラーが発生しました。アプリケーション・プログラムが最初の呼び出しを発行する前に、GSAM PCB にこの状況コードが戻されている場合、エラーは初期設定中に検出されました。原因となる可能性があるのは、次の場合です。

- スペース不足
- 無効な DBD
- 無効なブロック・サイズ
- 無効なオプション
- 内部 GSAM エラー

プログラマーの応答: 後続の GSAM 呼び出しを発行すると、プログラムが異常終了します。プログラムを終了させます。

ソース: DL/I コード

X2

説明: 宛先が会話型トランザクション・コードに設定されている代替 PCB への最初の ISRT 呼び出しが、SPA の挿入ではありません。SPA は、最初の ISRT 呼び出しで挿入しなければなりません。

プログラマーの応答: SPA を挿入してから、メッセージ・セグメントを再び挿入するようにします。

ソース: DL/I コード

X3

説明: プログラムが SPA の先頭 6 バイトを変更したため、この SPA が無効になりました。

プログラマーの応答: プログラムを訂正して、元のバイトを復元します。

ソース: DL/I コード

X4

説明: プログラムが、ISRT 呼び出しを発行して、SPA を非会話型のトランザクション・コードに渡しました。これは、宛先に非会話型のトランザクション・コードが設定されている PCB が参照されたためです。SPA を送信できるのは、会話型と定義されているトランザクション・コードに対してのみです。

プログラマーの応答: ISRT 呼び出しを訂正します。データ・セグメントのみ送信します。

ソース: DL/I コード

X5

説明: プログラムが、宛先にトランザクション・コードが設定されている PCB に対して SPA を送るために、複数の ISRT 呼び出しを発行しました。メッセージ当たりに、ただ 1 つの SPA のみが認められます。

プログラマーの応答: プログラムを訂正します。

ソース: DL/I コード

X6

説明: 無効なトランザクション・コード名が SPA に挿入されました。これは、入力名が LU 6.2 (APPC) または OTMA からであり、このトランザクション・コード用に動的制御ブロックが作成された場合に発生します。

プログラマーの応答: プログラムを訂正して、適切なトランザクション・コード名を設定します。

ソース: DL/I コード

X7

説明: SPA の長さが不適切です。プログラムが先頭 6 バイトを変更しました。

プログラマーの応答: SPA およびプログラムを訂正します。

ソース: DL/I コード

X9

説明: SPA の長さが、PSB 入出力域のサイズよりも大きくなっています。

プログラマーの応答: SPA の長さまたは PSBGEN 内の PSB 入出力域のサイズを訂正します。

ソース: DL/I コード

Z0

説明: セグメント・シャント機能に対して ERRCTN=TERM が指定され、INDD 入力データ・セットに無効データが見つかったため、高速再編成ユーティリティーが実行されませんでした。

プログラマーの応答: 再編成ユーティリティー・レポートからのエラー・メッセージを使用して、INDD データ・セット内のエラー・カードを訂正します。高速再編成ユーティリティーを再実行してください。

ソース: DL/I コード

モジュール: DBFUMAN0

blanks(bb)

説明: 呼び出しが完了しました。

プログラマーの応答: 処理を続けます。

ソース: DL/I コード

第 10 章 DBCTL 戻りコード

データベース制御サブシステム (DBCTL) は、戻りコードを発行できます。

DBCTL DRA 戻りコード

コーディネーター・コントローラー (CCTL) および Open Database Access (ODBA) インターフェースを使用した ODBA アプリケーション・プログラムは、データベース・リソース・アダプター (DRA) を介して IMS データベースにアクセスできます。

CCTL とは異なり、ODBA インターフェースでは PAPL パラメーター・リストが使用されません。ODBA インターフェースは、AERTDLI インターフェースを使用して、DRA に要求を伝えます。したがって、この情報は ODBA が使用される場合には適用されません。ODBA の使用については、「ODBA アプリケーション・プログラムの作成 (アプリケーション・プログラミング)」を参照してください。

コーディネーター・コントローラーが、データベース制御サブシステム (DBCTL) との接続の要求を開始します。データベース・リソース・アダプター (DRA) は、DBCTL への接続の確立と保守を行い、CCTL と DBCTL との間のすべての通信を処理します。接続が確立されると、DRA は DBCTL サービスに対する CCTL からの要求を処理することができます。CCTL は、DFSPAPL と呼ばれるパラメーター・リストを使用して、DRA に要求を伝えます。(DFSPAPL のレイアウトについては、「問題診断 (システム・プログラミング API)」を参照してください。DBCTL は、CCTL からの要求に対して、要求が正常に完了したかどうかを示すコードを DFSPAPL のフィールド PAPLRETC に設定して、応答します。PAPLRETC のフォーマットは *hhssuuu* です。ここで、*hh* はシステム異常終了、IMS 異常終了、または DBCTL 戻りコードを示します。

hh 意味

- 131** PURGE 要求の DFSDPDIR のアドレスが無効です。これは内部エラーです。処置は必要ありません。
- 80** システム異常終了コードまたは IMS 異常終了コードが戻されました。*sss* にはシステム異常終了コードが入り、*uuu* には IMS 異常終了コード (16 進数) が入ります。*sss* または *uuu* のいずれかにコードが入り、もう一方にはゼロが入ります。システム異常終了コードの説明については、「z/OS MVS システム・コード」を参照してください。


システム異常終了コードまたは IMS 異常終了コードの場合、DBCTL は通常、診断のためにストレージのダンプ (SDUMP または SNAP) を取りまします。しかし、DBCTL がダンプ (SDUMP または SNAP) は不要であると判別した場合は、*hh* を X'88' に設定します。ただし、SNAP (SDUMP ではなく) が必要であれば、*hh* を X'84' に設定します。DRA ダンプについての詳細は、IMS システム定義情報を参照してください。

高速機能の準備呼び出しが失敗した場合、DBCTL は PAPLRETC に IMS 異常終了コード 35 を設定する他に、フィールド PAPLSTCD に状況コードを戻します。

00 16 進数の DBCTL 戻りコードが、フィールド *uuu* が戻されました。

DBCTL DRA コードについて詳しくは、以下の情報を参照してください。

関連概念:

 IMS 異常終了コード (メッセージおよびコード)

関連資料:

 z/OS: z/OS MVS システム・コード

DRA および THREAD 機能の下での要求からの戻りコード

DRA および THREAD 機能の下でのすべての要求は、戻りコードを受け取りません。

戻りコード

意味

- 0 要求が正常に完了しました。
- 4 無効な機能が要求されました。

DRA 機能の下での要求からの戻りコード

データベース・リソース・アダプター (DRA) は、すべての要求に対して戻りコードを発行します。

以下に、これらのコードを要求別にリストします。

INIT 要求コード

DRA 機能の下での INIT 要求は、戻りコードを受け取る可能性があります。

戻りコード

意味

- 8 必要な DRA ストレージを取得しようとしたが、GETMAIN が失敗しました。
- 12 DRA RESLIB の動的割り振りが失敗しました。
- 16 DRA RESLIB の OPEN が失敗しました。
- 20 DRA TCB の ATTACH が失敗しました。
- 36 必要パラメーターが正しく指定されませんでした。
- 48 必要な DRA モジュールのロードが失敗しました。
- 72 DRA RESLIB が許可されていません。
- 76 DRA 始動テーブル (DFSPZPxx) のロードが失敗しました。

PURGE 要求コード

DRA 機能の下での PURGE 要求は、戻りコードを受け取る可能性があります。

以下のリストに PURGE 要求コードを示します。

戻りコード

意味

- 24 CCTL ストレージが損傷を受けました。スレッド・サービス・ルーチンのマスター制御ブロック (PAT) を見つけられません。
- 28 パージ用のスレッドが見つかりません。

- 40 DBCTL とのアクティブな通信がありません。
- 44 呼び出しトークンが無効です。 PAPLCTOK ポインターがゼロであったか、または有効な呼び出しトークンのアドレスを含んでいませんでした。
- 131 PURGE 要求の DFSDPDIR のアドレスが無効です。
- 232 PURGE 要求のスレッド TCB のアドレスが無効です。

RESYNC 要求コード

DRA 機能の下での RESYNC 要求は、戻りコードを受け取る可能性があります。

以下のリストに RESYNC 要求からのコードを示します。

戻りコード

意味

- 24 CCTL ストレージが損傷を受けました。スレッド・サービス・ルーチンのマスター制御ブロック (PAT) を見つけられません。
- 40 DBCTL とのアクティブな通信がありません。
- 44 呼び出しトークンが無効です。 PAPLCTOK ポインターがゼロであったか、または有効な呼び出しトークンのアドレスを含んでいませんでした。
- 68 無効な再同期処置が要求されました。

TERMINATE 要求コード

DRA 機能の下での TERMINATE 要求は、戻りコードを受け取る可能性があります。

TERMINATE 要求は、次のコードを受け取ることができます。

戻りコード

意味

- 8 GETMAIN が失敗しました。
- 40 DBCTL とのアクティブな通信がありません。
- 44 呼び出しトークンが無効です。 PAPLCTOK ポインターがゼロであったか、または有効な呼び出しトークンのアドレスを含んでいませんでした。
- 213 終了時に、未確定のリカバリー単位が少なくとも 1 つあります。未確定のリカバリー単位ごとに、リカバリー可能未確定構造 (RIS) が作成されます。終了処理は完了します。
- 214 終了時に未確定のリカバリー単位がある可能性があるが、DBCTL が利用不能です。

THREAD 機能の下での要求からの戻りコード

THREAD 機能の下での要求は、戻りコードを発行できます。

THREAD 機能の下でのすべての要求は、次の戻りコードを受け取ります。

戻りコード

意味

- 68 スレッド要求が無効です。

特定の要求の追加の戻りコードは、以下のとおりです。

DL/I 要求コード

THREAD 機能の下での DL/I 要求は、戻りコードを発行できます。

戻りコード

意味

- 24 CCTL ストレージが損傷を受けました。スレッド・サービス・ルーチンのマスター制御ブロック (PAT) を見つけられません。
- 28 スレッド接続がありません。
- 40 DBCTL とのアクティブな通信がありません。
- 44 呼び出しトークンが無効です。 PAPLCTOK ポインターがゼロであったか、または有効な呼び出しトークンのアドレスを含んでいませんでした。
- 56 言語パラメーター (PAPLALAN) が指定されていません。
- 64 DL/I 呼び出しリスト (PAPLCLST) が指定されていません。
- 221 DL/I 要求が発行されたが、スレッドにリカバリー・トークンが組み込まれていません。ユーザーが、同期点 HOLD 要求の後で、PTOK 要求を出していない可能性があります。

PRIME RECOVERY TOKEN (PTOK) 要求コード

THREAD 機能の下での PRIME RECOVERY TOKEN (PTOK) 要求は、戻りコードを受け取る可能性があります。

以下のリストに戻りコードを示します。

戻りコード

意味

- 24 CCTL ストレージが損傷を受けました。スレッド・サービス・ルーチンのマスター制御ブロック (PAT) を見つけられません。
- 28 スレッド接続がありません。
- 40 DBCTL とのアクティブな通信がありません。
- 44 呼び出しトークンが無効です。 PAPLCTOK ポインターがゼロであったか、または有効な呼び出しトークンのアドレスを含んでいませんでした。
- 52 リカバリー・トークンが無効です。 PAPLRTOK がゼロでした。

SCHEDULE または UNSCHEDULE 要求コード

THREAD 機能の下での SCHEDULE 要求または UNSCHEDULE 要求は、戻りコードを発行できます。

SCHEDULE または UNSCHEDULE 要求は、次のコードを受け取ることができます。

戻りコード

意味

- 24 CCTL ストレージが損傷を受けました。スレッド・サービス・ルーチンのマスター制御ブロック (PAT) を見つけられません。
- 28 スケジュール解除要求に対応する PSB がスケジュールされていません。
- 32 スケジュール要求に対応するスレッドは、すでにスケジュールされていません。
- 40 DBCTL とのアクティブな通信がありません。
- 44 呼び出しトークンが無効です。 PAPLCTOK ポインターがゼロであったか、または有効な呼び出しトークンのアドレスを含んでいませんでした。
- 52 リカバリー・トークンが無効です。フィールド PAPLRTOK がゼロでした。
- 56 言語パラメーター (PAPLALAN) が指定されていません。

- 60 PSB パラメーター (PAPLPSB) が指定されていません。
- 201 PSB が停止またはロックされています。
- 202 DEDB に関して、データベースが停止またはロックされています。
- 203 PSB またはデータ管理ブロックの読み取りで入出力エラーが発生しました。
- 205 データ管理ブロック、PSB、または PSBW プールが小さ過ぎます。
- 206 領域停止コマンドのために、スケジュールが失敗しました。
- 207 処理オプション L または LS は無効です。
- 208 高速機能バッファのページ固定でエラーがありました。
- 209 処理意図が無効です。
- 210 データベース許可が失敗しました。
- 211 リカバリー・トークンが固有でないか、またはリカバリー・トークンの CCTL ID 部分が USERID と一致しません。
- 212 渡されたリカバリー・トークンがゼロです。

SYNCPOINT 要求コード

THREAD 機能の下での SYNCPOINT 要求は、戻りコードを受け取る可能性があります。

SYNCPOINT 要求は、次のコードを受け取ります。

戻りコード

意味

- 24 CCTL ストレージが損傷を受けました。スレッド・サービス・ルーチンのマスター制御ブロック (PAT) を見つけられません。
- 28 スレッド接続がありません。
- 40 DBCTL とのアクティブな通信がありません。
- 44 呼び出しトークンが無効です。 PAPLCTOK ポインターがゼロであったか、または有効な呼び出しトークンのアドレスを含んでいませんでした。
- 52 リカバリー・トークンが無効です。 PAPLR TOK がゼロであったか、CONTinue 呼び出しで PAPLNRTK がゼロであったか、または PAPLR TOK=PAPLNRTK でした。
- 200 /DBD または /DBR コマンドが発行されたか、IRLM で障害が発生したか、または IRLM との通信が失敗したため、同期点の終了時に PSB スケジュールが終了させられます。
- 218 RESYNC 要求の場合に、リカバリー・トークンが DBCTL に認識されていません。

TERMINATE THREAD 要求コード

THREAD 機能の下での TERMINATE THREAD 要求は、戻りコードを受け取る可能性があります。

TERMINATE THREAD 要求は、次のコードを受け取ることができます。

戻りコード

意味

- 24 CCTL ストレージが損傷を受けました。スレッド・サービス・ルーチンのマスター制御ブロック (PAT) を見つけられません。
- 28 スレッド接続がありません。
- 40 DBCTL とのアクティブな通信がありません。

- 44 呼び出しトークンが無効です。 PAPLCTOK ポインタがゼロであったか、または有効な呼び出しトークンのアドレスを含んでいませんでした。スレッドは終了します。
- 210 CCTL サブシステムが、DBCTL サブシステムに対して、UNSCCHEDULE 呼び出しまたは TERMINATE THREAD 呼び出しを発行しました。

DRA から制御出口への理由コード

DRA は、コーディネーター・コントローラー (CCTL) によって提供されたルーチンである制御出口を駆動することによって、CCTL に非同期イベント (例えば、DRA 障害、識別障害、DBCTL 終了など) を通知します。

DRA は、情報を渡すための標準パラメーター・リストとして PAPL を使用して、この出口に制御を渡します。CCTL は、イベントの通知に対して、実行すべき処置を DRA に知らせる戻りコードをフィールド PAPLRETC に戻すことによって応答します。その後、DRA は要求された処置を実行します。

表 17 を使用して、発生した非同期イベント、イベントへの応答で CCTL が DRA に実行することを要求できる処置、および DRA が実行した処置を判別してください。最初の 4 つの列のコードの組み合わせで、非同期イベントが詳細に定義されます。以下に例を示します。

- PAPLFUNC=05 (列 1) は、何らかの障害が発生したことを示しています。
- PAPLSFNC=01 (列 2) は、この障害を識別障害としてさらに詳しく定義しています。
- PAPLRETC=8 (列 3) および PAPLRCOD=08 (列 4) は、障害を詳細に定義して、識別障害が MVS SSI で発生したこと、および DBCTL がアクティブでないことを示しています。

最後の列には、非同期イベントに応答する方法を DRA に知らせるために CCTL が (フィールド PAPLRETC で) DRA に渡す戻りコードと、DRA が実行する処置 (DRA 処置) の両方が記載されています。戻りコードを解釈し、DRA 処置を判別するには、表に続く「注」を参照してください。

表の最初の 4 つの列は、DFSPAPL のフィールドです。次のものが含まれています。

PAPLFUNC
機能

PAPLSFNC
副次機能

PAPLRETC
戻りコード

PAPLRCOD
理由コード

表 17. 非同期イベント・コード表:

PAPL FUNC	PAPL SFNC	PAPL RETC	PAPL RCOD	制御出口を呼び出したイベント	CCTL 応答および DRA 処置
05 何らかの障害が発生した。					
	01			識別が失敗した。DBCTL は接続の準備ができていない。	0、4、8 注 1 を参照

表 17. 非同期イベント・コード表 (続き):

PAPL FUNC	PAPL SFNC	PAPL RETC	PAPL RCODE	制御出口を呼び出したイベント	CCTL 応答および DRA 処置
		8	08	MVS SSI での障害。DBCTL がアクティブではない。	
		12	09	MVS SSI での障害。DBCTL が存在しない。	
		12	10	DBCTL が初期設定処理中である。	
		12	11	DBCTL が初期設定を完了し、再始動コマンドを待機中である。	
		12	12	DBCTL が再始動処理中である。	
		12	13	XRF 代替がトラッキング・モードである。	
		12	14	XRF 代替がテークオーバー・モードである。	
		12	37	DBRC が共用制御モードではない。	
02 識別プロセスが取り消された。					0、4 注 2 を参照。
		N/A	04	z/OS コンソール・オペレーターが、DBCTL がアクティブになるまで待つために CCTL 要求を取り消した。注 1、コード 0 を参照。	
		IMS 異常終了コード	05	DBCTL が IMS 異常終了コードを戻した。	
03 DBCTL が終了中である。					0、4、8 注 6 を参照。
		N/A	02	接続された DBCTL が異常終了した。	
04 DRA に障害があった。					応答なし。DRA は終了した。
			01	DRA 機能要求が MVS SSI で失敗した。	
		z/OS の戻りコード		識別要求が失敗した (DFSPRA10 から)。SSI 戻りコードが 8 または 12 ではない。	
		40		再同期要求が失敗した (DFSPRA20 から)。	
		40		ページ・スレッド要求が失敗した (DFSPRA50 から)。	
		z/OS の戻りコード	03	識別要求が DRA ストレージの割り振りに失敗した (DFSPRA10 から)。	
		z/OS の戻りコード	06	DRA ESTAE の設定が失敗した (DFSFPRA0 から)。	
		注 4 と 5 を参照。	07	DRA が異常終了した (DFSFPRA0 から)。	
		注 4 を参照。	15	DBCTL に障害があったか、またはオペレーターが /CHE FREEZE コマンドを入力した後、制御出口の要求に応じて DRA が終了した。	
05 DBCTL がシャットダウン中である。					0、4、8 注 1 を参照。

表 17. 非同期イベント・コード表 (続き):

PAPL FUNC	PAPL SFNC	PAPL RETC	PAPL RCOD	制御出口を呼び出したイベント	CCTL 応答および DRA 処置
		N/A	N/A	オペレーターが DBCTL に対する /CHE FREEZE コマンドを入力した。	
	02 再同期				0、4 注 3 を参照。
	N/A	N/A	N/A	識別プロセスが完了した。すべての未確定リカ バリー単位についてのリカバリー・トークン・ リストが、フィールド PAPLILST で CCTL に 渡される。	

注:

1. CCTL は、フィールド PAPLRETC で戻りコード (0、4、または 8) を渡すことにより、DRA に応答します。この戻りコードにより、実行すべき処置を DRA に知らせます。その後、DRA は要求された処置を実行します。

- 0 - 接続を再試行します。

DRA は、メッセージ DFS690A を z/OS コンソールに書き込んで、IMS 制御領域または DBCTL 領域がアクティブでないことを示します。z/OS コンソール・オペレーターは、「wait」または「cancel」で応答できます。

- オペレーターが「wait」を入力した場合、DRA は次の識別呼び出しを発行するためにタイマーを設定します。各呼び出しは、最初の呼び出しと同様に、分析され、処理されます。
- オペレーターが「cancel」を入力した場合、DRA は理由コード 04 で制御出口を呼び出します。(可能な応答および処置については、注 2 を参照。)

- 4 - 終了処理を進めます。

DRA は、終了処理を進め、再び制御出口を呼び出すことはありません。

CCTL は、この時点で制御出口を削除できます。

- 8 - ID が PAPLDBCN にある別の DBCTL に対して識別します。

DRA は、指定された DBCTL に対して識別呼び出しを発行し、最初の呼び出しと同様にその結果を処理します。

2. CCTL は、フィールド PAPLRETC で戻りコード (0 または 4) を渡すことにより、DRA に応答します。この戻りコードにより、実行すべき処置を DRA に知らせます。その後、DRA は要求された処置を実行します。

- 0 - CCTL が DRA 終了要求を送信するのを待ちます。

DRA は、CCTL が終了要求を送信するのを待ちます。

- 4 - 終了処理を進めます。

DRA は、終了処理を進めます。

3. 識別が完了した後で、CCTL は、フィールド PAPLRETC で戻りコード (0 または 4) を渡すことにより、再同期に対して DRA に応答します。この戻りコードにより、実行すべき処置を DRA に知らせます。その後、DRA は要求された処置を実行します。

- 0 - CCTL は識別の成功を応答し、そのサブシステムからの要求を待ちます。

DRA は、CCTL からの呼び出しを待ちます。

- 4 - 終了処理を進めます。

DRA は、終了処理を進め、再び制御出口を呼び出すことはありません。

CCTL は、この時点で制御出口を削除できます。

4. PAPLRETC には、終了要求の場合と同じ情報が入ります。
5. PAPLACDE には、もしあれば、異常終了コードが入ります。
6. DBCTL は終了中です。
 - 0 - DRA は、CCTL からの TERM 要求を待ちます。
 - 4 - DRA 終了が完了しました。CCTL からの次の要求は INIT でなければなりません。
 - 8 - DRA は、制御出口ルーチンによって提供された場合には PAPLDBCN 値を使用して、DBCTL に識別要求を出します。

第 11 章 DBRC 要求戻りコード

データベース・リカバリー管理 (DBRC) 要求は、さまざまな呼び出しについて戻りコードを発行します。

各呼び出しのコードが表に示されています。戻りコードは、10 進数および 16 進数で示されています。

DBRC 要求の戻りコードには、以下の呼び出しが含まれます。

サインオン通常呼び出しからの戻りコード

サインオン通常呼び出しは、戻りコードを発行できます。

これらのコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表に示します。

表 18. サインオン通常呼び出し戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。
8	08	RECON データ・セット内で既存のサブシステム項目が見つかりました。
12	0C	RECON データ・セット内で、異常終了のマークが付けられている既存のサブシステム項目が見つかりました。
16	10	RECON データ・セット内で、リカバリー処理開始済みのマークが付けられている既存のサブシステム項目が見つかりました。
20	14	サブシステム名が固有ではありません。
41	29	サブプール 0 ストレージ (24K) に対する要求が失敗しました。
44	2C	内部 DBRC エラー
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。
96	60	サインオンしようとしているサブシステムは、許可されているリリース (MINVERS) より以前のものです。

サインオン代替呼び出しからの戻りコード

サインオン代替呼び出しは戻りコードを発行します。

これらのコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表に示します。

表 19. サインオン代替呼び出し戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。
8	08	代替サブシステムがすでに存在します。
24	18	代替サブシステムがサインオン中だが、サブシステム・レコードが存在しません。
28	1C	テークオーバー要求で、許可されたデータベースのリストを戻すには小さ過ぎるブロックが指定されたか、またはブロックが指定されませんでした。

表 19. サインオン代替呼び出し戻りコード (続き)

10 進数	16 進数	意味
60	3C	テークオーバーが要求されたが、代替がサインオンされていません。
64	40	代替テークオーバー要求の IRLM ID が、サブシステム・レコードの IRLM ID と一致しません。
68	44	代替サブシステムがリカバリー管理にサインオンしています。

サインオン・リカバリー呼び出しからの戻りコード

サインオン・リカバリー呼び出しは、戻りコードを発行します。

これらのコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表に示します。

表 20. サインオン・リカバリー呼び出し戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。
4	04	このサブシステムには、許可データベースの更新が存在しませんでした。正常に完了しました。
12	0C	未確定の EEQE を削除中にエラーが発生しました。
16	10	RECON データ・セット内で、リカバリー処理開始済みのマークが付けられている既存のサブシステム項目が見つかりました。
24	18	サブシステム項目は異常終了がマークされず、IRLM がありません。
28	1C	RECON データ・セット内に、呼び出し側サブシステムのサブシステム項目がありません。
32	20	IRLM ID が一致しません。
36	24	サブシステムは、リカバリー処理開始済みのマークが付いていません。
40	28	許可の取り消し中、内部エラーが検出されました。
41	29	サブプール 0 ストレージ (24K) に対する要求が失敗しました。
44	2C	内部 DBRC エラー
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。
56	38	代替サブシステムがリカバリー用にサインオンしています。
72	48	サインオン・リカバリー終了呼び出しを行うオンライン・サブシステムについて、PRIOLDS レコードが RECON 内に存在しません。

サインオフ通常呼び出しからの戻りコード

サインオフ通常呼び出しは、戻りコードを発行できます。

これらのコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表に示します。

表 21. サインオフ通常呼び出し戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。サブシステム項目は削除されました。
8	08	RECON データ・セット内で、異常終了のマークが付けられているサブシステム項目が見つかりました。

表 21. サインオフ通常呼び出し戻りコード (続き)

10 進数	16 進数	意味
12	0C	RECON データ・セット内で、リカバリー処理開始済みのマークが付けられているサブシステム項目が見つかりました。
16	10	RECON データ・セット内でサブシステム項目が見つかりません。
32	20	代替サブシステムの IRLM ID が、サブシステム・レコードの IRLM ID と一致しません。
40	28	許可の取り消し中、内部エラーが検出されました。
44	2C	内部 DBRC エラー
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。

サインオフ異常呼び出しからの戻りコード

サインオフ異常呼び出しは、戻りコードを発行できます。

これらのコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表に示します。

表 22. サインオフ異常呼び出し戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。サブシステム項目は削除されました。
4	04	サインオフは正常に完了しました。サブシステム項目は、異常終了としてマークされます。
8	08	RECON データ・セット内で、すでに異常終了のマークが付けられているサブシステム項目が見つかりました。
16	10	RECON データ・セット内でサブシステム項目が見つかりません。
20	14	アクティブ・サブシステムが、代替サブシステムを使用可能にしたまま、異常終了しようとしています。
32	20	代替サブシステムの IRLM ID が、サブシステム・レコードの IRLM ID と一致しません。
40	28	許可の取り消し中、内部エラーが検出されました。
44	2C	内部 DBRC エラー
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。

許可呼び出しからの戻りコード

許可呼び出しは、状況または問題を報告するための戻りコードを発行できます。

これらのコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表にリストします。

表 23. 許可呼び出し戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	指定されたデータベースのすべてが許可されました。
4	04	データはすでに確定しており、再適用する必要はありません。
8	08	少なくとも 1 つ以上のデータベースおよびエリアが許可されなかったが、その他のすべてのデータベースおよびエリアは許可されました。

表 23. 許可呼び出し戻りコード (続き)

10 進数	16 進数	意味
12	0C	サブシステムが DBRC に登録されていません。
20	14	テークオーバーが発生した後で、アクティブ・サブシステムが許可を呼び出しました。
44	2C	内部 DBRC エラー
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。

許可取り消し呼び出しからの戻りコード

許可取り消し呼び出しは、戻りコードを発行できます。

これらのコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表にリストします。

表 24. 許可取り消し呼び出し戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。
4	04	機能コード 2 (リストの許可取り消し) の場合、正常に終了したが、更新されたデータベースは許可を取り消されませんでした。機能コード 5 (高速機能エリアの許可取り消し) の場合、正常に終了したが、そのエリアのリカバリーが必要です。
8	08	データベースが RECON データ・セットに登録されていません。
12	0C	サブシステム・レコードが RECON で見つかりません。
16	10	サブシステムは、データベースを使用する許可が与えられていません。
20	14	次のいずれかの問題が発生しました。 <ul style="list-style-type: none"> 内部 DBRC 許可取り消しエラー。データベース・レコードとサブシステム・レコードが一致しません。 テークオーバーが発生した後で、前のアクティブ・サブシステムが許可取り消しを呼び出しました。
24	18	内部 DBRC または IMS 許可取り消しエラー。保留状態が IMS 互換性鑑定ルーチンでは計算できませんでした。
44	2C	内部 DBRC エラー
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。

DB 入出力エラー出口からの戻りコード

DB 入出力エラー出口の戻りコードは、状況または問題を報告します。

これらのコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表に示します。

表 25. DB 入出力エラー出口戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常に終了した呼び出し。
8	08	データベースが RECON データ・セットに登録されていません。
12	0C	データベース・データ・セットが RECON データ・セットに登録されていません。
16	10	サブシステムが RECON データ・セットに登録されていません。

表 25. DB 入出力エラー出口戻りコード (続き)

10 進数	16 進数	意味
20	14	サブシステムにはデータベースを使用する許可がありません。
28	1C	EEQE の追加/削除/置換要求を満足できませんでした。
44	2C	内部 DBRC エラー
48	30	欠落しているか、無効なパラメーター。

DB オープン出口からの戻りコード

DB オープン出口の戻りコードは、状況または問題を報告します。

これらのコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表に示します。

表 26. DB オープン出口戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常に終了した呼び出し。
4	04	データベースが RECON データ・セットに登録されていません。
8	08	データベース・データ・セットが RECON データ・セットに登録されていません。
12	0C	サブシステムが RECON データ・セットに登録されていません。
16	10	サブシステムにはデータベースを使用する許可がありません。
20	14	IMS から、EEQE リストを収めるには小さ過ぎるブロックが渡されました。
44	2C	内部 DBRC エラー
48	30	欠落しているか、無効なパラメーター。

ローカルおよびグローバル /START コマンドからの戻りコード

ローカルまたはグローバル /START コマンドは、戻りコードを発行できます。

これらのコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表に示します。

表 27. ローカルおよびグローバル /START コマンド戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。
4	04	データベースが RECON に登録されていません。
8	08	読み取り専用ユーザー・フラグがオンです。
12	0C	追加許可禁止フラグがオンです。
16	10	高速機能エリアまたはデータベースがリカバリーを必要としているが、EEQE カウントがゼロです。
20	14	データベースのバックアウトが必要です。
44	2C	内部 DBRC エラー
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。

グローバル /STOP コマンドからの戻りコード

グローバル /STOP コマンドは、状況または問題を識別するための戻りコードを発行します。

これらのコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表に示します。

表 28. グローバル /STOP コマンド戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。追加許可禁止フラグがオンになりました。
4	04	データベースが RECON データ・セットに登録されていません。
12	0C	追加許可禁止フラグがオンです。
44	2C	内部 DBRC エラー
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。

ローカルおよびグローバル /DBD コマンドからの戻りコード

状況または問題を報告する、ローカルおよびグローバル /DBD コマンドからの戻りコード。

これらのコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表に示します。

表 29. ローカルおよびグローバル /DBD コマンド戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。
4	04	データベースが RECON データ・セットに登録されていません。
12	0C	追加許可禁止フラグがオンです。
16	10	高速機能エリアまたはデータベースがリカバリーを必要としているが、EEQE カウントがゼロです。
20	14	データベースのバックアウトが必要です。
24	18	データベースは、少なくとも 1 つのバッチ・サブシステムで許可されました。
44	2C	内部 DBRC エラー
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。

グローバル /DBR コマンドからの戻りコード

グローバル /DBR コマンドは、状況または問題を識別するための戻りコードを発行します。

これらのコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表に示します。

表 30. グローバル /DBR コマンド戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。追加許可禁止フラグがオンになりました。
4	04	データベースが RECON データ・セットに登録されていません。
24	18	バッチ・システムが、データベースを使用する許可を与えられています。

表 30. グローバル /DBR コマンド戻りコード (続き)

10 進数	16 進数	意味
44	2C	内部 DBRC エラー
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。

OLDS オープン呼び出しからの戻りコード

OLDS オープン呼び出しは、戻りコードを発行します。

これらのコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表に示します。

表 31. OLDS オープン呼び出し戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。
4	04	呼び出しサブシステムに、すでにオープンされている OLDS があります。
8	08	オープン対象の OLDS が無効です。OLDS はアーカイブされていないデータを含み、前の OLDS をクローズする必要があります。あるいは、OLDS のデータ・セット名が、同じサブシステムの別の OLDS のデータ・セット名と一致します。
12	0C	呼び出しシーケンス・エラー。2 次 OLDS オープン呼び出しが、対応する 1 次 OLDS オープン呼び出しもなく行われました。
44	2C	無効な DBRC エラー。
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。

OLDS 切り替え呼び出しからの戻りコード

OLDS 切り替え呼び出しは、戻りコードを発行します。

これらのコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表に示します。

表 32. OLDS 切り替え呼び出し戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。
4	04	呼び出しサブシステムに、指定されたタイプ (1 次または 2 次) の、オープンされている OLDS がありません。
8	08	オープン対象の OLDS が無効です。OLDS はアーカイブされていないデータを含み、前の OLDS をクローズする必要があります。あるいは、OLDS のデータ・セット名が、同じサブシステムの別の OLDS のデータ・セット名と一致します。
12	0C	呼び出しシーケンス・エラー。2 次 OLDS 切り替え呼び出しが、対応する 1 次 OLDS 切り替え呼び出しもなく行われました。
44	2C	内部 DBRC エラー
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。

OLDS クローズ呼び出しからの戻りコード

OLDS クローズ呼び出しは、戻りコードを発行します。

これらのコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表に示します。

表 33. OLDS クローズ呼び出し戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。
4	04	開始サブシステムに、指定されたタイプ (1 次または 2 次) の、オープンされている OLDS がありません。
12	0C	呼び出しシーケンス・エラー。2 次 OLDS クローズ呼び出しが、対応する 1 次 OLDS クローズ呼び出しもなく行われました。
44	2C	内部 DBRC エラー
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。

OLDS 状況呼び出しからの戻りコード

OLDS 状況呼び出しは、戻りコードを発行します。

これらのコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表に示します。

表 34. OLDS 状況呼び出し戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。
44	2C	内部 DBRC エラー
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。

最後の OLDS 呼び出しからの戻りコード

最後の OLDS 呼び出しからの戻りコードにアクセスできます。

これらのコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表に示します。

表 35. 最後の OLDS 呼び出し戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。1 つ以上の OLDS 記述子が戻りエリアに戻されます。
4	04	正常終了。1 つ以上の SLDS 記述子が戻りエリアに戻されます。
8	08	DBRC で認識できるログ・データ・セット (OLDS または SLDS) がありません。情報は戻されません。
12	0C	戻りエリアが小さ過ぎて、戻りデータを収容できません。必要な長さが、戻りエリアの先頭 2 バイトに戻されます。
44	2C	内部 DBRC エラー
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。

ログ・レコード探索呼び出しからの戻りコード

ログ・レコード探索呼び出しは、戻りコードを発行します。

これらのコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表に示します。

表 36. ログ・レコード探索呼び出し戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。1 つ以上の OLDS 記述子が戻りエリアに戻されます。
4	04	正常終了。1 つ以上の SLDS 記述子が戻りエリアに戻されます。
8	08	DBRC で認識できるログ・データ・セット (OLDS または SLDS) がありません。情報は戻されません。
12	0C	戻りエリアが小さすぎて、戻りデータを収容できません。必要な長さが、戻りエリアの先頭 2 バイトに戻されます。
16	10	RECON 内に、指定されたオープン時刻を持つログ・データ・セットがありません。前後のログ・データ・セットを検出するためにのみ使用されます。
20	14	記述子域で、オープン SLDS が見つかりました。
44	2C	内部 DBRC エラー
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。

アーカイブ初期呼び出しからの戻りコード

アーカイブ初期呼び出しは、状況または問題を報告するための戻りコードを発行できます。

これらのコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表にリストします。

表 37. アーカイブ初期呼び出し戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。
4	04	OLDS をアーカイブした時、指定された OLDS の内 1 つ以上 (ただし、全部ではなく) が、前にアーカイブされていました。SLDS コピー機能には使用されません。
8	08	無効なユーティリティ入力。
12	0C	無効なボリューム停止時刻が指定されました。
44	2C	内部 DBRC エラー
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。

アーカイブ完了呼び出しからの戻りコード

アーカイブ完了呼び出しは、状況または問題を報告するための戻りコードを発行します。

戻りコードの 10 進値、16 進値、および意味を、以下の表に示します。

表 38. アーカイブ完了呼び出し戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。
8	08	OLDS をアーカイブした時、アーカイブ対象の OLDS の 1 つ以上が、すでにアーカイブされていました。アーカイブ・ユーティリティは処理を終了します。SLDS をコピーする場合には使用されません。
12	0C	無効なボリューム停止時刻が指定されました。
44	2C	内部 DBRC エラー
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。

アーカイブ・ジョブ終了呼び出しからの戻りコード

アーカイブ・ジョブ終了呼び出しは、戻りコードを発行できます。これらのコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表にリストします。

表 39. アーカイブ・ジョブ終了呼び出し戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。
44	2C	内部 DBRC エラー
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。

ログ・リカバリー・ユーティリティ初期呼び出しからの戻りコード

ログ・リカバリー・ユーティリティ初期呼び出しは、状況または問題を識別するための戻りコードを発行します。

SLDS リカバリー戻りコード

表 40. SLDS リカバリー戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。
12	0C	DBRC 初期設定が失敗しました。

OLDS リカバリー戻りコード

表 41. OLDS リカバリー戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。
44	2C	内部 DBRC エラー

表 41. OLDS リカバリー戻りコード (続き)

10 進数	16 進数	意味
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。

ログ・リカバリー・ユーティリティー・オープン呼び出しからの戻りコード

ログ・リカバリー・ユーティリティー・オープン呼び出しは、状況または問題を識別するための戻りコードを発行します。

SLDS リカバリー戻りコード

表 42. SLDS リカバリー戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。
4	04	正常終了。 SLDS の最後のボリュームのみが処理されます。一時 SLDS レコードは作成されません。
8	08	リカバリーされるデータ・セットが DBRC に認識されません。
12	0C	入力データ・セットに、重複する RECON レコードが見つかりました。ユーティリティーは処理を終了します。
16	10	RECON データ・セットのオープン中のエラー。これは、内部 DBRC エラーです。ユーティリティーは処理を終了します。
20	14	RECON データ・セットのクローズ中のエラー。これは、内部 DBRC エラーです。ユーティリティーは処理を終了します。
24	18	データ・セット名を抽出中のエラー。これは、内部 DBRC エラーです。ユーティリティーは処理を終了します。
28	1C	RECON データ・セットの入出力エラー。これは、内部 DBRC エラーです。ユーティリティーは処理を終了します。
32	20	抽出データ域解放中のエラー。これは、内部 DBRC エラーです。ユーティリティーは処理を終了します。
52	34	ストレージの GETMAIN ができません。ユーティリティーは処理を終了します。
56	38	未定義の機能が要求されました。
60	3C	無効の入力入力 DD ステートメントで複数のデータ・セットが指定されました。ユーティリティーは処理を終了します。

OLDS リカバリー戻りコード

表 43. OLDS リカバリー戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。
4	04	無効なユーティリティー入力。ユーティリティーは処理を終了します。
16	10	無効な呼び出し。アクティブ・サブシステムのアクティブ OLDS をクローズしようとしていました。
20	14	クローズ OLDS に関して、DBRC から戻された最終ブロック・シーケンス番号がゼロです。
44	2C	無効な DBRC エラー。

表 43. OLDS リカバリー戻りコード (続き)

10 進数	16 進数	意味
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。

ログ・リカバリー・ユーティリティ・クローズ呼び出しからの戻りコード

ログ・リカバリー・ユーティリティ・クローズ呼び出しは、状況または問題を示すための戻りコードを発行します。

SLDS リカバリー戻りコード

表 44. SLDS ログ・リカバリー・ユーティリティ・クローズ呼び出し戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。
16	10	RECON データ・セットのオープン中のエラー。これは、内部 DBRC エラーです。ユーティリティは処理を終了します。
20	14	RECON データ・セットのクローズ中のエラー。これは、内部 DBRC エラーです。ユーティリティは処理を終了します。
24	18	データ・セット名を抽出中のエラー。これは、内部 DBRC エラーです。ユーティリティは処理を終了します。
28	1C	RECON データ・セットの入出力エラー。これは、内部 DBRC エラーです。ユーティリティは処理を終了します。
32	20	抽出データ域解放中のエラー。これは、内部 DBRC エラーです。ユーティリティは処理を終了します。
36	24	中間ログ・レコードへのデータ・セット項目追加中のエラー。データ・セット項目は存在します。ユーティリティは処理を終了します。
40	28	RECON からの一時的レコード削除中のエラー。これは、内部 DBRC エラーです。ユーティリティは処理を終了します。
44	2C	出力データ・セットのボリューム通し番号取得中のエラー。これは、内部 DBRC エラーです。ユーティリティは処理を終了します。
52	34	ストレージの GETMAIN ができません。ユーティリティは処理を終了します。
56	38	未定義の機能が要求されました。

OLDS リカバリー戻りコード

表 45. OLDS ログ・リカバリー・ユーティリティ・クローズ呼び出し戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。
44	2C	無効な DBRC エラー。
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。

ログ・リカバリー・ユーティリティー・ジョブ終了呼び出しからの戻りコード

ログ・リカバリー・ユーティリティー・ジョブ終了呼び出しは、状況または問題を識別するための戻りコードを発行します。

SLDS リカバリー戻りコード

表 46. SLDS リカバリー戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。
48	30	DBRC 終了エラー。
56	38	未定義の機能が要求されました。

OLDS リカバリー戻りコード

表 47. OLDS リカバリー戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。
44	2C	内部 DBRC エラー
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。

RELOAD ユーティリティーからの戻りコード

RELOAD ユーティリティー呼び出しは、戻りコードを発行します。

各コードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表に示します。

表 48. RELOAD ユーティリティーの戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。
4	04	データベースが登録されていないか、または見つかりません。
8	08	RECON データ・セットの読み取り入出力エラー。
12	0C	不明な機能。
16	10	機能初期設定エラー。
20	14	機能終了エラー。
24	18	RECON オープン・エラー。
32	20	内部的な通知問題。
36	24	RECON クローズ・エラー。
44	2C	IC 必要フラグがすでにオンです。

HSSP イメージ・コピー開始呼び出しからの戻りコード

HSSP イメージ・コピー開始呼び出しは戻りコードを発行します。各コードの 10 進値、16 進値、および意味を、以下の表にリストします。

表 49. HSSP イメージ・コピー開始呼び出し戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常に終了した呼び出し。
4	04	使用可能なイメージ・コピー・データ・セットが見つかりません。
12	0C	エリアが RECON データ・セットに登録されていません。
16	10	イメージ・コピー・データ・セットについて、エリアが REUSE 属性ではありませんでした。
20	14	要求が完了しませんでした。
24	18	このエリアに関して、HSSP イメージ・コピーがすでに進行中です。
44	2C	内部 DBRC エラーが発生しました。
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。

HSSP イメージ・コピー終了呼び出しからの戻りコード

HSSP イメージ・コピー終了呼び出しは、状況または問題を報告するための戻りコードを発行します。

これらのコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表に示します。

表 50. HSSP イメージ・コピー終了呼び出し戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常に終了した呼び出し。
8	08	指定されたイメージ・コピー・レコードが見つかりませんでした。
12	0C	エリアが RECON データ・セットに登録されていません。
16	10	指定されたイメージ・コピーはすでに終了しています (停止時刻 >0)。
32	20	要求が完了しませんでした。
44	2C	内部 DBRC エラー
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。

LOGSET 呼び出しからの戻りコード

LOGSET 呼び出しは、状況または問題を識別するための戻りコードを発行します。

表 51. LOGSET 呼び出し戻りコード

10 進数	16 進数	意味
00	00	正常に終了した呼び出し。(DSPUBK10)
02	02	正常な呼び出しであるが、IMS が DBRC に対して、出力を戻すには不十分なストレージを渡しました。IMS は、十分なストレージを取得して、出口を再実行しなければなりません。(DSPUBK10)

表 51. LOGSET 呼び出し戻りコード (続き)

10 進数	16 進数	意味
08	08	LOGSET 要求を処理時に、DBRC が、同じ SSID を持つ後の PRILOG にバッチ以外のバックアウト・ユーティリティ・ログが含まれていることを検出しました。(DSPUBK10)
12	0C	IMS からの LOGSET 要求の処理時に、DBRC が、指定されたログ・データ・セットを RECON 内で見つけることができませんでした。DBRC はログ検証を実行できません。(DSPUBK10)
44	2C	内部 DBRC エラーが発生しました。
48	30	DBRC が、IMS からの無効なパラメーターを検出しました。

SAVUOR 呼び出しからの戻りコード

SAVUOR 呼び出しは、戻りコードを発行できます。

これらのコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表に示します。

表 52. SAVUOR 呼び出し戻りコード

10 進数	16 進数	意味
00	00	呼び出しが正常に終了しました。
02	02	呼び出しは正常に終了したが、DBRC が出力を戻すには不十分なストレージが呼び出し側から渡されました。(DSPUBK00)
04	04	新規の BACKOUT レコードが、UOR がないために書き込まれなかったか、または既存の BACKOUT レコードが、すべての UOR が削除されたために削除されました。
08	08	IMS 制御領域の場合 (DSPUBK20): DBRC の保管単位リカバリー (SAVUOR) 出口処理が、要求された DB レコードを RECON 内で見つけたが、要求サブシステムに許可されていないものでした。 IMS バッチ・バックアウトの場合 (DSPUBK00): バックアウトは、(1) 最後のログがオープンされている、(2) 最後のログが再始動用ではない、または (3) ログと BACKOUT レコード・フラグ条件とが一致しない、のいずれかのため保管されません。
12	0C	DBRC が、要求されたログ・データ・セットを RECON 内で見つけられなかったため、ログ検証ができなくなりました。(DSPUBK00)
16	10	サブシステムがデータベースを使用する許可を持っていないこと、またはデータベースがリカバリー可能でないことを、DBRC が検出しました。バックアウト・カウントは更新できません。(DSPUBK00)
40	28	DSPUORLS パラメーター・リストで渡されたデータベース項目の USID が、RECON 内のデータベースに現在確定されている USID より小さいことを、DBRC が検出しました。DBRC は、項目内のフィールドを設定してこの状態を示すようにし、戻りコード 40 (RC40) で呼び出し側に戻ります。
44	2C	DBRC が内部エラーを検出しました。
48	30	DBRC が、無効なパラメーターを検出しました。

UPDUOR 呼び出しからの戻りコード

UPDUOR 呼び出しは、戻りコードを発行します。

戻りコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表にリストします。

表 53. UPDUOR 呼び出し戻りコード

10 進数	16 進数	意味
00	00	正常に終了した呼び出し。
04	04	IMS バッチ・バックアウト・ユーティリティーからの UPDUOR 要求の処理時に、DBRC が、データベースが登録されていないことを検出しました。 (DSPUBK00) IMS 制御領域からの UPDUOR 要求の処理時に、DBRC が、IMS が指定した SSID 用の BACKOUT レコードを RECON 内で見つけることができませんでした。(DSPUBK20)
08	08	IMS バッチ・バックアウト・ユーティリティーからの UPDUOR 要求の処理時に、DBRC が、サブシステムがデータベースを使用する許可を持っていないことを検出しました。(DSPUBK00) IMS 制御領域からの UPDUOR 要求の処理時に、DBRC が、サブシステムがデータベースを使用する許可を持っていないこと、またはデータベースがリカバリ可能でないことを検出しました。DBRC は、RECON の DB ヘッダー・レコードにあるバックアウト・カウントを更新できません。(DSPUBK20)
12	0C	IMS バッチ・バックアウト・ユーティリティーからの UPDUOR 要求の処理時に、DBRC が、BACKOUT レコードが存在しないこと、またはこのサブシステムに UOR が存在しないことを検出しました。更新はできません。(DSPUBK00) IMS 制御領域からの UPDUOR 要求の処理時に、DBRC が、BACKOUT レコードまたは UOR リストに更新すべき UOR がないことを検出しました。(DSPUBK20)
16	10	IMS バッチ・バックアウト・ユーティリティーからの UPDUOR 要求の処理時に、DBRC が、リストで渡された少なくとも 1 つの UOR またはデータベースがすでにバックアウトされていること、または BACKOUT レコード内に存在しないことを検出しました。(DSPUBK00) IMS 制御領域からの UPDUOR 要求の処理時に、DBRC が、BACKOUT レコードに認識されていないデータベースに対して UPDATE UOR が試みられたことを検出しました。不適切なバックアウトが行われた可能性があります。(DSPUBK20)
40	28	DSPUORLS パラメーター・リストで渡されたデータベース項目の USID が、RECON 内のデータベースに現在確定されている USID より小さいことを、DBRC が検出しました。DBRC は、項目内のフィールドを設定してこの状態を示すようにし、戻りコード 40 (RC40) で呼び出し側に戻ります。
44	2C	内部 DBRC エラーが発生しました。
48	30	DBRC が、IMS からの無効なパラメーターを検出しました。

VERUOR 呼び出しからの戻りコード

VERUOR 呼び出しは、戻りコードを発行できます。

戻りコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表にリストします。

表 54. VERUOR 呼び出し戻りコード

10 進数	16 進数	意味
00	00	正常に終了した呼び出し。(DSPUBK10 または DSPUBK20)
02	02	正常な呼び出しであるが、IMS が DBRC に対して、出力を戻すには不十分なストレージを渡しました。IMS は、十分なストレージを取得して、出口を再実行しなければなりません。(DSPUBK10 または DSPUBK20)
04	04	この SSID 用の BACKOUT レコードが見つかりませんでした。(DSPUBK10 または DSPUBK20)
12	0C	IMS 制御領域からの VERUOR 要求の処理時に、DBRC が、BACKOUT レコードまたは UOR リストに検証すべき UOR がないことを検出しました。(DSPUBK20)
44	2C	内部 DBRC エラーが発生しました。(DSPUBK10 または DSPUBK20)
48	30	DBRC が、IMS からの無効なパラメーターを検出しました。(DSPUBK10 または DSPUBK20)

新規更新セット ID 妥当性検査からの戻りコード

更新セット ID 妥当性検査呼び出しは、戻りコードを発行します。

これらのコードの 10 進値、16 進値、および意味を以下の表に示します。

表 55. 新規更新セット ID 妥当性検査戻りコード

10 進数	16 進数	意味
0	00	正常終了。
4	04	要求された USID はすでに確定済みとマークされています。
8	08	現在許可されている USID がまだ完了していません。
12	0C	指定された USID は、次に適用される USID ではありません。
16	10	データベースまたはエリアが許可されていません。
20	14	このデータベースはリカバリーが必要です。
44	2C	内部 DBRC エラーが発生しました。
48	30	無効なパラメーターが見つかりました。

データベース静止呼び出し戻りコード

データベース静止呼び出しにより、その状況を示すコードを戻すことができます。

データベース静止呼び出しからの戻りコードを、以下の表に示します。

表 56. データベース静止呼び出しからの戻りコード

10 進数	16 進数	意味
00	00	呼び出しは、データベースまたはエリアのすべてで正常に終了しました。
04	04	1 つ以上のデータベースおよびエリアが登録されていないか、使用不可に設定されました。残りのデータベースまたはエリアの処理は正常に完了しました。
12	0C	1 つ以上のデータベースまたはエリアの状況が原因で、呼び出しが失敗しました。データベースおよびエリアの状況を確認してください。
14	0E	MINVERS 値が 11.1 より小さい値でした。
18	12	サブシステム・レコードが RECON で見つかりませんでした。複数の RECON セットを使用中であるか、あるいはサブシステム・レコードが誤って削除された可能性があります。
44	2C	内部 DBRC エラーが発生しました。
48	30	DBRC が、IMS からの無効なパラメーターを検出しました。

第 12 章 高速機能ユーティリティーの状況コードおよび理由コード

高速機能ユーティリティーは、IMS または DBTOOLS ユーティリティーの実行中に状況コードを戻すことができます。これは、通常はエラー条件を示しますが、状況コードは単に通知目的の場合もあります。

状況コード

表 57. 高速機能ユーティリティーの状況コード

状況コード	意味
AA	DD 名ステートメントは指定されていない。
AB	DBRC インターフェース障害が発生した。
AC	使用可能な ADS の DD 名が指定されていない。
AD	2 つより少ない使用可能な DD 名が指定されている。
AE	指定されている DD 名ステートメントが多すぎる。
AK	フィールド名が定義されていない。
AO	データ・セットに対する入出力エラー
AX	DEDB エリア・データ・セット作成ユーティリティーが実行されている最中に、これが出されるのは、RECON データ・セットで 'AVAILABLE' のマークが付けられる必要があるエリア・データ・セットが検出されなかった場合です。DEDB エリア・データ・セット比較ユーティリティーが実行されている最中に、これが出されるのは、比較のために指定されたエリア・データ・セットが ADSC で検出できなかった場合です。
BA	IRLM が失敗した (LOCK または NOTIFY 要求)。
BR	DBFDAC00 での DEDB 変更中に、元のエリアからデータを読み取っているときのエラー。表 2 の DFS4660E メッセージに示されている理由コードを参照。 DBFDAC00 での DEDB 変更中に、シャドー・エリアにデータをコミットしているときのエラー。DFS4661E メッセージ内の戻りコードは、内部診断用のみ。
EM	SDEP エリアが空。
FB	FIRST START セグメント・タイム・スタンプが論理 BEGIN タイム・スタンプより下。
FD	これが最初の従属です。
FH	エリアが使用不能。
FL	STOP セグメント・タイム・スタンプが START セグメント・タイム・スタンプより小。
FR	これが最初のルートです。
FU	START セグメント・タイム・スタンプが HIGH WATER MARK タイム・スタンプより大。
ID	削除の対象となる範囲で検出された INDOUBT セグメント

表 57. 高速機能ユーティリティの状況コード (続き)

状況コード	意味
LB	STOP セグメント・タイム・スタンプが LOGICAL BEGIN セグメント・タイム・スタンプより小。
LD	これが最後の従属です。
LR	これが最後のルートです。
LU	LAST セグメント・タイム・スタンプが HIGH WATER MARK タイム・スタンプより大。
ND	従属がない。
OB	指定した STOPRBA 値が、/DBR または RESTART からのタイム・スタンプを持つ、既に割り振り済みの SDEP CI 境界またはそのダミー・セグメントと一致し、SDEP ユーティリティが応じられない。
OC	相対バイト・アドレス (RBA) およびサイクル・カウントが、このエリアの DMAC の DMACNXTS と DMACXVAL の間で不整合です。
OD	相対バイト・アドレス (RBA) が順次従属部内にはない。
OL	RBA が、順次従属部分の現在使用されている部分の範囲内にはない。
OL	指定された停止位置が、順次従属部分の論理開始位置よりも小さい数値です。
OS	STARTRBA が、STOPRBA より論理的に上位です。
OS	指定された停止位置が、順次従属部分の論理終了位置よりも大きい数値です。
PE	パラメーター・エラー
SO	SORT NEW FORMAT セグメントが失敗した。
TA	ストレージ解放中のエラー
TB	ストレージのページ解放中のエラー。
TC	ユーティリティからの無効な書き込み要求。
TD	ユーティリティ・バッファーに関するバッファー・チェーン問題。
TE	SDEP が事前に割り振った CI の書き込みエラー。
TF	ユーティリティが、許される最大数を超えるバッファーを要求しました。
UA	この状況コードは、DEDB 変更での DL/I 呼び出し中に不明エラーが発生した場合に返される。この状況コードの場合は、IBM サポートに連絡する。
UB	DBFDAC50 での DEDB 変更中に、IOVF データ用のバッファーを取得しているときに発生したエラー。 注: この状況コードは、エリアがクローズされている場合のみ発生します。それ以外の場合は、1026 異常終了になります。
UD	CI ロックのデッドロック
UE	入出力エラーが入出力のチェーン内で検出された。
UJ	入出力完了待ちがタイムアウトになった。
UK	ユーティリティが開始したときに、事前割り振り SDEP CI が存在しなかった。
UL	グローバル・ロックが失敗した。
UL	CI ロック保存/保留
UM	ADS は、長時間使用中 I/O 状態に入る。
UP	エリア名がこのデータベースにない。

表 57. 高速機能ユーティリティの状況コード (続き)

状況コード	意味
UQ	DELETE ユーティリティがエリアの SDEP 部で EEQE を検出した。
UR	<p>DBFDAU70 AREA 接続エラーが検出されました。</p> <p>DBFUMAV0 AREA または ADS LIST を DBRC から検索中にエラーが発生しました。</p> <p>DBFUMDS0 AREA が静止させられており、ユーティリティ接続が失敗しました。</p> <p>DBFUMFT0 AREA または ADS LIST を DBRC から検索中にエラーが発生しました。</p> <p>DBFUMSP0 AREA または ADS LIST を DBRC から検索中にエラーが発生しました。</p>
UX	SDEP バッファについてアンロックが失敗しました。 xcrb または uxrb が見つかりませんでした。
UY	十分な量のページ固定可能な (実) ストレージが使用可能ではありません。
UZ	必要な数のユーティリティ・バッファに十分なストレージがありません。

理由コード

高速機能の高速再編成では、以下の理由コードが戻される可能性があります。戻されたコードは、高速再編成報告書で検索できます。

表 58. 高速機能の高速再編成の理由コード

理由コード	意味
01	IOVF ロック・リソースが失敗した。
02	IOVF バッファ使用限度を超えた。 指定された、またはデフォルトの BUFNO 値が、ユーティリティの要求を満たす十分なバッファを提供しませんでした。これは、既に行われた、バッファ・プールの動的拡張を含みます。このメッセージは、バッファ使用回数 (取得バッファ) が、BUFNO で設定される限界カウンタ (提供バッファ) に達し、UOW に失敗したことを報告します。これは、多くの場合、UOW のために処理する必要のある IOVF CI の数が多いためです。限界カウンタ = $\{UOW \text{ ごとの } CI \text{ 数} \} * BUFNO * 2$ です。BUFNO 値を増やす必要があります。
03	UOW の読み取りが失敗した。
04	UOW のロックが失敗した。
05	IOVF 制御 CI の読み取り時に入出力エラーが発生した。
06	不明なコミット障害が発生した。
07	エリアまたは領域が停止した。
08	IOVF データ CI の読み取り時に入出力エラーが発生した。

表 58. 高速機能の高速再編成の理由コード (続き)

理由コード	意味
09	<p>不十分な IOVF スペース。</p> <p>エリアのスペース・バーに、再編成に使用するための使用可能な IOVF CI がもうありません。UOW は失敗します。</p>
10	IOVF 制御 CI に対するロックの試みが失敗した。
11	IOVF 制御 CI でデッドロックが発生した。
12	XCRB 内の相対バイト・アドレス (RBA) を解放できなかった。
13	バッファ・フリー・スペース・エレメント (FSE) が IOVF CI には小さすぎる。
14	バッファ・フリー・スペース・エレメント (FSE) が再利用に使用不可である。
15	データベースの再検証が進行中。
16	<p>システムが、IOVF に必要なバッファを獲得できない。</p> <p>バッファ取得要求は、ストレージ不足のため完了できなかった。UOW が失敗した。</p>
17	<p>システムが、UIOW に必要なバッファを獲得できない。</p> <p>初期バッファ・セット獲得要求、つまりその動的拡張は、ストレージ不足のため完了できなかった。UOW が失敗した。</p>
NA	下位レベル・モジュールに理由コードが設定されていないため、この理由コードは該当しません。

第 13 章 IRLM 要求の戻りコードおよび理由コード

内部リソース・ロック・マネージャー (IRLM) は、サービス要求に対して戻りコードおよび理由コードを発行します。

IRLM コードについては、戻りコードおよび理由コードを参照してください。

第 14 章 IMS Connect 戻りコードおよび理由コード

IMS Connect は、戻りコードと理由コードを発行できます。

これらのコードは、ユーザー・メッセージ出口
HWSSMPL0、HWSSMPL1、HWSIMSO0、HWSIMSO1、および HWSDPWR1 に
対して出され、診断、修正、またはチューニングの情報を含んでいます。

IMS Connect 出口の戻りコードおよび理由コード

HWSSMPL0、HWSSMPL1、HWSCSLO0、HWSCSLO1、および HWSDPWR1 の
戻りコードおよび理由コードは、要求状況メッセージ (RSM) フィールド
RSM_RETCOD および RSM_RSNCOD に入れてクライアントに送信されます。

戻りコード

表 59. HWSSMPL0、HWSSMPL1、および HWSDPWR1 の戻りコード

10 進数値	16 進数値	説明
4	04	ソケットが終了する前にクライアントに送信される出口要求エラー・メッセージ。ソケットは IMS に対して切断される。
8	08	IMS Connect によって検出されるエラーであり、ソケットは IMS に対して切断される。
12	0C	IMS OTMA から戻されるエラーであり、ソケットは IMS に対して切断される。
16	10	OTMA センス・コードが RSM の「理由コード」フィールドに入れて戻されるときに IMS OTMA から戻されるエラー。ソケットは IMS に対して切断される。223 ページの『第 15 章 OTMA コード』を参照。
20	14	出口が HWSPWCH/PING 要求への応答メッセージをクライアントに戻すことを要求している。会話型モードでないか、クライアント・アプリケーションからの ACK/NAK を待っている、新規のソケット接続または既存の持続的なソケット接続に PWCH/PING が送られたため、IMS Connect はソケット接続を保持する。 IMS Connect は、ユーザー定義メッセージをクライアント・アプリケーションに送信した後、ソケットの状況に応じて接続を保持するかどうかを決めることもできる。
24	18	SCI エラーが検出された。理由コードについては、99 ページの『第 7 章 CSL コード』を参照。ソケットは IMS に対して切断される。
28	1C	OM エラーが検出された。理由コードについては、99 ページの『第 7 章 CSL コード』を参照。ソケットは IMS に対して切断される。

表 59. HWSSMPL0、HWSSMPL1、および HWSDPWR1 の戻りコード (続き)

10 進数値	16 進数値	説明
32	20	IRM_TIMER 値が満了した。この戻りコードが発行される場合、対応する理由コードの値は、コードではなく、IRM_TIMER に有効であった時間間隔である。ソケットは IMS Connect により切断される。
36	24	デフォルトの IRM_TIMER 値が満了した。指定された IRM_TIMER 値が X'00' または無効値であった。この戻りコードが発行される場合、対応する理由コードの値は、コードではなく、IRM_TIMER に有効であった時間間隔である。ソケットは IMS Connect により切断される。
40	28	IRM_TIMER 値が満了した。この戻りコードが発行される場合、対応する理由コードの値は、コードではなく、IRM_TIMER に有効であった時間間隔である。接続は切断されない。ソケットは接続されたまま残る。
44	2C	DATASTORE が使用可能でなくなった。
128 - 140	80 - 8C	DataPower® の戻りコード。これらの戻りコードおよび理由コードについての説明は、DataPower の資料を参照。

理由コード

表 60. HWSSMPL0、HWSSMPL1、および HWSDPWR1 の理由コード

出口に渡される理由コード	RSM の 10 進数値	説明
N/A	4	入力データがバッファオーバー・サイズを超えている。
N/A	5	負の長さ値。
N/A	6	IMS 要求メッセージ (IRM) の長さが無効。
N/A	7	合計メッセージ長が無効。
N/A	8	センス・コードまたは RC なしの OTMA NAK。
N/A	9	バッファの内容が無効。
N/A	10	出力データがバッファオーバー・サイズを超えている。
N/A	11	無効なユニコード定義。
N/A	12	無効なメッセージ、データなし。
N/A	16	クライアントが誰かわからない。
N/A	20	OTMA セグメントの長さのエラー。
N/A	24	FIC が欠落している。
N/A	28	LIC が欠落している。
N/A	32	シーケンス番号のエラー。
N/A	34	コンテキスト・トークンを見つげられない。
N/A	36	プロトコル・エラー。
N/A	40	セキュリティー違反。
N/A	44	メッセージが不完全。
N/A	48	メッセージ長の誤り。

表 60. HWWSMPL0、HWSSMPL1、および HWSDPWR1 の理由コード (続き)

OMUSR 理由コード	RSM の 10 進数 値	説明
NOSECHDR	51	セキュリティー障害: OTMA セキュリティー・ヘッダーがない。
INVESECHL	52	セキュリティー障害: OTMA セキュリティー・ヘッダーにセキュリティー・データがない。
SECFNOPW	53	セキュリティー障害: OTMA ユーザー・データ・ヘッダーにパスワードがない。
SECFNUID	54	セキュリティー障害: OTMA セキュリティー・ヘッダーにユーザー ID がない。
SECFNPUI	55	セキュリティー障害: OTMA ユーザー・データにパスワードがなく、OTMA セキュリティー・ヘッダーにユーザー ID がない。
DUPECLNT	56	重複するクライアント ID が使用されている。そのクライアント ID は現在使用中。
INVLDTOK	57	無効なトークンが使用されている: 内部エラー。
INVLDDSTA	58	クライアント状況が無効: 内部エラー。
CANTIMER	59	CANCEL TIMER が正常に完了した。
NFNDCOMP	70	コンポーネントが見つからない。
NFNDFUNC	71	機能が見つからない。
NFNDDST	72	データ・ストアが見つからなかったか、データ・ストアとの通信が IMS Connect コマンドを使用して停止された。
DSCLOSE	73	IMS Connect がシャットダウン中。
STP/CLSE	74	データ・ストアまたは IMSplex が停止またはクローズの処理中であったか、IMS データ・ストアがシャットダウンまたは切断された。
DSCERR	75	データ・ストア通信エラー。
STOPCMD	76	データ・ストアまたは IMSplex がコマンドにより停止された。
COMMERR	77	データ・ストアまたは IMSplex 通信エラーが、保留中のクライアントに送信されました。
SECFAIL	78	セキュリティー障害。RACF 呼び出しが失敗し、IMS Connect 呼び出しが失敗した。システム・コンソールで、IMS Connect エラー・メッセージを参照。
PROTOERR	79	IMS Connect プロトコル・エラー。システム・コンソールで、IMS Connect エラー・メッセージを参照。
NOTACTV	80	IMSplex 接続がアクティブでない。STOPIP コマンドが発行されたか、または SCI アドレス・スペースがアクティブでない。
CANCRTP	81	ACKTO タイムアウトまたは /STO TMEMBER TPIPE コマンドの結果、IMS が RESUME TPIPE 要求を取り消した。

表 60. HWWSMPL0、HWSSMPL1、および HWSDPWR1 の理由コード (続き)

出口に渡される理由コード	RSM の 10 進数値	説明
INVLDLDCM1	93	RESUME TPIPE 要求で、無効なコミット・モード 1 が指定された。
REQUEST	94	要求。
CONVER	95	会話。
REQ_CON	96	要求と会話。
DEAL_CTD	97	割り振り解除が確認された。
DEAL_ABT	98	異常終了の割り振りを解除。
	99	デフォルトの理由コード。
	117	ネットワーク・ユーザー ID (NETUID) が 246 バイトを超えている。 クライアントからの入力メッセージで、NETUID セキュリティー・データ・セクションの OMSECDN フィールドを変更して、NETUID が 246 バイトを超えないようにする。
	118	ネットワーク・セッション ID (NETSID) が 254 バイトを超えている。 クライアントからの入力メッセージで、NETSID セキュリティー・データ・セクションの OMSECAR フィールドを変更して、NETSID が 254 バイトを超えないようにする。

HWSSOAP1 戻りコードおよび理由コード

HWSSOAP1 戻りコードおよび理由コードは、要求サービス・メッセージ (RSM) フィールド RSM_RETCOD および RSM_RSM_RSNCOD に入れてクライアントに送られます。

HWSSOAP1 (XML 変換用のユーザー・メッセージ出口) は、表 61 と 209 ページの表 62 に記載された、戻りコードおよび理由コードを発行します。

戻りコード

表 61. HWSSOAP1 の戻りコード

10 進数値	16 進数値	説明
8	08	IMS Connect で検出されるエラーであり、ソケットは IMS Connect により切断される。

理由コード

表 62. HWSSOAPI の理由コード

OMUSR 理由コード	RSM の 10 進 数値	説明
N/A	13	ユーザー・メッセージ出口からアダプター名が戻されなかった。
N/A	14	メッセージがアダプターで処理されない。
N/A	15	無効なアダプター戻りコード。
N/A	100	AWE のエンキューが失敗した。内部エラー。 z/OS コンソール・ログで、IMS Connect エラー・メッセージを参照。
N/A	101	アダプターからバッファーが戻されなかった。内部エラー。 z/OS コンソール・ログで、IMS Connect エラー・メッセージを参照。
N/A	102	アダプターから無効なバッファー・アドレスが戻された。内部エラー。 z/OS コンソール・ログで、IMS Connect エラー・メッセージを参照。
N/A	103	元の入力バッファーの FREEMAIN が失敗した。内部エラー。 z/OS コンソール・ログで、IMS Connect エラー・メッセージを参照。
N/A	104	元の出力バッファーの FREEMAIN が失敗した。内部エラー。 z/OS コンソール・ログで、IMS Connect エラー・メッセージを参照。
N/A	105	ユーザー・メッセージ出口でサポートされていない機能。内部エラー。 z/OS コンソール・ログで、IMS Connect エラー・メッセージを参照。
N/A	106	ユーザー・メッセージ出口からの無効な戻りコード。内部エラー。 z/OS コンソール・ログで、IMS Connect エラー・メッセージを参照。
N/A	107	アダプターが第 2 の出力バッファーを要求した。内部エラー。 z/OS コンソール・ログで、IMS Connect エラー・メッセージを参照。
N/A	108	アダプターが無効なデータ長を戻した。内部エラー。 z/OS コンソール・ログで、IMS Connect エラー・メッセージを参照。
N/A	110	無効なアダプター機能が要求された。
N/A	111	元の TCP/IP 出力バッファーの開放に失敗した。
N/A	112	XML コンバーターからも、IRM_TRNCOD フィールドからも、TRANCODE が IMS Connect に提供されなかった。
N/A	113	IMS 要求メッセージ (IRM) 拡張内の無効な長さ値、または最初の IRM 拡張への誤ったオフセット。
N/A	114	最初の IRM 拡張へのオフセットがゼロである。
N/A	115	OTMA ヘッダーのユーザー・データ・セクションに、使用可能な十分なスペースがない。

HWSIMSO0 および HWSIMSO1 の戻りコードおよび理由コード

HWSIMSO0 および HWSIMSO1 戻りコードおよび理由コードは、RSM フィールド RSM_RETCOD/RSM_RSM_RSNCOD に入れてクライアントに送られます。

戻りコード

表 63. HWSIMSO0 および HWSIMSO1 の戻りコード

16 進数値	説明
04	ソケットが終了する前にクライアントに送信される出口要求エラー・メッセージ。ソケットは切断される。
08	IMS Connect によって検出されるエラーであり、ソケットは IMS に対して切断される。
0C	IMS/OTMA から戻されるエラーであり、ソケットは IMS に対して切断される。
10	OTMA センス・コードが RSM の「理由コード」フィールドに入れて戻されるときに IMS OTMA から戻されるエラー。センス・コードの説明は、ご使用のシステムに導入されているバージョンの IMS について、223 ページの『第 15 章 OTMA コード』を参照。ソケットは IMS に対して切断される。
14	現在予約済み。
18	SCI エラーが検出された。REASON コードについては、99 ページの『第 7 章 CSL コード』を参照してください。ソケットは IMS に対して切断される。
1C	OM エラーが検出されました。REASON コードについては、99 ページの『第 7 章 CSL コード』を参照してください。ソケットは IMS に対して切断される。
20	IRM_TIMER 値が満了した。理由コード値は IRM_TIMER の値であり、ソケットは IMS Connect により切断される。
24	デフォルトの IRM_TIMER 値が満了した。指定された IRM_TIMER 値が X'00' または無効値であった。理由コード値は IRM_TIMER の値であり、ソケットは IMS Connect により切断される。
28	IRM_TIMER 値が満了した。理由コード値は IRM_TIMER の値である。接続は切断されない。ソケットは接続されたまま残る。
2C	CANCEL TIMER が正常に完了した。

理由コード

表 64. HWSIMSO0 および HWSIMSO1 の理由コード

出口に渡される理由コード	RSM の 10 進数値	説明
OMUSR		
N/A	4	入力データがバッファ・サイズを超えている。
N/A	5	負の長さ値。
N/A	6	IMS 要求メッセージ (IRM) の長さが無効。
N/A	7	合計メッセージ長が無効。
N/A	8	センス・コードまたは RC なしの OTMA NAK。

表 64. HWSIMSO0 および HWSIMSO1 の理由コード (続き)

出口に渡される OMUSR 理由コー ド	RSM の 10 進数値	説明
N/A	9	バッファの内容が無効。
N/A	10	出力データがバッファ・サイズを超えている。
N/A	11	無効なユニコード定義。
N/A	12	無効なメッセージ、データなし。
N/A	16	クライアントが誰かわからない。
N/A	20	OTMA セグメントの長さのエラー。
N/A	24	FIC が欠落している。
N/A	28	LIC が欠落している。
N/A	32	シーケンス番号のエラー。
N/A	34	コンテキスト・トークンを見つけれない。
N/A	36	プロトコル・エラー。
N/A	40	セキュリティー違反。
N/A	44	メッセージが不完全。
N/A	48	メッセージ長の誤り。
NOSECHDR	51	セキュリティー障害 - OTMA セキュリティー・ヘッ ダーがない。
INVESECHL	52	セキュリティー障害 - OTMA セキュリティー・ヘッ ダーにセキュリティー・データがない。
SECFNOPW	53	セキュリティー障害 - OTMA ユーザー・データ・ヘ ッダーにパスワードがない。
SECFNUID	54	セキュリティー障害 - OTMA セキュリティー・ヘッ ダーにユーザー ID がない。
SECFNPUI	55	セキュリティー障害 - OTMA ユーザー・データにパ スワードがなく、 OTMA セキュリティー・ヘッダー にユーザー ID がない。
DUPECLNT	56	重複するクライアント ID が使用されている。そのク ライアント ID は現在使用中。
INVLDTOK	57	無効なトークンが使用されている - 内部エラー。
INVLDDSTA	58	クライアント状況が無効 - 内部エラー。
CANTIMER	59	CANCEL TIMER が正常に完了した。
NFNDCOMP	60	コンポーネントが見つからない。
NFNDFUNC	61	機能が見つからない。
NFNDDST	62	データ・ストアが見つかりませんでした。
DSCLOSE	63	IMS Connect がシャットダウン中。
STP/CLSE	64	データ・ストアまたは IMSplex が停止またはクローズ の処理中だった。
DSCERR	65	データ・ストア通信エラー。
STOPCMD	66	データ・ストアまたは IMSplex がコマンドにより停止 された。

表 64. HWSIMSO0 および HWSIMSO1 の理由コード (続き)

OMUSR 理由コード	RSM の 10 進数値	説明
COMMERR	67	データ・ストアまたは IMSplex 通信エラーが、保留中のクライアントに送信されました。
SECFAIL	68	セキュリティー障害。RACF 呼び出しが失敗し、IMS Connect 呼び出しが失敗した。システム・コンソールで、IMS Connect エラー・メッセージを参照。
PROTOERR	69	IMS Connect プロトコル・エラー。システム・コンソールで、IMS Connect エラー・メッセージを参照。
INVLDCM1	93	RESUME TPIPE 要求で、無効なコミット・モード 1 が指定された。
REQUEST	94	REQUEST
CONVER	95	会話
REQ_CON	96	要求と会話
DEAL_CTD	97	割り振り解除が確認された。
DEAL_ABT	98	異常終了の割り振りを解除
	99	デフォルトの理由コード

XML アダプターの戻りコードおよび理由コード

XML アダプターは、XML アダプター状況メッセージ (XASM) または XML エラー・メッセージによりクライアントにエラーを戻します。

XASM は、IMS Connect 要求状況メッセージ (RSM) と同じフォーマットを使用し、*XADPST* の ID を使用します。

戻りコード (RC) は、XML アダプター・コードであり、どのエラーの場合も、パラメーター・リスト・フィールド EXPRXML_RSNCODE (インバウンドの場合) および EXPXML_RSNCODE (アウトバウンドの場合) に入れて IMS Connect に戻されます。戻りコードを以下の表に示します。

表 65. XML アダプター戻りコード

RC	XASM RC	メッセージ ID	説明
1 から 99 の RC は、一般エラーです。			
8	XASM RC=8		IMS Connect が無効な XML アダプター機能コードを渡した。
RC の 100 から 199 は、インバウンド・エラーです。			
108	XASM RC=108		XML アダプターが、指定された XML コンバーターを検出しなかった。XML コンバーターがコンパイルされ、正しいデータ・セットとリンクされていることを確認する。
112	XASM RC=112		XML アダプターが、指定された XML コンバーターのロードに失敗した。XML コンバーターがコンパイルされ、正しいデータ・セットとリンクされていることを確認する。

表 65. XML アダプター戻りコード (続き)

RC	XASM RC	メッセージ ID	説明
116	XASM RC=116		XML アダプターが、XML コンバーターのメタデータ・サービスのロードに失敗した。XML コンバーターがその名前を使用してリンクされ、名前の最後の文字が X に置き換えられた別名を持っていることを確認する。例えば、XML コンバーターの名前が XMLCNVD の場合は、エントリー名を XMLCNVD とし、別名を XMLCNVX としてリンクする。
118	XASM RC=118		PreInit テーブルが満杯です。XML アダプターが、テーブルからのエントリーの削除に失敗した。これは内部エラーです。問題が続く場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正方法を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。
120	XASM RC=120		XML アダプターが、XML コンバーターのメタデータ・サービスの呼び出しに失敗した。これは内部エラーです。問題が続く場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正方法を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。
124		HWSB0105E	ストレージの取得に失敗しました。
125	XASM RC=125		XML アダプターが、HWSB0105E メッセージのアウトバウンド・コード・ページへの変換に失敗した。変換失敗は 2 次障害である。EBCDIC から UTF-8 への変換およびその逆変換をサポートするようにユニコード変換サービスの z/OS サポートがセットアップされていることを確認する。
128		HWSB0110E	XML コンバーターの呼び出しに失敗しました。
129	XASM RC=129		XML アダプターが、HWSB0110E メッセージのアウトバウンド・コード・ページへの変換に失敗した。変換失敗は 2 次障害である。EBCDIC から UTF-8 への変換およびその逆変換をサポートするようにユニコード変換サービスの z/OS サポートがセットアップされていることを確認する。
132			XML コンバーター・エラー。IRZ エラー・メッセージが報告される。
133	XASM RC=133		XML アダプターが、XML コンバーターのエラー・メッセージのアウトバウンド・コード・ページへの変換に失敗した。変換失敗は 2 次障害である。EBCDIC から UTF-8 への変換およびその逆変換をサポートするようにユニコード変換サービスの z/OS サポートがセットアップされていることを確認する。
136		HWSB0115E	変換されたインバウンド・メッセージが、サポートされる最大サイズである 32,767 バイトを超えています。


表 65. XML アダプター戻りコード (続き)

RC	XASM RC	メッセージ ID	説明
137	XASM RC=137		XML アダプターが、HWSB0115E メッセージのアウトバウンド・コード・ページへの変換に失敗した。変換失敗は 2 次障害である。EBCDIC から UTF-8 への変換およびその逆変換をサポートするようにユニコード変換サービスの z/OS サポートがセットアップされていることを確認する。
141	XASM RC=141		XML アダプターが、出力のオープン・タグとクローズ・タグのアウトバウンド・コード・ページへの変換に失敗した。EBCDIC から UTF-8 への変換およびその逆変換をサポートするようにユニコード変換サービスの z/OS サポートが設定されていることを確認する。
RC の 200 から 299 は、アウトバウンド・エラーです。			
208	XASM RC=208		XML アダプターが、指定された XML コンバーターを検出しなかった。XML コンバーターがコンパイルされ、正しいデータ・セットとリンクされていることを確認する。
212	XASM RC=212		XML アダプターが、指定された XML コンバーターのロードに失敗した。XML コンバーターがコンパイルされ、正しいデータ・セットとリンクされていることを確認する。
216	XASM RC=216		XML アダプターが、XML コンバーターのメタデータ・サービスのロードに失敗した。XML コンバーターがその名前を使用してリンクされ、名前の最後の文字が X に置き換えられた別名を持っていることを確認する。例えば、XML コンバーターの名前が XMLCNVD の場合は、エントリー名を XMLCNVD とし、別名を XMLCNVX として XML コンバーターをリンクする。
218	XASM RC=218		Prelnit テーブルが満杯です。XML アダプターが、テーブルからのエントリーの削除に失敗した。これは内部の問題です。問題が続く場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正方法を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。
220	XASM RC=220		XML アダプターが、XML コンバーターのメタデータ・サービスの呼び出しに失敗した。これは内部の問題です。問題が続く場合は、問題報告データベースを検索して、問題の修正方法を見つけてください。修正方法が見つからない場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。
224		HWSB0205E	ストレージの取得に失敗しました。

表 65. XML アダプター戻りコード (続き)

RC	XASM RC	メッセージ ID	説明
225	XASM RC=225		XML アダプターが、HWSB0205E のアウトバウンド・コード・ページへの変換に失敗した。変換失敗は 2 次障害である。EBCDIC から UTF-8 への変換およびその逆変換をサポートするようにユニコード変換サービスの z/OS サポートがセットアップされていることを確認する。
228		HWSB0210E	XML コンバーターの呼び出しに失敗しました。
229	XASM RC=229		XML アダプターが、HWSB0210E メッセージのアウトバウンド・コード・ページへの変換に失敗した。変換失敗は 2 次障害である。EBCDIC から UTF-8 への変換およびその逆変換をサポートするようにユニコード変換サービスの z/OS サポートがセットアップされていることを確認する。
232			XML コンバーター・エラー。IRZ エラー・メッセージが報告される。
233	XASM RC=233		XML アダプターが、XML コンバーターのエラー・メッセージのアウトバウンド・コード・ページへの変換に失敗した。EBCDIC から UTF-8 への変換およびその逆変換をサポートするようにユニコード変換サービスの z/OS サポートが設定されていることを確認する。
237	XASM RC=237		XML アダプターが、IMS DFS メッセージのアウトバウンド・コード・ページへの変換に失敗した。EBCDIC から UTF-8 への変換およびその逆変換をサポートするようにユニコード変換サービスの z/OS サポートが設定されていることを確認する。
241	XASM RC=241		XML アダプターが、出力のオープン・タグとクローズ・タグのアウトバウンド・コード・ページへの変換に失敗した。EBCDIC から UTF-8 への変換およびその逆変換をサポートするようにユニコード変換サービスの z/OS サポートが設定されていることを確認する。

関連資料:

 [IBM Rational Developer for System z Enterprise Service Tools に関するエラー・メッセージ](#)

IMS TM Resource Adapter の戻りコードおよび理由コード

OTMA 戻りコードおよび IMS TM Resource Adapter の戻りコードおよび理由コードは、OTMA ユーザー・フィールド OMUSR_RETCODE および OMUSR_RESCODE に送信されます。

戻りコード

表 66. OTMA の戻りコード

IMS TM Resource Adapter によって受信される OMUSR_RETCODE (16 進値)	説明
04	ソケットが終了する前にクライアントに送信される出口要求エラー・メッセージ。ソケットは IMS に対して切断される。
08	IMS Connect によって検出されるエラーであり、ソケットは IMS に対して切断される。
0C	IMS/OTMA から戻されるエラーであり、ソケットは IMS に対して切断される。
10	HWSJAVA0 には無効 (OTMA 戻りコード) であり、ソケットは IMS に対して切断される。
14	予約済み
18	HWSJAVA0 には無効 (SCI 戻りコード) であり、ソケットは IMS に対して切断される。
1C	HWSJAVA0 には無効 (OM 戻りコード) であり、ソケットは IMS に対して切断される。
20	IRM_TIMER 値が満了した。理由コード値は IRM_TIMER の値であり、ソケットは IMS Connect により切断される。
24	デフォルトの IRM_TIMER 値が満了した。指定された IRM_TIMER 値が 'X'00' または無効値であった。理由コードは IRM_TIMER の値であり、ソケットは IMS Connect により切断される。
28	IRM_TIMER 値が満了した。理由コード値は IRM_TIMER の値である。接続は切断されない。ソケットは接続されたまま残る。
2C	CANCEL TIMER が正常に完了した。
30	<p>出口が HWSPWCH/PING 要求に対する応答メッセージをクライアントに送信することを要求している。会話型モードでないか、クライアント・アプリケーションからの ACK/NAK を待っている、新規のソケット接続または既存の持続的なソケット接続に PWCH/PING が送られたため、IMS Connect はソケット接続を保持する。</p> <p>IMS Connect は、ユーザー定義メッセージをクライアント・アプリケーションに送信した後、ソケットの状況に応じて接続を保持するかどうかを決める場合もある。</p> <p>出口がクライアントにメッセージを送信することを要求し、IMS Connect に対して、持続的な接続をオープンのまま保持するかどうかを判別することを要求している。</p>
34	出口が HWSPWCH/PING 要求に対する応答メッセージをクライアントに送信することを要求している。IMS Connect は、そのソケット接続上のクライアント・アプリケーションからの ACK/NAK を待っていたため、メッセージをクライアント・アプリケーションに送信した後、ソケット接続を終了する。

表 66. OTMA の戻りコード (続き)

IMS TM Resource Adapter	説明
OMUSR_RETCODE (16 進値)	Adapter によって受信される
38	出口が HWSPWCH/PING 要求に対する応答メッセージをクライアントに送信することを要求している。IMS Connect は、そのソケット接続が会話型モードで使用されていたため、メッセージをクライアント・アプリケーションに送信した後、ソケット接続を終了する。

理由コード

表 67. OTMA の理由コード

IMS TM Resource Adapter	説明
OMUSR_RESCODE	により受信される
	デフォルトの理由コード。
APPLREQD	RACF パスチケットを使用してパスワード・フレーズを変更しようとする場合は、RACF アプリケーション名が必要である。
BADEXTNL	IRM 拡張内の無効な長さ値、または最初の IRM 拡張への誤ったオフセット。
CANCRTP	ACKTO タイムアウトまたは /STO TMEMBER TPIPE コマンドの結果、IMS が RESUME TPIPE 要求を取り消した。
CANTIMER	CANCEL TIMER が正常に完了した。
COMMERR	データ・ストアまたは IMSplex 通信エラーが、保留中のクライアントに送信されました。
CONVER	会話。
DEAL_ABT	異常終了の割り振りを解除。
DEAL_CTD	割り振り解除が確認された。
DSCERR	データ・ストア通信エラー。
DSCLOSE	IMS Connect がシャットダウン中。
DUPECLNT	重複するクライアント ID が使用された。そのクライアント ID は現在使用中。
ICONSUCC	PING または PWCH 要求が正常に終了した。 ICONSUCC は、ユーザー定義メッセージがクライアント・アプリケーションに戻されたことを示すこともできる。
INVCHAR	セキュリティ障害。ユーザー ID、グループ名、またはパスワード・フィールドで無効な文字が検出された。
INVLDCM1	RESUME TPIPE 要求で、無効なモード 1 が指定された。
INVLDTA	クライアント状況が無効。内部エラー。
INVLDTOK	無効なトークンが使用されている。内部エラー。

表 67. OTMA の理由コード (続き)

IMS TM Resource Adapter	説明
OMUSR_RESCODE	により受信される
INVLERCD	PWCH 要求に対して無効なエラー・コードが戻された。
INVPHRSL	指定された RACF パスワード・フレーズの長が無効である。
INVRQSNT	PWCH 要求の構文が無効である。
INVSECHL	セキュリティ障害。OTMA セキュリティー・ヘッダーにセキュリティ・データがない。
NFNDCOMP	コンポーネントが見つからない。
NFNDDST	データ・ストアが見つかりませんでした。
NFNDFUNC	機能が見つからない。
NFNDUOR	リカバリー単位が見つからない。
NOSECHDR	セキュリティ障害。OTMA セキュリティー・ヘッダーがない。
NPW1INVL	新規パスワード 1 に非英数字が含まれている。
NPW2INVL	新規パスワード 2 に非英数字が含まれている。
NPW1LINV	新規パスワード 1 が無効な長さである。
NPW2LINV	新規パスワード 2 が無効な長さである。
NPWINVAL	新規パスワードが無効である。
NPWNOMCH	新規パスワードが一致しない。
OPWINVAL	古いパスワードに非英数字が含まれている。
OPWLINVL	古いパスワードが無効な長さである。
PROTOERR	IMS Connect プロトコル・エラーが発生した。システム・コンソールで、IMS Connect エラー・メッセージを参照。
PWCHGERR	パスワード変更要求がエラーになった。
PWCHNSUP	パスワード変更機能がサポートされていない。
PWEXPIRD	パスワードの有効期限が切れた。
PWNOAUTH	古いパスワードは許可されていない。
RACFNACT	RACF がアクティブでない。
REQUEST	要求。
REQ_CON	要求と会話。
SECFAIL	セキュリティ障害。RACF 呼び出しが失敗した。IMS Connect 呼び出しが失敗した。システム・コンソールで、IMS Connect エラー・メッセージを参照。
SECFNOPW	セキュリティ障害。OTMA ユーザー・データ・ヘッダーにパスワードがない。
SECFNPUI	セキュリティ障害。OTMA ユーザー・データ・ヘッダーにパスワードがなく、かつ OTMA ユーザー・セキュリティ・ヘッダーにユーザー ID がない。
SECFNUID	セキュリティ障害。OTMA ユーザー・セキュリティ・ヘッダーにユーザー ID がない。

表 67. OTMA の理由コード (続き)

IMS TM Resource Adapter	説明
により受信される OMUSR_RESCODE	
STOPCMD	データ・ストアまたは IMSplex がコマンドにより停止された。
STP/CLSE	データ・ストアまたは IMSplex が停止またはクローズの処理中だった。
XTNOFFZR	最初の IRM 拡張へのオフセット値がゼロである。

拡張ローカル戻りコードおよび理由コード

IMS Connect は、戻りコードおよび理由コードを IMS TM リソース・アダプターに送信します。

表 68 および表 69 に示されている戻りコードおよび理由コードは、IMS Connect により IMS TM リソース・アダプターに送られ、例外の場合はクライアント・アプリケーションに戻されます。

戻りコード

表 68. 拡張ローカル戻りコード

16 進数値	説明
04	ソケットが終了する前にクライアントに送信される出口要求エラー・メッセージ。ソケットは IMS Connect により切断される。
08	IMS Connect によって検出されたエラー。ソケットは IMS Connect により切断される。
C	IMS/OTMA から戻されたエラー。ソケットは IMS Connect により切断される。
20	IRM_TIMER 値が満了した。理由コード値は IRM_TIMER の値である。ソケットは IMS Connect により切断される。
24	デフォルトの IRM_TIMER 値が満了した。指定された IRM_TIMER 値が X'00' または無効値であった。理由コード値は IRM_TIMER の値である。ソケットは IMS Connect により切断される。

理由コード

表 69. 拡張ローカル理由コード

理由コード	説明
BPESVCER	SVC が不適切にセットアップされた。
CLNTSTOP	クライアントが停止している。MPP がトランザクションを処理できないときに、IMS のタイムアウト後にクライアントが停止されると、この状態が発生する可能性がある。
CTXSWCHF	RRS コンテキスト切り替えが失敗した。
ESTAEERR	ESTATE セットアップ・エラーが検出された。
HWSFAIL	呼び出し中に IMS Connect で障害が発生した。

表 69. 拡張ローカル理由コード (続き)

理由コード	説明
HWSNOACT	IMS Connect が現在非アクティブである。
HWSSHUTP	IMS Connect がシャットダウンされている。
INACTIVE	ローカル・ポートが現在はアクティブでない。
INTFABND	呼び出し時に、IMS Connect へのクライアント・インターフェースが異常終了した。
INVLDCID	無効なクライアント ID が指定された。
NAMTKNER	無効な IMS Connect 名が指定された。
NFNDSVT	接続トークン制御ブロックが見つからなかった。この状態は、接続トークンの末尾 4 バイトが破壊された可能性を示す。
RACFFAIL	クライアントに対する SAF チェックが失敗した。このクライアント・アドレス・スペースは、ファシリティー・クラスの HWS.ICON_NAME をアクセスすることが許可されていない。
SBFLBAD	送信バッファの長さが無効であることが検出された。

IMS Connect 通知コード

IMS Connect 通知コードは、その通知を発行した IMS Connect モジュールを識別するか、またはその通知コードの意味を示しています。通知コードごとに、最初のバイトは空白で、続く 3 バイトは英字データです。例えば、通知コード CMD では、コードは「bCMD」であり、「b」は空白です。

表 70. IMS Connect 通知コード

値 (10 進数)	モジュールまたは意味
CMD	HWSCMDC0
CXQ	HWXCXQH0
CXR	HWSCXRP0
DCV	HWSDREC0
DOC	HWSDOCC0
DOP	HWSDOPN0
DO3	HWSDOC30
DRE	HWSDREC0
DSC	HWSDSCH0
DSE	HWSDSCE0
DSL	HWSDSCL0
DST	HWSDSTM0
DS2	HWSDSC20
DSE	HWSDSC30
DS5	HWSDSC50
DXC	HWSDDXCN
DXM	HWSDXMT0
EQC	HWSEQCL0

表 70. IMS Connect 通知コード (続き)

値 (10 進数)	モジュールまたは意味
EQS	HWSEQS00
ETR	HWSETRM0
OCL	HWSSOCL0
OCM	HWSSOCM0
PCD	HWSPSVT0
PCI	HWSPCINF
PCR	HWSPSVT0
PCS	HWSPSVT0
PCV	HWSPCVC0
PST	正常な通知の値
RCD	HWSRCDR0
REC	HWSSREC0
SCV	HWSSCVC0
SOC	HWSSOCL0
SOL	HWSSOCL0
SOP	HWSSOPN0
SST	HWSSSTP0
STP	HWSSSTP0
STR	HWSSSTRM0
SVT	HWSSVTM0
SXT	HWSSXTE0
VTD	NWSSVTD0
XMT	HWSSXMT0
\$TI	BPE タイマー呼び出し通知

第 15 章 OTMA コード

IMS Open Transaction Manager Access (OTMA) は、各種の戻りコードおよびセンス・コードを発行します。これらのコードおよびその情報は、OTMA に関する問題を診断するために使用できます。

NAK メッセージ用の OTMA センス・コード

OTMA は、OTMA 否定応答 (NAK) メッセージを伴うセンス・コードを発行します。

コード X'0000' から X'0FFF' と X'9000' から X'FFFF' は、IBM 用に予約されています。コード X'1000' から X'8FFF' は、お客様用に予約されています。

0001

説明: IMS は、クライアントからメッセージを受信しましたが、メッセージは OTMA サインオン・プロトコルの一部ではない。クライアントは、まだメッセージ処理の準備ができていない。

プログラマーの応答: クライアントが、クライアント・ビッド要求を送信していて、そのクライアント・ビッドに対する ACK を正常に受信していることを確認してください。

ソース: OTMA NAK コード

0002

説明: IMS は、クライアントからメッセージを受信したが、クライアントはメッセージを送受信できない。

プログラマーの応答: クライアントが停止していないか確認してください。

ソース: OTMA NAK コード

0003

説明: クライアント・ビッド要求が正確に状態データ・セクションの長さをセットしていなかったか、アプリケーション・データ・セクションが存在している。

プログラマーの応答: 状態データ・セクションの長さとして XCF 長さフィールドが正しいか確認してください。アプリケーション・データ・セクションは、クライアント・ビッド要求中に組み込まれてはいけません。

ソース: OTMA NAK コード

0004

説明: 予約済み

ソース: OTMA NAK コード

0005

説明: IMS は、既存のセグメントと重複していた複数セグメント・メッセージ用の 1 つのメッセージを受信した。

プログラマーの応答: セグメント番号が重複していないか確認してください。

ソース: OTMA NAK コード

0006

説明: IMS は、メッセージを受信しようとした後、XCF から戻りコードを受信した。戻りコードは、メッセージ接頭語のメッセージ制御情報セクションの理由コード・フィールドに保管される。

プログラマーの応答: 処置については、該当する z/OS プログラミング・マニュアルを参照してください。

ソース: OTMA NAK コード

0007

説明: クライアントの最大数 (255) に達した。新規クライアント構造は作成されない。

プログラマーの応答: クライアント名が正しく、255 クライアントの制限を超えていなかったか確認してください。

ソース: OTMA NAK コード

0008

説明: IMS によるセキュリティー検査は、クライアント・ビッド要求をリジェクトした。

プログラマーの応答: クライアント・ビッド要求内に指定したセキュリティー・データが、有効で正しいか確認してください。さらに、RACF 定義と IMS セキュリティー出口ルーチンを検査してください。

ソース: OTMA NAK コード

0009

説明: IMS は無効な OTMA コマンドを受信した。

プログラマーの応答: OTMA コマンドを検査してください。

ソース: OTMA NAK コード

000A

説明: IMS は OTMA データ・メッセージを受信した。IMS が受け取れるのは、トランザクション、コマンド、応答、あるいはコミット・メッセージだけです。データ・メッセージは、IMS 会話型トランザクションの継続でなければなりません。

プログラマーの応答: 送信されたデータ・メッセージを検査してください。OTMA 制御データのバイト 1 のデータ・フラグが正しく設定されなかったか、あるいは会話反復メッセージが、終了した IMS 会話型トランザクションに送信されました。

ソース: OTMA NAK コード

000B

説明: IMS は無効なメッセージ・タイプを受信した。OTMA メッセージは、トランザクション、コマンド、応答、データ、あるいはコミット・メッセージにしてください。

プログラマーの応答: メッセージ接頭語のメッセージ制御情報セクション内のメッセージ・タイプが、正しくセットされているか確認してください。

ソース: OTMA NAK コード

000C

説明: 予約済み

ソース: OTMA NAK コード

000D

説明: IMS は、存在していないトランザクション・パイプを使用して、IMS 会話の継続として OTMA データ・メッセージを受信した。

プログラマーの応答: トランザクション・パイプが存在していて、IMS 会話の最初の反復が正常に完了したことを確認してください。

ソース: OTMA NAK コード

000E

説明: IMS は、メッセージを処理するトランザクション・パイプを作成できなかった。

OTMA メッセージ制御情報の接頭部のプロセス・フラグにある同期化 T パイプのフラグが、既存の T パイプに対して不正確にオン/オフにセットされました。T パイプが入力/出力 OTMA メッセージのために作成されたあとで、T パイプの同期化 T パイプ設定を、後続の入力/出力 OTMA メッセージに応じて変更することはできません。

プログラマーの応答: IMS ストレージ・プールが正しく割り当てられていて、使用可能であることを確認してください。

ソース: OTMA NAK コード

000F

説明: メッセージのトランザクション・パイプが停止した。

プログラマーの応答: トランザクション・パイプが停止した原因を検出してください。IMS /START コマンドを発行して、トランザクション・パイプを再始動してください。

ソース: OTMA NAK コード

0010

説明: OTMA メッセージには状態データがない。

プログラマーの応答: 状態データ・フラグがセットされていて、状態データが存在しているか検査してください。

ソース: OTMA NAK コード

0011

説明: IMS は、OTMA コミット・メッセージを受信したが、その要求は会話を終了させなかった。IMS は、IMS 会話を終了させるために、コミット・タイプのメッセージだけを許可する (IMS /EXIT コマンドに相当)。

プログラマーの応答: コミット・メッセージが IMS 会話を終了させるのに使用されているか確認してください。

ソース: OTMA NAK コード

0012

説明: OTMA メッセージ接頭語が長すぎた。OTMA 接頭部の最大サイズは 4 KB である。

プログラマーの応答: OTMA メッセージ接頭語のサイズを検査してください。

ソース: OTMA NAK コード

0013

説明: クライアント・ビッド要求が、メッセージ・ハッシュ・テーブルの長さをセットしなかった。この必須フィールドのサイズは、クライアント・ビッド要求のために、クライアントがセットするものである。

プログラマーの応答: クライアント・ビッド要求にハッシュ・テーブルのサイズをセットしてください。

ソース: OTMA NAK コード

0014

説明: クライアントが、最初のクライアント・ビッド要求がアクティブである間に、2 番目のクライアント・ビッド要求を送信した。

プログラマーの応答: 新規クライアント・ビッド要求を IMS へ送信する前に、クライアントは、XCF グループを離れ、結合していることを確認してください。

ソース: OTMA NAK コード

0015

説明: IMS はメッセージ・ハッシュ・テーブル用にストレージを割り振ることができなかった。

プログラマーの応答: 指定したメッセージ・ハッシュ・テーブルのサイズを検査してください。大きすぎる可能性があります。

ソース: OTMA NAK コード

0016

説明: クライアントはまだアクティブではなく、メッセージ処理の準備もなかった。

プログラマーの応答: クライアント・ビッド要求が、送信され、正常に完了したことを確認してください。ま

た、XCF 状態がアクティブであるか検査してください。

ソース: OTMA NAK コード

0017

説明: OTMA メッセージが、メッセージ接頭語の状態データ・セクション内に無効な同期レベルを指定した。同期レベル・フィールドは、なし、コミット、または SYNCPT のいずれかでなければなりません。

プログラマーの応答: 同期レベルが有効か確認してください。

ソース: OTMA NAK コード

0018

説明: OTMA メッセージに無効なトランザクション・パイプ (T パイプ) 名があります。トランザクション・パイプの詳細については、OTMA 用に IMS を管理する (コミュニケーションおよびコネクション) を参照してください。

プログラマーの応答: トランザクション・パイプ名を訂正してください。

ソース: OTMA NAK コード


0019

説明: OTMA メッセージに無効なクライアント名がある。クライアントの命名規則については、OTMA の命名規則に関する情報を参照してください。

プログラマーの応答: クライアント名を訂正してください。

ソース: OTMA NAK コード

関連資料:

 OTMA の命名規則 (コミュニケーションおよびコネクション)

001A

説明: IMS は、エラーを検出したので、処理のためにメッセージを IMS キューに置く前に取り消した。通常、NAK を伴う IMS メッセージには、問題が記述されている。

リモート IMS システムを対象とした OTMA メッセージで、このセンス・コードが IMS 間 TCP/IP 接続を介して受信されていた場合、リモート IMS システムはエラーを検出しており、関連の DFS メッセージをリモートのインストール環境で発行していました。

001A

プログラマーの応答: NAK コードに伴う理由コードを参照してください。

次の表に、16 進および 10 進の理由コードと説明がリストされています。

表 71. 001A センス・コードに関連した理由コード

16 進:	10 進:	説明:
X'03'	03	入力ユーザー ID が正しくないため、RACF RACROUTE VERIFY 呼び出しは失敗しました。 リモート IMS システムを対象とした OTMA メッセージの場合、IMS Connect は OTMA に NAK を返します。OTMA はこのメッセージを、IMS Connect デッド・レター・キュー HWS\$DLQ によって送信側の IMS システムに経路指定しません。
X'15'	21	メッセージ・セグメントの長さまたは ZZ フィールドは、DFSNPRT0 出口によって変更することはできません。
X'16'	22	メッセージ接頭語に無効なセキュリティ・オプションを指定しました。
X'17'	23	OTMA クライアントからの無効なコマンド。 DFS1285E を参照
X'18'	24	トランザクションは、現在使用可能ではありません。 DFS3470E を参照してください。
X'19'	25	SMB トランザクション /LTERM が停止しています。 DFS065 を参照 リモート IMS システムを対象とした OTMA メッセージの場合: <ul style="list-style-type: none"> IMS Connect は、送信側 OTMA に NAK を返す 送信側 OTMA はこのメッセージを、送信側 IMS システムの T パイプキューの先頭に保持します。 メッセージ DFS065 がリモート IMS のインストール済み環境で出される

表 71. 001A センス・コードに関連した理由コード (続き)

16 進:	10 進:	説明:
X'1A'	26	無効な CPIC トランザクション。 DFS1286E を参照
X'1B'	27	無効なリモート宛先 (RCNT)。 DFS1287E を参照
X'1C'	28	無効な CNT 名を指定しました。 DFS1288E を参照してください。
X'1D'	29	SMB が見つかりません。 DFS064 を参照してください。 リモート IMS システムを対象とした OTMA メッセージの場合: <ul style="list-style-type: none"> IMS Connect は、送信側 OTMA に NAK を返す 送信側 OTMA はこのメッセージを、IMS Connect デッド・レター・キュー HWS\$DLQ によって送信側の IMS システムに経路指定する メッセージ DFS064 がリモート IMS のインストール済み環境で出される
X'1E'	30	無効なセキュリティ。 DFS1292E を参照してください。 リモート IMS システムを対象とした OTMA メッセージの場合: <ul style="list-style-type: none"> IMS Connect は、送信側 OTMA に NAK を返す 送信側 OTMA はこのメッセージを、IMS Connect デッド・レター・キュー HWS\$DLQ によって送信側の IMS システムに経路指定する リモート IMS システムはメッセージ DFS1292E を発行する
X'1F'	31	システム・エラーが要求されました。
X'20'	32	システム・エラー・メッセージ。
X'21'	33	ユーザー・エラー・メッセージ。

表 71. 001A センス・コードに関連した理由コード
(続き)










16 進:	10 進:	説明:
X'22'	34	単一セグメント・メッセージ。 DFS1290E を参照してください。
X'23'	35	メッセージはすべて廃棄しました。 DFS249 を参照してください。
X'24'	36	ヌル・セグメントを送信しました。 DFS249 を参照このエラー に対して考えられる原因の 1 つ は、IXCMSSGO マクロの MSGLEN キー・パラメーター で指定した長さが、OTMA デー タで指定した長さ一致してい ないことです。アプリケーション ・データ・セクションの終わ りに、余分のデータあるいは ヌル・データを埋め込むこと はできません。
X'25'	37	挿入が成功せず、キュー・オー バーフローが起きました。
X'26'	38	IMS 会話型あるいは高速機能ト ランザクションには、コミッ ト・モード 0 は許可されませ ん。DFS1291E を参照してくだ さい。 リモート IMS システムを対象 とした OTMA メッセージの場合: <ul style="list-style-type: none"> • IMS Connect は、送信側 OTMA に NAK を返す • 送信側 OTMA はこのメッセ ージを IMS Connect デッ ド・レター・キュー HWS\$DLQ によってローカ ルの送信側 IMS システムに 経路指定する • リモート IMS システムはメ ッセージ DFS1291E を発行 する
X'27'	39	/EXIT コマンドと同じように、 IMS 会話は停止しました。
X'28'	40	DFSNPRT0 は、メッセージをリ モート・システムに転送する ことを要求しましたが、失敗し ました。DFS064 を参照してくだ さい。

表 71. 001A センス・コードに関連した理由コード
(続き)

16 進:	10 進:	説明:
X'29'	41	DFSNPRT0 は、メッセージをリ モート・システムに転送する ことを要求しましたが、失敗し ました。DFS070 を参照してくだ さい。
X'32'	50	アプリケーション・データ・セ クションに指定した長さある いは複数セグメント入力デー タのセグメント長が、XCF IXCMSSGO マクロの MSGLEN キー・パラメーター上で指定 した長さを超えています。
X'52'	82	IMS キュー・マネージャーは、 サイズ超過の OTMA メッセ ージ接頭語を検出したため、 そのメッセージを挿入できませ ん。 OTMA メッセージ接頭語のユー ザー・データ・セクションおよ びセキュリティ・データ・セ クションの長さを確認してくだ さい。
X'0065'	101	OTMA 状態データに TMAMTXP1 と TMAMTXP2 の両方のフラグが設定されて います。OTMA トランザクシ ョン有効期限機能を要求する には、1 つのみを設定できま す。

ソース: OTMA NAK コード

関連情報:

-  DFS064I (メッセージおよびコード)
-  DFS065 (メッセージおよびコード)
-  DFS070 (メッセージおよびコード)
-  DFS249 (メッセージおよびコード)
-  DFS1285E (メッセージおよびコード)
-  DFS1286E (メッセージおよびコード)
-  DFS1287E (メッセージおよびコード)
-  DFS1288E (メッセージおよびコード)
-  DFS1290E (メッセージおよびコード)

📡 DFS1291E (メッセージおよびコード)

📡 DFS3470 (メッセージおよびコード)

001B

説明: IMS のシャットダウンのために、IMS がメッセージをリジェクトした。

プログラマーの応答: IMS の再始動時、メッセージを再送してください。

ソース: OTMA NAK コード

001C

説明: IMS は、メッセージをリジェクトした。同期フラグがメッセージ接頭語の状態データ・セクション中にセットされていなかったためである。

プログラマーの応答: メッセージを IMS に送信する前に、同期フラグをセットしてください。

ソース: OTMA NAK コード

001D

説明: IMS はメッセージをリジェクトした。メッセージ接頭語のユーザー・データ・セクションの長さが、許される最大長 (1024 バイト) を超えているためである。

プログラマーの応答: メッセージ接頭語のユーザー・データ・セクションの長さを検査してください。

ソース: OTMA NAK コード

001E

説明: IMS はメッセージをリジェクトした。メッセージ接頭語の状態データ・セクション中のサーバー・ユーザー・データの長さが、許される最大長 (256 バイト) を超えているためである。

プログラマーの応答: サーバー・ユーザー・データの長さを検査してください。

ソース: OTMA NAK コード

001F

説明: IMS は、メッセージをリジェクトした。メッセージ接頭語のメッセージ制御情報セクション中のリカバリー可能シーケンスが、同期化トランザクション・パイプ (T パイプ) 用の IMS シーケンス番号と一致しないためである。

IMS がクライアントから 001F を受信すると、IMS は、T パイプを停止する。

プログラマーの応答: メッセージ中のリカバリー可能シーケンス番号を検査して、それが同期化トランザクション・パイプ用のリカバリー可能シーケンス番号より、少なくとも 1 だけ大きいことを確認してください。

ソース: OTMA NAK コード

0020

説明: IMS はメッセージをリジェクトした。メッセージにはアプリケーション・データがない。

プログラマーの応答: メッセージ接頭語のアプリケーション・データ・セクションを検査して、トランザクション・コードまたは有効な IMS コマンドがあるか確認してください。

ソース: OTMA NAK コード

0021

説明: IMS は、メッセージをリジェクトした。チェーン・フラグがメッセージ接頭語のメッセージ制御情報セクション中にセットされていなかったためである。

プログラマーの応答: チェーン・フラグが適切にセットされているか確認してください。

ソース: OTMA NAK コード

0022

説明: IMS は、会話型メッセージを処理するためのサーバー・トークンと関連するトランザクション・パイプを検出することができなかった。

プログラマーの応答: 会話型状態ビットをオンにして、サーバー・トークンが正しくサーバーに渡されたか確認してください。

ソース: OTMA NAK コード

0023

説明: 入力したリカバリー可能シーケンス番号が無効。

プログラマーの応答: 以下の状態の 1 つが存在する場合、IMS は、その入力メッセージに回答してこの NAK メッセージを送信します。

- T パイプが同期化され、トランザクションがリカバリー可能として定義され、入力のリカバリー可能シーケンス番号が 0 である。
- T パイプが同期化され、トランザクションがリカバリー不能として定義され、入力のリカバリー可能シーケンス番号が 0 でない。
- T パイプが同期化されておらず、入力のリカバリー可能シーケンス番号が 0 でない。

- T パイプがコマンド入力用に同期化され、コミット・モードが 0 で、入力のリカバリー可能シーケンス番号が 0 でない。

ソース: OTMA NAK コード

0024

説明: 会話型プログラムが最後の入力メッセージにまだ応答していませんでした。複数会話型メッセージを OTMA が受信したが、後続のメッセージはリジェクトされた。最初のメッセージがまだ処理中であるためである。IMS は後続メッセージを廃棄し、受け入れた入力メッセージに応答する。

プログラマーの応答: クライアント・プログラムを修正して、会話型トランザクション出力を待ってから、次の入力メッセージを送信してください。

ソース: OTMA NAK コード

0025

説明: IMS は再同期処理中に再同期プロトコル違反を検出した。

プログラマーの応答: 以下の状態の 1 つが存在する場合、IMS は、その入力メッセージに応答してこの NAK メッセージを送信します。

- クライアント再同期論理が、OTMA 再同期プロトコルに従っていない。
- クライアントのメッセージ接頭語が、誤りの T パイプ名またはメンバー名を指定している。

ソース: OTMA NAK コード

0026

説明: 再同期中に、IMS がメッセージをデキューしようとしたが失敗した。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

ソース: OTMA NAK コード

0027

説明: 再同期中に、IMS がリカバリー可能シーケンス番号をリセットしようとしたが失敗した。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡して、支援を受けてください。

ソース: OTMA NAK コード

0028

説明: IMS は、OTMA クライアントからの RESUME TPIPE 要求をリジェクトしました。理由コードにはセンス・コードが付随して出されます。このコードは以下のいずれかの値をとります。

コード 説明

X'01' T パイプは停止します。

プログラマーの応答: NAK コードを伴う理由コードを調べてください。

/START TMEMBER TPIPE コマンドで T パイプを再始動して、RESUME TPIPE 操作を完了させる必要がある場合があります。

ソース: OTMA NAK コード

0029

説明: OTMA は、トランザクション・パイプ (T パイプ) の総数が、記述子ファイルに定義されている制限に達したか超過したことを検出しました。

次の理由コードが示される可能性があります。

理由コード

説明

- 01 メンバー限度の MAXTP に達しました。OTMA クライアント記述子でメンバーの MAXTP パラメーターを確認してください。
- 02 グローバル限度の MAXTP に達しました。OTMA クライアント記述子で DFSOTMA の MAXTP パラメーターを確認してください。

プログラマーの応答: 活動停止中の T パイプをクリーンアップするためにチェックポイントを 3 回発行します。

ソース: OTMA NAK コード

002A

説明: 処理のためにリモート IMS システムに OTMA メッセージを配信しましたが、完了できませんでした。

このコードには理由コードが伴います。以下の表に、16 進および 10 進の理由コードと説明がリストされています。

表 72. 002A センス・コードに関連した理由コード

16 進:	10 進:	説明:
X'01'	01	<p>失敗した OTMA メッセージのために OTMA 宛先記述子または OTMA DFSYDRU0 出口ルーチンに指定されているリモート IMS Connect の名前が、IMS Connect (NFNDRICN) に定義されているどのリモート IMS Connect インスタンスの名前とも一致しません。</p> <p>IMS Connect は OTMA に NAK を戻し、メッセージはローカルの送信側 IMS システムの IMS Connect デッド・レター・キュー HWS\$DLQ に送られます。</p>
X'02'	02	<p>失敗した OTMA メッセージのために OTMA 宛先記述子または OTMA DFSYDRU0 出口ルーチンに指定されているリモート IMS システムの名前が、リモート IMS Connect インスタンス (NFNDDST) に定義されているどの IMS システムの名前とも一致しません。</p> <p>IMS Connect は OTMA に NAK を戻し、メッセージはローカルの送信側 IMS システムの IMS Connect デッド・レター・キュー HWS\$DLQ に送られます。</p>
X'03'	03	<p>リモート IMS Connect インスタンスがダウンしています (TDCONERR)。</p> <p>IMS Connect は OTMA に NAK を戻し、メッセージはローカルの送信側 IMS システムの T パイプ・キューの先頭に残されます。IMS Connect は、リモート IMS Connect に再接続を試みます。再接続に成功すると、OTMA はメッセージを再送します。</p>

表 72. 002A センス・コードに関連した理由コード (続き)

16 進:	10 進:	説明:
X'04'	04	<p>リモート IMS システムがダウンしています (STP/CLSE)。</p> <p>IMS Connect は OTMA に NAK を戻し、メッセージはローカルの送信側 IMS システムの T パイプ・キューの先頭に残されます。</p>
X'05'	05	<p>リモート IMS Connect インスタンスで、RACF パスチケットの認証に失敗しました。</p> <p>メッセージはデッド・レター・キュー、HWS\$DLQ に転送されます。</p>
X'06'	06	<p>リモート IMS Connect インスタンスは、ACK タイムアウト間隔の期限切れ前、リモート IMS システムからの ACK または NAK 応答の受信に失敗した後に、NAK をローカル側 IMS Connect インスタンスに戻しました。</p> <p>このメッセージは、ACK タイムアウト・キューの、DFS\$TOQ、あるいは HWS または DATASTORE 構成ステートメントの CM0ATOQ パラメーターに指定された T パイプに転送されます。</p>
X'07'	07	<p>ローカル IMS Connect インスタンスで、リモート IMS Connect インスタンスからの肯定応答を受信するために TCP/IP 読み取りが実行されましたが、その読み取りは失敗しました。こうなる可能性があるのは、TCP/IP がダウンしている場合です。</p> <p>メッセージはデッド・レター・キュー、HWS\$DLQ に転送されます。</p>

表 72. 002A センス・コードに関連した理由コード
(続き)

16 進:	10 進:	説明:
X'08'	08	ローカル側の IMS Connect インスタンスで、RMTIMSCON 接続が停止されました。 IMS Connect はローカル側の IMS システムに NAK 応答を戻し、メッセージはキューの先頭に残されます。

プログラマーの応答: NAK コードに伴う理由コードを参照してください。

ソース: OTMA NAK コード

002B

説明: 遅延したか無効な ACK/NAK が OTMA に送信されました。

ACK/NAK が遅延したか無効であることを示すこのメッセージより前に、OTMA はタイムアウトまたは肯定応答のメッセージに対する WAIT 状況を抜け出すための /STO TMEMBER TPIPE コマンドを受け取る場合があります。OTMA はもう ACK/NAK を待機していないため、クライアントからのこの ACK/NAK 遅延に関するメッセージは、OTMA によって NAK メッセージを通じてリジェクトされます。

プログラマーの応答: IMS タイムアウト値が小さすぎる場合は、値を変更してください。タイムアウト値には、ICAL タイムアウトまたは CM0/CM1 ACK タイムアウトを使用できます。この問題が IMS Connect の RESUME TPIPE 要求に関連する場合は、新規の RESUME TPIPE 要求を再発行して、IMS メッセージを取得してください。

ソース: OTMA NAK コード

002C

説明: OTMA メッセージが、メッセージ接頭語の状態データ・セクション内に同期化 T パイプを持つ無効なコミット・モードを指定した。コミット後送信のコミット・モードを使用する必要がある。

プログラマーの応答: コミット後送信のコミット・モードを選択していることを確認してください。

ソース: OTMA NAK コード

002D

説明: メッセージ接頭語中に指示されていた、同期レベルとコミット・レベル間の非互換性。送信後コミット・レベルでは、SYNCPT の同期レベルが必要である。

プログラマーの応答: メッセージ接頭語の非互換性を訂正してください。

ソース: OTMA NAK コード

002E

説明: OTMA メッセージ接頭語で、同期レベル・フィールドとコンテキスト ID フィールド間の非互換性を示した。context_id フィールドは、SYNCPT の同期レベルでのみ提供される。

プログラマーの応答: メッセージ接頭語の非互換性を訂正してください。

ソース: OTMA NAK コード

002F

説明: z/OS リソース・リカバリー・サービス (RRS) 2 フェーズ・コミット (synclevel=syncpoint) トランザクションが失敗しました。

説明: センス・コードには、以下のいずれかの理由コードが付随しています。

X'0000 X'0000' 理由コードは、以下のいずれかの理由で出されます。

- IMS は、OTMA メッセージ接頭語の入力 RRS コンテキスト・トークンでインタレストを明示しませんでした。
- トランザクションが IMS Connect によって実行依頼され、IMS システムが IMS Connect とは異なる LPAR 上にある場合、IMS Connect のバージョン、IMS のバージョン、あるいはその両方が、LPAR 間でのグローバル・トランザクションのカスケードをサポートしていません。

X'0001 IMS システムは IMS Connect とは異なる LPAR 上にありますが、グローバル RRS トランザクションのカスケードに対するサポートが、IMS Connect で使用可能になっていません。

X'0002 グローバル RRS トランザクションが OTMA クライアントから別の LPAR 上の IMS システムにカスケードされた後、IMS と RRS の間でエラーが発生しました。

システム・プログラマーの応答: 理由コード X'000 の

場合は、以下の要件が満たされていることを確認してください。

- OTMA 接頭部の入力 RRS トークンが有効なトークンである
- RRS、IMS、および OTMA クライアントが、同じ z/OS イメージ上にある
- IMS と IMS Connect のバージョンが両方とも、LPAR 間での RRS グローバル・トランザクションのカスケードをサポートしている

理由コード X'001 の場合は、適切な タイプ 2 UPDATE コマンドを発行するか、HWS または DATASTORE の構成ステートメントで CASCADE=Y を指定することにより、LPAR 間でのグローバル RRS トランザクションのカスケードのサポートを使用可能にします。あるいは、トランザクションの処理を再構成して、IMS Connect と同じ LPAR 上で稼働している IMS システムによってトランザクションが処理されるようになります。

理由コード X'002 の場合は、RRS が IMS の稼働している LPAR 上で開始されていること、および RRS と IMS の間の通信が正しく構成されていることを確認します。

ソース: OTMA NAK コード

0030

説明: OTMA が、1 つの OTMA メンバーまたはすべてのメンバーについて、メッセージあふれ状態を検出しました。処理を待機している入力メッセージの数が、現在定義されている最大許容数を超過しています。IMS システムを保護するために、あふれ状態が解消されるまで OTMA は新規の入力メッセージをリジェクトします。このコードには理由コードが付随します。以下の表に、16 進および 10 進の理由コードをリストし、説明を記載します。

表 73. 0030 センス・コードに関連した理由コード

16 進数	10 進数	説明
X'01'	01	特定の OTMA メンバーについて、あふれ状態が検出されました。このメンバーからの新しい入力トランザクションは受け入れることができません。
X'02'	02	OTMA のグローバルあふれ状態が検出されました。OTMA は、すべてのメンバーからのすべての新規トランザクションをリジェクトします。

プログラマーの応答: OTMA メンバーがこの OTMA コードを受け取った場合、その OTMA トランザクションを別の IMS に転送するための修正処置を取ることを選択できます。システム・プログラマーに IMS OTMA メッセージあふれ状態について報告してください。このあふれ状態は、入力メッセージ (TIB) があふれ制限の 50% を下回ると解消されます。IBM MQ アプリケーションの場合、OTMA メッセージあふれ状態を知らせるため、IBM MQ はメッセージ CSQ2003E をシステム・コンソールに発行します。IBM MQ は、メッセージをキューに戻します。OTMA メッセージあふれ状態が解消されると、キューにあるメッセージは IMS OTMA に再送されます。

ソース: OTMA NAK コード

0031

説明: OTMA がこの OTMA クライアントから新しいトランザクションまたはコマンドを受け入れないように、/STOP TMEMBER コマンドが発行されました。

システムの処置: OTMA クライアントまたはメンバーは停止されます。/DISPLAY OTMA コマンドを使用して、OTMA クライアントまたはメンバーが停止されたかどうかを確認します。

プログラマーの応答: この IMS はこのクライアントまたはメンバーから新しいトランザクションまたはコマンドを受け入れないため、アプリケーション・プログラムにトランザクションまたはコマンドを処理のために別の IMS に実行依頼させることを検討してください。

問題判別: システム・プログラマーと確認して、クライアントまたはメンバーが停止された理由を理解します。/STOP TMEMBER が、OTMA メッセージあふれ状態が発生した IMS に対して発行された可能性もあります。

ソース: OTMA NAK コード

0033

説明: OTMA が、OTMA 保留キュー対応クライアント (IMS Connect など) からの RESUME TPIPE 要求の処理中に、セキュリティ違反を検出しました。理由は、次のいずれかです。

- OTMA TPIPE ユーザー ID の RIMS セキュリティー・クラスが許可されていない。
- DFSYRTUX が TPIPE ユーザー ID をリジェクトする。

システムの処置: RESUME TPIPE 要求は、この NAK コードでリジェクトされました。

プログラマーの応答: システム・セキュリティ管理者

に連絡して、TPIPE アクセス用のユーザー ID を確認してください。

ソース: OTMA NAK コード

0034

説明: OTMA は、満了した入力トランザクションを検出し、そのトランザクションを取り消しました。

TRANSACT マクロ、IMS 宛先作成出口 DFSINSX0、または DRD タイプ 2 コマンド (CREATE/UPDATE TRAN コマンドなど) を使用して、OTMA メッセージ接頭語の中に、取り消されたトランザクションの満了時刻を指定します。

システムの処置: トランザクションは取り消されました。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

理由コードは、OTMA がトランザクションを満了したタイミングを示します。

X'0001' - XCF から受け取った直後にトランザクションが取り消された

X'0002' - キューに入れられる前にトランザクションが取り消された

ソース: OTMA NAK コード

0035

説明: OTMA は、無効な応答メッセージを検出したか、DL/I ICAL 呼び出しを使用している同期コールアウト要求に対する応答メッセージの処理に失敗しました。

このコードには理由コードが伴います。

理由コードは、以下のコードのいずれかです。

コード 意味

X'0001'

ICAL 呼び出しはすでに処理されています。もう応答メッセージを待機しません。IMS は、この応答メッセージを遅延メッセージとしてリジェクトします。応答メッセージは、OTMA メッセージ接頭語に無効な相関関係子トークンを示す場合があります。

X'0002' OTMA メッセージ接頭語に必要な

TMAMSYRP フラグが設定されずに応答メッセージが配信されました。

X'0003' IMS は、OTMA メッセージ接頭語の相関関係子トークンに基づいて T パイプを検出できませんでした。

X'0004' 正しくない IMS に応答メッセージが配信されました。アプリケーションは、OTMA メッセ

ージ接頭語に指定された正しくない相関関係子トークンを IMS に送信している可能性があります。

X'0005' 内部状態エラーが発生したため、OTMA はこの応答メッセージを処理できません。

X'0006' OTMA は、この応答メッセージの処理に必要なストレージをサブプール 231 から取得できませんでした。

X'0007' OTMA は、OTMA メッセージのアプリケーション・データ・セクションの長さが 4 バイト未満であることを検出しました。

X'0008' コールアウト要求に対して、重複した応答メッセージまたは 2 番目の応答メッセージを受け取りました。

X'0009' コールアウト要求に対して、以前に NAK メッセージを処理しているため、IMS は、このコールアウト要求に対する応答メッセージを受け入れることができません。

X'000A'

将来の利用のために予約済み。

X'000B'

複数セグメントのメッセージ形式で応答を OTMA に送信済みです。しかし、セグメントの 1 つにデータが入っていません。

X'000C'

XCF バッファ長が、応答メッセージの全長より短くなっていました。

X'000D'

将来の利用のために予約済み。

X'000E'

将来の利用のために予約済み。

X'000F'

IMS が、ICAL 呼び出しに応答を渡す内部ポスト・エラーを検出しました。IMS は、ICAL 呼び出しのタイムアウトになります。

X'0020' IMS は、応答メッセージと、その後、コールアウト要求メッセージの ACK メッセージを受け取りました。それにもかかわらず、IMS は、内部ポスト・エラーのために、send-only-with-ack オプションを使用した応答メッセージの処理に失敗しました。

X'0021' IMS は、応答メッセージと、その後、コールアウト要求メッセージの ACK メッセージを受け取りました。それにもかかわらず、IMS は、/PSTOP または /STOP REGION ABDUMP コマンドが以前に発行されていたために、send-only-with-ack オプションを使用した応答メッセージの処理に失敗しました。

X'0022' IMS は、応答メッセージと、その後、コールアウト要求メッセージの ACK メッセージを受け取りました。それにもかかわらず、IMS は、OTMA ACK タイムアウトまたは ICAL 呼び

出しをリジェクトする OTMA コマンドが処理されていたために、send-only-with-ack オプションを使用した応答メッセージの処理に失敗しました。

X'0023' IMS は、応答メッセージと、その後に、コールアウト要求メッセージの ACK メッセージを受け取りました。それにもかかわらず、IMS は、ICAL 呼び出しのタイムアウトのために、send-only-with-ack オプションを使用した応答メッセージの処理に失敗しました。

X'0024' IMS は、応答メッセージと、その後に、コールアウト要求メッセージの NAK メッセージを受け取りました。応答メッセージはリジェクトされました。

X'0025' IMS は LUMP ストレージが不足し、send-only-with-ack オプションを使用して応答を処理できません。IMS が ICAL 呼び出しのタイムアウトになる前に、再試行ルーチンを使用して応答メッセージを再送することができます。

システムの処置: 応答メッセージはリジェクトされました。このリジェクトされた応答メッセージについて、ログ・レコード 6701 が書き出されます。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

戻される理由コードを参照して適切な処置を取ってください。ログ・レコード 6701 で、コールアウト要求および応答メッセージについて調べ、エラーの原因を判別してください。

ソース: OTMA NAK コード

0036

説明: OTMA が無効なメッセージ長を検出しました。各部分の合計が XCF メッセージ長を超えています。

システムの処置: メッセージはリジェクトされ、NAK X'36' がクライアントに送信されます。診断用に、LOG67D0 レコードも書き出されます。

プログラマーの応答: どの部分が含まれるかを示す正しいフラグ (TMAMCPFL) がメッセージ接頭語に設定されていること、およびセキュリティー・データ、ユーザー・データ、およびアプリケーション・データの長さが正しいことを確認してください。

ソース: OTMA NAK コード

0037

説明: OTMA クライアントが、OTMA スーパーメンバー・グループに属する tmember に接続しようとした

した。そのクライアントからのクライアント・ビッド要求に指定されている MULTIRTP 値が、スーパーメンバー・グループで現在有効な MULTIRTP 値と一致していません。

システムの処置: クライアント・ビッド要求はリジェクトされ、NAK X'37' がクライアントに送信されます。診断用に、LOG67D0 レコードも出力されます。

プログラマーの応答: OTMA スーパーメンバー・グループと、スーパーメンバー・グループに接続しようとしているクライアントの両方で、MULTIRTP の指定を確認してください。クライアントによって指定された MULTIRTP 値を変更して、OTMA スーパーメンバー・グループで有効な MULTIRTP 値と一致させてください。

OTMA スーパーメンバー・グループの MULTIRTP 設定を確認するには、スーパーメンバー・グループの tmember と tpipe に対する /DISPLAY TMEMBER TPIPE コマンドを発行します。スーパーメンバー・グループ内に tmember に関連付けられた tpipe がない場合、IMS はメッセージ DFS1268 を返します。

IMS Connect の DATASTORE 接続の MULTIRTP 設定を確認する場合は、以下のいずれかの IMS Connect コマンドを発行できます。

- IMS タイプ 2 QUERY IMSCON TYPE(DATASTORE)
- WTOR VIEWDS
- z/OS MODIFY QUERY DATASTORE

IMS Connect の DATASTORE ステートメントに MULTIRTP 値が指定されていない場合は、以下のいずれかの IMS Connect コマンドを発行して、IMS Connect インスタンスで有効な MULTIRTP 値を確認してください。

- IMS タイプ 2 コマンド・フォーマットの QUERY IMSCON TYPE(CONFIG)
- WTOR フォーマットの VIEWHWS
- z/OS MODIFY フォーマットの QUERY MEMBER TYPE(IMSCON)

ソース: OTMA NAK コード

67D0 ログ・レコード内の OTMA 戻りコード

IMS OTMA 宛先出口ルーチン内でエラーが発生している場合、アプリケーション・プログラムは IMS 呼び出しの状況コードを検索することができます。

X'67D0' レコードが IMS ログに書き込まれます。以下の表に戻りコードを示します。

表 74. OTMA 戻りコード

コード	説明
X'1C'	内部インターフェース・エラーが発生した。
X'20'	DFSYDRU0 オーバーライドが最大限度を超えている。
X'24'	DFSYDRU0 が無効な宛先を指定している。
X'28'	DFSYDRU0 が無効な戻りコードを指定している。
X'2C'	OTMAYPRX ユーザー出口が無効な XCF メンバー名を返した。
X'30'	OTMAYPRX ユーザー出口が必要とする XCF メンバー名が返されなかった。
X'34'	OTMAYPRX ユーザー出口が無効な戻りコードを返した。
X'38'	宛先が、異なったクライアントにあり、DFSYDRU0 からの XCF メンバー名が無効である。
X'3C'	DFSYDRU0 が無効なユーザー・データ長を返した。

OTMA C/I で使用されるコード

OTMA 呼び出し可能インターフェース (C/I) は、いくつかの特定のメッセージとコードを使用します。

詳細な情報は、以下のトピックで提供されます。

OTMA 通知コード

OTMA 通知コードは、イベント制御ブロック (ECB) に通知されます。これらのコードは、状況を確認したり、OTMA に関する問題を識別するときに使用することができます。

OTMA メッセージ・デリバリーと通信状態変更の非同期性では、OTMA 呼び出し可能インターフェース (C/I) を使用するプログラムがイベント・シグナル方式を使うことを要求します。otma_open 関数と otma_send_receive 関数は非同期で、他の API は非同期ではありません。

otma_open、otma_openx、otma_send_receive、otma_send_receivex、otma_send_async、および otma_receive_async API はそれぞれ ECB パラメーターを持っています。この ECB は、関数または関数が参加している SRB によってポストされます。otma_open、otma_openx、otma_send_receive、otma_send_receivex、otma_send_async、および otma_receive_async 関数の呼び出し元は、戻りコード構造中の戻りコードを除いて、この ECB を検査して、API に述べられている出力フィールドのいずれかをリリースあるいは検査する前に、ポ

ストされる ECB を待たなければなりません。6 つのすべての関数からの戻りコードは、非ゼロ値で、通信を開始するのに失敗したことを指示します。この場合、ECB は同じ値を持ちます。

POST コードの一般的な意味を以下の表に示します。

表 75. OTMA 通知コード

コード	意味
0	データ転送あるいは予期した状態変更は完了した。
4	一時的な問題が検出された。後でもう一度試行してください。
8	ユーザー・エラー。
12	システム・エラー。
16	クライアントまたは XCF が機能を異常終了させた。
20	IMS からのエラー。

OTMA C/I 戻りコード

OTMA 呼び出し可能インターフェース (C/I) は、戻りコードを発行します。

戻りコード構造は、要求の状況を示す戻りコードからなります。

表 76. OTMA C/I 戻りコード

コード	意味
0	関数は通常どおり完了した。
4	一時的な問題が検出された。後でもう一度試行してください。
8	ユーザー・エラー
12	システム・エラー
16	関数が取り消された。
20	IMS からのエラー。

戻りコードは、すべての API 呼び出しが使用するデータ構造の一部と、ポストされた ECB 中で検出された通知コードです。数値はすべて 10 進です。

4 つの理由コードが使用可能です。

理由 1

OTMA クライアント API 内のどのエリアがエラーを報告するかを示します。値の違いは、呼び出された関数によります。237 ページの表 77 にそのリストを挙げます。数値はすべて 10 進です。

理由 2、理由 3

問題についての追加情報を提供します。数値はすべて 10 進です。

理由 4

発行された API を表します。

理由コードのベクトルは、失敗した結果または部分的な結果の詳細を記述します。その意味は関数に特定で、次の表に記述されています。

次の表には、OTMA C/I 戻りコードおよび理由コードを関数ごとに記述しています。それぞれの関数の説明は、戻りコード (10 進数)、4 つの可能な理由コード (10 進数)、および一般的な説明を含んでいます。

表 77. 関数ごとの OTMA C/I の戻りコードと理由コード

機能	戻りコード (10 進数)	理由 1 (10 進数)	理由 2 (10 進数)	理由 3 (10 進数)	理由 4 (10 進数)	説明
CREATE	0				1	正常完了。
	8	4			1	ユーザーは、RACF IMSXCF.OTMACI リソースの使用を許されていないので、OTMA C/I の使用は許可されません。
	8	20			1	OTMA C/I が、OS/390® R2 以前で使用されていました。OTMA C/I は、OS/390 R3 以降で使用する必要があります。
	8	28			1	指定したセッション・ナンバーが、許可された最大数 (999) より大きい。
	12	12	BPESVC 戻りコード		1	OTMA C/I サービス呼び出しは、BPESVC サービスにリジェクトされました。BPESVC 戻りコードについて詳しくは、65 ページの『BPESVC コード』を参照してください。
	12	800			1	ストレージの獲得に失敗した。
OPEN および OPENX	0				2	正常完了。
	0	1xx	xcf ixcjoin rc	xcf ixcjoin rsn	2	メンバーの状態が変更しました。詳しくは、z/OS: IXCJOIN の戻りコードおよび理由コードを参照してください。
	4	80	xcf ixcjoin rc	xcf ixcjoin rsn	2	IMS OTMA が開始されていません。無効な XCF グループ名が指定されていたか、無効な XCF メンバー名が指定されていました。後でもう一度試行してください。サーバー・メンバーがアクティブではありません。詳しくは、z/OS: IXCJOIN の戻りコードおよび理由コードを参照してください。
	8	0	ixcquery rc	ixcquery rsn	2	ユーザーのメンバー名はすでにアクティブです。詳しくは、z/OS: IXCQUERY の戻りコードおよび理由コードを参照してください。
	8	4			2	ユーザーは、RACF IMSXCF.OTMACI リソースの使用を許されていないので、OTMA C/I の使用は許可されません。

表 77. 関数ごとの OTMA C/I の戻りコードと理由コード (続き)

機能	戻りコード (10 進数)	理由 1 (10 進数)	理由 2 (10 進数)	理由 3 (10 進数)	理由 4 (10 進数)	説明
	8	8			2	ユーザーは入力アンカーを指定することを許可されていません。入力アンカーは、otma_create API から戻される必要があります。または、新しいアンカーは、0 で初期化されていなければなりません。入力アンカーが正しい場合は、入力グループ名、入力メンバー名、および入力パートナー名が、otma_create API で指定した名前と同じであることを確認してください。
	8	12			2	クライアント・ビッドが拒否されました。
	8	16			2	セキュリティの障害により、クライアント送信権要求が拒否されました。
	8	20			2	OTMA C/I が、OS/390 R2 以前で使用されていました。OTMA C/I は、OS/390 R3 以降で使用する必要があります。
	8	28			2	指定したセッション・ナンバーが、許可された最大数 (999) より大きい。
	8	112	xcf rc	ixcjoin rsn	2	メンバーは不明な状態です。詳しくは、z/OS: IXCJOIN の戻りコードおよび理由コードを参照してください。
	12	10x	xcf rc	ixcjoin rsn	2	シスプレックスの結合が失敗しました。詳しくは、z/OS: IXCJOIN の戻りコードおよび理由コードを参照してください。
	12	11x	xcf rc	ixcjoin rsn	2	ローカルの結合が失敗しました。詳しくは、z/OS: IXCJOIN の戻りコードおよび理由コードを参照してください。
	12	12		BPESVC 戻りコード	2	OTMA C/I サービス呼び出しは、BPESVC サービスにリジェクトされました。BPESVC 戻りコードについて詳しくは、65 ページの『BPESVC コード』を参照してください。
	12	400	xcf rc	ixcquery rsn	2	シスプレックスの照会が失敗しました。詳しくは、z/OS: IXCQUERY の戻りコードおよび理由コードを参照してください。
	12	800	0	0	3	GETMAIN の障害。

表 77. 関数ごとの OTMA C/I の戻りコードと理由コード (続き)

機能	戻りコード (10進数)	理由 1 (10進数)	理由 2 (10進数)	理由 3 (10進数)	理由 4 (10進数)	説明
	20	16	OTMA セ ンス・コ ード	OTMA 理 由コード		OTMA がクライアント・ビッドをリ ジェクトしました。原因については、 OTMA センス・コードおよび理由コ ードを参照してください。これは、セ キュリティー違反が原因である可能性 があります。
ALLOC	0	0	0	0	5	正常です。
	4	12	8	0	5	以下のいずれかの理由により、OTMA C/I はセッションの動的割り振りがで きませんでした。 <ul style="list-style-type: none"> 存在しているセッションの数が、許 可された最大数をすでに超えてい る、または C/I がセッション使用のためのフリ ー・ストレージをサブプール 230 から取得できなかった。
	8	4	0	0	5	Null アンカー。
	8	16			5	入力アンカーが誤りです。
	8	20			5	トランザクション名またはコマンドが 入力されました。しかし、左寄せにな っていませんでした。
	8	24	呼び出し 元の新し い状態	呼び出し元 の古い状態	5	呼び出し元はプログラム状態あるいは キーを変更しました。-- 理由コード 3 および 4 を参照してください。プログ ラム状態およびキーはすべての API 呼び出しで同じにしておく必要があり ます。
	12	12	BPESVC 戻りコー ド		5	OTMA C/I サービス呼び出しは、 BPESVC サービスにリジェクトされま した。BPESVC 戻りコードについて詳 しくは、65 ページの『BPESVC コー ド』を参照してください。
SEND RECEIVE、 SEND RECEIVEX、 および SEND RECEIWEY	0	0			7	正常です。
	0	4			7	会話型です。

表 77. 関数ごとの OTMA C/I の戻りコードと理由コード (続き)

機能	戻りコード (10 進数)	理由 1 (10 進数)	理由 2 (10 進数)	理由 3 (10 進数)	理由 4 (10 進数)	説明
	0	44	受信セグメント・リスト中に指定した複数セグメントの最大数。	IMS から送信された、複数セグメントの実数	7	受信セグメント・リストの最初の配列要素は、IMS から受信することができる複数セグメントの最大数を指定します。 IMS が、受信セグメント・リスト中に指定された数値より多い複数セグメントを送信した場合、受信セグメント・リスト中の最後の要素は、複数セグメントの残りのサイズを組み込みます。すべての複数セグメントは受信バッファに保管されます。
	8	4			7	アンカーがありません。
	8	8			7	誤ったセッション・ハンドルです。
	8	12	セッション状態		7	セッション状態が無効です。
	8	16			7	入力アンカーが誤りです。
	8	24	呼び出し元の新しい状態	呼び出し元の古い状態	7	呼び出し元はプログラム状態あるいはキーを変更しました。-- 理由コード 3 および 4 を参照してください。プログラム状態およびキーはすべての API 呼び出しで同じにしておく必要があります。
	8	32	セグメント番号	最大サイズ	7	セグメントが長すぎます。
	8	40			7	バッファおよびセグメント長が一致しません。
	8	44	受信セグメント・リスト中に指定された複数セグメントの最大数。	IMS から送信された、複数セグメントの実数。	7	クライアントが、otma_alloc API の特別オプション・パラメータ中で SyncLevel1 を指定した。受信セグメント・リストのサイズが小さすぎるため、C/I が IMS の出力をリジェクトしました。
	8	48	指定した受信バッファの長さ。	すべての出力を組み込むのに必要な受信バッファの長さ。	7	受信バッファのサイズが小さすぎます。receive_buffer と receive_length パラメータを検査し、理由コード 3 に戻されたバッファ・サイズを使用して、アプリケーション・プログラムを訂正してください。

表 77. 関数ごとの OTMA C/I の戻りコードと理由コード (続き)

機能	戻りコード (10 進数)	理由 1 (10 進数)	理由 2 (10 進数)	理由 3 (10 進数)	理由 4 (10 進数)	説明
	8	52			7	入力 lterm または modname のどちらかが NULL です。lterm および modname フィールドは、出力上で更新されるので、入力上で NULL 設定にはできません。使用しない場合は、これらのフィールドをブランクのままにしておいてください。
	8	56	rrs ctxswc rc		7	スイッチのオフに失敗しました。詳しくは、「OS/390 MVS プログラミング: リソース・リカバリー」を参照してください。
	8	60			7	入力固有トークンです。
	8	64			7	現行トークンはありません。
	8	68			7	入力送信項目数は、0 以下です。
	8	80			7	入力のリジェクトされました。存在するセッション・ハンドル上の非会話型トランザクションに対して、新規の入力メッセージを送信する作業が行われました。OTMA_FREE を実行して直前のセッション・ハンドルを解放し、新しいトランザクションに対して OTMA_ALLOC を実行する必要があります。
	12	8	送信戻り コード。	送信戻り コード。	7	送信が失敗しました。理由 2 と理由 3 が xcf ixcmg0 により設定されます。z/OS: IXCJOIN の戻りコードおよび理由コードを参照してください。
	12	12	BPESVC 戻り コード		7	OTMA C/I サービス呼び出しは、BPESVC サービスにリジェクトされました。BPESVC 戻りコードについて詳しくは、65 ページの『BPESVC コード』を参照してください。
	12	16	rrs ctxswc rc		7	スイッチのオンに失敗しました。詳しくは、「z/OS MVS プログラミング: リソース・リカバリー」(SA88-8582)を参照してください。
	12	20	セッション 状態	セッション 相関係数	セッション 番号	複数セグメント・メッセージを処理中に無効なセッション状態が検出されました。
	16					IMS によって受信が取り消されています。IMS がダウンしているか、OTMA が停止しているかのどちらかです。
	20	0	0	0	7	IMS が DFS メッセージを送出しました。

表 77. 関数ごとの OTMA C/I の戻りコードと理由コード (続き)

機能	戻りコード (10 進数)	理由 1 (10 進数)	理由 2 (10 進数)	理由 3 (10 進数)	理由 4 (10 進数)	説明
	20	NAK コード	NAK の理由			IMS が入力メッセージをリジェクトしたか、バックアウトが行われたかのどちらかです。
SEND ASYNC および SEND ASYNCX	0	0			10	正常です。
	4	0	0	0	5	セッション・ブロックが取得されました。
	4	12		0	10	正常です。
	4	12	8	0	5	セッション・ブロックを取得できません。
	8	4			10	アンカーがありません。
	8	16			10	入力アンカーが誤りです。
	8	20			10	トランザクション・コードが無効です。
	8	24	呼び出し元の新しい状態	呼び出し元の古い状態	10	呼び出し元はプログラム状態あるいはキーを変更しました。-- 理由コード 3 および 4 を参照してください。プログラム状態およびキーはすべての API 呼び出しで同じにしておく必要があります。
	8	32	セグメント番号	最大サイズ	10	セグメントが長すぎます。
	8	40			10	バッファおよびセグメント長が一致しません。
	8	56			10	送信バッファ長が無効です。
	8	60			10	T パイプ名が欠落しています。
	8	64			10	T パイプ名が無効です。
	8	68			10	T パイプ名が無効です。名前の最初の 4 文字は、otma_open あるいは otma_openx 中で、同じ T パイプ接続頭部を共用します。
	8	72			10	無効なエラー・メッセージ・パラメーターが指定されました。
	8	76	0	0	10	重複する送信呼び出しが発行されました。送信は既に進行中です。
	12	8	送信戻りコード	送信戻りコード	10	送信が失敗。

表 77. 関数ごとの OTMA C/I の戻りコードと理由コード (続き)

機能	戻りコード (10 進数)	理由 1 (10 進数)	理由 2 (10 進数)	理由 3 (10 進数)	理由 4 (10 進数)	説明
	12	12	BPESVC 戻りコード		10	OTMA C/I サービス呼び出しは、BPESVC サービスにリジェクトされました。BPESVC 戻りコードについては、65 ページの『BPESVC コード』を参照してください。
	16					IMS によって送信が取り消されています。IMS がダウンしているか、OTMA が停止しているかのどちらかです。
	20	NAK コード	NAK の理由			IMS が入力メッセージをリジェクトしたか、バックアウトが行われたかのどちらかです。
RECEIVE ASYNC	0	0			11	正常です。
	0	44	受信セグメント・リスト中に指定した複数セグメントの最大数。	IMS から送信された、複数セグメントの実数	11	受信セグメント・リストの最初の配列エレメントは、IMS から受信することができる複数セグメントの最大数を指定します。 IMS が、受信セグメント・リスト中に指定された数値より多い複数セグメントを送信した場合、受信セグメント・リスト中の最後のエレメントは、複数セグメントの残りのサイズを組み込みます。すべての複数セグメントは受信バッファに保管されます。
	4	12		0	11	セッション・ブロックを取得できません。
	4	80			11	IMS OTMA 関数が開始されていません。
	8	16			11	入力アンカーが誤りです。
	8	20			11	トランザクション・コードが無効
	8	24	呼び出し元の新しい状態	呼び出し元の古い状態	11	呼び出し元はプログラム状態あるいはキーを変更しました。-- 理由コード 3 および 4 を参照してください。プログラム状態およびキーはすべての API 呼び出しで同じにしておく必要があります。
	8	48	指定した受信バッファの長さ。	すべての出力を組み込むのに必要な受信バッファの長さ。	11	受信バッファのサイズが小さすぎます。receive_buffer と receive_length パラメータを検査し、理由コード 3 に戻されたバッファ・サイズを使用して、アプリケーション・プログラムを訂正してください。
	8	56			11	送信バッファ長が無効です。




表 77. 関数ごとの OTMA C/I の戻りコードと理由コード (続き)

機能	戻りコード (10 進数)	理由 1 (10 進数)	理由 2 (10 進数)	理由 3 (10 進数)	理由 4 (10 進数)	説明
	8	60			11	T パイプ名が欠落しています。
	8	64			11	T パイプ名が無効です。
	8	68			11	T パイプ名が無効です。名前の最初の 4 文字は、otma_open あるいは otma_openx 中で、同じ T パイプ接続頭部を共用します。
	12	12	BPESVC 戻りコード		11	OTMA C/I サービス呼び出しは、BPESVC サービスにリジェクトされました。BPESVC 戻りコードについて詳しくは、65 ページの『BPESVC コード』を参照してください。
	16					IMS によって受信が取り消されています。IMS がダウンしているか、OTMA が停止しているかのどちらかです。
FREE	0	0			14	正常です。
	4	0			14	割り当てられていません。
	4	4			14	終了中です。
	8	4			14	Null アンカー。
	8	8			14	古いハンドルです。
	8	16			14	入力アンカーが誤りです。
	8	24	呼び出し元の新しい状態	呼び出し元の古い状態	14	呼び出し元はプログラム状態あるいはキーを変更しました。-- 理由コード 3 および 4 を参照してください。プログラム状態およびキーはすべての API 呼び出しで同じにしておく必要があります。
	12	12	BPESVC 戻りコード		14	OTMA C/I サービス呼び出しは、BPESVC サービスにリジェクトされました。BPESVC 戻りコードについて詳しくは、65 ページの『BPESVC コード』を参照してください。
CLOSE	0	0	xcf ixcleav rc	xcf ixcleav rsn	15	正常完了。詳しくは、「z/OS MVS プログラミング：シスプレックス・サービス・ガイド」(SA88-8583) を参照してください。
	8	4	0	0	15	Null アンカー。
	8	16			15	入力アンカーが誤りです。
	12	8	xcf ixcleav rc	xcf ixcleav rsn	15	IXCLEAV からの非ゼロ戻りコードです。詳しくは、z/OS: IXCLEAVE の戻りコードおよび理由コードを参照してください。

表 77. 関数ごとの OTMA C/I の戻りコードと理由コード (続き)

機能	戻りコード (10 進数)	理由 1 (10 進数)	理由 2 (10 進数)	理由 3 (10 進数)	理由 4 (10 進数)	説明
	12	12			15	OTMA C/I サービス・ルーチンの 1 つが異常終了しました。異常終了は、入力パラメーターの誤りが原因と考えられます。そうでない場合は、メモリー・ダンプを保管して、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

関連資料:

-  z/OS: IXCQUERY の戻りコードおよび理由コード
-  z/OS: IXCJOIN の戻りコードおよび理由コード
-  z/OS: IXCLEAVE の戻りコードおよび理由コード

第 16 章 リポジトリ・サーバー・コード

リポジトリ・サーバー (RS) は、リポジトリ・サーバーのメッセージに関連した戻りコードと理由コードを発行します。

RS 戻りコードおよび理由コードは、FRPSRVRS マクロ内で定義されます。FRPSRVRS マクロは IMS.SDFSMAC データ・セット内にあります。

第 17 章 SQL コード

IMS は、SQL ステートメントの実行時に、ステートメントの実行に関する情報を返します。この情報には、SQL 戻りコード (SQLIMSCODE) および SQL の状態 (SQLIMSSTATE) が含まれています。これらは、ステートメントの実行が成功したかどうかを示します。

実行可能 SQL ステートメントを含むアプリケーション・プログラムは、以下のエレメントのいずれかを提供する必要があります。

- INCLUDE SQLIMSCQ ステートメントを使用して SQLIMSCA という名前の構造を提供します。SQLIMSCA には、他の状況情報のほかに、SQLIMSCODE および SQLSTATE、SQLIMSERRMC も含まれます。SQLIMSCA は、INCLUDE SQLIMSCA ステートメントを使用して提供できます。

SQLIMSCA の詳しい内容については、SQL 連絡域 (SQLIMSCA) (アプリケーション・プログラミング API)を参照してください。

アプリケーション・プログラムでの SQLIMSCA の使用方法については、SQLIMSCA を使用した SQL ステートメントの実行結果の検査 (アプリケーション・プログラミング)を参照してください。

SQLIMSCODE

SQLIMSCODE は、各 SQL ステートメントが実行された後に IMS によって設定されます。

SQLIMSCODE = 0

実行は成功しました。

SQLIMSCODE > 0

実行は成功しましたが、警告があります。

SQLIMSCODE < 0

実行は成功しませんでした。

SQLIMSCODE = 100

「データなし」が検出されました。例えば、カーソルが結果表の最後の行の後ろに位置していたために、FETCH ステートメントがデータを戻さなかった場合などです。

SQLIMSSTATE

各 SQL ステートメントの実行後には、IMS により SQLIMSSTATE も設定されます。SQLIMSSTATE は、SQLIMSCA 内の 5 バイトの文字ストリング変数です。

SQLIMSSTATE は、アプリケーション・プログラムに、共通エラー条件についての共通コードを提供します (SQLIMSSTATE の値は、エラーまたは警告が製品固有のものである場合に限り、製品固有の値となります)。さらに、SQLIMSSTATE は、アプリケーション・プログラムが特定のエラーまたはエラーのクラスについてテスト

できるように設計されています。コード体系は、すべての IBM リレーショナル・データベース製品で同じです。

SQLMSERRMC

各 SQL ステートメントの実行後には、IMS により SQLMSERRMC も設定されません。エラーを説明するメッセージ・テキストが含まれています。

正常実行の SQL コード

先頭に正符号 (+) がある SQL 戻りコードは、SQL ステートメントの実行が成功したことを示します。

000 The SQL statement executed successfully.

説明: 無条件正常終了実行が実施されたか、正常な実行が実施されたが 1 つ以上の警告が出されたかのいずれかです。

SQLWARN0 がブランクの場合、警告はありません。SQLWARN0 が W であれば、SQLIMSCA 内に他の警告標識の少なくとも 1 つが設定され、警告状態が示されています。例えば、SQLWARN1 は、ストリング列の値が、ホスト変数に割り当てられたときに切り捨てられたことを示します。

SQLMSSTATE: 00000 は、無条件正常終了実行を表します。

SQLMSSTATE: 01ddd は、警告 ddd を伴う正常実行を示します。

+098 A dynamic SQL statement ends with a semicolon.

説明: PREPARE ステートメントのステートメント・ストリングは有効な動的 SQL ステートメントですが、セ

ミコロンで終わっています。

システムの処置: セミコロンおよびそれ以降のテキストは無視されます。

プログラマーの応答: セミコロンがステートメント終了符として使用されているかどうかを調べてください。

SQLMSSTATE: 01568

+100 A row was not found, or the result of a query is an empty segment.

説明: 次のいずれかの状態が発生しました。

- UPDATE または DELETE ステートメントに指定された検索条件に合致する行が 1 つもない。
- SELECT ステートメントの結果が空の表でした。
- 結果表の最後の行の後ろにカーソルを位置付けたときに、FETCH ステートメントが実行されました。

システムの処置: データの取り出し、更新、および削除は行われませんでした。

SQLMSSTATE: 02000

SQL エラー・コード

先頭に負符号 (-) がある SQL 戻りコードは、SQL ステートメントの実行が失敗したことを示します。

-010 The string constant beginning with string is not terminated.

説明: ステートメントに、string で始まるストリング定数が入っていますが、正しく終了していません。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: 示されたストリング定数に引用符やアポストロフィの欠落がないか確認してください。

SQLMSSTATE: 42603

-084 受け入れ不能な SQL ステートメント。

説明: この SQL ステートメントは IMS に受け入れられません。以下のいずれかの状態が発生しました。

- 作成できない SQL ステートメントの PREPARE または EXECUTE IMMEDIATE を実行しようとした。
- 組み込み SQL ステートメントが、IMS でサポートされる SQL ステートメントではない。

- ステートメントが、宣言されていないカーソルを参照した。
- ALLOCATE CURSOR ステートメントを作成しようとしたが、宣言されたカーソルに既にステートメント ID が関連付けられている。
- リモート側で処理されるステートメントが、配列変数または配列エレメントを参照していた。リモート実行は、以下のいずれかのアクションの結果です。
 - 前回の CONNECT ステートメントの実行
 - リモート・サーバーでオブジェクトに解決される、現行ステートメントでの 3 部構成の名前または別名の使用

リモート側で実行されるステートメントは、以下の場合を除き、配列を参照できません。

- ステートメントが CALL ステートメントである。
- ステートメント内の配列エレメントが、FETCH、SELECT INTO、SET assignment-statement、または VALUES INTO の各ステートメントのターゲットである。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: 状態に応じて、以下のいずれかのアクションを実行してください。

- SQL ステートメントを作成できない場合は、アプリケーション・プログラムではなく、SQL ステートメントのソースに問題があります。したがって、SQL ステートメントのソースがアプリケーション・プログラム自体でない限り、アクションは不要です。
- SQL ステートメントが IMS でサポートされていない場合は、そのステートメントをアプリケーション・プログラムから削除し、再度プリコンパイルしてください。
- ALLOCATE CURSOR ステートメントを作成しようとした場合は、宣言されたカーソルに関連付けられていないステートメント ID を使用するよう、アプリケーション・プログラムを変更してください。
- SQL ステートメントが配列を参照している場合は、リモート・サーバーでそのステートメントが実行されないように、アプリケーション・プログラムを変更してください。

SQLMSSTATE: 42612

-101 The SQL statement exceeds maximum length of 32767.

説明: IMS では、ステートメントが最大長の 32767 を超えているためにそのステートメントを処理できません。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: より短く複雑ではないステートメントを使用してください。

SQLMSSTATE: 54001

-102 The string constant beginning with string is too long

説明: *string* で始まるストリング定数の長さが、許可されている最大長を超えています。ストリングに許可されている長さは、それが指定されたコンテキストとキーワードによって異なります。ストリングの正しい限度を確認するには、*string* が指定されたキーワードの説明を参照してください。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: 要求された機能は、対話式には使用できません。アプリケーション・プログラムに組み込まれた SQL ステートメントのコンテキストでエラーが発生した場合は、*string* 値の長さを訂正してください。

SQLMSSTATE: 54002

-103 constant is an invalid numeric constant.

説明: 示された *constant* は数字で始まっていますが、有効な整数、10 進数、10 進浮動小数点数、または浮動小数点数の定数ではありません。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: 有効でない *constant* を訂正してください。

SQLMSSTATE: 42604

-104 Illegal symbol token was used. Legal symbols might be: token-list.

説明: SQL ステートメントにシンボル *token* が出現する構文エラーが検出されました。ステートメントの前の部分が正しい場合、構文上正しいと思われるシンボルのリストは、その時点では正しい可能性があったいくつかの代替シンボルを示しています。

ただし、ステートメントの前の部分が誤っている場合もあります。例えば、重要なキーワードが省略されている場合、IMS は、必ずしもキーワードが表示された直後ではなく、後でエラーを検出します。代替シンボルのリストは提案にすぎません。これらのシンボルの一部は、IMS によって実行されるステートメントでは正しくない場合があります。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

-107 • -113

プログラマーの応答: ステートメントを訂正して再実行してください。

SQLIMSSTATE: 42601

-107 **The name beginning with *name* maximum-size is too long.**

説明: 名前 *name* が長すぎます。そのタイプの名前に許可されている最大長は、*maximum-size* に示されています。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: そのオブジェクトにもっと短い名前を選んでください。

SQLIMSSTATE: 42622

-110 **Invalid hexadecimal constant beginning *string*.**

説明: 指定された *string* で始まるストリング定数は無効です。少なくとも、以下に示すエラーの 1 つがあるためです。

- *string* に、無効な 16 進数字が 1 つ以上含まれている。
- *string* の数字の数が偶数でない。
- UX または GX のストリング定数の場合、桁数が 4 の倍数ではない。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: 無効な *string* 定数を訂正してください。

SQLIMSSTATE: 42606

-113 **Invalid characters found in name: *name*, reason code *rsn*.**

説明: *name* に無効な文字が含まれています。特定の SQL ID (例えば、バッファ・プール、データベース、プランの名前など) には、大文字の英字または国別文字と数字以外を使用できません。また、最初の文字は、英字または国別文字でなければなりません。

名前は、先頭に DFS 接頭部が付いてはならず、SQL 予約語であってはなりません。以下が予約語です。

- ABORT
- ALL
- ALLOCATE
- ALTER
- ANALYZE
- AND

- ANY
- ARE
- AS
- ASC
- AT
- AVG
- BEGIN
- BETWEEN
- BINARY
- BIT
- BOOLEAN
- BOTH
- BY
- CASCADE
- CAST
- CHAR
- CHECK
- CLOSE
- CLUSTER
- COLLATE
- COLUMN
- COMMIT
- COPY
- COUNT
- CREATE
- CROSS
- CURRENT
- CURSOR
- DECIMAL
- DECLARE
- DEFAULT
- DELETE
- DESC
- DISTINCT
- DO
- DOUBLE
- DROP
- END
- EXECUTE
- EXISTS
- EXPLAIN
- EXTRACT

- EXTEND
- FALSE
- FETCH
- FIRST
- FLOAT
- FOR
- FOREIGN
- FROM
- FULL
- GRANT
- GROUP
- HAVING
- IN
- INNER
- INSERT
- INT
- INTEGER
- INTERVAL
- INTO
- IS
- JOIN
- LAST
- LEADING
- LEFT
- LIKE
- LISTEN
- LOAD
- LOCAL
- LOCK
- MAX
- MIN
- MOVE
- NAMES
- NATIONAL
- NATURAL
- NCHAR
- NEW
- NO
- NONE
- NOT
- NOTIFY
- NULL
- NUMERIC
- ON
- ONLY
- OR
- ORDER
- OUTER
- PARTIAL
- POSITION
- PRIMARY
- PUBLIC
- REAL
- RESET
- REVOKE
- RIGHT
- ROLLBACK
- ROW
- ROWS
- SELECT
- SET
- SETOF
- SHOW
- SMALLINT
- SUM
- TABLE
- TO
- TRAILING
- TRIM
- TRUE
- UNION
- UNIQUE
- UNLISTEN
- UNTIL
- UPDATE
- USER
- USING
- VACUUM
- VALUES
- VARCHAR
- VARYING
- VERBOSE
- VIEW
- WHERE

- WITH
- WORK

次の理由コードが該当します。

000 ID に無効文字が見つかりました。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: 名前を訂正してください。

SQLMSSTATE: 42602

-117 **The numbers of values
number_value_assigned is not equal to
the number of columns
number_columns_specified.**

説明: 挿入操作の値リストにある挿入値の数が、指定されたオブジェクト列の数と同じではありません。あるいは、SET 割り当てステートメント、または更新操作の SET 文節の割り当ての右サイドの値の数が、左サイドの列数と一致していません。

システムの処置: ステートメントを処理できません。データは挿入および更新されませんでした。

プログラマーの応答: ステートメントを修正し、指定したオブジェクト列のそれぞれに値を 1 つだけ指定して、ステートメントを再度実行してください。

SQLMSSTATE: 42802

-122 **Field field_name in the clause_type list
is not valid.**

説明: *clause_type* に指定できるのは、SELECT、INSERT、UPDATE、DELETE、WHERE、ORDER BY、または GROUP BY です。

SELECT ステートメントに、以下のいずれかのエラーがあります。

- WHERE 文節のフィールド名は、FROM 文節で定義されているセグメントに属していません。
- ORDER BY 文節のフィールド名は、FROM 文節で定義されているセグメントに属していません。
- GROUP BY 文節のフィールド名は、FROM 文節で定義されているセグメントに属していません。
- SELECT 文節にフィールド名が表示されない場合に、以下のようになります。
 - ステートメントの SELECT 文節に列名および集約関数が含まれていますが、GROUP BY 文節がありません。
 - ステートメントは GROUP BY 文節を含む SELECT * ですが、一部のフィールドが GROUP BY リストに指定されていません。

- SELECT 文節にはフィールド名が含まれていますが、GROUP BY 文節には含まれていません。またはその逆になっています。

- SELECT 文節に指定されたフィールド名が、GROUP BY 文節に指定されたフィールド名と正確に一致していません。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: 以下のようにして、ステートメントを訂正することができます。

- SELECT 文節にあるフィールドを FROM 文節に組み込む。または
- SELECT 文節にあるフィールドを GROUP BY 文節に組み込む。または
- SELECT/WHERE/ORDER BY 文節からそのフィールドを除去する。

SQLMSSTATE: 42803

-158 **The number of SELECT fields
number_field and host variables
number_hostvariables is not equal.**

説明: SELECT ステートメントで取り出されたフィールドの数と、FETCH ステートメントで指定されたホスト変数の合計数が等しくありません。このフィールドとホスト変数は、フィールドが構造体である場合を除いて、1 対 1 の相関関係になければなりません。

システムの処置: SQL ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: SQL ステートメントを修正して、有効な数のホスト変数を追加し、ステートメントを再実行してください。

SQLMSSTATE: 42811

-170 **The number of specified arguments
for function_name is invalid.**

説明: 示された関数に含まれている引数の数が正しくありません。

システムの処置: SQL ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: 正しい数の引数が含まれるよう SQL ステートメントを訂正してください。

SQLMSSTATE: 42605

-196 *object-type object-name* **CANNOT BE DROPPED. REASON =** *reason-code*.

説明: 指定されたオブジェクトをドロップしようとしたが、示された理由により、オブジェクトをドロップできません。

object-type

ステートメントがドロップしようとしたオブジェクトのタイプ。可能な値は以下のとおりです。

- TABLESPACE
- COLUMN

object-name

ステートメントがドロップしようとしたオブジェクトの名前。

- オブジェクト・タイプが TABLESPACE である場合は、表スペースの名前。
- オブジェクト・タイプが COLUMN である場合は、表スペース名の後にドロップされる列名が付加された名前。

reason-code

1 表スペースは、使用可能な最後の表スペースであるためドロップできません。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: *reason-code* の値に対応したアクションを実行してください。

1 表スペースをドロップする必要がある場合は、まず、新しい表スペースを作成して、すべての表をその新しい表スペースに関連付けるように変更してください。その後、再度 DROP ステートメントを実行してください。

SQLMSSTATE: 42817

-198 **The operand of a statement contains all blanks or is an empty string.**

説明: このコードは、次のいずれかの問題を示していません。

- PREPARE ステートメントのオブジェクトであるオペランド (ホスト変数またはストリング定数) が、すべて空白であったか、空ストリングであったかのいずれかです。
- SQL ステートメントの長さが 0 か無効な数値に設定されています。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: アプリケーション・プログラムの

ロジックを訂正してください。PREPARE ステートメントの実行前に、このステートメントのオペランドに有効な SQL ステートメントおよび正しい長さ値の両方が指定されていることを確認してください。

SQLMSSTATE: 42617

-199 **Illegal use of keyword was detected. Expected token is token-list.**

説明: ステートメント内の、*keyword* で指定されたキーワードが表示される位置で、構文エラーが検出されました。

有効なトークンの部分的なリストが、SQLERRM に *token-list* として示されます。適合するトークンだけがリストされます。リスト内の一部のトークンは、IMS が実行するステートメント内では無効である可能性があります。これらのトークンは、他のデータベース管理システムへ送信する場合のみ有効です。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: ステートメントの示されたキーワードの部分を調べてください。

- コロンまたは SQL 区切り文字が欠落している可能性があります。
- 文節が正しい順序で指定されていることを確認してください。
- メッセージに示されている予約語が予約語としてリストされている場合は、その語を区切り ID にしてください。

SQLMSSTATE: 42601

-203 **The segment or field name name is ambiguous.**

説明: セグメント名が複数の PCB で検出される場合、非修飾セグメント名はあいまいです。

FROM 文節で識別された複数のセグメントにその名前が付いたフィールドがある場合、非修飾フィールド名はあいまいです。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: フィールドまたはセグメント名を修飾して、ステートメントを再実行してください。

推奨事項: メタデータのフル・スキャン (非修飾セグメントの関連 PCB を識別するため) を避けるには、セグメントは必ず修飾してください。

SQLMSSTATE: 42702

-204 The PCB name is not valid or was not found.

説明: このコードは、次のいずれかの問題を示しています。

- SQL ステートメントで指定された *PCB name* が無効です。
- PSB は、指定された PCB にアクセスできません。

システムの処置: SQL ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: SQL ステートメントの PCB 名を修正し、ステートメントを再実行してください。

SQLMSSTATE: 42704

-205 Field name *column_name* is not valid or defined in a segment.

説明: 指定した列 *column_name* が、表 *table_name* に存在しません。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: SQL ステートメントに列名および表名が正しく指定されているかどうか (必要なすべての修飾子を含んでいるかどうか) を確かめてください。

SQLMSSTATE: 42703

-206 Field-type field is not valid in the context where it is used.

説明: フィールドが無効なコンテキストで、オブジェクトが指定されています。集約関数を使用されている場合、引数に指定されたフィールドが無効です。

field-type

無効なフィールドのフィールド・タイプ。このエラーの原因としては、以下のことが考えられます。

集約引数

GROUP BY

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: 集約引数または GROUP BY フィールドに、有効な列名が指定されていることを確認してください。

SQLMSSTATE: 42703

-208 The ORDER BY clause is invalid as *column_name* is not an output column.

説明: ORDER BY リストに指定された列 (*column_name*) が結果表に現れないため (すなわち、

SELECT リストに指定されていないため)、このステートメントは無効です。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: 示された列を結果表に追加するか、またはその列を ORDER BY 文節から削除することによって、ステートメントの構文を訂正してください。

SQLMSSTATE: 42707

-301 入力値は、指定されたタイプまたは長さが原因で使用できません。

説明: IMS が受け取ったデータは、そのデータ・タイプが、要求された操作とは非互換であるために、ステートメント、入力ホスト変数、またはパラメーターでの指定通りに使用できませんでした。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: アプリケーション・プログラムを訂正します。ステートメント内の入力ホスト変数またはパラメーターのデータ・タイプが、その使用方法と互換性があることを確認してください。

SQLMSSTATE: 42895

-302 The length that is specified for the SQL string is too long.

説明: SQL ステートメント・ストリングに指定した長さ値が、SQL ステートメント・ストリングを含んでいるホスト変数に対して大き過ぎます。例えば、SQL-STATEMENT-TXT を 180 文字に指定して SQL-STATEMENT ホスト変数を定義したとします。一方、SQL ステートメント・ストリングの長さ (SQL-STATEMENT-LEN) を 182 に指定したとします。指定した長さ値が実際のホスト変数のサイズより大きいため、エラー・コード -302 が戻ります。

01 SQL-STATEMENT.
49 SQL-STATEMENT-LEN PIC S9(4) COMP VALUE +182.
49 SQL-STATEMENT-TXT PIC X(180) VALUE SPACES.

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: アプリケーション・プログラムを訂正します。SQL ステートメントを保管したホスト変数が適切な長さ値であることを確認してください。

SQLMSSTATE: ターゲットに対して数値が大きすぎる場合は 22003。それ以外の場合は 22001。

-303 The output variable *position-number* is not set because of incompatible data types.

説明: 出力ホスト変数は、変数のデータ・タイプが、対応する SELECT ステートメントのデータ・タイプと互

換性がなかったために、割り当てることができませんでした。

position-number

出力 SQLIMSDA 内のホスト変数値の場所。

出力ホスト変数の値と、対応するリスト・エレメントの値は、以下のいずれかの分類に該当しなければなりません。

- 一方の値が数値であり、以下のいずれかの条件が当てはまる:
 - もう一方の値も数値である。
 - もう一方の値が文字ストリングである。
- 両方とも文字ストリングでなければならない。
- 両方ともバイナリー・ストリングでなければならない。

さらに、*datetime* または *timestamp* の値の場合、ターゲット・ホスト変数は適切な長さの文字ストリング変数である必要があります。

システムの処置: ステートメントを処理できません。データは取り出されません。

プログラマーの応答: 表定義が現行のものであり、ターゲット変数のデータ・タイプが正しいことを検証してください。ステートメントを再度実行してください。

SQLIMSSTATE: 42806

-305 **The null value must be assigned with an indicator variable specified.**

説明: FETCH、SELECT、または VALUES INTO ステートメントにより、列に挿入するよう NULL 値が取得されましたが、標識変数が指定されていません。列が NULL 値を戻す場合は、標識変数を指定しなければなりません。

システムの処置: SQL ステートメントを処理できません。データは取り出されませんでした。

プログラマーの応答: ステートメントのオブジェクトである表の定義を確認します。アプリケーション・プログラムを修正して、NULL 値が取得されるすべてのホスト変数に対して標識変数を指定します。

SQLIMSSTATE: 22002

-313 **The number of host variables and parameter markers is not the same.**

説明: EXECUTE または OPEN ステートメントに指定されたホスト変数の数が、準備済み SQL ステートメント内のパラメーター・マーカー (疑問符) の数と同じではありません。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: アプリケーション・プログラムを訂正して、EXECUTE または OPEN ステートメントに指定されるホスト変数の数が、準備済み SQL ステートメント内のパラメーター・マーカーの数と同じになるようにしてください。

SQLIMSSTATE: 07001

-350 **The field field name is not a sensitive field.**

説明: SQL ステートメントの PCB 内のフィールドは、PSB ソース内で重要フィールドとして定義されていないためにアクセスできません。

システムの処置: SQL ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: SQL ステートメントを修正して、重要フィールドだけを組み込むようにしてください。

SQLIMSSTATE: 42000

-404 **The SQL statement specifies a string that is too long.**

説明: ステートメント、パラメーター、またはホスト変数が、ターゲット列に保管できる最大長ストリングより長い値を指定します。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: ターゲット列、パラメーター、またはホスト変数の長さを確認してください。プログラムまたは SQL ステートメントを訂正して、ストリングの長さが最大長を超えないようにしてください。

SQLIMSSTATE: 22001

-407 **Key field field_name was not set for INSERT statement.**

説明: INSERT ステートメントの列名リストで、その親表の外部キー列 *column_name* が省略されています。

非ルート・レベルで表にレコードを挿入する場合は、表のすべての仮想外部キー・フィールドの値を指定する必要があります。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: INSERT ステートメントを修正して、*column_name* を組み込んでください。

SQLIMSSTATE: 23502

-408 The value is not compatible with the data type of column *column-name*.

説明: 失敗したステートメントでは、割り当て規則の検査が必要でした。*name* は、割り当てのターゲットの名前です。

割り当てられるデータ・タイプは、割り当てターゲットの宣言されたデータ・タイプとの互換性がありません。両方のデータ・タイプが、以下である必要があります。

- 数値または文字
- 文字
- 日付または文字
- 時刻または文字
- タイム・スタンプまたは文字

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: オブジェクト・テーブルまたはホスト変数について、SQL ステートメントと現在の定義をチェックして、オブジェクトに割り当てられている変数と定数が適切なデータ・タイプであることを確認します。

SQLIMSSTATE: 42821

-413 Overflow or underflow condition occurred during a numeric data type conversion.

説明: SQL ステートメントの処理時、数値データ・タイプの変換中にオーバーフロー条件またはアンダーフロー条件が起きました。数値変換は SQL の標準規則に従って実行されます。

システムの処置: ステートメントを処理できません。データの取り出し、更新、および削除は行われませんでした。

プログラマーの応答: SQL ステートメントの構文を調べて、エラーの原因を判別してください。問題がデータに依存している場合は、エラーが起こった時点で処理されていたデータを調べることが必要な場合があります。

SQLIMSSTATE: 22003

-420 The value of a string argument was not acceptable to a numeric field.

説明: スtring引数が、数値フィールドの要件に適合していません。例えば、ある文字String値が渡されましたが、SQL 整数または 10 進数定数の形式の規則に合っていませんでした。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: 引数String値を、数値フィールドの要件に適合するように変更してください。

SQLIMSSTATE: 22018

-440 The function *function_name* is not authorized or the function *function_name* does not have compatible arguments.

説明: 関数を呼び出そうとしましたが、引数リストなどの関数の呼び出しを解決できませんでした。元のステートメントが修飾名を参照している場合、メッセージ・テキスト内の関数名は、スキーマの名前で修飾されます。関数名の指定が正しくないか、または関数名がサポートされていません。

システムの処置: SQL ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: メッセージに示されているルーチン名を使用して、呼び出しを見つけてください。呼び出しが意図したルーチンに解決できることを確認します。意図したルーチンが呼び出されることを確認するには、可能な限り修飾したルーチン名を指定します。

SQLIMSSTATE: 42884

-490 The number *number* specified is invalid for the FETCH FIRST clause.

説明: SQL ステートメントには、指定されたコンテキスト内で無効な数値 (*number*) が含まれています。FETCH FIRST 文節で指定する数値は 0 より大きい必要があります。

システムの処置: SQL ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: ステートメント内の *number* の値を有効な値に変更してください。

SQLIMSSTATE: 428B7

-514 The cursor *cursor-name* is not in a prepared state.

説明: アプリケーション・プログラムは、*cursor-name* に指定されたカーソルの使用を試みましたが、カーソルが準備済み状態にありません。カーソルは、準備されていなかったステートメント、または既にクローズされているステートメントに関連付けられています。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: カーソルのオープンを試みる前に、*cursor-name* に対して DECLARE CURSOR ステ

ートメントで指定するステートメントを準備するようにしてください。

カーソルがクローズされたら、ステートメントを再度準備してください。

SQLMSSTATE: 26501

-516 The DESCRIBE statement does not specify a prepared statement.

説明: アプリケーション・プログラムは DESCRIBE ステートメントを実行しようとしたのですが、このステートメントは、準備されていないステートメントを指定していました。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: DESCRIBE ステートメントに指定されているステートメント名が、準備されているステートメントであることを確認してください。ステートメントを再度実行してください。

SQLMSSTATE: 26501

-517 The cursor is not used because the SELECT statement is not prepared.

説明: カーソルのために宣言で指定された準備済みステートメントが SELECT ステートメントではないため、カーソルは指定されたとおりに使用できませんでした。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: カーソルのために、PREPARE ステートメントと DECLARE CURSOR ステートメントでステートメント名が正しく指定されていることを確認してください。あるいは、アプリケーション・プログラムのロジックを訂正して、準備済み SELECT ステートメントだけをカーソル宣言に関連づけて使用するようにしてください。

SQLMSSTATE: 07005

-518 The EXECUTE statement does not identify a valid prepared statement.

説明: EXECUTE ステートメントで識別されるステートメントが準備されていませんでした。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: ステートメントは、必ず準備したうえで EXECUTE するようにしてください。また、準備されたステートメントが、SELECT ステートメントではないことを確認してください。

SQLMSSTATE: 07003

-519 IMS データベースへの SQL アクセスのためにカーソルがオープンされています。

説明: IMS データベースへの SQL アクセス用にカーソルがオープンされているときに、アプリケーション・プログラムは、IMS データベース・アクセスのために SQL ステートメントを準備しようとした。一度に 1 つの準備済みステートメントのみデータベース・アクセスが許可され、別のステートメント用にカーソルがオープンされている場合は、ステートメントを準備することはできません。

システムの処置: ステートメントを処理できません。カーソルは影響を受けていません。

プログラマーの応答: アプリケーション・プログラムのロジックを修正して、IMS データベース・アクセス用のオープン・カーソルが既に存在するときは、IMS データベース・アクセスのための SQL ステートメントの PREPARE を試みないようにしてください。

SQLMSSTATE: 24506

-530 The insert value of the foreign key key-value is invalid.

説明: 挿入または更新操作で、オブジェクト・セグメントの外部キーに値を保管するように試みられましたが、この値は、親セグメントの親キーのどの値とも等しくありませんでした。

行が従属セグメントに挿入される場合は、外部キーの挿入値が、関連する親セグメントの何らかの行の親キーの値と等しくなければなりません。

システムの処置: INSERT ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: まず外部キーの挿入値を調べ、それを親セグメントの親キー値それぞれと比較して、問題の原因を判別してください。

SQLMSSTATE: 23503

-531 Cannot update foreign key. It is only used for referential integrity.

説明: 外部キー列は、UPDATE ステートメントの SET 文節内では許可されていません。外部キー列は更新できません。これは参照整合性のためにのみ使用されます。

システムの処置: UPDATE ステートメントを実行できません。テーブルは変更されません。

プログラマーの応答: UPDATE ステートメントを訂正します。UPDATE ステートメントの SET 文節から外部キーを削除してください。

SQLMSSTATE: 23504

-539 TABLE DOES NOT HAVE A PRIMARY KEY *table-name*

説明: 示された表に主キーがないため、IMS は CREATE ステートメントおよび ALTER TABLE ステートメントを実行できません。したがって、主キーをドロップすることも、表を参照制約の親として定義することもできません。

HISAM、SHISAM、HIDAM、PHIDAM、INDEX、および DEDB のデータベースのルート・テーブルに主キーを定義する必要があります。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: ステートメントを訂正して、主キーがある表を参照するか、または FOREIGN KEY 文節内の表を参照する前に ALTER TABLE ADD PRIMARY KEY ステートメントを使用して主キーを定義してください。

SQLMSSTATE: 42888

-540 Primary index required for TABLE *table-name.*

説明: CREATE または ALTER ステートメントで表 *table-name* を使用しようとしていました。ただし、表の現行状況が不完全なため、指定されたとおりに使用できません。データベースの定義が不完全であり、以下が行われるまでデータベースを使用できません。

- 1 次索引が定義される。
- 1 次索引にリンクされるように、LCHILD 文節がルート表に指定される。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: 表を参照する前に、その表に関する 1 次索引または必要なユニーク索引を定義してください。

SQLMSSTATE: 57001

-604 A data type specifies an invalid length, precision, or scale attribute.

説明: CREATE または ALTER ステートメントのデータ・タイプ定義が、以下のいずれかに該当し、正しくありません。

- データ・タイプ定義に含まれている長さ、精度、または位取りの属性の指定が無効である。
- データ・タイプの指定が正しくないか、または無効である可能性がある。
- 列定義の長さが無効である。

システムの処置: ステートメントを処理できません。指

定されたオブジェクトの作成または変更は行われません。

プログラマーの応答: ステートメントの構文を次のように修正し、ステートメントを再サブミットしてください。

- 長さ、精度、または位取りの属性が有効になるように、ステートメントのデータ・タイプ定義を修正してください。
- 指定されたデータ・タイプが CREATE または ALTER ステートメントに対して有効であることを確認してください。
- 列定義の無効な長さを訂正してください。

SQLMSSTATE: 42611

-612 identifier is a duplicate name.

説明: 固有名が必要な状況で非固有名が指定されています。列名は表の中で固有でなければなりません。

identifier

非固有名。

CREATE TABLE および ALTER TABLE のこのエラーの原因として、以下が考えられます。

- 表の複数の列に対して同じ列名が指定されている。
- CREATE TABLE ステートメントで、PRIMARY KEY または FOREIGN KEY 文節の列リストに同じ列名が複数回指定されている。
- ALTER TABLE ステートメントで 1 つの列が複数回指定されている。
- 1 つの列を ALTER TABLE ステートメントの複数の文節に指定することはできません。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: ステートメント構文を修正して、ステートメントを再発行してください。

SQLMSSTATE: 42711

-624 Multiple primary keys defined for TABLE *table-name,*

説明: 次のいずれかの理由により、ALTER TABLE ステートメントを処理できません。

- 表には既に主キーがあります。
- 表に新しいキーと同じ定義の既存のユニーク制約がある。ALTER ステートメントに既存の列および期間のセットが指定されている。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: 表を複数の主キーで定義しようと

したり、既存のユニーク制約の定義を複製したユニーク制約を定義しようとしたりしないでください。

SQLIMSSTATE: 42889

-637 A duplicate or mutually exclusive keyword was specified: *keyword*.

説明: SQL ステートメントに含まれるキーワードの指定が重複しているか、相互に排他的なキーワードが指定されました。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: 重複したキーワードまたは相互に排他的なキーワードまたは文節を除去して、ステートメントを訂正してください。

SQLIMSSTATE: 42614

-644 Invalid value specified for *keyword-or-clause* in statement *error_text*.

説明: *error_text* で説明されているように、SQL ステートメント記述にある *keyword-or-clause* パラメーターの指定値は許可されない値です。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: ほとんどの場合は、*keyword-or-clause* の指定値を許可されている値に変更します。

SQLIMSSTATE: 42615

-680 指定した列が多すぎます。

説明: 列の総数がデータベースの制限を超えています。データベース内の列の最大数は 10,000 です。INTERNALNAME キーワードで指定できる列の最大数は 1,000 です。

ステートメントが、以下のいずれかのアクションを実行しようとした。

- 結果的にデータベース内の列の数が 10,000 を超える表を作成 (CREATE) または変更 (ALTER) しようとした。
- 結果的にデータベース内の列の数が 1,000 を超える表を INTERNALNAME キーワードを指定して作成 (CREATE) または変更 (ALTER) しようとした。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: CREATE ステートメントの列の数を少なくするか、ALTER ステートメントで既存の表に追加される列の数を少なくしてください。

SQLIMSSTATE: 54011

-692 The required index *index-name* does not exist for table *table-name*.

説明: この表には索引を定義する必要があります。このコードは、必要な索引が存在しないか、その定義が正しくないときに発行されます。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: 必要な索引が存在するかどうかを判別してください。存在しない場合は、必要な索引を作成してください。

SQLIMSSTATE: 57018

-767 Missing or invalid specification for INDEX *index-name*.

説明: 以下の理由で、索引が無効であると判明しました。

- 索引には、その索引付け先の 1 次データベースを識別するための LCHILD 文節が必要です。
- 副次索引を使用するために SCHEMA 文節の PROCSEQ キーワードで代替処理シーケンスが示されました。指定された副次索引は、SCHEMA 文節で指定されたデータベースには無効です。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: 索引データベースを作成または変更するための構文を訂正してください。

SQLIMSSTATE: 42626

-802 The exception error *exception_type* occurred during the operation *operation_type* operation on *data_type* data.

説明: 集約関数などの SQL 算術関数または算術式の処理および評価時に例外エラーが発生しました。

エラーの検出場所によっては、*exception_type*、*operation_type*、または *data_type* の一部が SQL 連絡域に戻されない場合があります。

exception_type

エラーのタイプを示します。例外タイプとしては、FIXED、POINT、および OVERFLOW が考えられます。

operation_type

集約関数などの算術演算タイプを示します。

data_type

操作されている項目のデータ・タイプ。データ・タイプの値としては、BIGINT、INTEGER、SMALLINT、および DECIMAL が考えられます。

メッセージに表示されるデータ・タイプは、データの一時的な内部コピーのデータ・タイプを示すことがあり、IMS による変換のために実際の列またはリテラルのデータ・タイプとは違っていることがあります。

システムの処置: SQL ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: SQL ステートメントを調べて、問題の原因を特定できるかどうかを確認してください。問題がデータから生じている場合があります。その場合は、エラーの発生時に処理中だったデータを調べる必要があります。

問題判別: 固定小数点オーバーフローは、BIGINT、INTEGER または SMALLINT フィールドに算術演算を行っているときに発生する可能性があります。operation-type が集約関数である場合、エラーは入力値、中間値、または最終値の処理中に発生しました。パラメーターの値が範囲外であるため、例外が発生することがあります。

SQLIMSSTATE: 22003

-840 Number of items returned exceeds the maximum number of 750.

説明: SELECT リスト内に返された項目数が、許容最大値の 750 を超えています。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: すべての情報が必要かどうかを判別してください。例えば、SQL ステートメント SELECT * FROM A, B, C によって返される項目の数は、3 つのセグメントすべての列数の合計です。不要なフィールド・データが存在する可能性があります。

必要な項目の情報だけが返されるように SQL ステートメントを書き直すか、SQL ステートメントを複数のステートメントに分割してください。

SQLIMSSTATE: 54004

-904 The IMS catalog is not enabled.

説明: IMS データを使用して SQL ステートメントを実行できるようにするには IMS カタログを有効にする必要があります。

システムの処置: SQL ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: システム管理者に連絡して、IMS カタログを有効にするように依頼し、アプリケーションを再度実行してください。

SQLIMSSTATE: 57013

-5001 The segment name *segment-name* is not valid or it cannot be found.

説明: SQL ステートメントで指定された *segment name* には有効名がないか、IMS カタログ・メタデータ内に見つかりません。

システムの処置: SQL ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: 構文を訂正し、ステートメントを再び実行してください。

SQLIMSSTATE: 42703

-8001 Search filters for a segment in a WHERE clause must be sequential.

説明: 正しくない WHERE 文節が指定されました。特定セグメントのすべての検索フィルターは、WHERE 文節内で順番にリストされている必要があります。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: SQL ステートメントの WHERE 文節を修正し、ステートメントを再実行してください。

SQLIMSSTATE: 42201

-8002 The use of OR across segment boundaries for a segment is not allowed.

説明: WHERE 文節内で、セグメント (表) の境界を超える OR 演算の実行が試みられました。OR 演算は、同じセグメント内の修飾でのみ許可されています。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: SQL ステートメントの WHERE 文節を修正し、ステートメントを再実行してください。

SQLIMSSTATE: 42201

-8003 A general error occurred while parsing the SQL statement.

説明: SQL ステートメントの構文解析中に一般構文解析プログラム・エラーが発生しました。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

SQLIMSSTATE: 42601

-8004 **IMS returned the PCB status code**
pcb_status_code.

説明: IMS は、PCB 状況コードを返しました。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: 135 ページの『DL/I 状況コードの説明』の PCB 状況コードを確認してください。エラーを訂正し、ステートメントを再実行依頼してください。

SQLIMSSTATE: 58030

-8005 **IMS returned the AIB return code**
aib_retcode and the reason code
aib_rsncode.

説明: IMS は、戻りコード *aib_retcode* と理由コード *aib_rsncode* で AIB エラーを返しました。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: 295 ページの『AIB 戻りコードおよび理由コード』の AIB 戻りコードと理由コードを確認してください。エラーを訂正し、ステートメントを再実行依頼してください。

SQLIMSSTATE: 58030

-8006 **Aggregation, function, and expression**
are not supported.

説明: SQL ステートメントに、集計、関数、式、またはユーザー定義関数が含まれています。これらはサポートされていません。

システムの処置: SQL ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: SQL ステートメントを修正して、ユーザー定義関数を削除してください。

SQLIMSSTATE: 56074

-8007 **The DISTINCT and ALL keywords are**
not supported.

説明: SQL ステートメントには、DISTINCT キーワードまたは ALL キーワードが含まれています。これらのキーワードはサポートされません。

システムの処置: SQL ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: SQL ステートメントを修正して、キーワードを削除してください。

SQLIMSSTATE: 56075

-8008 **The secondary field *column_name* can**
only be used in a search field.

説明: *column_name* は 2 次フィールドです。このフィールドは、SQL ステートメント内の WHERE 文節の検索フィールドとしてのみ使用できます。SELECT ステートメントで、SELECT 列リストや ORDER BY 文節内にリストすることはできません。UPDATE ステートメントの SET 文節内、および INSERT ステートメントの挿入列リスト内で使用することもできません。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: SQL ステートメントを訂正してください。2 次フィールドは、SQL ステートメントの WHERE 文節にのみ指定するようにしてください。

SQLIMSSTATE: 58030

-8009 **A DELETE or UPDATE call tried to**
modify a key field in the segment.

説明: UPDATE ステートメントを使用して、キー・フィールド列を更新することができません。IMS セグメント内のキー・フィールドの変更は許可されていません。IMS は状況コード DA を返しました。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: SQL ステートメントを訂正してください。UPDATE ステートメントの SET 文節からキー・フィールド列を削除してください。

SQLIMSSTATE: 58030

-8010 **It is invalid to specify multiple PCBs**
in the same SQL query.

説明: SQL ステートメントの FROM 文節に定義された複数のセグメントは、同じ PCB に属している必要があります。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: 同じ PCB からセグメントを追加するために SQL ステートメントの FROM 文節を更新して、ステートメントを再度実行してください。

SQLIMSSTATE: 23600

-8011 **Segments on different hierarchical**
paths cannot be joined.

説明: 照会で指定されたセグメントは、結合できません。これらは、データベース内の同じ階層パスにありません。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: SQL ステートメントを調べて、

-8012 • -8021

同じ階層パス上のセグメントのみが指定されていることを確認してください。

SQLMSSTATE: 23601

-8012 Field *field_name* extends beyond the length of the segment *segment_name*.

説明: 可変長セグメントの場合、INSERT または UPDATE ステートメントに指定された LL 値は、指定されたフィールドを保持できる十分な大きさでなければなりません。指定されたフィールドのいずれかが指定されたセグメント長を超えると、メッセージが発行されます。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: SQL ステートメントを調べて、指定された LL 値に指定されたフィールドを保持できることを確認してください。

SQLMSSTATE: 23602

-8013 ステートメント内のフィールドまたはセグメントの数が、最大の 200 を超えています。

説明: SQL ステートメントで指定されたフィールドまたはセグメントの数が、IMS によって解析および処理できるフィールドおよびセグメントの最大数を超えています。IMS は、1 つの SQL ステートメントで最大 200 個のフィールドまたはセグメントをサポートします。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: アプリケーション・プログラムの SQL ステートメントを修正してください。SQL ステートメントで指定されたフィールドまたはセグメントの数を調べて、最大の 200 を超えていないことを確認してください。

SQLMSSTATE: 23603

-8014 z/OS XML パーサー API が戻りコードおよび理由コード *reason code* を返しました。

説明: z/OS XML パーサー API は、XML を構文解析できず、エラーを戻りコードおよび理由コードとともに返しました。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: 戻りコードおよび理由コードについては、「z/OS XML System Services ユーザーズ・ガイドおよび解説書」を参照してください。エラーを訂正し、ステートメントを再実行依頼してください。

SQLMSSTATE: 23604

-8015 フィールド *field_name* は、既に ORDER BY リスト内にあります。

説明: SELECT ステートメントの ORDER BY 節の各フィールド名は、一度だけ指定できます。重複するフィールド名は使用できません。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: SQL ステートメントを修正して、ORDER BY 節に正しいフィールド名を含めるようにしてください。

SQLMSSTATE: 23605

-8019 The column *column_name* is not a valid type for use in the *function_name* function.

説明: ストリング引数が、数値フィールドの要件に適合していません。例えば、ある文字ストリング値が渡されましたが、SQL 整数または 10 進数定数の形式の規則に合っていないでした。

システムの処置: SQL ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: 数値フィールドの要件に適合するよう、引数ストリング値を変更してください。

SQLMSSTATE: 23609

-8020 The *function_name* function of the *data_type* data type is not supported.

説明: 引数が、サポートされている集約関数の要件に適合していません。例えば、MIN 関数の引数としてタイム・スタンプ値が渡されましたが、そのタイム・スタンプの形式がサポートされていない、などが考えられます。

システムの処置: SQL ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: サポートされているデータ・タイプの要件に適合するよう、引数ストリング値を変更してください。

SQLMSSTATE: 23610

-8021 Invalid data was found in the field *field_name* where the *data_type* data type was expected.

説明: フィールド値が、フィールド・データ・タイプの形式に適合していませんでした。例えば、パック 10 進数の値が想定されていましたが、最後のニブルに符号値がない、などが考えられます。

システムの処置: SQL ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: フィールドのデータ・タイプ形式に適合するよう、フィールド値を変更してください。

SQLIMSSTATE: 23611

-8022 ORDER BY with an aggregate field is not supported.

説明: 集計結果のソートはサポートされません。

システムの処置: SQL ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: ソートするフィールドを非集約フィールドに設定してください。

SQLIMSSTATE: 23611

-8023 SQL_statement_type is ineligible because field field_name is overlapped by field field_name.

説明: 挿入または更新するフィールドが異なるデータ・タイプの別のフィールドとオーバーラップしているため、INSERT または UPDATE ステートメントを実行できません。

システムの処置: SQL ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: DBD ソースを調べて、異なるデータ・タイプの別のフィールドとオーバーラップしているフィールドがないことを確認してください。

SQLIMSSTATE: 23613

-8024 Field_type field is not valid or was not found.

説明: *Field_type* は GROUP BY または ORDER BY の場合があります。

ソートまたはグループ化を行う、行内の必須フィールド位置を特定できないため、以降の処理を進めることができません。

システムの処置: SQL ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: GROUP BY または ORDER BY フィールドを調べ、そのフィールドが有効であることを確認してください。

SQLIMSSTATE: 23614

-8025 No more than 10 consecutive AND statements are allowed.

説明: WHERE 文節内の述部では、データ・タイプが整数の場合、メモリーの問題が発生する可能性があるため、連続して結合できる AND ステートメントは 10 個までです。WHERE 文節に 1 つ以上の OR ステートメントもある場合は 10 個を超えるステートメントを含めることはできませんが、連続した 10 個の AND ステートメントを含めることはできません。

システムの処置: SQL ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: 連続した AND ステートメントが 10 個を超えないよう、WHERE 文節を訂正してください。

SQLIMSSTATE: 23615

-9000 resource-type resource-name not found. DROP|ALTER unsuccessful.

説明: *resource-name* に名前が指定されたリソースの除去 (削除) も変更もできません。リソースがカタログ内で見つからなかったか、またはリソースの除去または変更の操作を行うことにより、リソースが使用可能でなくなります。

resource-type

有効なリソースまたはオブジェクトのタイプは、DBD、PSB、表スペース、表、列、lchild、および xdfld です。

resource-name

処理するリソース名。

システムの処置: ステートメントを処理できません。これ以前のコミットされていないすべての作業はバックアウトされます。

プログラマーの応答: リソースが存在すること、および DDL アクションを実行することによって最終的にリソースが使用可能になることを確認してください。DDL を再実行依頼してください。

SQLIMSSTATE: 57006

-9001 resource-type resource-name insufficient update access. DROP unsuccessful.

説明: アプリケーションに、IMS に対する更新を実行するのに十分なアクセス権限がありません。十分な procopt 設定によって PSB を使用してください。

resource-type

有効なリソース・タイプは DBD または PSB です。

resource-name

処理するリソース名。

システムの処置: ステートメントを処理できません。これ以前のコミットされていないすべての作業はバックアウトされます。

プログラマーの応答: プログラムが十分な procopt 設定によって PSB を参照していることを確認してください。DDL を再実行依頼してください。

SQLIMSSTATE: 01530

-9002 *resource-type resource-name* **previously defined.**

説明: 新しいリソースを作成できません。リソースは既に存在しているか、定義を行っているところです。

resource-type

有効なリソースまたはオブジェクトのタイプは、DBD、PSB、表スペース、表、列、lchild、および xdfld です。

resource-name

処理するリソース名。

システムの処置: ステートメントを処理できません。これ以前のコミットされていないすべての作業はバックアウトされます。

プログラマーの応答: リソースが既に存在しているかどうかを確認し、ステートメントを変更してください。DDL を再実行依頼してください。

SQLIMSSTATE: 42713

-9003 **CREATE unsuccessful. Database not found for table** *table-name*.

説明: 新しい表を作成できません。この表ではデータベースの関連付けも作成もできません。

table-name

作成する表の名前。

システムの処置: ステートメントを処理できません。これ以前のコミットされていないすべての作業はバックアウトされます。

プログラマーの応答: その表がデータベース・リソース用に作成されているかどうかを確認してください。DDL を再実行依頼してください。

SQLIMSSTATE: 42810

-9005 *object-type object-name* **invalid for dbname.**

説明: 新しいオブジェクトの作成も既存オブジェクトの変更もできません。

object-type

オブジェクト・タイプ (表スペース、表、列、lchild、xdfld)

object-name

作成するオブジェクトの名前。

dbname

データベースの名前。

システムの処置: ステートメントを処理できません。これ以前のコミットされていないすべての作業はバックアウトされます。

プログラマーの応答: そのオブジェクトがデータベース・リソース用に作成されているかどうかを確認してください。DDL を再実行依頼してください。

SQLIMSSTATE: 53022

-9006 **Access type mismatch:** *resource-name*

説明: 既存のリソースまたは記述子に基づいてデフォルト属性にデータを設定するための LIKE キーワードを指定して、DDL ステートメントが発行されました。DDL ステートメントに指定されたデータベース・アクセス・タイプが、既存のリソースまたは記述子に定義されたアクセス・タイプと競合していることが判明しました。

resource-name

LIKE キーワードに指定されている既存のリソースまたは記述子の名前。

システムの処置: ステートメントを処理できません。これ以前のコミットされていないすべての作業はバックアウトされます。

プログラマーの応答: DDL ステートメントに指定されたアクセス・タイプが LIKE キーワードに指定されたリソースのアクセス・タイプに対応しているかどうかを確認してください。DDL を再実行依頼してください。

SQLIMSSTATE: 53022

| **-9007** **PROGRAMVIEW** *programviewname*
| **specified load for virtual table**
| *tablename*

| 説明: 指定された TABLE が、指定された
| PROGRAMVIEW (PSB) 内で PROCOPT に L または
| LS を使用して参照されました。TABLE は仮想表であ
| るため、ロードできません。

| システムの処置: ステートメントを処理できません。
 | プログラマーの応答: ステートメントを訂正して、参照
 | された TABLE を除去するか、PROCOPT を変更して
 | ください。

| **SQLMSSTATE:** 53022

**-9008 Logical parent and child definition
 incomplete for *table-name***

| 説明: 次のいずれかのケースが発生しました。
 | • 表は論理子として定義されていたのに、LPARENT
 | キーワードで論理親を指定していない。
 | • 表は論理親として定義されていたのに、LCHILD 文
 | 節で論理子を指定していない。

| システムの処置: ステートメントを処理できません。
 | プログラマーの応答: 論理子として定義されている表の
 | 場合は、論理親を参照する LPARENT キーワードを含
 | めてください。

| 論理親として定義されている表の場合は、論理子を参照
 | する LCHILD 文節を含めてください。

| **SQLMSSTATE:** 53022

**-9009 Data capture exit specified with
 invalid delete rule for *table-name***

| 説明: 表に、DATA CAPTURE 文節で定義されている
 | 変更データ・キャプチャー出口でサポートされない削除
 | 規則があります。

| - 論理子表の場合は、DELETE VIRTUAL を定義する必
 | 要があります。

| - 論理親表の場合は、DELETE VIRTUAL を定義しては
 | なりません。

| システムの処置: ステートメントを処理できません。
 | プログラマーの応答: 論理子として定義されている表の
 | 場合は、DELETE VIRTUAL を含めてください。

| 論理親として定義されている表の場合は、DELETE
 | PHYSICAL または DELETE LOGICAL を含めてくだ
 | さい。

| **SQLMSSTATE:** 53022

**-9010 PROGRAMVIEW *program_name*
 references PHIDAM *database_name* with
 multiple loads**

説明: 指定されたプログラム (PSB) に、PROCOPT が
 L または LS の、指定された PHIDAM データベース
 への明示的参照が複数含まれています。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: PROCOPT を変更して、ステー
 トメントを再実行してください。

SQLMSSTATE: 53022

**-9020 Array|Struct is incomplete for
column-name.**

説明: 表に対する配列または構造体の定義が不完全でし
 た。列が以下のいずれとしても定義されませんでした。

- 配列または構造体を含んでいる。
- 配列エレメントまたは構造体エレメント

column-name

エラーに関与している列。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: リソースが存在しているかどうか
 を確認し、ステートメントを変更してください。 DDL
 を再実行依頼してください。

SQLMSSTATE: 42703

-9021 Invalid dynamic array: *column-name*.

説明: 表に対して定義されている動的配列は無効です。
 DEPENDSON キーワードに指定されている制御フィー
 ルドを、以下のように定義する必要があります。

- 動的配列の前
- INT、SHORT、LONG、DECIMAL (位取り 0) のい
 ずれかのデータ・タイプを使用

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: リソースが存在しているかどうか
 を確認し、ステートメントを変更してください。 DDL
 を再実行依頼してください。

SQLMSSTATE: 42703

**-9022 Control column with invalid datatype
 for array *column-name***

説明: 表に対して定義されている動的配列は無効です。

DEPENDSON キーワードに指定されている制御フィー
 ルドを、以下のいずれかのデータ・タイプを指定して定
 義する必要があります。

- INT
- SHORT
- LONG
- DECIMAL (位取り 0)

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: リソースが存在しているかどうかを確認し、ステートメントを変更してください。DDLを再実行依頼してください。

SQLIMSSTATE: 42815

-9023 **Column not defined for redefine**
column-name

説明: 表に指定された再定義が無効です。

REDEFINES キーワードに指定される列名は事前定義されていなければなりません。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: リソースが存在しているかどうかを確認し、ステートメントを変更してください。DDLを再実行依頼してください。

SQLIMSSTATE: 42703

-9024 **Invalid redefine** *column-name*

説明: 表に指定された再定義が無効です。

REDEFINES キーワードに指定される列名は、以下のようになります。

- 現在の列と同じ長さで定義する必要があります。
- 配列であってはなりません。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: リソースが存在しているかどうかを確認し、ステートメントを変更してください。DDLを再実行依頼してください。

SQLIMSSTATE: 42703

-9030 *resource-type resource-name* **marked for delete. ALTER unsuccessful.**

説明: リソースを変更できません。リソースは、既にDROP ステートメントによって削除されるようにマーク付けされています。

resource-type

有効なリソース・タイプは DBD または PSB です。

resource-name

処理するリソース名。

システムの処置: ステートメントを処理できません。これ以前のコミットされていないすべての作業はバックアウトされます。

プログラマーの応答: リソースが存在しているかどうかを確認し、ステートメントを変更してください。DDLを再実行依頼してください。

SQLIMSSTATE: 57006

-9050 **MAP column name not defined:**
column-name.

説明: MAP に指定されている列名が現在の表に対して定義されていませんでした。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: その列が現在の表に対して定義されているかどうか、または名前が正しいかどうかを確認してください。DDL を再実行依頼してください。

SQLIMSSTATE: 42703

-9051 **Invalid caseid:** *case-id*

説明: 以下のいずれかの理由で、指定されたケース ID が無効です。

- 指定されたケース ID が長すぎます。
- 制御フィールドによって指定された長さが長すぎます。
- ケース ID の長さが、制御フィールドによって指定された長さを超えています。
- 制御フィールドは、文字または 16 進数としてのみ定義できます。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: DDL を再実行依頼してください。

SQLIMSSTATE: 42804

-9052 *object-name* **has insufficient bytes.**

説明: 指定されたオブジェクトのバイト数が無効です。表に指定されたバイト数が、列の合計サイズを含めるには不十分です。

配列の列に指定されたバイト数が、配列エレメントの合計サイズを含めるには不十分です。

構造体の列に指定されたバイト数が、構造体エレメントの合計サイズを含めるには不十分です。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: これらのオブジェクトに指定されたバイト・サイズを確認し、訂正してください。DDL を再実行依頼してください。

SQLIMSSTATE: 54025

-9053 Schema overflow

説明: プログラム・ビュー (または PSB) に指定されたスキーマ (または PSB) の数が許容最大数を超過しています。最大数は 2500 です。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: プログラム・ビューに指定されたスキーマの数を減らしてください。DDL を再実行依頼してください。

SQLMSSTATE: 54035

-9054 The depth of an ARRAY or STRUCT exceeds the limit of 49 nesting levels

説明: DDL ステートメントに定義されている配列または構造体のネストが深すぎます。サポートされている最大ネスト・レベルは 49 です。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: ネスト・レベルを減らして、DDL を再実行依頼してください。

SQLMSSTATE: 54035

-9055 SENSEG *sensegview-name* from *schema-name* not found in *database-name*

説明: *schema-name* で指定されている *sensegview-name* が、スキーマによって参照されているデータベース内にありませんでした。

sensegview-name
SENSEGVIEW 文節に指定されているセンシティブ・セグメントの名前を示します。

schema-name
スキーマ (PCB) の名前を示します。

database-name
SENSEG を含むデータベースの名前を示します。

システムの処置: ステートメントを処理できません。

プログラマーの応答: ターゲット・セグメントが、参照されているデータベース内に存在することを確認してください。

SQLMSSTATE: 57006

SQLMSSTATE 値および一般エラー・コード

IMS は、アプリケーション・サーバーまたはリクエスターとして動作する場合に SQLMSSTATE 値を生成します。

SQLMSSTATE 値は、「ISO/IEC 9075:1992 データベース言語 SQL」および「ANSI X3.135-1992 データベース言語 SQL」の規格に記載されている SQLSTATE 仕様にに基づいています。

SQLMSSTATE 値は、SQLMSCA の最後の 5 バイトを使用してアプリケーションに返されます。5 文字の各値は、最後に実行された SQL ステートメントの結果を示す戻りコードです。

SQLMSSTATE 値は、アプリケーション・プログラムが特定のエラーまたはエラーのクラスについてテストできるように設計されています。SQLMSSTATE 値の最初の文字は、SQL ステートメントの実行が成功したか失敗したか (それぞれゼロ、またはゼロ以外) を示しています。

SQLMSSTATE 値は、2 文字のクラス・コード値と、それに続く 3 文字のサブクラス・コード値から構成されます。クラス・コード値は実行成功状態または実行不成功状態のクラスを表します。アプリケーションでは、文字「7」から「9」または「I」から「Z」で始まるクラス、および文字「I」から「Z」で始まるクラスのサブクラスを定義することができます。

次の表は、SQLMSSTATE はクラス・コードを示しています。その後の表では、各クラス・コードのサブコードについて説明します。

表 78. SQLIMSSTATE クラス・コード

クラス・コード	意味
01	警告
07	動的 SQL エラー
22	データ例外
23	制約違反
24	無効なカーソル状態
26	無効な SQL ステートメント ID
42	構文エラーまたはアクセス規則違反
54	SQL または製品の限界を超過
56	その他の SQL または製品のエラー
57	リソースを使用できない、またはオペレーター介入
58	システム・エラー

表 79. SQLIMSSTATE の値

SQLIMSSTATE の値	意味
01004	ストリングの値は、それより短い別のストリング・データ・タイプに割り当てられると切り捨てられました。
07001	変数の数がパラメーター・マーカースの数として正しくありません。
07003	EXECUTE ステートメントで識別されたステートメントが、SELECT ステートメントであるか、または準備済みの状態ではありません。
07005	カーソルのステートメント名が、カーソルに関連付けることができない準備済みステートメントを示しています。
22001	文字データの右側が切り捨てられました。例えば、更新または挿入の値が列には長すぎるストリングである、変数が小さすぎるため日時値をその変数に割り当てられない、などが考えられます。
22002	NULL 値、または標識パラメーターがないことが検出されました。例えば、標識変数が指定されていないため、NULL 値が変数に割り当てられない、などが考えられます。
22003	数値が有効範囲外です。
22018	数値フィールドに対する引数はストリング値であってはなりません。
23502	挿入または更新の値が NULL ですが、列に NULL 値を入れることはできません。
23503	外部キーの挿入または更新の値が無効です。
23504	外部キーは更新できません。
23600	同じ SQL 照会に複数の PCB を指定することは無効です。
23601	Segments on different hierarchical paths cannot be joined.
23602	セグメント長が指定された長さを超えています。
23603	ステートメント内のフィールドまたはセグメントの数が、最大を超えています。

表 79. SQLIMSSTATE の値 (続き)

SQLIMSSTATE の値	意味
23604	z/OS XML パーサーの API がエラーを返しました。
23605	重複したフィールド名は無効です。
23609	この列は、この関数で使用する場合の有効なデータ・タイプではありません。
23610	この関数は指定されたデータ・タイプをサポートしていません。
23611	フィールド値が、フィールド・データ・タイプの形式に適合していませんでした。
23612	集約フィールドを含む ORDER BY はサポートされません。
23613	このフィールドは、異なるデータ・タイプの別のフィールドとオーバーラップしているため、更新できません。
23614	指定されたフィールドが、無効であるか見つかりませんでした。
23615	連続して使用できる AND ステートメントは 10 個までです。
24501	識別されたカーソルはオープンされていません。
24502	OPEN ステートメントで識別されたカーソルは既にオープンしています。
24506	PREPARE で識別されたステートメントは、オープン・カーソルのステートメントです。
26501	識別されたステートメントが存在しません。
42000	識別されたフィールドはセンシティブ・フィールドではありません。
42201	Search filters for a segment in a WHERE clause must be sequential.
42601	文字、トークン、または文節が無効であるか、または欠落しています。
42602	名前に無効な文字が見つかりました。
42604	無効な数値またはストリング定数が検出されました。
42605	関数に指定された引数の数が無効です。
42606	無効な 16 進定数が検出されました。
42612	ステートメント・ストリングが、示されているコンテキストでは受け入れられない SQL ステートメントです。
42613	文節が相互に排他的です。
42614	重複したキーワードまたは文節は無効です。
42615	無効な内部宛先が検出されました。
42622	名前またはラベルが長すぎます。
42626	INDEX の指定が無効です。
42702	重複名があるため、列参照があいまいです。
42703	未定義の列名またはパラメーター名が検出されました。
42704	指定されたオブジェクトが、無効であるか見つかりませんでした。

表 79. SQLIMSSTATE の値 (続き)

SQLIMSSTATE の値	意味
42707	ORDER BY 中の列名が、結果表の列を示していません。
42711	オブジェクト定義または ALTER TABLE ステートメントで重複した列名が検出されました。
42713	重複するオブジェクトがリスト内に検出されたか、オブジェクトが既存のオブジェクトと同じです。
42803	識別された文節内の列参照が無効です。
42804	CASE 式内の結果式に互換性がありません。
42806	データ・タイプに互換性がないため、変数に値を割り当てられません。
42810	基本表が FOREIGN KEY 文節内で指定されていません。
42811	指定された列の数が、SELECT 文節の列の数と同じではありません。
42815	データ・タイプ、長さ、位取り、値、または CCSID が無効です。
42817	別のオブジェクトが依存しているため、オブジェクトをドロップできません。
42821	列または変数への割り当てのデータ・タイプが、このデータ・タイプと非互換です。
42888	表に主キーがありません。
42889	表には既に主キーがあります。
42895	静的 SQL では、入力変数は使用できません。そのデータ・タイプが、プロシージャまたはユーザー定義関数のパラメーターと互換性がないためです。
428B7	SQL ステートメントで指定された数値は、有効範囲外です。
53022	変数またはパラメーターは許可されていません。
54001	ステートメントが長すぎるかまたは複雑すぎます。
54002	ストリング定数が長すぎます。
54004	ステートメントの SELECT または INSERT リスト内にある表名または項目が多すぎます。
54011	指定されたステートメントの列が多すぎます。
54025	表記述がオブジェクト記述子の最大サイズを超えています。
54035	内部オブジェクトの制限を超えました。
56074	Aggregation, function, and expression are not supported.
56075	The DISTINCT and ALL keywords are not supported.
57001	1 次索引がないため、その表は使用できません。
57006	DROP または CREATE が保留中であるために、オブジェクトを作成できません。
57013	データベース以外のリソースが使用できません。これは、以降のステートメントの正常な実行に影響を及ぼします。
58030	IMS がエラーを検出し、PCB 状況コードまたは AIB 戻りコードと理由コードを返しました。

第 18 章 CICS DL/I ユーザー・インターフェース・ブロック戻りコード

どの DL/I 呼び出しを出した後でも、CICS オンライン・プログラムは、DL/I 状況コードのチェックを行う前に UIB に入った戻りコードをチェックする必要があります。

UIBRCODE 内の値がヌルでない場合には、PCB 状況コードの内容は意味をもちません。UIB の定義とアドレッシングに関する詳細については、UIB の指定 (CICS オンライン・プログラムのみ) (アプリケーション・プログラミング) を参照してください。

UIBRCODE には、UIBFCTR と UIBDLTR の 2 つのバイトが含まれます。最初に UIBFCTR の内容をチェックする必要があります。UIBDLTR の内容が意味をもつのは、UIBFCTR に NOTOPEN または INVREQ 状態が示されている場合だけです。表 80、表 81、表 82 は、CICS-DL/I インターフェースから返される戻りコードを示しています。

表 80. UIBFCTR の戻りコード

条件	ASM	COBOL	PL/I
NORESP (正常応答)	X'00'	LOW-VALUES	00000 000
NOTOPEN (未オープン)	X'0C'	X'0C'	00001 100
INVREQ (無効要求)	X'08'	X'08'	00001 000

表 81. UIBFCTR='0C' (NOTOPEN) の場合の UIBDLTR の戻りコード

条件	ASM	COBOL	PL/I
データベース未オープン	X'00'	LOW-VALUES	00000 000
スケジュール意図の矛盾	X'02'	X'02'	00000 010

表 82. UIBFCTR='08' (INVREQ) の場合の UIBDLTR の戻りコード

条件	ASM	COBOL	PL/I
DL/I への無効な引数の引き渡し	X'00'	LOW-VALUES	00000 000
PSBNF (PSB 未検出)	X'01'	X'01'	00000 001
PSBSCH (PSB スケジュール済み)	X'03'	X'03'	00000 011
NOTDONE (要求不実行)	X'04'	12-4-9	00000 100
PSBFAIL (PSB 初期設定失敗)	X'05'	X'05'	00000 101

UIBDLTR='00' • UIBDLTR='05'(PSBFAIL)

表 82. UIBFCTR='08' (INVREQ) の場合の UIBDLTR の戻りコード (続き)

条件	ASM	COBOL	PL/I
TERMNS (終了不成功)	X'07'	X'07'	00000 111
FUNCNS (機能未スケジュール)	X'08'	X'08'	00001 000
INVPSB (無効な PSB)	X'10'	X'10'	00010 000
DLINA (DL/I 非活動状態)	X'FF'	X'FF'	11111 111

これらのコードがプログラミング・エラーで表示されない場合は、未オープンまたは無効な要求の状態が原因となっていることがあります。

未オープン状態

UIBFCTR に X'0C' が入っているときには、NOTOPEN 状態を表しています。

UIBDLTR='00'

説明: データベース呼び出しが出された場合に、PSB をスケジュールしたあとでデータベースが停止すると、このコードが戻されます。

ソース: CICS DL/I コード

UIBDLTR='02'

説明: これは、スケジューリング意図が矛盾していることを表します。この状態は、IMS プログラム分離を使用している場合には発生しません。

ソース: CICS DL/I コード

無効要求状態

無効な要求は UIBFCTR=X'08' によって示されます。

UIBDLTR='00'(INVARC)

説明: DL/I に無効な引数が渡され、次の問題の 1 つが示されました。

- カウント引数が存在するが、カウントが高過ぎる。
- 入出力域が欠落している。
- 受け取ったデータ長が 65520 より大きい。
- 呼び出しタイプが無効である。

ソース: CICS DL/I コード

UIBDLTR='04'(NOTDONE)

説明: XDIPRE 出口ルーチンが、DL/I 要求を出すべきでないことを示しています。

ソース: CICS DL/I コード

UIBDLTR='01'(PSBNF)

説明: このコードは、スケジューリング呼び出しのあとで戻されます。これは、スケジュールされる PSB が PSB ディレクトリー (PDIR) で定義されていないことを表します。

ソース: CICS DL/I コード

UIBDLTR='05'(PSBFAIL)

説明: PSB をスケジュールできませんでした。以下の原因が考えられます。

- データベースが停止している。
- マスター端末のオペレーターが DUMPDB コマンドを出した。このコマンドにより、DMB ディレクトリー (DDIR) で読み取り専用フラグが設定されました。更新意図で PSB をスケジュールすることはできなくなりました。
- マスター端末のオペレーターが RECOVERDB コマンドを出した。このコマンドにより、DDIR でスケジュールしないフラグが設定されました。このデータベースを参照する PSB をスケジュールすることはできません。
- PDIR 生成ストリームの END ステートメントで DFSIDIR0 オペランドが指定されていない。

UIBDLTR='03'(PSBSCH)

説明: この PSB はすでにスケジュールされています。

ソース: CICS DL/I コード

トレース項目に PCB 状況が含まれているため、スケジューリングの失敗の原因を知ることができます。

ソース: CICS DL/I コード

UIBDLTR='07'(TERMNS)

説明: 終了要求が出されましたが、現在スケジュールされている PSB がありませんでした。終了要求または CICS 同期点のために PSB がすでに渡されている可能性もあります。

ソース: CICS DL/I コード

UIBDLTR='08'(FUNCNS)

説明: PSB がスケジュールされていないときにデータベース呼び出しが出されました。

ソース: CICS DL/I コード

UIBDLTR='10'(INVPSB)

説明: ローカル DL/I に関して SYSSERVE IOPCB が指定されました。

ソース: CICS DL/I コード

UIBDLTR='FF'(DLINA)

説明: システム初期設定テーブル (SIT) で DLI=NO が指定されています。

ソース: CICS DL/I コード

第 19 章 IMS によって設定される AIB 戻りコードおよび理由コード

DL/I 処理中に特定のイベントが発生すると、IMS システムは戻りコードおよび理由コードを発行します。AIB インターフェースを使用している場合、これらのコードはアプリケーション・インターフェース・ブロック (AIB) に戻されます。

重要: X'000000F0' は、IMS Queue Control Facility マネージャーのメッセージ・リキュアー・プロセッサ (IQCQMRQ0) に割り当てられた固有の AIB 戻りコードです。これは、IMS Queue Control Facility 機能の実行中にエラーが検出されたときに、IQCQMRQ0 によって AIB の AIBRETRN フィールドに設定されます。AIB 戻りコード X'000000F0' に関連する AIB 理由コードについては、AIB 理由コードの情報を参照してください。

関連資料:

 IMS Queue Control Facility AIB 理由コード

AIB 戻りコードおよび理由コードの概要

DL/I 操作は、戻りコードおよび理由コードを発行することにより問題を報告します。これらのコードは、アプリケーション・インターフェース・ブロック (AIB) で AIB 戻りコードおよび理由コード として返されます。AIB ブロックの AIBERRXT に、問題に関する追加情報が含まれている場合があります。

重要: X'000000F0' は、IMS Queue Control Facility マネージャーのメッセージ・リキュアー・プロセッサ (IQCQMRQ0) に割り当てられた固有の AIB 戻りコードです。これは、IMS Queue Control Facility 機能の実行中にエラーが検出されたときに、IQCQMRQ0 によって AIB の AIBRETRN フィールドに設定されます。AIB 戻りコード X'000000F0' に関連する AIB 理由コードについては、IMS Queue Control Facility の下の AIB 理由コードの情報を参照してください。

以下の表では、各戻りコードおよび理由コードを簡単に説明し、これらのコードを受け取る可能性がある呼び出しをリストします。

- 278 ページの表 83 - AIB 戻りコード
- 278 ページの表 84 - データベース呼び出し
- 284 ページの表 85 - メッセージ呼び出し
- 289 ページの表 86 - システム・サービス呼び出し

戻りコード X'0900' を受け取った場合は、プログラム連絡ブロック (PCB) 内の状況コードを調べる必要があります。X'0900' を受け取らないが、呼び出しに関連する PCB がある場合も、状況コードを調べてください。(状況コードの詳細な説明は、119 ページの『第 9 章 DL/I 状況コード』を参照してください。)

戻りコードおよび理由コードの詳細な説明は、 295 ページの『AIB 戻りコードおよび理由コード』を参照してください。AIB 戻りコード X'000000F0' に関連する AIB 理由コードについては、IMS Queue Control Facility の下の AIB 理由コードの情報を参照してください。

表 83. AIB 戻りコード

戻りコード (16 進数)	説明
0000	呼び出しは正常に完了しました。
0004	呼び出しは完了しました。情報があります。
0008	呼び出しは完了しました。警告があります。
00F0	キュー制御機能 (QCF) ルーチンによって、エラーが検出されました。
0100	呼び出しは完了しました。例外があります。
0104	呼び出しは未完了 -- アプリケーション・エラーです。
0108	呼び出しは未完了 -- システム・エラーです。
010C	呼び出しは未完了 -- データが利用不能です。
0110	呼び出しは未完了 -- 許可エラーです。
0700	DMU ドライバー領域の作成に失敗しました。
0704	INIT DMU PSB のスケジューリングに失敗しました。
0708	カタログ要求ブロックの障害。
0710	INIT DMU DIR/CAT が使用可能ではありません。
0714	DMU ドライバー領域 (DPST) の最大を超えました。
0718	MCR ビルド・エラー。
071C	インポート・エラー。
071F	DDL ブロック・ビルダー・エラー。
0900	PCB 状況コードの分析が必要です。

表 84. データベース呼び出しのコード

戻りコード (16 進数)	理由コード (16 進数)	データベース呼び出し	説明
0000	0000	CLSE (GSAM) DEQ GU, GHU GN, GHN GNP, GHNP GUR DLET, REPL ISRT (LOAD) ISRT (ADD) FLD POS OPEN (GSAM) RLSE	呼び出しは正常に完了しました。先へ進む。
0004	0004		セグメントが入出力域に戻されました。このセグメントが最後です。
0004	0014		これ以上メッセージはありません。セグメントは戻されません。

表 84. データベース呼び出しのコード (続き)

戻りコード (16 進数)	理由コード (16 進数)	データベース呼び出し	説明
0004	0018		これ以上メッセージはありません。セグメントは戻されません。
0004	0048		IMS システムのシャットダウンが原因で、AOI メッセージ待ちの AO アプリケーションに通知されました。メッセージ・セグメントは戻されません。
0004	004C		/PSTOP 領域コマンドが原因で、AOI メッセージ待ちの AO アプリケーションに通知されました。メッセージ・セグメントは戻されません。
0100	000C		出力域の大きさが不十分なため、データをすべて収容できませんでした。一部のデータのみが戻されました。
0104	0204	CIMS TERM	AIBRSNM2 フィールドに IMS DB ID の値が指定されていません。
0104	0208	CLSE (GSAM) DEQ GU, GHU GN, GHN GNP, GHNP DLET, REPL ISRT (LOAD) ISRT (ADD) FLD POS OPEN (GSAM) RLSE	無効な PCB 名が AIB に入れて渡されました。
0104	020C	CLSE (GSAM) DEQ GU, GHU GN, GHN GNP, GHNP DLET, REPL ISRT (LOAD) ISRT (ADD) FLD POS OPEN (GSAM) RLSE	PSB がスケジュールされていません。APSB 前の呼び出し。
0104	0210		AIB 内の出力域の長さが無効。データは戻されません。
0104	0218	CIMS INIT CIMS TERM	無効な副次機能コード。
0104	021C		初期 GMSG 呼び出しの AIB に AOI トークンが指定されていません。
0104	0220		GMSG 呼び出しに WAITAOI が指定されているが、AOI トークンが指定されていません。
0104	0224		GMSG 呼び出しで指定された AOI トークンに、1 つ以上の無効文字が含まれていました。AOI トークンに含めることができる文字は、A から Z、0 から 9、@、#、および \$ です。

表 84. データベース呼び出しのコード (続き)

戻りコード (16 進数)	理由コード (16 進数)	データベース呼び出し	説明
0104	0228	CIMS INIT CIMS TERM CIMS TALL	無効な AIBLEN。最小限 264 バイトが必要です。
0104	0240	CLSE (GSAM) DEQ GU, GHU GN, GHN GNP, GHNP DLET、REPL ISRT (LOAD) ISRT (ADD) FLD POS OPEN (GSAM) RLSE	無効な AIBRSA1 パラメーターが AIB に入れて渡されました。
0104	0244	CLSE (GSAM) DEQ GU, GHU GN, GHN GNP, GHNP DLET、REPL ISRT (LOAD) ISRT (ADD) FLD POS OPEN (GSAM) RLSE	無効な AIBRSA3 パラメーターが AIB に入れて渡されました。
0104	0248	GUR	GUR 呼び出しで誤った PCB が指定されました。
0104	0404		無効な機能コード。
0104	0440		非 CPI-C アプリケーションからの無効な呼び出し。
0104	0444		特定環境からは無効。
0104	0448		CPI-C アプリケーションからの無効な呼び出し。
0104	044C		DEP 領域タイプからの無効な呼び出し。
0104	0450		検索するメッセージはありません。AOIE ユーザー出口 (DFSABOE00 など) は存在しません。
0104	0464		PSB がスケジュールされる前に呼び出しが発行されました。
0104	048C		APSB で PSB を割り振ったが、DPSB がありません。
0104	0490		CPI-RR コミットなしの DPSB。
0104	0494		PSB が割り振られていません。
0104	054C		無効な出力宛先が見つかりました。
0104	0550		宛先を指定して DEALLOC_ABND が発行されました。
0104	060C		無効な AUTH クラス名が指定されました。

表 84. データベース呼び出しのコード (続き)

戻りコード (16 進数)	理由コード (16 進数)	データベース呼び出し	説明
0104	0610	CLSE (GSAM) DEQ GU, GHU GN, GHN GNP, GHNP DLET、REPL ISRT (LOAD) ISRT (ADD) FLD POS OPEN (GSAM)	必要な入出力域アドレス・パラメーターが欠落しています。データは戻されません。
0104	0618		入出力域の長さが、PSBGEN の IOASIZE パラメーターによって定義された PSB 作業域よりも長い。
0104	0620		入出力域の ZZ フィールドがゼロではありません。
0104	0624	GU, GHU GN, GHN GNP, GHNP REPL ISRT (ADD)	AIB= (AIBOALEN フィールド) に指定された入出力域の長さが、IOAREALEN パラメーターで指定されたサイズを超えています。
0104	0754		セグメント長が 5 未満です。
0104	0810		必須指定のオプション・リスト・パラメーターが欠落しています。
0104	0920		キュー・スペース通知出口 (DFSQSPC0) は、メッセージ・キューに挿入可能なデータ限度にアプリケーションが達したと判断しました。
0104	0924	ISRT	挿入されたセグメントの数が制限を超えています。
0104	1004		入力されたコマンドは、アプリケーションからの入力が許可されていません。
0104	1008		入出力域に無効なコマンド verb が指定されていました。
0104	1010		RCMD 呼び出しの前に ICMD 呼び出しが発行されませんでした。
0104	1110	APSB	PSB 割り振り (APSB) 呼び出しが発行されましたが、前に CIMS INIT または CIMS CONNECT 呼び出しが発行されていません。
0108	0004		PC ルーター処理中にエラーが検出されました。
0108	0010	CIMS INIT	専用ストレージを取得できません。必要な DRA ストレージを取得しようとしたが、GETMAIN が失敗しました。
0108	0014		グローバル・ストレージを取得できません。
0108	0018		内部ラッチ・エラー。MSG 呼び出しの場合、セグメントは戻されません。
0108	001C	CIMS INIT	DRA TCB の ATTACH が失敗しました。
0108	0020	CIMS INIT	必要な DRA モジュールのロードが失敗しました。モジュール名は AIBSNM2 に戻されます。 または、 DRA 始動テーブル (DFScccc0) のロードが失敗しました。テーブル名は AIBRSNM2 に戻されます (AIBRSNM2=DBCTLID の場合のみ)。

表 84. データベース呼び出しのコード (続き)

戻りコード (16 進数)	理由コード (16 進数)	データベース呼び出し	説明
0108	0024	CIMS INIT	DRA RELIB の OPEN が失敗しました。
0108	002C	CIMS INIT	MVS 名前/トークン・サービスが失敗しました。
0108	0030		SPOOL API データ・セット・クローズ・エラー。
0108	0034		SPOOL API データ・セット割り振り解除 (DYNALLOC) エラー。
0108	0038		SPOOL API データ・セット割り振り (DYNALLOC) エラー。
0108	003C		SPOOL API データ・セット・オープン・エラー。
0108	0040		SPOOL API データ・セット書き込みエラー。
0108	0044		SPOOL API 出力記述子作成 (OUTADD) エラー。
0108	0048		SPOOL API 出力記述子削除 (OUTDEL) エラー。
0108	0060		DFS LUMIF の障害。
0108	0064		DFS YFND の障害。
0108	0068		DFS YLUM の障害。
0108	0080		RACINIT の障害 - LU 6.2 発信のトランザクション。
0108	020C		コマンド処理中に無効な AWE が検出されました。
0108	0214	CIMS INIT	必要な DFS PRP パラメーターの指定が正しくありません。
0108	0220		PST 62 拡張が見つかりませんでした。
0108	0224		セキュリティー UTOKEN が見つかりません。
0108	0240		内部エラー。無効な通知コード付きで PST に通知されました。セグメントは戻されません。
0108	0244		異常終了スレッド処理中に、PST に通知されました。セグメントは戻されません。
0108	0304		PSB が見つかりませんでした。
0108	0308		PSB 許可が失敗しました。
0108	030C		PSB が永久に不良。
0108	0310		高速機能 DB が停止/ロック状態。
0108	0314		PSB はすでにスケジュールされています。
0108	0318		PSB が停止/ロック状態。
0108	031C		PSB/DMB 読み取り中の入出力エラー。
0108	0320		PSBW/DMB/PSB プールが小さ過ぎます。
0108	0324		「L」または「LS」オプションが無効です。
0108	0328		高速機能バッファの固定でエラーがありました。
0108	032C		処理意図が無効です。
0108	0330		IRLM 障害が発生し、カタログ PCB を生成できません。
0108	0334		IMS カタログ PSB は OLC に含まれています。
0108	0338	GUR	アクティブ・リソースがカタログで見つかりません。
0108	033C	GUR	リソースがこの IMS で定義されていません。
0108	0340	GUR	バッチ領域がカタログ内でリソースを見つけないことができません。
0108	0342	GUR	GUR 呼び出しは有効な XML 応答文書を作成できませんでした。

表 84. データベース呼び出しのコード (続き)

戻りコード (16 進数)	理由コード (16 進数)	データベース呼び出し	説明
0108	0344	GUR	リソースがカタログ内に存在しません。
0108	0540	CIMS INIT CIMS TERM	IMS DB とのアクティブな通信がありません。
0108	0544	CIMS INIT	RRS/MVS はアクティブではありません。CIMS INIT 呼び出しを発行できません。このコマンドは AIBRSNM2=DBCTLID の場合にのみ適用されます。
0110	000C		指定されたリソースは許可されていませんでした。
0110	0020		プログラムは RACF に許可されていません。
0110	0024		ユーザー ID が RACF に許可されていません。
0110	0028		プログラムは、このコマンドの発行を許可されていません。
0110	002C		ユーザー ID は、このコマンドの発行を許可されていません。
0110	0030		DFSCCMD0 は、プログラムがコマンドの発行を許可されていないことを示しました。
0110	0034		DFSCCMD0 は、このユーザー ID がコマンドの発行を許可されていないことを示しました。
0110	0038		ICMD 呼び出しは、どのプログラムにも許可されていません (AOIS=N)。
0110	003C		許可検査のための RACF が使用不能です (AOIS=A R)。
0110	0040		許可検査のための DFSCCMD0 が使用不能です (AOIS=A C)。
0110	0044		トランザクションは、RACF を許可されていません。
0110	0048		トランザクションは、このコマンドの発行を許可されていません。
0110	004C		DFSCCMD0 は、トランザクションがコマンド発行を許可されていないことを示しました。
0110	0050		CPI-C ドリブ・アプリケーションが APSB 呼び出しを発行しましたが、ユーザー ID が RACF に許可されていません。
0110	0054		コマンドは RACF を許可されていません。
0110	0058		コマンドは、トランザクションの発行を許可されていません。
0110	005C		DFSCCMD0 は、コマンドがトランザクションによる発行を許可されていないことを示しました。
0110	0070	CIMS INIT	DRA 実行ライブラリーが許可されていません。

表 84. データベース呼び出しのコード (続き)

戻りコード (16 進数)	理由コード (16 進数)	データベース呼び出し	説明
0900		CLSE (GSAM) DEQ GU, GHU GN, GHN GNP, GHNP DLET, REPL ISRT (LOAD) ISRT (ADD) FLD POS OPEN (GSAM) RLSE	0900 の場合、理由コードは変更されません。PCB 状況コードの分析が必要です。

表 85. メッセージ呼び出しのコード

戻りコード (16 進数)	理由コード (16 進数)	メッセージ呼び出し	説明
0000	0000	AUTH GU GN ICAL ISRT CHNG CMD GCMD PURG SETO	呼び出しは正常に完了しました。先へ進む。
0004	0004		セグメントが入出力域に戻されました。このセグメントが最後です。
0004	0014		これ以上メッセージはありません。セグメントは戻されません。
0004	0018		これ以上メッセージはありません。セグメントは戻されません。
0004	0048		IMS システムのシャットダウンが原因で、AOI メッセージ待ちの AO アプリケーションに通知されました。メッセージ・セグメントは戻されません。
0004	004C		/PSTOP 領域コマンドが原因で、AOI メッセージ待ちの AO アプリケーションに通知されました。メッセージ・セグメントは戻されません。
00F0	すべて	GU GN ISRT CMD GCMD PURG	MRQPSB ブロックを用いた無効な呼び出しであるか、または IBM IMS Queue Control Facility for z/OS ルーチンによってエラーが検出されました。
0100	000C		出力域の大きさが不十分なため、データをすべて収容できませんでした。一部のデータのみが戻されました。
0100	0100	ICAL	エラー・メッセージが出力応答データで戻されます。
0100	0104	ICAL	要求がタイムアウトになりました。

表 85. メッセージ呼び出しのコード (続き)

戻りコード (16 進数)	理由コード (16 進数)	メッセージ呼び出し	説明
0100	0108	ICAL	要求メッセージは外部アプリケーションによってリジェクトされます。
0100	010C	ICAL	ICAL 呼び出しを取り消すために IMS コマンドが発行されました。
0100	0110	ICAL	同期プログラム間通信要求が、IMS によってリジェクトされたか、処理中に失敗しました。
0104	0208	AUTH GU GN ISRT CHNG CMD GCMD PURG SETO	無効な PCB 名が AIB に入れて渡されました。
0104	020C	AUTH GU GN ISRT CHNG CMD GCMD PURG SETO	PSB がスケジュールされていません。APSB 前の呼び出し。
0104	0210	AUTH	AIB 内の出力域の長さが無効。データは戻されません。
		ICAL	AIB 内の入力域の長さがゼロに設定されています。
0104	0214	ICAL	AIB 内の出力域の長さがゼロに設定されています。
0104	0218		副次機能が不明、または無効。
0104	021C		初期 MSG 呼び出しの AIB に AOI トークンが指定されていません。
0104	0220		MSG 呼び出しに WAITAOI が指定されているが、AOI トークンが指定されていません。
0104	0224		MSG 呼び出しで指定された AOI トークンに、1 つ以上の無効文字が含まれていました。AOI トークンに含めることができる文字は、A から Z、0 から 9、@、#、および \$ です。
0104	0404		無効な機能コード。
0104	0440		無効な呼び出し。
0104	0444		特定環境からは無効。
0104	0448	SETO	CPI-C アプリケーションからの無効な呼び出し。
0104	044C	SETO	DEP 領域タイプからの無効な呼び出し。
0104	0450		検索するメッセージはありません。AO ユーザー出口 DFSAOE00 が存在しません。
0104	048C		APSB で PSB を割り振ったが、DPSB がありません。
0104	0490		CPI-RR コミットなしの DPSB。

表 85. メッセージ呼び出しのコード (続き)

戻りコード (16 進数)	理由コード (16 進数)	メッセージ呼び出し	説明
0104	0494		PSB が割り振られていません。
0104	054C	SETO	出力の宛先が無効。
0104	0550	ISRT SETO	宛先を指定して DEALLOC_ABND が発行されました。
0104	0560	CHNG ISRT	DFSCMPR0 または DFSMSCE0 ユーザー経路指定出口からの経路指定要求を処理しようとしたときに、エラーが検出されました。A1 状況コードが設定されます。
0104	0564	CHNG ISRT	DFSCMPR0 または DFSMSCE0 ユーザー経路指定出口が、呼び出しを A1 状況コードでリジェクトしました。
0104	0568	CHNG ISRT	DFSMSCE0 ユーザー経路指定出口が、呼び出しを 3303 異常終了でリジェクトしました。A1 状況コードが設定されます。
0104	056C	CHNG ISRT	DFSMSCE0 ユーザー経路指定出口が、呼び出しを A4 状況コードでリジェクトしました。
0104	0570	CHNG ISRT	DFSMSCE0 ユーザー経路指定出口が、呼び出しを E1 状況コードでリジェクトしました。
0104	0574	CHNG ISRT	DFSMSCE0 ユーザー経路指定出口が、呼び出しを E2 状況コードでリジェクトしました。
0104	0578	CHNG ISRT	DFSMSCE0 ユーザー経路指定出口が、呼び出しを E3 状況コードでリジェクトしました。
0104	057C	CHNG ISRT	DFSCMPR0 または DFSMSCE0 ユーザー経路指定出口からの、MSC 直接経路指定要求メッセージをオーバーライドする要求を処理中に、エラーが検出されました。エラー状況 QH または XF が設定されます。
0104	060C	AUTH	無効な AUTH クラス名が指定されました。
0104	0610	AUTH GU GN ICAL ISRT CHNG CMD GCMD PURG SETO	必要な入出力域アドレス・パラメーターが欠落しています。ICAL 呼び出しの場合、要求の入力域アドレス・パラメーターが欠落しています。データは戻されません。
0104	0614	ICAL	必要な出力域アドレス・パラメーターが欠落しています。
0104	0618		入出力域の長さが、PSBGEN の IOASIZE パラメーターによって定義された PSB 作業域よりも長い。
0104	0620	AUTH	入出力域の ZZ フィールドがゼロではありません。
0104	0754	ISRT SETO	セグメント長が 5 未満です。
0104	0810	SETO	必須指定のオプション・リスト・パラメーターが欠落しています。

表 85. メッセージ呼び出しのコード (続き)

戻りコード (16 進数)	理由コード (16 進数)	メッセージ呼び出し	説明
0104	0920	ISRT SETO	キュー・スペース通知出口 (DFSQSPC0) は、メッセージ・キューに挿入可能なデータ限度にアプリケーションが達したと判断しました。
0104	1004		入力されたコマンドは、アプリケーションからの入力が許可されていません。
0104	1008		入出力域に無効なコマンド verb が指定されていました。
0104	1010		RCMD 呼び出しの前に ICMD 呼び出しが発行されませんでした。
0104	1020	ICAL	OTMA 記述子名が無効です。
0104	1024	ICAL	タイムアウト値が無効です。
0108	0004		PC ルーター処理中にエラーが検出されました。
0108	0010	ICAL ISRT CHNG SETO	専用ストレージを取得できません。
0108	0014	GU CHNG SETO	グローバル・ストレージを取得できません。
0108	0018		内部ラッチ・エラー。GMSG 呼び出しの場合、セグメントは戻されません。
0108	0030	PURG	SPOOL API データ・セット・クローズ・エラー。
0108	0034	PURG	SPOOL API データ・セット割り振り解除 (DYNALLOC) エラー。
0108	0038	ISRT	SPOOL API データ・セット割り振り (DYNALLOC) エラー。
0108	003C	ISRT	SPOOL API データ・セット・オープン・エラー。
0108	0040	ISRT	SPOOL API データ・セット書き込みエラー。
0108	0044	CHNG	SPOOL API 出力記述子作成 (OUTADD) エラー。
0108	0048	CHNG	SPOOL API 出力記述子削除 (OUTDEL) エラー。
0108	0060	GU ISRT CHNG SETO	DFS LUMIF の障害。
0108	0064	ISRT CHNG PURG	DFS YFND の障害。
0108	0068		DFS YLUM の障害。
0108	0080	AUTH	RACINIT の障害 - LU 6.2 発信のトランザクション。
0108	020C		コマンド処理中に無効な AWE が検出されました。
0108	0220	AUTH	PST 62 拡張が見つかりませんでした。
0108	0224	AUTH	セキュリティー UTOKEN が見つかりません。

表 85. メッセージ呼び出しのコード (続き)

戻りコード (16 進数)	理由コード (16 進数)	メッセージ呼び出し	説明
0108	0240		内部エラー。無効な通知コード付きで PST に通知されました。セグメントは戻されません。
0108	0244		異常終了スレッド処理中に、PST に通知されました。セグメントは戻されません。
0108	0304		PSB が見つかりませんでした。
0108	0308		PSB 許可が失敗しました。
0108	030C		PSB が永久に不良。
0108	0310		高速機能 DB が停止/ロック状態。
0108	0314		PSB はすでにスケジュールされています。
0108	0318		PSB が停止/ロック状態。
0108	031C		PSB/DMB 読み取り中の入出力エラー。
0108	0320		PSBW/DMB/PSB プールが小さ過ぎます。
0108	0324		「L」または「LS」オプションが無効です。
0108	0328		高速機能バッファの固定でエラーがありました。
0108	032C		処理意図が無効です。
0108	056C		同期点障害が発生しました。AIBERRXT に SYNC 戻りコードが含まれています。
0108	0580	ICAL	要求メッセージを外部アプリケーションに送信できません。
0108	0584	ICAL	外部アプリケーションからの応答出力メッセージを処理できません。
0108	0588	ICAL	IMS Connect が ICAL 呼び出しの応答を処理できません。
0108	058C	ICAL	IMS Connect が ICAL 呼び出しの応答を処理できません。ただし、一部の生データが返されます。
0110	000C	AUTH	指定されたリソースは許可されていませんでした。
0110	0020		プログラムは RACF に許可されていません。
0110	0024		ユーザー ID は RACF に許可されていません。
0110	0028		プログラムは、このプログラムの発行を許可されていません。
0110	002C		このユーザー ID は、このプログラムの発行を許可されていません。
0110	0030		DFSCCMD0 は、プログラムがコマンドの発行を許可されていないことを示しました。
0110	0034		DFSCCMD0 は、このユーザー ID がコマンドの発行を許可されていないことを示しました。
0110	0038		ICMD 呼び出しは、どのプログラムにも許可されていません (AOIS=N)。
0110	003C		許可検査のための RACF が使用不能です (AOIS=A R)。
0110	0040		許可検査のための DFSCCMD0 が使用不能です (AOIS=A C)。
0110	0050		CPI-C ドリブ・アプリケーションが APSB 呼び出しを発行しましたが、ユーザー ID が RACF に許可されていません。

表 85. メッセージ呼び出しのコード (続き)

戻りコード (16 進数)	理由コード (16 進数)	メッセージ呼び出し	説明
0110	0054		コマンドは RACF を許可されていません。
0110	0058		コマンドは、トランザクションによる発行を許可されていません。
0110	005C		DFSCCMD0 は、コマンドがトランザクションによる発行を許可されていないことを示しました。
0900		AUTH GU GN ISRT CHNG CMD GCMD PURG SETO	0900 の場合、理由コードは変更されません。PCB 状況コードの分析が必要です。

表 86. システム・サービス呼び出しからのコード :

戻りコード (16 進数)	理由コード (16 進数)	システム・サービス呼び出し	説明
0000	0000	APSB CHKP CIMS CONNECT DPSB GMSG ICMD INIT INQY LOG RCMD ROLB ROLS SETS SETU SNAP ² STAT ³ SYNC XRST	呼び出しは正常に完了しました。先へ進む。
0004	0004	GMSG ICMD RCMD	セグメントが入出力域に戻されました。このセグメントが最後です。
0004	0014	GMSG	これ以上メッセージはありません。セグメントは戻されません。
0004	0018	GMSG RCMD	これ以上使用可能なセグメントがありません。セグメントは戻されません。
0004	0048	GMSG	IMS システムのシャットダウンが原因で、AOI メッセージ待ちの AO アプリケーションに通知されました。メッセージ・セグメントは戻されません。
0004	004C	GMSG	/PSTOP 領域コマンドが原因で、AOI メッセージ待ちの AO アプリケーションに通知されました。メッセージ・セグメントは戻されません。

表 86. システム・サービス呼び出しからのコード (続き) :

戻りコード (16 進数)	理由コード (16 進数)	システム・サービス呼び出し	説明
0100	000C	GMSG ICMD INQY RCMD	出力域の大きさが不十分なため、データをすべて収容できませんでした。一部のデータのみが戻されました。
0100	0204	CIMS CONNECT	すべての接続要求が失敗しました。
0100	0208	CIMS CONNECT	混合した結果。少なくとも 1 つの要求が正常に終了し、少なくとも 1 つの要求が失敗しました。詳しくは、要求の戻りコード、理由コード、およびエラー拡張コードを確認してください。
0104	0204	APSB DPSB	AIBRSNM2 フィールドに IMS DB ID の値が指定されていません。
0104	0208	CHKP INIT INQY LOG ROLB ROLS SETS SETU SNAP ² STAT ³ SYNC XRST	無効な PCB 名が AIB に入れて渡されました。(注 4 (295 ページ) を参照。)
0104	020C	CHKP GMSG ICMD INIT INQY LOG RCMD ROLB ROLS SETS SETU SNAP ² STAT ³ SYNC XRST	PSB がスケジュールされていません。APSB 前の呼び出し。
0104	0210	GMSG ICMD INQY LOG RCMD SETS SETU	AIB 内の出力域の長さが無効。データは戻されません。
0104	0218	CIMS CONNECT GMSG INQY	副次機能が不明、または無効。
0104	021C	GMSG	初期 GMSG 呼び出しの AIB に AOI トークンが指定されていません。

表 86. システム・サービス呼び出しからのコード (続き) :

戻りコード (16 進数)	理由コード (16 進数)	システム・サービス呼び出し	説明
0104	0220	GMSG	GMSG 呼び出しに WAITAOI が指定されているが、AOI トークンが指定されていません。
0104	0224	GMSG	GMSG 呼び出しで指定された AOI トークンに、1 つ以上の無効文字が含まれていました。AOI トークンに含めることができる文字は、A から Z、0 から 9、@、#、および \$ です。
0104	0228	APSB DPSB	無効な AIBLEN。最小限 264 バイト必要です。
0104	022C	APSB	MAXTHRD 値に達しました。スレッドを割り振ることができません。
0104	0404	APSB CIMS CONNECT DPSB GMSG ICMD RCMD	無効な機能コードが見つかりました。
0104	0440		無効な呼び出し。
0104	0444		特定環境からの無効な呼び出しが発生しました。
0104	0448	INQY	CPI-C アプリケーションからの無効な呼び出しが発生しました。
0104	044C		DEP 領域タイプからの無効な呼び出しが見つかりました。
0104	0450	GMSG	検索するメッセージはありません。AOIE ユーザー出口 (DFSAOE00 など) は存在しません。
0104	048C	APSB	APSB で PSB を割り振ったが、DPSB がありません。
0104	0490	APSB DPSB	CPI-RR コミットなしの DPSB。
0104	0494	DPSB	PSB が割り振られていません。
0104	0498	DPSB	DPSB 呼び出しが COMMIT の前に発行されました。強制バックアウト。
0104	054C		無効な出力宛先が見つかりました。
0104	0550		宛先を指定して DEALLOC_ABND が発行されました。
0104	060C		無効な AUTH クラス名が指定されました。
0104	0610	CHKP GMSG ICMD INIT INQY LOG RCMD ROLB ROLS SETS SETU SNAP ² STAT ³ SYNC XRST	必要な入出力域アドレス・パラメーターが欠落しています。データは戻されません。

表 86. システム・サービス呼び出しからのコード (続き) :

戻りコード (16 進数)	理由コード (16 進数)	システム・サービス呼び出し	説明
0104	0618	ICMD	入出力域の長さが、PSBGEN の IOASIZE パラメーターによって定義された PSB 作業域よりも長い。
0104	0620	INQY SETS SETU	入出力域の ZZ フィールドがゼロではありません。
0104	0754		セグメント長が 5 未満です。
0104	0810		必須指定のオプション・リスト・パラメーターが欠落しています。
0104	0920		キュー・スペース通知出口 (DFSQSPC0) は、アプリケーションがメッセージ・キューに挿入可能なデータ限度に達したと判断しました。
0104	0924	ISRT	挿入されたセグメントの数が制限を超えています。
0104	1004	ICMD	入力されたコマンドは、アプリケーションからの入力が許可されていません。
0104	1008	ICMD	入出力域に無効なコマンド verb が指定されていました。
0104	1010	RCMD	RCMD 呼び出しの前に ICMD 呼び出しが発行されませんでした。
0104	1104	CIMS CONNECT	無効な別名が呼び出し元から提供されました。
0104	1108	CIMS CONNECT	無効な CONNECT カウントが見つかりました。
0104	110C	CIMS CONNECT	CONNECT カウントがない CONNECT 要求リストが見つかりました。
0104	1110	APSB	PSB 割り振り (APSB) 呼び出しが発行されましたが、前に CIMS INIT または CIMS CONNECT 呼び出しが発行されていません。
0108	0004	GMSG ICMD RCMD	PC ルーター処理中にエラーが検出されました。
0108	0010	CIMS CONNECT GMSG ICMD RCMD	専用ストレージを取得できません。
0108	0014	GMSG ICMD RCMD	グローバル・ストレージを取得できません。
0108	0018	GMSG	内部ラッチ・エラー。GMSG 呼び出しの場合、セグメントは戻されません。
0108	001C	APSB	DRA TCB の ATTACH が失敗しました。
0108	0020	APSB CIMS CONNECT	必要な DRA または ODBA モジュールの LOAD が失敗したか、または開始テーブルが失敗しました。エラー拡張コードには、モジュール名の DFS の後に 4 文字が含まれています。
0108	0024	APSB	DRA 実行ライブラリーの OPEN が失敗しました。
0108	0028	APSB	DRA 実行ライブラリーの動的割り振りが失敗しました。
0108	002C	CIMS CONNECT APSB	MVS 名前/トークン・サービスが失敗しました。名前/トークン・サービスからの戻りコードは AIBERRXT に保管されます。
0108	0030		SPOOL API データ・セット・クローズ・エラー。

表 86. システム・サービス呼び出しからのコード (続き):

戻りコード (16 進数)	理由コード (16 進数)	システム・サービス呼び出し	説明
0108	0034		SPOOL API データ・セット割り振り解除 (DYNALLOC) エラー。
0108	0038		SPOOL API データ・セット割り振り (DYNALLOC) エラー。
0108	003C		SPOOL API データ・セット・オープン・エラー。
0108	0040		SPOOL API データ・セット書き込みエラー。
0108	0044		SPOOL API 出力記述子作成 (OUTADD) エラー。
0108	0048		SPOOL API 出力記述子削除 (OUTDEL) エラー。
0108	0060	INQY	DFSLUMIF の障害。
0108	0064	INQY	DFSYFND の障害。
0108	0068	INQY	DFSYLUM の障害。
0108	0080		RACINIT の障害 - LU 6.2 発信のトランザクション。
0108	020C	ICMD	コマンド処理中に無効な AWE が検出されました。
0108	0214	APSB CIMS CONNECT	DRA 開始テーブル (DFScccc0) の必要パラメーターが正しく指定されませんでした。 無効な PRP パラメーターが見つかりました。エラー拡張コードに、エラーの原因を判別するための追加の診断情報が含まれています。
0108	0220		PST 62 拡張が見つかりませんでした。
0108	0224		セキュリティー UTOKEN が見つかりません。
0108	0240	GMSG	内部エラー。無効な通知コード付きで PST に通知されました。セグメントは戻されません。
0108	0244	GMSG	異常終了スレッド処理中に、PST に通知されました。セグメントは戻されません。
0108	0304	APSB	PSB が見つかりませんでした。
0108	0308	APSB	PSB 許可が失敗しました。
0108	030C	APSB	PSB が永久に不良。
0108	0310	APSB	高速機能 DB が停止/ロック状態。
0108	0314	APSB	PSB はすでにスケジュールされています。
0108	0318	APSB	PSB が停止/ロック状態。
0108	031C	APSB	PSB/DMB 読み取り中の入出力エラー。
0108	0320	APSB	PSBW/DMB/PSB プールが小さ過ぎます。
0108	0324	APSB	「L」または「LS」オプションが無効です。
0108	0328	APSB	高速機能バッファの固定でエラーがありました。
0108	032C	APSB	処理意図が無効です。
0108	0540	APSB CIMS CONNECT DPSB	IMS DB とのアクティブな通信がありません。
0108	0544	APSB	RRS/MVS はアクティブではありません。 APSB 呼び出しを発行できません。
0108	0548	APSB	SWITCH_CONTEXT が失敗しました。
0108	054C	APSB	データベースが PSB に関して停止されました。
0108	0550	APSB	リカバリー・トークンが固有でないか、または z/OS アプリケーション領域 ID が無効です。
0108	0554	APSB DPSB	渡されたリカバリー・トークンがゼロです。

表 86. システム・サービス呼び出しからのコード (続き):


戻りコード (16 進数)	理由コード (16 進数)	システム・サービス呼び出し	説明
0108	0558	APSB	SCHED が /STOP REG コマンドにより失敗しました。
0108	0560	APSB	SCHED が /STOP THREAD コマンドにより失敗しました。
0108	0564	APSB	SIGNON トークンが見つかりません。
0108	0568	APSB	アドレス・スペース接続のミスマッチが発生しました。
0108	0600		ODBM がセキュリティ環境の作成に失敗しました。
0108	0604		ODBM が AIB ブロック用のストレージの取得に失敗しました。
0108	0608		ODBM が ODBM PSB 割り振り (APSB) ブロック用のストレージの取得に失敗しました。
0108	060C		ODBM がアダプター・パラメーター・リスト (PAPL) ブロック用のストレージの取得に失敗しました。
0108	0610		ODBM はこの呼び出しで指定された IMS 別名を見つけることができませんでした。
0110	000C		指定されたリソースは許可されていませんでした。
0110	0020	ICMD	プログラムは RACF に許可されていません。
0110	0024	ICMD	ユーザー ID は RACF に許可されていません。
0110	0028	ICMD	プログラムは、このコマンドの発行を許可されていませんでした。
0110	002C	ICMD	このユーザー ID は、このコマンドの発行を許可されていません。
0110	0030	ICMD	DFSCCMD0 は、プログラムがコマンドの発行を許可されていないことを示しました。
0110	0034	ICMD	DFSCCMD0 は、このユーザー ID がコマンドの発行を許可されていないことを示しました。
0110	0038	ICMD	ICMD 呼び出しは、どのプログラムにも許可されていません (AOIS=N)。
0110	003C	ICMD	許可検査のための RACF が使用不能です (AOIS=A R)。
0110	0040	ICMD	許可検査のための DFSCCMD0 が使用不能でした (AOIS=A C)。
0110	0050	APSB	CPI-C ドリブン・アプリケーションが APSB 呼び出しを発行しましたが、ユーザー ID が RACF に許可されていません。
0110	0054	ICMD	コマンドは RACF に許可されていませんでした。
0110	0058	ICMD	コマンドは、トランザクションによる発行を許可されていませんでした。
0110	005C	ICMD	DFSCCMD0 は、コマンドがトランザクションによる発行を許可されていないことを示しました。

表 86. システム・サービス呼び出しからのコード (続き):

戻りコード (16 進数)	理由コード (16 進数)	システム・サービス呼び出し	説明
0900	N/A	CHKP INIT INQY LOG ROLB ROLS SETS SETU SNAP ² STAT ³ SYNC XRST	0900 の場合、理由コードは変更されません。PCB 状況コードの分析が必要です。
<p>注:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. GSCD は、プロダクト・センシティブ・プログラミング・インターフェースです。 2. SNAP は、プロダクト・センシティブ・プログラミング・インターフェースです。 3. STAT は、プロダクト・センシティブ・プログラミング・インターフェースです。 4. PCB を必要としない機能 (APSB、GMSG など) のために AIBTDLI インターフェースを使用すると、X'0104'/X'0404' ではなく、この戻りコード/理由コードを受け取ることがあります。また、機能が無効で、AIB に PCB 名が渡されない場合も、この戻りコード/理由コードを受け取ることがあります。 			

関連資料:

『AIB 戻りコードおよび理由コード』

 [IMS Queue Control Facility AIB 理由コード](#)


AIB 戻りコードおよび理由コード

DL/I 問題が発生すると、IMS は、戻りコードと理由コードをアプリケーション・インターフェース・ブロック (AIB) に AIB 戻りコードおよび理由コード として返します。

重要:

- AIB ブロックの AIBERRXT に、問題に関する追加情報が含まれていることがあります。
- X'00000F0' は、IMS Queue Control Facility マネージャーのメッセージ・リキキュアー・プロセッサ (IQCQMRQ0) に割り当てられた固有の AIB 戻りコードです。これは、IMS Queue Control Facility 機能の実行中にエラーが検出されたときに、IQCQMRQ0 によって AIB の AIBRETRN フィールドに設定されます。AIB 戻りコード X'00000F0' に関連する AIB 理由コードについては、IMS Queue Control Facility の下の AIB 理由コードの情報を参照してください。

関連資料:

 [IMS Queue Control Facility AIB 理由コード](#)

0000/0000

説明: 呼び出しが正常に完了した。

GMSG 呼び出しの場合、検索するセグメントが少なくとも 1 つあります。

ICMD 呼び出しの場合、AIBOAUSE フィールドがゼロならば、セグメントは戻されないで、検索するセグメントはもうありません。この状態は、コマンドへの応答が COMMAND IN PROGRESS または COMMAND COMPLETE を示す DFS058 メッセージのみであるときに起こります。AIBOAUSE フィールドがゼロでなければ、セグメントは入出力域に戻されたので、検索するセグメントが少なくとも 1 つあります。

RCMD 呼び出しの場合、検索するセグメントが少なくとも 1 つあります。

プログラマーの応答: 処理を続けます。

GMSG、ICMD、および RCMD 呼び出しの場合は、次のセグメントを検索するための別の GMSG または RCMD 呼び出しを発行することができます。

ソース: DL/I コード

0004/0004 (X'004'/X'004', decimal: 4/4)

説明: メッセージ・セグメントが入出力域に戻されました。メッセージまたはコマンド応答では、これが最後のセグメントです。

GUR 呼び出しまたは IR 呼び出しの場合、このコードは、以前に継続された呼び出しが完了したことを示しています。継続トークンは無効になりました。

プログラマーの応答: 処理を続けます。

ソース: DL/I コード

0004/0014 (X'004'/X'014', decimal: 4/20)

説明: 現在、処理するメッセージはもうありません。セグメントは戻されません。

プログラマーの応答: この時点で、AO アプリケーションを終了することができます。

ソース: DL/I コード

0004/0018 (X'004'/X'018', decimal: 4/24)

説明: このメッセージまたはコマンド応答には、もうセグメントがありません。セグメントは戻されません。

プログラマーの応答: 前に戻されたメッセージまたはコマンド応答を処理します。

ソース: DL/I コード

0004/0048 (X'004'/X'048', decimal: 4/72)

説明: 自動化操作プログラム (AO) アプリケーションが、WAITAOI 副次機能を指定して GMSG 呼び出しを発行しました。AO アプリケーションが AOI メッセージを待っているときに、IMS システムのシャットダウンのため領域に通知されました。メッセージ・セグメントは戻されません。

プログラマーの応答: AO プログラムを終了させます。

ソース: DL/I コード

0004/004C (X'004'/X'04C', decimal: 4/76)

説明: 自動化操作プログラム (AO) アプリケーションが、WAITAOI 副次機能を指定して GMSG 呼び出しを発行しました。AO アプリケーションが AOI メッセージ待ちをしているときに、/PSTOP 領域コマンドが発行されたため、領域に通知されました。メッセージ・セグメントは戻されません。

プログラマーの応答: AO アプリケーションを終了させます。

ソース: DL/I コード

00F0/Any (X'0F0'/any', decimal: 240/any)

説明: QCF ライセンス交付を受けた製品でないアプリケーション・プログラムが、MRQPSB ブロックを用いて無効な呼び出しをしました。MRQPSB ブロックを使用できるのは、当製品のみです。

呼び出し側が QCF 製品の場合は、発行された呼び出し内でエラーが検出されました。

システムの処置: 呼び出しは終了します。

プログラマーの応答: エラーが発生したアプリケーション・プログラムが、QCF 製品であるか否かを判別します。QCF 製品でない場合は、MRQPSB 以外の PSB を使用します。プログラムが QCF である場合は、AIBREASN コードを見つけ、IMS DFSMRAEQ マクロで QCF AIBREASN コードに関する情報を参照してください。

ソース: DL/I コード

0100/000C (X'100'/X'00C', decimal: 256/12)

説明: 入出力域が小さすぎて、すべてのデータが入りません。一部のデータが戻されました。ICAL 呼び出しの場合、応答域の大きさが同期コールアウト・メッセージの応答全体を入れるのに十分ではありません。

AIBOAUSE フィールドに、全データの受け取りに必要な長さが入っています。AIBOALEN フィールドに、

データの実際の長さが入っています。

GUR 呼び出しおよび IR 呼び出しの場合、このコードは、XML 応答文書が入出力域に収まらないことを示します。継続トークンが AIBRTKN フィールドに設定されています。

プログラマーの応答: INQY 呼び出しの場合は、全出力データを検索するための、より大きい入出力域を指定して、呼び出しを再発行できます。戻されるデータが ICMD または RCMD 呼び出しの結果のメッセージ・セグメントならば、より大きい入出力域を指定して、ICMD 呼び出しを再発行できます。

ICAL 呼び出しの場合、実際の長さの応答メッセージを含んでいる AIBOALEN を確認し、正しい長さで応答域を指定して、ICAL を再実行依頼してください。

完全な応答メッセージを取得するために、RECEIVE 副次機能コードと拡張応答メッセージ領域を指定して ICAL 呼び出しを発行します。

GUR 呼び出しの場合は、AIBRTKN 値を使用して GUR 呼び出しを継続し、残りの XML データを取得します。複数の順次呼び出しが必要な場合があります。

ソース: DL/I コード

0100/0100 (X'100'/X'100', decimal: 256/256)

説明: 同期コールアウト・メッセージの送信先の外部アプリケーションがエラー・メッセージを戻します。

プログラマーの応答: 戻されたエラー・メッセージに応じて、適切な処置を取ってください。

ソース: DL/I コード

0100/0104 (X'100'/X'104', decimal: 256/260)

説明: 同期コールアウト・メッセージ要求がタイムアウトになりました。

プログラマーの応答: AIBRSFLD フィールドまたは OTMA 記述子に指定されているタイムアウト値を調整してください。タイムアウト値がいずれの場所にも指定されていない場合、デフォルトのタイムアウトは 10 秒に設定されます。

ソース: DL/I コード

0100/0108 (X'100'/X'108', decimal: 256/264)

説明: 外部アプリケーションが同期コールアウト・メッセージを処理できないため、要求メッセージは外部アプリケーションによってリジェクトされます。

プログラマーの応答: この問題の原因は外部アプリケーション内の一時エラーまたは条件によるものではないか

確認してください。IMS 同期コールアウト・メッセージのフォーマットが、外部アプリケーションによって処理できることを確認してください。

ソース: DL/I コード

0100/010C (X'100'/X'10C', decimal: 256/268)

説明: 同期呼び出しがコマンド (/STOP や /PSTOP コマンドなど) によってクリアされました。

ソース: DL/I コード

0100/0110 (X'100'/X'110', decimal: 256/272)

説明: 同期プログラム間通信の要求が失敗しました。正確な原因は、拡張理由コード値によって異なります。

表 87. 戻りコード 0100 および理由コード 0110 でリジェクトされた ICAL 呼び出しの拡張理由コード

拡張理由

コード	説明
X'0000'	指定されたトランザクションがサポートされないため、要求メッセージはリジェクトされた。trancode が見つからないか、指定されたトランザクションが IMS 会話型トランザクションか、CPIC トランザクションか、IMS コマンド・トランザクションであった。
X'0004'	ユーザーに同期プログラム間通信要求を出す権限がないため、要求メッセージはリジェクトされた。
X'0005'	IMS が、同期プログラム間通信要求 (DFSYICAL) を処理するために使用する tmember が停止されたため、要求メッセージはリジェクトされた。コマンド /START TMEMBER DFSYICAL を発行して問題を解決します。
X'0006'	IMS が、同期プログラム間通信要求 (OTMA tmember DFSYICAL の DFSTPIPE) を処理するために使用する T パイプが停止されたため、要求メッセージはリジェクトされた。コマンド /START TMEMBER DFSYICAL TPIPE DFSTPIPE を発行して問題を解決します。
X'000D'	メッセージを処理するための内部ストレージ YTIB を IMS が取得できなかったため、要求メッセージはリジェクトされた。
X'000E'	メッセージを処理するための DFSYTIBO を IMS がアクティブ化できなかったため、要求メッセージはリジェクトされた。

表 87. 戻りコード 0100 および理由コード 0110 でリジェクトされた ICAL 呼び出しの拡張理由コード (続き)

拡張理由	
コード	説明
X'0010'	無効文字が含まれているため、遅延応答メッセージ・ルーティングの TMEMBER 名または TPIPE 名は無効。宛先記述子を検査する。
X'0011'	宛先記述子から、遅延応答メッセージ・ルーティングの TMEMBER 名または TPIPE 名が欠落している。いずれかの値を指定する場合、両方を含める必要がある。
X'0012'	遅延応答メッセージ・ルーティングの TMEMBER 名または TPIPE 名が正しくない。宛先記述子を検査する。
X'0013'	SMEM と SYNCTP は、相互に排他的なパラメーターです。
X'0014'	遅延メッセージ処理のための TPIPE 名が欠落しているか、宛先記述子で無効である。
X'0015'	要求は、異なる IMS MINVERS 値を持つ共用キュー環境で作成されたため、要求メッセージはリジェクトされた。共用キュー・グループ内の IMS システムには、MINVERS 値 13.1 が必要である。
X'0016'	要求は、OTMA グローバル・メッセージあふれ条件のためにリジェクトされる。システムに割り振られている OTMA メッセージ・ブロック (TIB) が多すぎる。
X'0020'	入力データの長さが正しくないため、要求メッセージはリジェクトされた。セグメントの長さは要求で指定された LLZZ 値に一致しなければならない。要求のセグメントすべての合計長さは AIB の AIBOALEN 値に一致しなければならない。
X'0030'	トランザクションが使用不可なため、要求メッセージはリジェクトされた。
X'0031'	トランザクションが停止したため、要求メッセージはリジェクトされた。
X'0033'	プログラム間通信の宛先名が RCNT であるため、要求メッセージはリジェクトされた。
X'0034'	プログラム間通信の宛先名が CNT であるため、要求メッセージはリジェクトされた。

表 87. 戻りコード 0100 および理由コード 0110 でリジェクトされた ICAL 呼び出しの拡張理由コード (続き)

拡張理由	
コード	説明
X'0035'	宛先トランザクションは単一の入力セグメントのみを受け入れることができるため、要求メッセージはリジェクトされた。複数の入力セグメントが要求に指定されている。
X'0036'	IMS キュー・マネージャーが挿入エラーを検出したため、要求メッセージはリジェクトされた。
X'0037'	IMS キュー・マネージャーが内部エラーを検出したため、要求メッセージはリジェクトされた。
X'0038'	キュー・オーバーフローが検出されたため、要求メッセージはリジェクトされた。
X'0039'	IMS が高速機能トランザクションを処理できなかったため、要求メッセージはリジェクトされた。
X'003A'	IMS キュー・マネージャーがメッセージ接頭語を更新できなかったため、要求メッセージはリジェクトされた。
X'003B'	IMS がトランザクションをエンキューできなかったため、要求メッセージはリジェクトされた。
X'0060'	応答を受信する前に同期プログラム間通信が取り消されたため、要求メッセージはリジェクトされた。
X'0061'	ターゲット・トランザクションが IOPCB に応答せず、プログラム間通信を実行しないため、要求メッセージはリジェクトされた。タイムアウトを回避するために ICAL はリジェクトされた。このリジェクトは、REPLYCHK 記述子が宛先トランザクションについて YES に設定されているときに発生する。ICAL に関する非同期応答がある場合、REPLYCHK を NO に設定すれば ICAL は有効として処理される。
X'0070'	IMS は同期プログラム間通信 ICAL 呼び出しへの応答メッセージの処理に失敗した。出力メッセージ・セグメントの長さが 32K 制限を超えていた。
X'0071'	IMS は同期プログラム間通信 ICAL 呼び出しへの応答メッセージの処理に失敗した。IMS は応答メッセージを処理するための LUMP ストレージ・スペースが不足している。

表 87. 戻りコード 0100 および理由コード 0110 でリジ
ェクトされた ICAL 呼び出しの拡張理由コード (続き)

拡張理由	
コード	説明
X'0072'	IMS は同期プログラム間通信 ICAL 呼び出しへの応答メッセージの処理に失敗した。IMS は応答メッセージの処理に必要なサブプール 231 からストレージを割り振ることができなかった。

プログラマーの応答: 返された拡張理由コード値に応じて、適切なアクションを実行してください。

ソース: DL/I コード

0100/0204 (X'100'/X'204', decimal: 256/516)

説明: すべての接続要求が失敗しました。IMS 接続は作成されませんでした。

プログラマーの応答: IMS が使用可能かどうかを確認してください。

ソース: DL/I コード

0100/0208 (X'100'/X'208', decimal: 256/520)

説明: 少なくとも 1 つの要求が正常に終了し、少なくとも 1 つの要求が失敗しました。詳しくは、要求の戻りコード、理由コード、およびエラー拡張コードを確認してください。

プログラマーの応答: IMS が使用可能かどうかを確認してください。

ソース: DL/I コード

0100/0224 (X'100'/X'224', decimal: 256/548)

説明: IR 継続トークンが無効です。そのトークンがこの IR 呼び出しの前の継続のトークンと一致していないか、または内部エラーが発生しました。

プログラマーの応答:

ソース: DL/I コード

0100/120C (X'100'/X'120C', decimal: 256/4620)

説明: IR 呼び出しの現在の継続内のデータが、AIBOAUSE で指定されている初期長を超えています。

プログラマーの応答:

ソース: DL/I コード

0100/1210 (X'100'/X'1210', decimal: 256/4624)

説明: この理由コードは、DDL の処理中における、IMS カタログの読み取りタスクと更新タスクの間の通信の内部エラーを表しています。既存のカタログ・ヘッダーのデータが、MCR 内で渡されたヘッダー・データと一致していません。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0100/1218 (X'100'/X'1218', decimal: 256/4632)

説明: この理由コードは、DDL の処理中における、IMS カタログの読み取りタスクと更新タスクの間の通信の内部エラーを表しています。MSDB データベースに対して IR 呼び出しが発行されました。MSDB データベースでは IR 呼び出しはサポートされません。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0104/0204 (X'104'/X'204', decimal: 260/516)

説明: ODBA APSB または CIMS 副次機能の INIT または TERM 呼び出しで、AIBRSNM2 に IMS/DBCTL DRA 始動テーブル接尾部が入っていませんでした。

プログラマーの応答: 1 から 4 文字の適切な DRA 始動テーブル接尾部を AIBRSNM2 に設定してから、呼び出しを発行します。

ソース: DL/I コード

0104/0208 (X'104'/X'208', decimal: 260/520)

説明: 次のいずれかのアプリケーション・プログラミング・エラーが発生しました。

- PCB を要求する DL/I 呼び出しのアプリケーション・インターフェース・ブロック (AIB) で、無効な PCB 名が渡されました。
- 無効な DL/I 呼び出し機能が指定され、しかもスケジュール済み PSB 内に PCB 名が指定されていないか PCB 名が見つかりません。
- プログラムが、PCB を使用しない有効な DL/I 呼び出しを発行しました。しかし、その呼び出しは、呼び出し側の環境ではサポートされていません (例、バッチ環境での GMSG 呼び出し)。

プログラマーの応答: プログラム内の DL/I 呼び出しを訂正します。

ソース: DL/I コード

0104/020C (X'104'/X'20C', decimal: 260/524)

説明: CPI-C ドリブン・アプリケーションは、プログラム仕様ブロック (PSB) がスケジュールされる前に DL/I 呼び出しを発行しました。APSB 呼び出しを発行して PSB をスケジュールしてから、他の DL/I 呼び出しを発行する必要があります。

プログラマーの応答: APSB 呼び出しを発行してから他の DL/I 呼び出しを発行する形に、CPI-C ドリブン・アプリケーションを訂正します。

ソース: DL/I コード

0104/0210 (X'104'/X'210', decimal: 260/528)

説明: AIBOALEN フィールドにあるアプリケーション・インターフェース・ブロック (AIB) の入出力域の長さがゼロまたは負数です。アプリケーションが長さを、バイナリー・データではなく文字ストリングとして引き渡すと、フィールド値が負になります。アプリケーションにデータは戻されません。

プログラマーの応答: プログラムを訂正し、正しい入出力域長を AIB に指定します。

ソース: DL/I コード

0104/0214 (X'104'/X'214', decimal: 260/532)

説明: 出力域の長さをゼロに設定することはできません。

プログラマーの応答: 出力域の長さを調べて、応答メッセージを受け取れるように正の値を設定してください。

ソース: DL/I コード

0104/0218 (X'104'/X'218', decimal: 260/536)

説明: DL/I 呼び出しのアプリケーション・インターフェース・ブロック (AIB) で指定された副次機能が無効です。

プログラマーの応答: プログラム内の DL/I 呼び出しを訂正します。すべての DL/I 呼び出しが副次機能をサポートするわけではありません。DL/I 呼び出しに有効な副次機能のリストについては、DL/I 呼び出しの資料を参照してください。

ソース: DL/I コード

0104/021C (X'104'/X'21C', decimal: 260/540)

説明: メッセージに対する初期 GMSG 呼び出しのアプリケーション・インターフェース・ブロック (AIB) (AIBRSNM1 フィールド) に、自動化操作プログラム・インターフェース (AOI) トークンが指定されていませ

んでした。AO アプリケーションが発行する最初の GMSG 呼び出しで、AOI トークンを指定する必要があります。現行メッセージの後続セグメントを獲得するための GMSG 呼び出しの場合は、AOI トークンをブランクにしなければなりません。

プログラマーの応答: メッセージに対する初期 GMSG 呼び出しで AOI トークンを指定するように、AO アプリケーションを訂正します。

ソース: DL/I コード

0104/0220 (X'104'/X'220', decimal: 260/544)

説明: メッセージ取り出し (GMSG) 呼び出しに WAITAOI 副次機能が指定されているが、自動化操作プログラム・インターフェース (AOI) トークンが指定されていません。WAITAOI 副次機能を指定できるのは、メッセージの最初のセグメントを検索するときのみです。WAITAOI 副次機能を使用するには、AIBRSNM1 フィールドにあるアプリケーション・インターフェース・ブロック (AIB) に AOI トークンを指定する必要があります。

プログラマーの応答: メッセージに対する初期 GMSG 呼び出しで AOI トークンを指定するように、プログラムを訂正します。

ソース: DL/I コード

0104/0224 (X'104'/X'224', decimal: 260/548)

説明: メッセージ取り出し (GMSG) 呼び出しで指定された自動化操作プログラム・インターフェース (AOI) トークンに、1 つ以上の無効文字が含まれていました。AOI トークンに含めることができる文字は、A から Z、0 から 9、@、#、および \$ です。

GUR 呼び出しの場合、このコードは、呼び出しで渡された GUR 継続トークンが無効であることを示しています。

プログラマーの応答: プログラムを訂正し、有効な文字のみを用いた AOI トークンにします。

GUR 呼び出しの場合、呼び出しで渡された GUR 継続トークンが、前の GUR 呼び出しの応答からの AIBRTKN フィールドの値と正確に一致することを確認してください。

ソース: DL/I コード

0104/0228 (X'104'/X'228', decimal: 260/552)

説明: AIBLEN に指定されたアプリケーション・インターフェース・ブロック (AIB) の長さが、必要な最小の長さより小です。

プログラマーの応答: 応答: AIB が 264 バイトに等しいか、それより大になるようにし、AIBLEN が正しい長さを反映するようにします。

ソース: DL/I コード

0104/022C (X'104'/X'22C', decimal: 260/556)

説明: 新規 ODBA スレッド要求 (APSB) は処理されません。現在、最大数のスレッドが割り振られているためです。呼び出しは処理されません。

プログラマーの応答: 要求を再試行します。あるいは、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0104/0240 (X'104'/X'240', decimal: 260/576)

説明: 無効な AIBRSA1 パラメーターが AIB に入れて渡されました。

プログラマーの応答: AIBRSA1 パラメーター値を確認してください。

ソース: DL/I コード

0104/0244 (X'104'/X'244', decimal: 260/580)

説明: 無効な AIBRSA3 パラメーターが AIB に入れて渡されました。

プログラマーの応答: AIBRSA3 パラメーター値を確認してください。

ソース: DL/I コード

0104/0248 (X'104'/X'248', decimal: 260/584)

説明: GUR 呼び出しは、IMS カタログにアクセスするために指定された正しい PCB 名を検出ませんでした。このエラーの原因として、次の 2 つが考えられます。

- GUR 呼び出しで PCB 名が指定されなかった。
- 指定された PCB 名が DFSCAT00 ではなかった。

プログラマーの応答: GUR 呼び出しで、DBPCB 名 DFSCAT00 を指定してください。

ソース: DL/I コード

0104/0404 (X'104'/X'404', decimal: 260/1028)

説明: DL/I 呼び出しに指定された機能コードが、不明であるか無効です。プログラムのコーディングが誤りであるか、この呼び出しをサポートしないレベルの IMS ではプログラムを実行できなかった可能性があります。

プログラマーの応答: 呼び出しが正しくコーディングさ

れていること、およびプログラムを実行中の IMS のレベルが、この呼び出し機能をサポートすることを確認します。

ソース: DL/I コード

0104/0440 (X'104'/X'440', decimal: 260/1088)

説明: CPI-C ドリブン・アプリケーションからのみ有効な DL/I 呼び出しが、非 CPI-C ドリブン・プログラムから発行されました。

プログラマーの応答: プログラムを訂正し、この呼び出しを発行しないようにするか、または CPI-C ドリブン・プログラムとして実行します。

ソース: DL/I コード

0104/0444 (X'104'/X'444', decimal: 260/1092)

説明: DL/I 呼び出しが発行されましたが、この呼び出しは、特定環境からのみ有効です。

プログラマーの応答: プログラムを訂正し、この呼び出しを発行しないようにするか、または CPI-C ドリブン・プログラムとして実行するか、適切な領域タイプで実行します。

ソース: DL/I コード

0104/0448 (X'104'/X'448', decimal: 260/1096)

説明: 非 CPI-C ドリブン・プログラムからのみ有効な DL/I 呼び出しが、CPI-C ドリブン・プログラムによって発行されました。DL/I 呼び出しの中には、入出力プログラム連絡ブロック (PCB) を使用しない呼び出しであれば、CPI-C ドリブン・プログラムから発行可能なものもあります。

プログラマーの応答: CPI-C ドリブン・プログラムを訂正し、この呼び出しを発行しないようにするか、または入出力 PCB ではなく代替 PCB を使用します。

ソース: DL/I コード

0104/044C (X'104'/X'44C', decimal: 260/1100)

説明: DL/I 呼び出しが発行されましたが、この呼び出しは、特定の従属領域タイプからは無効です。

プログラマーの応答: プログラムを訂正し、この呼び出しを発行しないようにするか、または適切な領域タイプで実行します。

ソース: DL/I コード

0104/0450 (X'104'/X'450', decimal: 260/1104)

説明: 検索するメッセージはありません。タイプ 2 自動化操作 (AO) 出口ルーチン (DFSAOE00 または別の AOIE タイプの出口ルーチン) が、IMS システム内に存在していません。

プログラマーの応答: プログラムを終了させます。IMS システム・プログラマーに連絡して、システムに AOIE タイプの出口ルーチンをインストールするよう依頼します。

ソース: DL/I コード

0104/0464 (X'104'/X'464', decimal: 260/1124)

説明: オープン・データベース・アクセス (ODBA) アプリケーションは、プログラム仕様ブロック (PSB) がスケジュールされる前に DL/I 呼び出しを発行しました。APSB 呼び出しを発行して PSB をスケジュールしてから、他の呼び出しを発行する必要があります。

プログラマーの応答: APSB 呼び出しを発行してから他の DL/I 呼び出しを発行する形に、ODBA アプリケーションを訂正します。

ソース: DL/I コード

0104/048C (X'104'/X'48C', decimal: 260/1164)

説明: CPI-C ドリブン・プログラムが、すでに割り振られているプログラム仕様ブロック (PSB) の割り振りを試みました。この状態は、前の APSB 呼び出しによって割り振られた PSB の割り振り解除をする DPSB を、CPI-C ドリブン・プログラムが発行していないことが原因です。

プログラマーの応答: プログラムを訂正し、DPSB 呼び出しを発行します。

ソース: DL/I コード

0104/0490 (X'104'/X'490', decimal: 260/1168)

説明: CPI-C ドリブン・プログラムが、前の DL/I 呼び出しまたは SQL 呼び出しにより影響を受けたリソースをコミットせずに、プログラム仕様ブロック (PSB) の割り振りまたは割り振り解除を試行しました。CPI-C ドリブン・プログラムから DL/I 呼び出しまたは SQL 呼び出しが発行された場合は、CPI-RR コミット (SRRCMIT) 呼び出しを発行してリソースをコミットしてからでないと、PSB を割り振り解除できません。

プログラマーの応答: リソースに対して CPI-RR コミットまたはバックアウトを発行してから DPSB 呼び出しを発行する形に、プログラムを訂正します。

ソース: DL/I コード

0104/0494 (X'104'/X'494', decimal: 260/1172)

説明: CPI-C (会話用共通プログラミング・インターフェース) ドリブン・プログラムまたはオープン・データベース・アクセス (ODBA) アプリケーションがプログラム仕様ブロック (PSB) の割り振り解除を試みましたが、PSB が割り振られていませんでした。PSB が割り振られていないか、または割り振られている PSB は、DPSB 呼び出しに指定された PSB と同一ではありません。エラーの原因は、次の状態のいずれか 1 つである可能性があります。

- 複数の DPSB 呼び出しが発行されたが、間に APSB 呼び出しが発行されていない。
- APSB 呼び出しが失敗した後で、DPSB 呼び出しが発行された。
- DPSB 呼び出しが発行されたが、PSB 名が正しくない。
- AIBRSNM2 に PSB 名が入っていない。

プログラマーの応答: APSB 呼び出しごとに DPSB 呼び出しを 1 つ発行するようにプログラムを訂正し、両方の呼び出しの PSB 名が同一であることを確認します。

ソース: DL/I コード

0104/0498 (X'104'/X'498', decimal: 260/1176)

説明: DPSB 呼び出しがコミットの前に発行されました。強制バックアウトが実行されました。

プログラマーの応答: DPSB 呼び出しの前にコミットを発行してください。

ソース: DL/I コード

0104/054C (X'104'/X'54C', decimal: 260/1356)

説明: DL/I 呼び出しに、無効なメッセージ・キュー宛先が指定されています。このエラーの原因は、次の状態のいずれか 1 つである可能性があります。

- 宛先が動的端末であるが、ETO が活動状態でなかった。
- プログラムで、CHNG 呼び出しに間違った宛先名を指定した。
- 代替 PCB に定義された LTERM 名が正しくない。

プログラマーの応答: プログラムを訂正します。

ソース: DL/I コード

0104/0550 (X'104'/X'550', decimal: 260/1360)

説明: この宛先に対して DEALLOCATE_ABEND 呼び出しが発行された直後に、プログラムが、メッセージ・キューにデータの挿入を試みました。この宛先に対する追加の ISRT または SETO 呼び出しは、アプリケーション

ョン同期点が処理されるまで、リジェクトされます。

SETO DEALLOCATE_ABEND 呼び出しが発行されたが、この宛先に対する直前の挿入がないときにも、このエラーになることがあります。

プログラマーの応答: プログラムを分析し、挿入ロジックに誤りがないかどうか調べます。GU または CHKP 呼び出しの該当する方を発行してアプリケーション同期点を起動し、次の入力メッセージを検索できる場合があります。これにより、宛先への挿入を続けることができます。CPI-C ドリブン・プログラムは、同期点処理を起動するための CPI-RR コミット要求を発行することができます。

ソース: DL/I コード

0104/0560 (X'104'/X'560', decimal: 260/1376)

説明: 以下の理由の 1 つにより、経路指定要求エラーが発生しました。

- DFSCMPR0 ユーザー経路指定出口が要求した経路指定要求が無効なため、CHNG 呼び出しはリジェクトされました。
- ユーザー経路指定出口が要求した経路指定要求が無効なため、CHNG または ISRT 呼び出しはリジェクトされました。
- メッセージ経路指定要求の処理中に IMS がエラーを検出しました。


プログラマーの応答: DFSMSCE0 を使用中の場合は、DFS070 経路指定エラー・メッセージおよび 6701-MSCE LOGREC を探します。エラー・メッセージも LOGREC も出力されていない場合は、出口トレース (/TRA SET ON EXIT DFSMSCE0 PRCH/PRIS) を使用して経路指定エラーを判別します。

DFSCMPR0 を使用中の場合は、トランザクション・トレース (/TRA SET ON TRANSACTION *trancode*) を使用して経路指定エラーを判別します。

経路指定出口エラーに関する情報および出口トレースの印刷と解説については、IMS 診断に関する資料を参照してください。

ソース: DL/I コード

関連情報:

 DFS070 (メッセージおよびコード)

0104/0564 (X'104'/X'564', decimal: 260/1380)

説明: DFSCMPR0 ユーザー経路指定出口が CHNG 呼び出しをリジェクトしたか、または DFSMSCE0 ユーザー経路指定出口が CHNG または ISRT 呼び出しをリジェクトしました。DL/I 状況コード A1 が設定されます。

プログラマーの応答: DFSCMPR0 または DFSMSCE0 ユーザー出口を参照してください。このエラーになる理由については、「TM および MSC メッセージ経路指定および制御」ユーザー出口ルーチン (DFSMSCE0) (出口ルーチン)を参照してください。

ソース: DL/I コード


0104/0568 (X'104'/X'568', decimal: 260/1384)

説明: DFSMSCE0 ユーザー経路指定出口が、CHNG または ISRT 呼び出しを 3303 異常終了でリジェクトしました。


プログラマーの応答: DFSMSCE0 ユーザー出口を参照してください。

ソース: DL/I コード

関連資料:

 「TM および MSC メッセージ経路指定および制御」ユーザー出口ルーチン (DFSMSCE0) (出口ルーチン)

関連情報:

 IMS 異常終了 3303

0104/056C (X'104'/X'56C', decimal: 260/1388)

説明: DFSMSCE0 ユーザー経路指定出口が、CHNG または ISRT 呼び出しを A4 DL/I 状況コードでリジェクトしました。

プログラマーの応答: DFSMSCE0 ユーザー出口を参照してください。このエラーになる理由については、「TM および MSC メッセージ経路指定および制御」ユーザー出口ルーチン (DFSMSCE0) (出口ルーチン)を参照してください。

ソース: DL/I コード

0104/0570 (X'104'/X'570', decimal: 260/1392)

説明: DFSMSCE0 ユーザー経路指定出口が、CHNG または ISRT 呼び出しを E1 ユーザー出口状況コードでリジェクトしました。

プログラマーの応答: DFSMSCE0 ユーザー出口を参照してください。このエラーになる理由については、「TM および MSC メッセージ経路指定および制御」ユーザー出口ルーチン (DFSMSCE0) (出口ルーチン)を参照してください。

ソース: DL/I コード

関連資料:

☞ 「TM および MSC メッセージ経路指定および制御」ユーザー出口ルーチン (DFSMSCE0) (出口ルーチン)

関連情報:

150 ページの『E1』

0104/0574 (X'104'/X'574', decimal: 260/1396)

説明: DFSMSCE0 ユーザー経路指定出口が、CHNG または ISRT 呼び出しを E2 ユーザー出口状況コードでリジェクトしました。

プログラマーの応答: DFSMSCE0 ユーザー出口を参照してください。このエラーになる理由については、「TM および MSC メッセージ経路指定および制御」ユーザー出口ルーチン (DFSMSCE0) (出口ルーチン)を参照してください。

ソース: DL/I コード

関連情報:

150 ページの『E2』

0104/0578 (X'104'/X'578', decimal: 260/1400)

説明: DFSMSCE0 ユーザー経路指定出口が、CHNG または ISRT 呼び出しを E3 ユーザー出口状況コードでリジェクトしました。

プログラマーの応答: DFSMSCE0 ユーザー出口を参照してください。このエラーになる理由については、「TM および MSC メッセージ経路指定および制御」ユーザー出口ルーチン (DFSMSCE0) (出口ルーチン)を参照してください。

ソース: DL/I コード

関連情報:

150 ページの『E3』

0104/057C (X'104'/X'57C', decimal: 260/1404)

説明: 以下の理由の 1 つにより、経路指定要求エラーが発生しました。

- DFSCMPR0 ユーザー経路指定出口が、直接経路指定要求のオーバーライドを要求したので、CHNG 呼び出しはリジェクトされました。
- DFSMSCE0 ユーザー経路指定出口が、直接経路指定要求のオーバーライドを要求したので、CHNG または ISRT 呼び出しはリジェクトされました。
- メッセージ経路指定要求の処理中に IMS がエラーを検出しました。

DL/I 状況コード QH または XF が設定されます。

プログラマーの応答: DFSMSCE0 を使用中の場合は、

DFS070 経路指定エラー・メッセージおよび 6701-MSCE LOGREC を探します。エラー・メッセージも LOGREC も出力されていない場合は、出口トレース (/TRA SET ON EXIT DFSMSCE0 PRCH/PRIS) を使用して経路指定エラーを判別します。

DFSCMPR0 を使用中の場合は、トランザクション・トレース (/TRA SET ON TRANSACTION *trancode*) を使用して経路指定エラーを判別します。

経路指定出口エラーについて、および出口トレースの印刷と解釈については、「TM および MSC メッセージ経路指定および制御」ユーザー出口ルーチン (DFSMSCE0) (出口ルーチン)を参照してください。

ソース: DL/I コード

関連情報:

DL/I コード QH

DL/I コード XF

☞ DFS070 (メッセージおよびコード)

0104/060C (X'104'/X'60C', decimal: 260/1548)

説明: AUTH 呼び出しの入出力域に無効なクラス名が指定されていました。有効なクラスのリストについては、AUTH 呼び出し (アプリケーション・プログラミング API)を参照してください。

プログラマーの応答: プログラムを訂正します。

ソース: DL/I コード

0104/0610 (X'104'/X'610', decimal: 260/1552)

説明: 呼び出しリストに入出力域アドレスが指定されていませんでした。プログラムにデータは戻されません。

プログラマーの応答: プログラムを訂正し、呼び出しリストに入出力域アドレスを指定します。

ソース: DL/I コード

0104/0614 (X'104'/X'614', decimal: 260/1556)

説明: 呼び出しリストに応答出力域アドレスが指定されていませんでした。

プログラマーの応答: 応答出力域アドレス・パラメーターを指定して、呼び出しを再実行依頼してください。

ソース: DL/I コード

0104/0618 (X'104'/X'618', decimal: 260/1560)

説明: 入出力域の長さが、PSBGEN の IOASIZE パラメーターで定義されたプログラム仕様ブロック (PSB)

作業域よりも長い。IMS は、入出力域の内容を PSB 作業域にコピーできません。

プログラマーの応答: AIBOALEN フィールドにあるアプリケーション・インターフェース・ブロック (AIB) に指定した入出力域の長さを訂正し、PSB の IOASIZE パラメーターに指定されたサイズを超えないようにします。

ソース: DL/I コード

0104/0620 (X'104'/X'620', decimal: 260/1568)

説明: 入出力域の ZZ フィールドがゼロではありません。プログラムは入出力域の ZZ フィールドを使用してはなりません。

プログラマーの応答: プログラムを訂正します。

ソース: DL/I コード

0104/0624 (X'104'/X'624', decimal: 260/1572)

説明: AIBOALEN で指定された入出力域の長さが、CSLDMI FUNC=ODBMCI IOAREALEN= パラメーターで指定された入出力域の長さを超えました。

プログラマーの応答: AIB= (AIBOALEN フィールド) に指定した入出力域の長さを訂正し、IOAREALEN パラメーターに指定されたサイズを超えないようにします。

ソース: DL/I コード

0104/0754 (X'104'/X'754', decimal: 260/1876)

説明: 入出力域の LL フィールドが 5 未満でした。LLZZ フィールドを除外したセグメント長は少なくとも 1 必要であり、LL は少なくとも 5 でなければなりません。

プログラマーの応答: プログラムを訂正します。

ソース: DL/I コード

0104/0810 (X'104'/X'810', decimal: 260/2064)

説明: オプション・リスト・パラメーターが呼び出しリストに指定されていません。

プログラマーの応答: プログラムを訂正します。

ソース: DL/I コード

0104/0920 (X'104'/X'920', decimal: 260/2336)

説明: キュー・スペース通知出口 (DFSQSPC0) は、メッセージ・キューに挿入可能なデータ限度にプログラムが達したと判断しました。プログラムは、IMS メッセー

ジ・キューに情報を挿入するループに入った可能性があります。この宛先に対する追加の ISRT または SETO 呼び出しは、アプリケーション同期点が処理されるまで、リジェクトされます。

プログラマーの応答: プログラムを分析し、挿入ロジックに誤りがないかどうか調べます。GU または CHKP 呼び出しの該当する方を発行してアプリケーション同期点を開始し、次の入力メッセージを検索できる場合があります。これにより、宛先への挿入を続けることができます。CPI-C ドリブン・プログラムは、同期点処理を開始するための CPI-RR コミット要求を発行することができます。

ソース: DL/I コード

0104/0924 (X'104'/X'924', decimal: 260/2340)

説明: 挿入されるメッセージ・セグメントの数、TRANSACT マクロの SEGNO キーワードで指定された数を超えています。

プログラマーの応答: 出力メッセージを調べて、訂正します。ROLB を使用して、処理中のメッセージをバックアウトします。

ソース: DL/I コード

0104/1004 (X'104'/X'1004', decimal: 260/4100)

説明: ICMD 呼び出しの入出力域に有効な IMS コマンドが指定されていましたが、このコマンドはアプリケーションからは発行できませんでした。AO アプリケーションから指定できるコマンドのリストについては、自動化オペレーション用のツール (オペレーションおよびオートメーション) を参照してください。

プログラマーの応答: AO アプリケーションを訂正し、有効な自動化操作プログラム・コマンドのみを発行します。

ソース: DL/I コード

関連概念:

➡ タイプ 1 自動化操作プログラム (AO) アプリケーション・プログラム (GU、GN、CMD、および GCMD 呼び出し) (オペレーションおよびオートメーション)

➡ タイプ 2 自動化操作プログラム (AO) アプリケーション・プログラム (GMSG、ICMD、および RCMD 呼び出し) (オペレーションおよびオートメーション)

0104/1008 (X'104'/X'1008', decimal: 260/4104)

説明: 入出力域に無効なコマンド verb が指定されていました。

プログラマーの応答: AO アプリケーションを訂正します。

ソース: DL/I コード

0104/1010 (X'104'/X'1010', decimal: 260/4112)

説明: 自動化操作プログラム (AO) アプリケーションがコマンド検索 (RCMD) 呼び出しを発行しましたが、AO アプリケーションは事前に ICMD 呼び出しを発行しなかったため、検索するコマンド応答セグメントはありません。AO アプリケーションが ICMD 呼び出しを介して IMS コマンドを発行しないと、RCMD 呼び出しは有効になりません。

プログラマーの応答: AO アプリケーションを訂正します。

ソース: DL/I コード

0104/1020 (X'104'/X'1020', decimal: 260/4128)

説明: 呼び出しリストに指定した OTMA 記述子名が無効です。

プログラマーの応答: OTMA 記述子名を訂正します。OTMA 記述子名は、IMS.PROCLIB の DFSYDTx メンバーで定義する必要があります。

ソース: DL/I コード

0104/1024 (X'104'/X'1024', decimal: 260/4132)

説明: 呼び出しリストに指定したタイムアウト値が無効です。

プログラマーの応答: タイムアウト値を訂正してください。タイムアウト値は、0 から 999999 (100 分の 1 秒単位) でなければなりません。

- 指定された値が最大値より大きい場合は、最大値が使用されます。
- 値が 0 に設定されている場合は、OTMA 記述子で指定されたタイムアウト値が使用されます。OTMA 記述子内にタイムアウト値がない場合は、システム・デフォルトの 10 秒が使用されます。

ソース: DL/I コード

0104/1104 (X'104'/X'1104', decimal: 260/4356)

説明: ODBA CIMS CONNECT 呼び出しに無効な別名があります。別名は NULL またはブランクであってはなりません。

ソース: DL/I コード

0104/1108 (X'104'/X'1108', decimal: 260/4360)

説明: ODBA CIMS CONNECT 呼び出しパラメーター・リストに無効なエントリー・カウントが含まれています。エントリー・カウントは、0 より大きい値にする必要があります。

ソース: DL/I コード

0104/110C (X'104'/X'110C', decimal: 260/4364)

説明: ODBA CIMS CONNECT 要求リストに有効なカウントのないエントリーが含まれています。

ソース: DL/I コード

0104/1110 (X'104'/X'1110', decimal: 260/4368)

説明: PSB 割り振り (APSB) 呼び出しが発行されましたが、前に CIMS INIT または CIMS CONNECT 呼び出しが発行されていません。

プログラマーの応答: CIMS INIT または CIMS CONNECT が APSB の前に発行されるように、アプリケーションを訂正します。

ソース: DL/I コード

0104/1200 (X'104'/X'1200', decimal: 260/4608)

説明: DFSDMU が既に初期設定されていたため、INIT DFSDMU 呼び出しは失敗しました。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

ソース: DL/I コード

0104/1204 (X'104'/X'1204', decimal: 260/4612)

説明: 最初に INIT DFSDMU 呼び出しが発行されなかったか、または DFSDMU バイナリー・フォーマット・オプションが指定された GUR 呼び出しが発行される前に INIT DFSDMU 呼び出しが正常に完了しませんでした。

プログラマーの応答: DFSDMU バイナリー・フォーマット・オプションが指定された GUR 呼び出しが発行される前に、INIT DFSDMU 呼び出しが発行され、正常に完了していることを確認してください。

ソース: DL/I コード

0104/1208 (X'104'/X'1208', decimal: 260/4616)

説明: CHKP 呼び出しが *aibsfunc* フィールドに「DFSDMU」を指定せずに ODBM または ODBA を介して発行されたため、その呼び出しは失敗しました。

プログラマーの応答: CHKP 呼び出しに「DFSDMU」を指定するよう呼び出し側プログラムを更新し、その呼び出しを再試行してください。

ソース: DL/I コード

0104/1214 (X'104'/X'1214', decimal: 260/4628)

説明: INIT DFSDMU 呼び出しが発行された後に GUR 呼び出しが発行されましたが、その GUR 呼び出しに DFSDMU バイナリー・フォーマット・オプションが指定されていませんでした。

プログラマーの応答: INIT DFSDMU 呼び出しを除外するか、GUR 呼び出しに DFSDMU オプションを指定してください。

ソース: DL/I コード

0108/0004 (X'108'/X'004', decimal: 264/4)

説明: PC ルーター処理中にエラーが検出されました。この問題は、システム・エラーです。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/0010 (X'108'/X'010', decimal: 264/16)

説明: 専用ストレージを取得するストレージ割り振り要求が失敗しました。呼び出しは処理されません。この問題は、システム・エラーです。

プログラマーの応答: 要求データのサイズを減らして、呼び出しを再実行依頼してください。

ソース: DL/I コード

0108/0014 (X'108'/X'014', decimal: 264/20)

説明: グローバル・ストレージを取得するストレージ割り振り要求が失敗しました。呼び出しは処理されません。この問題は、システム・エラーです。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/0018 (X'108'/X'018', decimal: 264/24)

説明: IMS が内部ラッチ・エラーを検出しました。メッセージ取り出し (GMSG) 呼び出しの場合、セグメントは戻されません。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/001C (X'108'/X'01C', decimal: 264/28)

説明: オープン・データベース・アクセス (ODBA) CIMS AIBSFUNC=INIT または APSB 呼び出しの処理中に、アプリケーション・アドレス・スペースの ODBA タスク制御ブロック (TCB) アタッチが失敗しました。呼び出しは処理されません。この問題は、システム・エラーです。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/0020 (X'108'/X'020', decimal: 264/32)

説明: アプリケーション・アドレス・スペースで、必要なデータベース・リソース・アダプター (DRA) モジュールのロード、または DRA 始動テーブル (DFScccc0) のロードが失敗しました。その名前は AIBRSNM2 に入れて、呼び出し側プログラムに戻されます。

プログラマーの応答: その名前のモジュールを適切なライブラリーにリンクします。

ソース: DL/I コード

0108/0024 (X'108'/X'024', decimal: 264/36)

説明: データベース・リソース・アダプター (DRA) 始動テーブルに指定された DRA ライブラリーのオープンに失敗しました。

プログラマーの応答: DRA 始動テーブル (DFScccc0) に指定されたライブラリーが正しいことおよびアクセス可能であることを確認します。そうならない場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/0028 (X'108'/X'028', decimal: 264/40)

説明: データベース・リソース・アダプター (DRA) 実行ライブラリー (DSNAME = DRA 始動テーブル) の動的割り振りが失敗しました。呼び出しは処理されません。この問題は、システム・エラーです。

プログラマーの応答: DSNAME= ライブラリーが正し

い場合は、IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/002C (X'108'/X'02C', decimal: 264/44)

説明: オープン・データベース・アクセス (ODBA) は、アプリケーション・アドレス・スペース内で z/OS 名前/トークン・サービス・エラーを検出しました。呼び出しは処理されません。この問題は、システム・エラーです。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/0030 (X'108'/X'030', decimal: 264/48)

説明: SPOOL API 処理中に、データ・セット・クローズ・エラーが検出されました。障害の原因を示す X'67D0' ログ・レコードが書き込まれました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡を取り、クローズ・エラーの理由を判別します。

ソース: DL/I コード


0108/0034 (X'108'/X'034', decimal: 264/52)

説明: SPOOL API 処理中に、データ・セット割り振り解除 (DYNALLOC) エラーが検出されました。障害の原因を示す X'67D0' ログ・レコードが書き込まれました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡を取り、DYNALLOC エラーの理由を判別します。

ソース: DL/I コード

関連資料:

 z/OS: DYNALLOC からのエラー理由コードの解釈

0108/0038 (X'108'/X'038', decimal: 264/56)

説明: SPOOL API 処理中に、データ・セット割り振り解除 (DYNALLOC) エラーが検出されました。障害の原因を示す X'67D0' ログ・レコードが書き込まれました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡を取り、DYNALLOC エラーの理由を判別します。

ソース: DL/I コード

関連資料:

 z/OS: DYNALLOC からのエラー理由コードの解釈

0108/003C (X'108'/X'03C', decimal: 264/60)

説明: SPOOL API 処理中に、データ・セット・オープン・エラーが検出されました。障害の原因を示す X'67D0' ログ・レコードが書き込まれました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡を取り、オープン・エラーの理由を判別します。

ソース: DL/I コード

0108/0040 (X'108'/X'040', decimal: 264/64)

説明: SPOOL API 処理中、データ・セットへの書き込みの試行時に、エラーが検出されました。障害の原因を示す X'67D0' ログ・レコードが書き込まれました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡を取り、書き込みエラーの理由を判別します。

ソース: DL/I コード

0108/0044 (X'108'/X'044', decimal: 264/68)

説明: SPOOL API 処理中、出力記述子 (OUTADD) の作成の試行時に、エラーが検出されました。障害の原因を示す X'67D0' ログ・レコードが書き込まれました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡を取り、OUTADD エラーの理由を判別します。

ソース: DL/I コード

0108/0048 (X'108'/X'048', decimal: 264/72)

説明: SPOOL API 処理中、出力記述子 (OUTDEL) の削除の試行時に、エラーが検出されました。障害の原因を示す X'67D0' ログ・レコードが書き込まれました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡を取り、OUTDEL エラーの理由を判別します。

ソース: DL/I コード

0108/0060 (X'108'/X'060', decimal: 264/96)

説明: 呼び出し処理中に IMS が発行した DFSLUMIF 呼び出しが失敗しました。この問題は、システム・エラーです。障害の原因を示す X'67D0' ログ・レコードが書き込まれました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/0064 (X'108'/X'064', decimal: 264/100)

説明: 呼び出し処理中に IMS が発行した DFSYFND 呼び出しが失敗しました。障害の原因を示す X'67D0' ログ・レコードが書き込まれました。この問題は、システム・エラーです。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/0068 (X'108'/X'068', decimal: 264/104)

説明: 呼び出し処理中に IMS が発行した DFSYLUM 呼び出しが失敗しました。障害の原因を示す X'67D0' ログ・レコードが書き込まれました。この問題は、システム・エラーです。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/0080 (X'108'/X'080', decimal: 264/128)

説明: LU 6.2 発信のトランザクションについて RACF RACINIT 障害が発生しました。AUTH 呼び出しの許可検査用アクセサ環境エレメント (ACEE) を作成できませんでした。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/020C (X'108'/X'20C', decimal: 264/524)

説明: 自動化操作プログラム (AO) アプリケーション発行の IMS コマンドの処理中に、コマンド・プロセッサが無効な非同期作業エレメント (AWE) を検出しました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/0214 (X'108'/X'214', decimal: 264/532)

説明: データベース・リソース・アダプター (DRA) 始動テーブル・パラメーターが正しく指定されていません。AIBERRXT には、エラーに関する以下の情報が入ります。

- MnMx = MinThrd または MaxThrd が、1 から 999 の範囲にありません。
- FPB = FPBUF または FPBOF が、0 から 999 の範囲にありません。

- CNBA = CNBA が FPBUF より小です。

呼び出しは処理されません。

プログラマーの応答: DRA 始動テーブルを訂正して、再作成します。

ソース: DL/I コード

0108/0220 (X'108'/X'220', decimal: 264/544)

説明: 区画仕様テーブル (PST) LU 6.2 の拡張アドレスがゼロでした。メッセージ GU 処理中に取得するこのアドレスは、LU 6.2 発信トランザクションのユーザー・トークンを取得するためには必須です。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/0224 (X'108'/X'224', decimal: 264/548)

説明: ユーザー・セキュリティー・トークン (UTOKEN) がゼロです。UTOKEN はメッセージ GU 処理中に取得され、LU 6.2 発信トランザクションの許可検査用アクセサ環境エレメント (ACEE) の構築に必要です。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/0240 (X'108'/X'240', decimal: 264/576)

説明: 無効な通知コード付きで、従属領域に通知されました。セグメントは戻されません。この問題は、システム・エラーです。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/0244 (X'108'/X'244', decimal: 264/580)

説明: 異常終了スレッド処理中、不意に、従属領域に通知されました。セグメントは戻されません。この問題は、システム・エラーです。

複数区画 PHIDAM データベースの区画の 1 つを停止し、停止した区画に到達するまで GETNEXT 要求を出した場合に、このコードを発行できます。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/0304 (X'108'/X'304', decimal: 264/772)

説明: アプリケーションがプログラム仕様ブロック (PSB) の割り振りを試みましたが、IMS は PSB を見つけることができませんでした。アプリケーション・プログラムが指定した PSB 名が不適切であるか、またはその PSB が IMS システム内に生成されていない可能性があります。

プログラマーの応答: アプリケーション・プログラムを検討し、エラーの原因が PSB であるかどうかを判別します。PSB 名が正しい場合は、その PSB が IMS システムに定義済みであるか確認します。

ソース: DL/I コード

0108/0308 (X'108'/X'308', decimal: 264/776)

説明: IMS は、プログラム仕様ブロック (PSB) の割り振りを試みているときに、PSB 許可障害を検出しました。セキュリティ検査で、リソース・アクセス・セキュリティを使用しました (ISIS=R または C の場合)。RACF (または同等の製品) または RASE ユーザー出口のいずれかが、この従属領域に関する許可が PSB にないことを示しました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡を取り、この従属領域で使用するために PSB が RACF、DFSRAS00 ユーザー出口、またはその両方に対して定義されているかどうかを調べてください。

ソース: DL/I コード

0108/030C (X'108'/X'30C', decimal: 264/780)

説明: プログラムは、永続的に不良とマークされたプログラム仕様ブロック (PSB) の割り振りを試みましたが、IMS はその PSB を割り振れません。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/0310 (X'108'/X'310', decimal: 264/784)

説明: データベースが停止またはロックされていたため、プログラム仕様ブロック (PSB) を割り振ることができません。

プログラマーの応答: データベースが停止またはロックされている理由を判別します。必要であれば、IMS コマンドの /START および /UNLOCK を使用して、データベースの状態を変更します。

ソース: DL/I コード

0108/0314 (X'108'/X'314', decimal: 264/788)

説明: プログラム仕様ブロック (PSB) はすでにスケジュールされており、並列スケジューリングをサポートしないので、PSB を割り振れませんでした。

プログラマーの応答: PSB が並列スケジューリングをサポートする場合は、IMS システム・プログラマーに連絡を取り、APPLCTN マクロに PSB 用の SCHDTYP=PARALLEL が指定されているか確認します。

ソース: DL/I コード

0108/0318 (X'108'/X'318', decimal: 264/792)

説明: プログラム仕様ブロック (PSB) は停止またはロックされていたため、割り振ることができませんでした。

プログラマーの応答: PSB が停止またはロックされている理由を判別します。必要であれば、IMS コマンドの /START および /UNLOCK を使用して、PSB の状態を変更します。

ソース: DL/I コード

0108/031C (X'108'/X'31C', decimal: 264/796)

説明: プログラム仕様ブロック (PSB) またはデータ管理ブロック (DMB) の読み取り中に、入出力エラーが検出されました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/0320 (X'108'/X'320', decimal: 264/800)

説明: PSB 作業 (PSBW) プールがプログラム仕様ブロック (PSB) に対して小さすぎるか、DMB プール (DLDP) がデータ管理ブロック (DMB) に対して小さすぎました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/0324 (X'108'/X'324', decimal: 264/804)

説明: 非 HSAM プログラム連絡ブロック (PCB) のプログラム仕様ブロック (PSB) が、PROCOPT に L または LS を指定して生成されました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/0328 (X'108'/X'328', decimal: 264/808)

説明: プログラム仕様ブロック (PSB) 割り振り中に、高速機能バッファ固定エラーが検出されました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/032C (X'108'/X'32C', decimal: 264/812)

説明: プログラム仕様ブロック (PSB) 割り振り中に、無効な処理意図が検出されました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/0330 (X'108'/X'330', decimal: 264/816)

説明: カタログ PCB を介して IMS カタログにアクセスする要求が、IRLM 障害のために完了できません。IMS は、ご使用の PCB にカタログ PCB を生成しようとしたのですが、IRLM 障害のために PSB をスケジュールできませんでした。

プログラマーの応答: IRLM 障害を解決して、呼び出しを再発行してください。

ソース: DL/I コード

0108/0334 (X'108'/X'334', decimal: 264/820)

説明: カタログ PCB を介して IMS カタログにアクセスする要求は、IMS カタログ・リソースに対してオンライン変更が進行中であるために完了できません。IMS は、ご使用の PCB にカタログ PCB を生成しようとしたのですが、オンライン変更のために PSB をスケジュールできませんでした。

プログラマーの応答: オンライン変更が完了した後で、呼び出しを再発行してください。

ソース: DL/I コード

0108/0338 (X'108'/X'338', decimal: 264/824)

説明: 要求されたカタログ・メンバーがカタログにありません。IMS はアクティブ ACB ライブラリー・メンバーのタイム・スタンプを持つメンバーを検索しましたが、一致するタイム・スタンプを持つメンバーは見つかりませんでした。

対応するアクティブ ACB ライブラリー・メンバーのないカタログ・レコードに対して非修飾 GUR 呼び出しが

発行された場合にも、このコードが戻されます。

プログラマーの応答: 有効な ACB 生成タイム・スタンプ値を指定して、GUR 呼び出しを修飾します。

ソース: DL/I コード

0108/033C (X'108'/X'033C', decimal: 264/828)

説明: 要求されたカタログ・メンバーがカタログにありません。IMS はアクティブ ACB ライブラリー・メンバーのタイム・スタンプを持つメンバーを検索しましたが、一致するタイム・スタンプを持つメンバーは見つかりませんでした。

対応するアクティブ ACB ライブラリー・メンバーのないカタログ・レコードに対して非修飾 GUR 呼び出しが発行された場合にも、このコードが戻されます。これは、この IMS に対してリソースが定義されていない場合に起こります。

プログラマーの応答: 有効な ACB 生成タイム・スタンプ値を指定して、GUR 呼び出しを修飾します。

ソース: DL/I コード

0108/0340 (X'108'/X'0340', decimal: 264/832)

説明: GUR 呼び出しは、指定された IMS カタログ・リソースを検出ませんでした。GUR 呼び出しが実行された領域のタイプに応じて、このエラーには考えられる原因が 2 つあります。

- DL/I バッチ環境で、GUR 呼び出しが修飾 ACB 生成タイム・スタンプを指定せずに実行された。
- DBB バッチ環境で、DBB 領域によって使用される PSB が、GUR 呼び出しで指定されたりリソースを参照していない。

プログラマーの応答: 有効な ACB 生成タイム・スタンプ値を指定して、GUR 呼び出しを修飾します。

ソース: DL/I コード

0108/0342 (X'108'/X'342', decimal: 264/834)

説明: GUR 呼び出しは有効な XML 応答文書を作成できませんでした。

プログラマーの応答: カタログ・データベースへのアクセスを共用するすべての IMS システムが、同じサービス・レベルで構成されていることを確認します。

ソース: DL/I コード

0108/0344 (X'108'/X'0344', decimal: 264/836)

説明: 要求されたカタログ・メンバーがカタログ・データベースにありません。

プログラマーの応答: GUR 呼び出しで参照されるリソースがカタログにロードされていることを確認します。

ソース: DL/I コード

0108/0540 (X'108'/X'540', decimal: 264/1344)

説明: IMS または DBCTL とのアクティブな通信が使用できませんでした。呼び出しは処理されません。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

この問題が発生したアプリケーションが、接続を試みている IMS または DBCTL と同じ LPAR で実行されていたことを確認してください。DRA モジュール DFSxxxx0 内の DBCTLID パラメーターに、予期される IMS または DBCTL が含まれていることを確認してください。

Open Database Manager (ODBM) を使用している場合は、IMSpIex の SCI アドレス・スペースが稼働していることも確認してください。

ソース: DL/I コード

0108/0544 (X'108'/X'544', decimal: 264/1348)

説明: RRS/MVS がアクティブでないのに、オープン・データベース・アクセス (ODBA) は IMS またはデータ通信制御 (DCCTL) との接続を確立しようとしてしました。RRS/MVS は ODBA にとって必要です。呼び出しは処理されません。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/0548 (X'108'/X'548', decimal: 264/1352)

説明: オープン・データベース・アクセス (ODBA) APSB 呼び出し処理中に、SWITCH_CONTEXT 呼び出しが失敗しました。呼び出しは処理されません。この問題は、システム・エラーです。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード


0108/054C (X'108'/X'54C', decimal: 264/1356)

説明: オープン・データベース・アクセス (ODBA) APSB 呼び出しで疑似異常終了 0458 が戻されました。AIBRSNM1 内のプログラム仕様ブロック (PSB) により使用される高速機能データベースの中の 1 つが、前のプログラム障害によって停止またはロック状態です。呼び出しは処理されません。

プログラマーの応答: 高速機能データベースが停止している理由を判別します。データベースの停止の原因となった問題を訂正してから、要求を再実行します。

ソース: DL/I コード

関連情報:

 IMS 異常終了 0458

0108/0550 (X'108'/X'550', decimal: 264/1360)

説明: リカバリー・トークンが固有でないか、または z/OS アプリケーション・アドレス・スペース ID が無効です。呼び出しは処理されません。この問題は、システム・エラーです。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/0554 (X'108'/X'554', decimal: 264/1364)

説明: リカバリー・トークンがゼロです。呼び出しは処理されません。この問題は、システム・エラーです。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/0558 (X'108'/X'558', decimal: 264/1368)

説明: /STOP REGION コマンド用のオープン・データベース・アクセス (ODBA) PSB 割り振り (APSB) スケジュールが失敗しました。呼び出しは処理されません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

ソース: DL/I コード

0108/0560 (X'108'/X'560', decimal: 264/1376)

説明: /STOP REGION ABDUMP コマンド用のオープン・データベース・アクセス (ODBA) PSB 割り振り (APSB) スケジュールが失敗しました。呼び出しは処理されません。

プログラマーの応答: 必要なアクションはありません。

ソース: DL/I コード


0108/0564 (X'108'/X'564', decimal: 264/1380)

説明: オープン・データベース・アクセス (ODBA) PSB 割り振り (APSB) 要求で、疑似異常終了 0141 を受け取りました。呼び出しは処理されません。この問題は、システム・エラーです。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

関連情報:

 IMS 異常終了 0141


0108/0568 (X'108'/X'568', decimal: 264/1384)

説明: オープン・データベース・アクセス (ODBA) PSB 割り振り (APSB) 要求で、疑似異常終了 0145 を受け取りました。呼び出しは処理されません。この問題は、システム・エラーです。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

関連情報:

 IMS 異常終了 0145

0108/056C (X'108'/X'56C', decimal: 264/1388)

説明: 同期点障害が発生しました。AIBERRXT に SYNC 戻りコードが含まれています。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/0580 (X'108'/X'580', decimal: 264/1408)

説明: 要求メッセージを外部アプリケーションに送信できなかったか、同期コールアウト活動化 PTF がインストールされていません。

可能性のある拡張理由コードは、以下のとおりです。

拡張理由コード
説明

X'0024' OTMA TPIPE あふれ条件のために要求がリジェクトされます。システムに割り振られている OTMA TPIPE が多すぎます。OTMA クライアント記述子の MAXTP 制限を参照してください。

プログラマーの応答: 詳しくは、拡張理由コードを参照してください。必要な場合は、X'67D0' ログ・レコードを調べて、エラー情報を取得してください。

ソース: DL/I コード

0108/0584 (X'108'/X'584', decimal: 264/1412)

説明: 外部アプリケーションからの応答出力メッセージを IMS で処理できませんでした。

プログラマーの応答: IMS は、ICAL 呼び出しにメッセージを戻すために、外部アプリケーションからの応答メッセージを処理することができません。IMS OTMA で内部エラーが発生したか、応答メッセージのフォーマットが正しくありません。

ソース: DL/I コード

0108/0588 (X'108'/X'588', decimal: 264/1416)

説明: IMS Connect が応答の処理に失敗し、応答データが返されませんでした。

プログラマーの応答: IMS アプリケーションから ICAL 呼び出しを再発行します。

ソース: DL/I コード

0108/058C (X'108'/X'58C', decimal: 264/1420)

説明: IMS Connect が応答の処理に失敗し、外部クライアント・アプリケーションから完全なまたは部分的な生データが返されました。

プログラマーの応答: IMS アプリケーションから ICAL 呼び出しを再発行します。

ソース: DL/I コード

0108/0600 (X'108'/X'600', decimal: 264/1536)

説明: ODBM セキュリティー環境の作成が失敗しました。

ソース: DL/I コード

0108/0604 (X'108'/X'604', decimal: 264/1540)

説明: ODBM が AIB ブロック用のストレージの取得に失敗しました。

ソース: DL/I コード

0108/0608 (X'108'/X'608', decimal: 264/1544)

説明: ODBM が ODBM PSB 割り振り (APSB) ブロック用のストレージの取得に失敗しました。

ソース: DL/I コード

0108/060C (X'108'/X'60C', decimal: 264/1548)

説明: ODBM がアダプター・パラメーター・リスト (PAPL) ブロック用のストレージの取得に失敗しました。

ソース: DL/I コード

0108/0610 (X'108'/X'610', decimal: 264/1552)

説明: ODBM はこの呼び出しで指定された IMS 別名を見つけることができませんでした。

ソース: DL/I コード

0108/0700 (X'108'/X'0700', decimal: 264/1792)

説明: DMU ドライバー領域の作成に失敗しました。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/0704 (X'108'/X'704', decimal: 264/1796)

説明: INIT DFSMDMU PSB のスケジューリングに失敗しました。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0108/0708 (X'108'/X'708', decimal: 264/1800)

説明: カタログ要求ブロックの障害。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース: DL/I コード



0108/0710 (X'108'/X'710', decimal: 264/1808)

説明: IMS カタログまたは ACB の IMS 管理が使用可能でないため、INIT DFSMDMU 呼び出しが失敗しました。

プログラマーの応答: IMS カタログまたは ACB の IMS 管理を使用可能にして、呼び出しを再試行してください。

ソース: DL/I コード

関連タスク:

-  IMS カタログのセットアップ (システム定義)
-  ACB の IMS 管理の使用可能化 (システム定義)


0108/0718 (X'108'/X'718', decimal: 264/1816)

説明: GUR 呼び出しは、IMS カタログ内の DBD または PSB のメタデータ変更レコード (MCR) を作成できません。

プログラマーの応答: IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

ソース: DL/I コード

関連資料:

-  GUR 呼び出し (アプリケーション・プログラミング API)

0108/071C (X'108'/X'71C', decimal: 264/1820)

説明: IMS は、ランタイム制御ブロックをオンライン・ディレクトリーにインポートしようとしたが、エラーを検出しました。

プログラマーの応答: システム・コンソールに出された IMS メッセージを見つけて、エラーの原因を判別してください。

ソース: DL/I コード

0108/071F (X'108'/X'71F', decimal: 264/1823)

説明: DDL COMMIT ステートメントの後、IMS はランタイム制御ブロックを生成しようとしたが、検証エラーを検出しました。

プログラマーの応答: システム・コンソールに出された IMS メッセージを見つけて、エラーの原因を判別してください。

ソース: DL/I コード

0108/0900 (X'108'/X'900', decimal: 264/2304)

説明: IMS は、呼び出しの処理中に不明な戻りコードを受け取りました。この不明なコードは、フィールド AIBERRXT に格納されており、エラーの原因や理由を判別するのに役立つ異常終了コード、文字ストリング、またはその他の診断情報など、追加情報が含まれていることがあります。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0110/000C (X'110'/X'00C', decimal: 2724/12)

説明: ユーザーは、AUTH 呼び出しで要求されたクラスのリソース名へのアクセスを許可されていません。インストール・データは戻されません。

プログラマーの応答: プログラムを調べ、適切なリソースについて許可検査が実行されたかを確認します。実行されている場合は、インストール先のセキュリティ担当者に連絡し、そのリソースに RACF 許可が必要かどうかを尋ねます。

ソース: DL/I コード

0110/0020 (X'110'/X'020', decimal: 2724/32)

説明: 自動化操作プログラム (AO) アプリケーションが IMS コマンドの発行を試みました。セキュリティ検査により、この AO アプリケーションは RACF に許可されていないと判断されました。

プログラマーの応答: RACF 管理者に連絡を取り、ユーザーの AO アプリケーションの RACF 許可を得ます。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡を取り、ユーザーの AO アプリケーションの RACF 許可を得ます。

ソース: DL/I コード

0110/0024 (X'110'/X'024', decimal: 2724/36)

説明: 自動化操作プログラム (AO) アプリケーションが IMS コマンドの発行を試みました。セキュリティ検査により、このユーザー ID は RACF に許可されていないと判断されました。

プログラマーの応答: RACF 管理者に連絡を取り、ユーザー ID の RACF 許可を得ます。

ソース: DL/I コード

0110/0028 (X'110'/X'028', decimal: 2724/40)

説明: 自動化操作プログラム (AO) アプリケーションが IMS コマンドの発行を試みました。セキュリティ検査により、AO アプリケーションにはコマンドの発行が許可されていないと判断されました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0110/002C (X'110'/X'02C', decimal: 2724/44)

説明: 自動化操作プログラム (AO) アプリケーションが IMS コマンドの発行を試みました。セキュリティ検査により、このユーザー ID にはコマンドの発行が許可されていないと判断されました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0110/0030 (X'110'/X'030', decimal: 2724/48)

説明: 自動化操作プログラム (AO) アプリケーションが IMS コマンドの発行を試みました。コマンド許出口ルーチン (DFSCCMD0) は、このプログラムがコマンドの発行を許可されていないことを示しました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡を取り、DFSCCMD0 がユーザーの AO アプリケーションを認識しない理由を判別します。

ソース: DL/I コード

0110/0034 (X'110'/X'034', decimal: 2724/52)

説明: 自動化操作プログラム (AO) アプリケーションが IMS コマンドの発行を試みました。コマンド許出口ルーチン (DFSCCMD0) は、このユーザー ID がコマンドの発行を許可されていないことを示しました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡を取り、DFSCCMD0 がユーザー ID を認識しない理由を判別します。

ソース: DL/I コード

0110-0038 (X'110'/X'038', decimal: 2724/56)

説明: 自動化操作プログラム (AO) アプリケーションが IMS コマンドの発行を試みました。IMS 実行パラメーターの A0IS= に N が指定されているので、ICMD 呼び出しの発行は、どのプログラムにも許可されていません。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡を取り、AO アプリケーションからコマンドを発行できるように、A0IS= 実行パラメーターの変更を依頼します。

ソース: DL/I コード

0110/003C (X'110'/X'03C', decimal: 2724/60)

説明: 自動化操作プログラム (AO) アプリケーションが IMS コマンドの発行を試みました。許可検査のための RACF が使用不能です。IMS 実行パラメーターの A0IS= に A または R が指定されていました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡を取り、RACF が IMS システムで使用不能な理由を判別します。

ソース: DL/I コード

0110/0040 (X'110'/X'040', decimal: 2724/64)

説明: 自動化操作プログラム (AO) アプリケーションが IMS コマンドの発行を試みました。許可検査のためのコマンド許可出口ルーチン (DFSCCMD0) が使用不能です。IMS 実行パラメーターの **A0IS=** に A または C が指定されていました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡を取り、DFSCCMD0 が IMS システムに組み込まれていない理由を判別します。

ソース: DL/I コード

0110/0044 (X'110'/X'044', decimal: 2724/68)

説明: 自動化操作プログラム (AO) アプリケーション・プログラムが IMS コマンドの発行を試みました。セキュリティ検査により、この transaction アプリケーションは RACF に許可されていないと判断されました。

プログラマーの応答: RACF 管理者に連絡を取り、ユーザーのトランザクションに RACF の許可を得ます。

ソース: DL/I コード

0110/0048 (X'110'/X'048', decimal: 2724/72)

説明: 自動化操作プログラム (AO) アプリケーション・プログラムが IMS コマンドの発行を試みました。セキュリティ検査により、このトランザクションにはコマンドの発行が許可されていないと判断されました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0110/004C (X'110'/X'04C', decimal: 2724/76)

説明: 自動化操作プログラム (AO) アプリケーション・プログラムが IMS コマンドの発行を試みました。コマンド許可出口ルーチン (DFSCCMD0) は、このトランザクションがコマンドの発行を許可されていないことを示しました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡を取り、DFSCCMD0 がユーザーのトランザクションを認識しない理由を判断します。

ソース: DL/I コード

0110/0050 (X'110'/X'050', decimal: 2724/80)

説明: CPI-C ドリブン・アプリケーションが PSB 割り振り (APSB) 呼び出しを発行しました。IMS は、このユーザー ID によるプログラム仕様ブロック (PSB) の

使用が RACF (または同等の製品) によって許可されていないと判断しました。アプリケーション制御ブロック (ACB) のフィールド AIBERRXT には、次の追加情報が含まれています。

- バイト 0 から 1 - SAF 戻りコード
- バイト 2 - RACF またはインストール・システム出口戻りコード
- バイト 3 - RACF またはインストール・システム出口理由コード

コードの説明については、RACF 資料「z/OS Security Server RACROUTE マクロ 解説書」(SA88-8621) を参照してください。

プログラマーの応答: セキュリティー管理者に連絡を取り、ユーザー ID による PSB の使用許可を得ます。

ソース: DL/I コード

関連資料:

 z/OS: SAF 戻りコード

 z/OS: RACROUTE の戻りコードおよび理由コード

0110/0054 (X'110'/X'054', decimal: 2724/84)

説明: 自動化操作プログラム (AO) アプリケーション・プログラムが IMS コマンドの発行を試みました。セキュリティ検査により、このコマンドはユーザー ID として RACF を許可されていないと判断されました。

プログラマーの応答: RACF 管理者に連絡を取り、コマンドに RACF の許可を得ます。

ソース: DL/I コード

0110/0058 (X'110'/X'058', decimal: 2724/88)

説明: 自動化操作プログラム (AO) アプリケーション・プログラムが IMS コマンドの発行を試みました。セキュリティ検査により、このコマンドはトランザクションによる発行を RACF に許可されていないと判断されました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡してください。

ソース: DL/I コード

0110/005C (X'110'/X'05C', decimal: 2724/92)

説明: 自動化操作プログラム (AO) アプリケーション・プログラムが IMS コマンドの発行を試みました。コマンド許可出口ルーチン (DFSCCMD0) は、このコマ

ンドがトランザクションによる発行を許可されていないことを示しました。

プログラマーの応答: IMS システム・プログラマーに連絡を取り、DFSCCMD0 がユーザーのコマンドを認識しない理由を判断します。

ソース: DL/I コード

0110/0070 (X'110'/X'070', decimal: 2724/112)

説明: DRA 実行ライブラリーが許可されていません。

プログラマーの応答: アプリケーションが許可されていることを確認してください。

ソース: DL/I コード

0900

説明: DL/I 呼び出し (処理に PCB が必要) の処理中に、エラーが検出されました。このエラーの原因を示す固有の戻りコードおよび理由コードは、現在定義されていません。AIB (AIBRSA1 フィールド) に PCB アドレスが入っています。PCB 内の状況コードを分析し、エラーの原因を判別する必要があります。戻りコードが 0900 の場合、理由コードは変更されません。

プログラマーの応答: IMS では、すべてではないがたいていの DL/I 呼び出し処理エラーに、固有の AIB 戻りコードおよび理由コードを定義する予定です。戻りコードが X'0900' のエラーは、将来、固有の戻りコードおよび理由コードになることがあります。

ソース: DL/I コード

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。本書の他言語版を IBM から入手できる場合があります。ただし、ご利用にはその言語版の製品もしくは製品のコピーを所有していることが必要な場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Director of Licensing
IBM Corporation
North Castle Drive, MD-NC119
Armonk, NY 10504-1785
US

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的でのみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名前はすべて架空のものであり、類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (年).

このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。

© Copyright IBM Corp. _年を入れる_.

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com)[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

製品資料に関するご使用条件

これらの資料は、以下のご使用条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用される条件

このご使用条件は、IBM Web サイトのすべてのご利用条件に追加して適用されます。

個人使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

権利

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入 関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

IBM オンライン・プライバシー・ステートメント

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項をご確認ください。

この「ソフトウェア・オファリング」は、Cookie もしくはその他のテクノロジーを使用して個人情報を収集することはありません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』（<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>）の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』（<http://www.ibm.com/privacy/details>）を参照してください。

参考文献

この参考文献のリストには、IMS 15 ライブラリーのすべての資料が記載されています。

表題	頭字語	資料番号
IMS V15 アプリケーション・プログラミング	APG	SC27-6778
IMS V15 アプリケーション・プログラミング API	APR	SC27-6779
IMS V15 コマンド 第 1 巻: IMS コマンド A-M	CR1	SC27-6780
IMS V15 コマンド 第 2 巻: IMS コマンド N-V	CR2	SC27-6781
IMS V15 コマンド 第 3 巻: IMS コンポーネント および z/OS コマンド	CR3	SC27-6782
IMS V15 コミュニケーションおよびコネクション	CCG	SC27-6783
IMS V15 データベース管理	DAG	SC27-6784
IMS V15 データベース・ユーティリティー	DUR	SC27-6785
IMS Version 15 Diagnosis	DGR	GC27-6786
IMS V15 出口ルーチン	ERR	SC27-6787SC43- 3856
IMS V15 インストール	INS	SC27-6788
IMS Version 15 Licensed Program Specifications	LPS	GC27-6799
IMS V15 メッセージおよびコード 第 1 巻: DFS メッセージ	MC1	GC27-6789
IMS V15 メッセージおよびコード 第 2 巻: DFS 以外メッセージ	MC2	GC27-6790
IMS V15 メッセージおよびコード 第 3 巻: IMS 異常終了コード	MC3	GC43-4469
IMS V15 メッセージおよびコード 第 4 巻: IMS コンポーネント・コード	MC4	GC43-4470
IMS V15 オペレーションおよびオートメーション	OAG	SC27-6793
IMS V15 リリース計画	RPG	GC27-6794
IMS V15 システム管理	SAG	SC27-6795
IMS V15 システム定義	SDG	GC27-6796
IMS V15 システム・プログラミング API	SPR	SC27-6797
IMS V15 システム・ユーティリティー	SUR	SC27-6798



プログラム番号: 5635-A06
5655-DS5
5655-TM4

Printed in Japan

GC43-4470-00



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21

Spine information:

IMS バージョン **15.1.0**

メッセージおよびコード 第 4 卷: **IMS** コンポーネント・コード

